

NTTFAX D-60

取扱説明書

このたびはNTTFAX D-60をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お使いになったあとも、本装置のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。本書を紛失または損傷したときは、NTT窓口等でお求めください。

本書中のマーク説明

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。
 お知らせ	この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
 ワンポイント	この表示は、本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

- 本装置の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 外付け電話機用差込口は、電話網の仕様と完全には一致していないため、接続される通信機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- 本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、受信文書の全部または一部が消失したり、通話や録音などの機会を逸したために生じた損害等の纯粹経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置の設置や配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本装置は、お買い求めのときには国内の相手の方と通信することを前提とした設定になっています。海外との通信を主に行われる方は、重要な通信を行う前に相手の方と正常に通信できるか確認してください。正常に通信できないときは、本装置の設定を変更することにより、通信できるようになる場合もありますので、当社のサービス取扱所へご相談ください。
- NTTの支店・営業所から遠距離の場合には、お使いになれないことがありますので当社のサービス取扱所へご相談ください。
- 操作ガイドを使用の際は、必ず取扱説明書をよく読み理解したうえでお使いください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、NTT窓口等へお申しつけください。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラム制度は、地球規模の問題である省エネルギー対策に積極的に取り組むべく、エネルギー消費の低減化に優れ、かつ、効率的な使用を可能とする製品の開発及び普及の促進を目的とするものです。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに本装置の電源を切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して当社のサービス取扱所に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 万一、本装置を倒したり、キャビネットを破損した場合、本装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、まず本装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 万一、内部に水などが入った場合は、本装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置を分解したり、改造したりしないでください。火災・感電および故障の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所へ依頼してください。
- 本装置のキャビネットは外さないでください。感電や故障の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所へ依頼してください。
- 本装置の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
- ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- AC100 Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグは、AC100 V 12 A専用コンセントに差し込んでください。やむをえず同じコンセントに他の電気製品の電源プラグを差し込む場合は、電流値がコンセントの最大値を超えないように注意してください。火災の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください



- 電源コードは、必ず付属のものをお使いになり、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源コードが傷んだら当社のサービス取扱所に修理を依頼してください。
- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用したタコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源プラグを点検してください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関しては当社のサービス取扱所にご相談ください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で本装置を操作しないでください。故障や感電の原因となることがあります。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電や断線の原因となることがあります。
- 万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。
 - アース線が取り付けられるところは以下の部分です。
 - 電源コンセントのアース端子
 - 銅片などを65 cm以上、地中に埋めたもの
 - 接地工事（第3種）が行われている接地端子
 - 以下のようなところには、絶対にアース線を取り付けしないでください。
 - ガス管
 - 電話専用アース線
 - 避雷針
 - 水道管や蛇口
- 本装置を構内交換機（PBX）等に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所に確認してください。確認できない場合は、絶対に接続してお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。

警告

- 本装置は国内電源仕様になっていますので、海外ではご使用になれません。
- トナーが目に入らないように注意してください。トナーが目に入ったときは、すぐに水で洗眼し、医師の診察を受けてください。
- 記録紙やトナーカートリッジは、火気のあるところに保管しないでください。記録紙やトナーカートリッジに引火して、火災ややけどの原因となることがあります。
- トナーカートリッジは火の中に絶対に投じないでください。破裂したり、激しく燃えて、火災ややけどの原因となることがあります。
使用後のトナーカートリッジはビニール袋などに入れて燃えないゴミとして処理してください。
- 清掃のときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となることがあります。
- 可燃性スプレーを本装置のそばで使用しないでください。スプレーのガスが本体内部の電気部品などに接触すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 清掃には、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が本体内部の電気製品に接触したり、揮発性ガスが本装置内に充満すると、火災や感電の原因となることがあります。

注意

お使いになる前に

- 直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器具のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気の当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- お使いになる電話回線に、すでに何台かの電話機等が接続されている場合は、本装置または外付け電話機がご使用になれない場合があります。この場合は、他の電話機等を外してください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

注意

お使いのとき

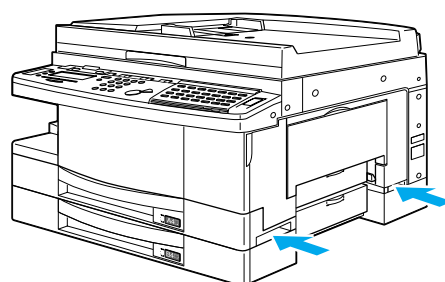
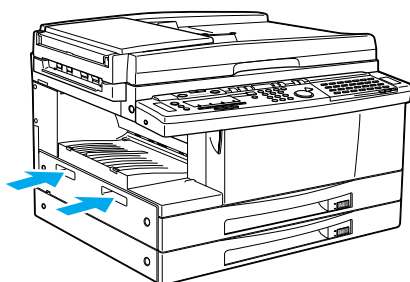
- 近くに雷が発生したときは、本装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから、ISDN電話機コードを回線接続用差込口から抜いてご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに本装置の電源を切り、電源プラグを抜いて、当社のサービス取扱所に修理を依頼してください。
- 本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 本装置の背面部には通風孔がありますので、必ず壁から10 cm以上離してください。通風孔をふさぐと本装置の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- トナーカートリッジの交換や紙づまりなどで開閉部などを開けるときには、突起物に引っかけたり、開閉部で手を挟むとけがの原因となることがあります。
- 新しいトナーカートリッジを振るときは、静かに振ってください。激しく振るとトナーが飛び散ることがあります。
- 記録紙をセットするときは、記録紙の端で手を切ったりしないように注意してください。
- つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意してください。
- つまった記録紙を取り除くときは、記録紙についているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れた場合は、すぐに水で洗い流してください。温水で洗うと、トナーが付着し、汚れがとれなくなるので注意してください。
- 紙づまりの処理などで内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が本装置内部に触れないようにしてください。やけどや感電の原因となることがあります。
- 熱定着器とその周辺は高温になっていますので、手を触れないようにご注意ください。やけどをする場合があります。
- 本装置を移動するときは、まず電源コードやISDN電話機コードなどを外したことを確認してから行ってください。電源コードがコンセントに差し込まれたまま移動すると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

お使いのとき

- つまった記録紙を取り除くとき、「高温注意」と表示がある部分とローラ部は高温になっています。やけどの原因となることがありますので、記録紙以外には触れないでください。

- 持ち運ぶ場合は、必ず図の場所を持ってください。他の場所を持つと、思わぬけがの原因となることがあります。



- 原稿台カバーは、手をはさまないように静かに閉じてください。けがの原因となることがあります。

- 原稿台ガラスに本などの厚い原稿をセットしたときは、原稿台カバーを上から強く押さえないでください。原稿台ガラスが破損して、けがの原因となることがあります。原稿台ガラスの許容荷重は約2 kg（約500ページの電話帳1冊分）までです。

- 原稿搬送ローラの清掃には、中性洗剤を使用しないでください。ローラ類を傷める原因となることがあります。

- 原稿読み取り部を清掃するときは、電源を切ってください。電源を切らずに清掃すると、火災や感電の原因となることがあります。

- 本装置を持ち運ぶときは、プリンタドアの下部などは持たないでください。破損の原因となることがあります。

- 済スタンプインクを補充するときは、電源を切ってください。電源を切らないと、感電の原因となることがあります。

- 済スタンプインクを補充するときは、指定の場所以外にインクをたらさないように注意してください。発煙の原因となることがあります。

- 除電針のクリーニングをするときは、転写ローラの左側にあるギアなど、除電針以外の部品に触れないようにクリーニングしてください。

- 除電針のクリーニングは、必ず付属の除電針クリーナで行ってください。付属の除電針クリーナ以外のものは絶対に使用しないでください。除電針を破損することがあります。

- 除電針のクリーニングをするときは、転写ローラに触れないように注意してクリーニングを行ってください。転写ローラに触れると、印字品質低下の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

STOP

お願い

設置場所について

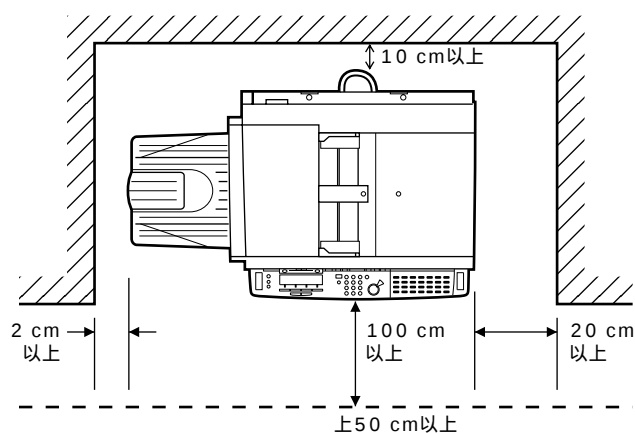
- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本装置が正常に動作しないことがあります。
- 温度が急激に変化する場所には置かないでください。冷えきった部屋をストーブなどで急激に暖めたときなどは本装置の内部に水滴が付着し、部分的に写らないコピーが発生する原因となることがあります。
- 高温、多湿、低温の場所には置かないでください。
いつも良い条件でお使いいただける環境の範囲は以下のとおりです。
温度 5 ～ 35
湿度 10 ～ 90 %
- 以下のようなところには置かないでください。
 - クーラ、暖房器具、換気口などから風が直接あたる場所
 - ほこりや振動が多い場所
 - 換気の悪い場所
 - 揮発性可燃物やカーテンに近い場所
 - 床が丈夫でない場所
- 本装置の設置場所等によっては、近くに置いたラジオへの雑音やテレビ画面のチラツキやゆがみなどが発生する場合があります。
このような現象が本装置の影響によると思われる場合は、本装置の電源をいったん切ってください。電源を切ることにより、ラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、以下のような方法を試みてください。
 - 本装置をテレビなどから遠ざける。
 - 本装置またはテレビなどの向きを変える。
- 電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（コンピュータ、電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバータエアコンなど）。
 - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
 - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地など）では、本装置の寿命が短くなることがあります。

STOP

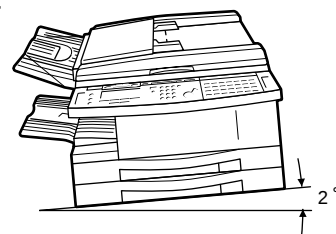
お願い

設置場所について

- 本装置の操作、消耗品類の交換、日常点検など、本装置を正しく使用し性能を維持する作業を行うために、右記の数値よりも充分に広い設置スペースを確保してください。



- 本装置は、図の傾き以上に傾けないようにしてください。正常に動作しない場合があります。



- 本装置を移転、移動するときは、NTT窓口にご相談ください。

STOP

お願い

取り扱いについて

- ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、柔らかい布に水を含ませて、かたく絞ってからふいでください。
- 本装置の上に重いものを置かないでください。本装置の上に重いものをのせたり、衝撃を与えたりしないでください。本装置の破損・故障の原因となることがあります。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- 通信やコピーなどの動作中に電源を切ったり、電源プラグを抜いたり、本装置の開閉部を開けたりしないでください。故障の原因となります。
- 電源をOFFにしてから、再度ONにする場合は、3秒以上の間隔をおいてください。
- トナーカートリッジのドラムに手を触れないでください。ドラムの表面に手の油や汚れが付着すると、きれいな印字ができなくなります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

お願い

取り扱いについて

- 記録紙はNTT推奨品をご使用ください。推奨品以外の記録紙をお使いになった場合のトラブルにつきましては、当社では保証いたしかねますのでご了承ください。推奨品につきましては、NTT窓口等へお問い合わせください。
- 自動的に冷却ファンが回ることがありますが異常ではありません。
- しわ、折れのある紙、湿っている紙、一度記録した紙の裏面などは使用しないでください。紙づまりの原因となることがあります。
- 残った記録紙は包装紙に包み、湿気が少なく直射日光の当たらないところに保管してください。
- 紙づまりのとき、記録紙は破れないように静かに取り除いてください。取り除く途中で記録紙が破れたときは、紙片を本装置の中に残さずにすべて取り除いてください。
- 本装置を離れたところに陸送したり空輸するときは、必ずトナーカートリッジを取り外してください。トナーカートリッジに強い光が当たらないように保護袋に入れるか厚い布で包んでください。

お願い

その他

- 停電がおきた場合や電源を切った場合は、ファクシミリの機能・動作が停止すると同時に、メモリに蓄積されている原稿（順次同報送信、メモリ送信、メモリ代行受信、掲示板送信、タイマ通信など）が消えてしまう場合があります（内蔵のバッテリーにより、約3時間はバックアップ機能がはたります）。

目 次

安全にお使いいただくために必ずお読みください・・・	2
特長	15

基 本 編

操作説明のページの構成	19
-------------------	----

1 お使いになる前に



商品の構成	20
各部の名称とはたらき	21
日付 / 時刻を登録します (時計セット)	26
ファクス番号と会社の名称を登録します	28
発信元番号を登録する	28
発信元略称を登録する	30
発信元名称を登録する	32
文字を入力するには	34
漢字やひらがなを入力する	34
カタカナを入力する	36
英大文字 / 英小文字を入力する	37
並行して行える動作について (デュアル動作)	38

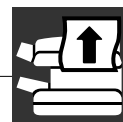
2 ファクスを送る



原稿をセットするには	39
原稿について	39
ADF (自動原稿送り装置) にセットする	40
原稿台ガラスにセットする	41
原稿に合わせて送信画質や	
読取濃度などを選ぶには	42
送信画質を選ぶ	42
読取濃度を選ぶ	43
原稿の種類を選ぶ	43
送信の種類について	44
メモリに読み込んで送信するには	
(メモリ送信)	45
ADF (自動原稿送り装置) から送信する	45

本などの原稿を送信するには	47
原稿台ガラスから送信する	47
ワンタッチダイヤルで送信するには	50
ADF (自動原稿送り装置) から送信する	50
短縮ダイヤルで送信するには	52
ADF (自動原稿送り装置) から送信する	52
グループダイヤルで送信するには	54
ADF (自動原稿送り装置) から送信する	54
原稿を1枚ずつ確認しながら送信するには	
(ダイレクト送信)	56
同じ相手先に送信し直すには	
(再ダイヤル送信)	57
ADF (自動原稿送り装置) から	
再ダイヤル送信する	57
送信を中止するには	58
送信を中止する	58
送信予約を解除する	59
送信状況 / 結果を確認するには	60
送信状況を確認する	60
送信結果を確認する	61

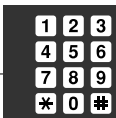
3 ファクスを受ける



受信モードを選ぶには	62
自動的に受信するには (自動受信)	65
自動受信のモードを設定する	65
「電話優先」の詳細を設定する	68
受信を中止するには	70
受信状況 / 結果を確認するには	71
受信状況を確認する	71
受信結果を確認する	72

目次

4 外付け電話機を使う



- 電話をかけるには (発信) 74
- 電話がかかってきたときは (着信) 75
- プッシュホンサービスを利用するには 76
- リモート番号を入力してファクスを受信するには
(リモート受信) 77
- 受話器を置いてだけでファクスを受信するには
(オンフック受信) 78
- 留守番電話機を接続して受信するには
(留守受信) 79

5 コピーする



- 原稿をコピーするには 80
- ADF (自動原稿送り装置) からコピーする 80
- 原稿台ガラスからコピーする 82
- 原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには
(読取モード) 84
- 読取濃度を選ぶ 84

- 原稿の種類を選ぶ 85
- 読取モードを自動的に調整する 85
- はがき、ラベル用紙などにコピーするには 86
- 拡大 / 縮小してコピーするには 90
- 定型変倍を設定する 90
- ズームを設定する 92
- 自動変倍を設定する 94
- 原稿の枠などを消してコピーするには
(枠消し) 96
- 枠消しの種類 96
- 原稿枠消しを設定する 98
- シート枠消しを設定する 100
- ブック枠消しを設定する 102
- パンチ穴消しを設定する 104
- とじ代を取ってコピーするには 106
- とじ代の種類 106
- とじ代を設定する 108
- 見開きの左右ページを別々の記録紙に
コピーするには (ページ連写) 110
- ページ連写の種類 110
- ページ連写を設定する 111
- 2枚の原稿を1枚にコピーするには
(2 in 1) 113

応用編

- 操作説明のページの構成 117
- こんな使い方ができます 118

1 送信の便利な機能を使う



- 名称や電話番号を登録するには (ダイヤル登録) 124
- ワンタッチダイヤルを登録する 124
- 短縮ダイヤルを登録する 128
- グループダイヤルを登録する 132
- 同じ原稿を複数の相手先に送信するには
(順次同報送信) 137
- 複数の相手先を指定するには 139
- 時刻を指定して送信するには (タイム通信) 140
- 海外へ送信するには 142

2 受信の便利な機能を使う



- ファクス情報サービスを活用するには 143
- 複数の原稿を1枚の記録紙にプリント
するには (N in 1記録) 144
- N in 1記録を設定する 145
- 受信した原稿をメモリに蓄積するには
(メモリ受信) 147
- メモリ受信とは 147
- メモリ受信の準備をする 147
- メモリ受信を設定する 148
- 指定時間外にメモリ受信をON / OFFする 152
- メモリ受信した原稿をプリントする 153

3 その他の便利な機能を使う



メモリ内の原稿を確認 / 消去するには	154
メモリ内の原稿リストをプリントする	154
原稿リストのプリント例	154
エラー原稿を再送信する	155
メモリ内の原稿をプリントする	156
メモリ内の原稿を送信する	158
メモリ内の原稿を消去する	160
受信した原稿を転送するには	162
転送とは	162
転送の準備をする	162
転送ボックスを設定する	163
指定時間外に転送をON / OFFする	169
ファクス番号と電話番号を使い分けるには	
（ダイヤルイン）	170
ダイヤルインとは	170
グローバル着信とは	171
ダイヤルインを設定する	172
発信元番号にダイヤルイン番号を登録する	174
サブアドレスを設定して通信するには	177
サブアドレスとは	177
サブアドレス着信を設定する	178
発信元番号にサブアドレスを登録する	180
サブアドレスを指定して送信する	184
Fコードやパスワードを指定して	
特定の相手先と通信するには	185
ITU-T規格のFコード / パスワードとは	185
Fコード / パスワードを利用した機能	185
Fコード送信をする	186
受信側の操作で通信を行うには	
（ポーリング通信）	189
ポーリング通信とは	189
ポーリング通信の準備をする	189
定時ポーリング受信	189
ポーリングボックスを設定する	190
ポーリング送信をセットする	194
ポーリング送信のセットを解除する	196
ポーリング受信をする	198
定時ポーリングボックスを設定する	201

親展で通信を行うには（親展通信）	205
親展通信とは	205
親展通信の準備をする	205
親展ボックスを設定する	206
親展で受信した原稿をプリントする	210
親展で送信する	212
中継機を経由して送信するには	
（中継同報送信）	215
中継同報送信とは	215
中継同報送信の準備をする	215
中継指示送信をする	216
中継ボックスを設定する	219
汎用ボックスを活用するには	
（汎用ボックス）	224
汎用ボックスとは	224
汎用ボックスを活用するための	
準備をする	224
汎用ボックスの活用例	225
汎用ボックスを設定する	226
汎用ボックスから送信する	230
汎用ボックスで受信した原稿を	
プリントする	232
Fネット（ファクシミリ通信網）を利用する	
には（Fネットアクセス）	234
Fネットサービスの主な内容	234
Fネットを利用して送信する	236

4 各種レポート/リストをプリントする



各種の通信結果を確認するには	238
通信管理レポートを手動でプリントする	239
通信管理レポートの設定をする	240
送信結果レポートの設定をする	242
受信結果レポートの設定をする	244
親展文書リストをプリントする	246
汎用ボックス管理リストをプリントする	247
各種レポート/リストのプリント例	248
登録 / 設定した内容を確認するには	256
ダイヤルリストをプリントする	256
パラメータリストをプリントする	258
各種リストのプリント例	259

目 次

5 いろいろな機能を登録/設定する



ダイヤル登録でいろいろな通信機能を	
設定するには	262
送信時刻を設定する	262
Fコードとパスワードを登録する	264
通信モードを設定する	268
海外送信を設定する	270
送信速度を設定する	272
ECM通信を設定する	274
よく使う送信のモードをホームポジション	
として設定するには (FAXホームポジション)	276
FAXホームポジションとは	276
FAXホームポジションに設定できる機能	276
FAXホームポジションを設定する	277
よく使うコピーのモードをホームポジション	
として設定するには (コピーホームポジション)	280
コピーホームポジションとは	280
コピーホームポジションに	
設定できる機能	280
コピーホームポジションを設定する	281
面倒な設定を簡単にするには	
(プログラムボタン登録)	284
プログラムボタンに機能を登録する	284
使用者を制限するには (使用者制限)	286
送信機能の使用者を制限する	286
送信機能を部門別に管理する	289
プリント機能の使用者を制限する	291
管理暗証番号を登録する	293
登録/設定の操作一覧	294
受信モード	294
ダイヤル登録モード	296
設定モード (レポート設定)	298
設定モード (機能設定)	300
設定モード (プリンタ設定)	302
設定モード (装置設定)	308
設定モード (システム設定)	312
登録モード	318

6 ご参考に



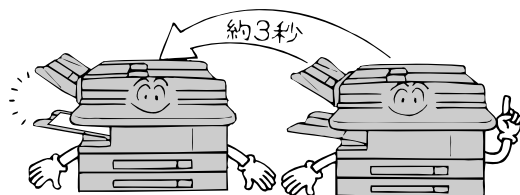
お手入れするには	332
記録紙を補給するには	334
トナーカートリッジを交換するには	338
済スタンプインクを補充するには	344
消耗品/各種オプションについて	345
消耗品について	345
各種オプションについて	345
保守サービスのご案内	346
リモートメンテナンスについて	347
区点コード表	348
機器を設置、接続するには	359
原稿がつまったら	361
記録紙がつまったら	362
停電になったときは	366
停電中は	366
データの保存について	366
故障かな?と思ったら	367
エラー番号/メッセージ一覧	369
記入カード	374
主な仕様	376
索引	377

特 長

G4 デジタル通信で、迅速で経済的な通信ができます

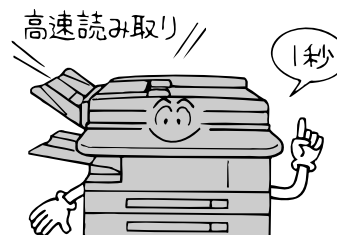
A4サイズの原稿1枚を約3秒で高速送信することができます（200×200 dpiの場合）。また、G3通信でも14.4 kbit/sの高速通信をサポートしています。

*G4通信時は相手機がG4機である場合



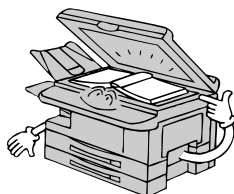
高速1秒読み取りができます

A4の原稿1枚を、原稿の内容にかかわらず約1秒で読み取ります（送信画質「標準」の場合）。



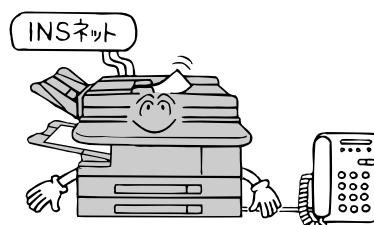
本などの厚みのある原稿や、破れた原稿もセットできます

ADF（自動原稿送り装置）にセットできない本、金属板、布などや、変わった形の原稿でも、原稿台ガラスにセットできるサイズであれば、そのまま原稿として送信できます。また、コピーすることもできます。（●P47、82）



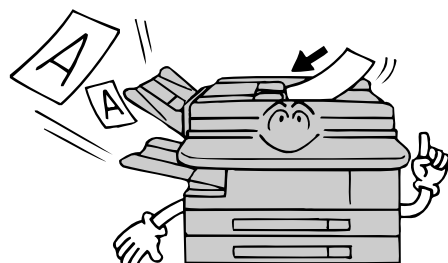
INSネットを利用してファクスの送受信が同時に行えます

ファクスの送信を行いながら、原稿を受信することができます。また、ファクス通信と同時に電話（外付け電話機）を利用することもできます。



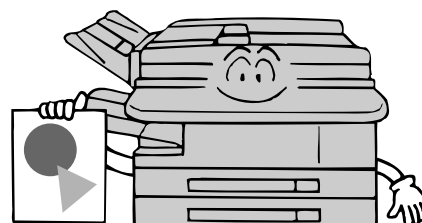
各種のコピー機能を備えています

拡大／縮小コピーをはじめ、見開き原稿のページ連写やOHPフィルム／はがきなどへのコピーなど、充実した機能で、コピー機としても活躍します。（●P80～115）



原稿に合わせた高画質の送信、コピーが行えます

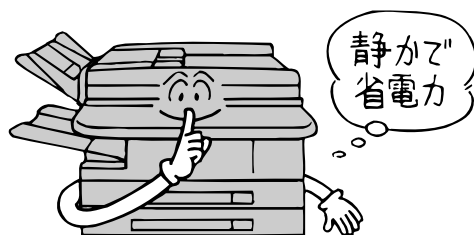
鮮明画像処理技術の搭載により、原稿に忠実に鮮明な画像が再現できます。



特 長

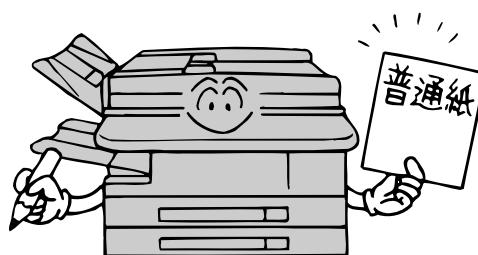
音が静か、しかも省電力設計です

記録紙に出力するときだけヒータがオンになる新方式の定着により、冷却ファンを常時作動させる必要がありません。待機音が静かなうえ、節電もはかれます。



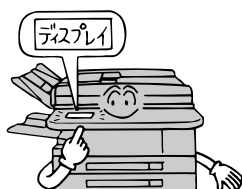
普通紙記録だから直接書き込み、捺印ができます

受信した原稿は、そのまま文書として保管したり、書き込みをすることができます。



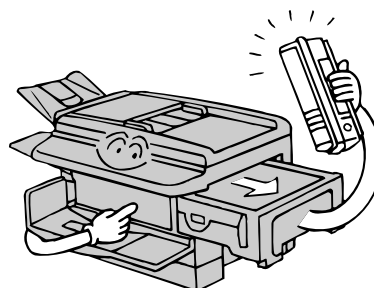
大型ディスプレイを使って簡単に操作できます

表示の見やすい320×80ドットの大型液晶ディスプレイを使って、さまざまな登録/設定操作が簡単に行えます。また、通信状況をボタン操作で簡単にディスプレイに表示させることができます。(●P60、71)



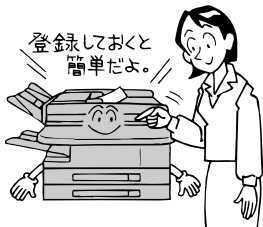
トナーは、交換が簡単なカートリッジ方式です

カートリッジ方式ですから、スピーディーにトナー交換ができます。(●P338)



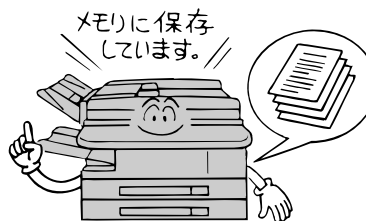
ダイヤル登録で、宛先指定の手間が省けます

簡単にダイヤルできるワンタッチダイヤルが最大84件、短縮ダイヤルが最大116件登録できます。ワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルごとに、送信時刻や送信方法などの機能を登録しておくこともできます。複数の相手先をグループ登録しておくこともできます。(●P124、128、132)

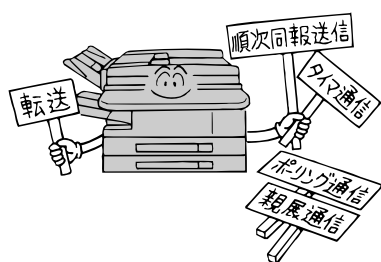


さまざまなメモリ機能で、送受信を効率的にします

原稿を読み込みながらすばやく送るメモリ送信や、受信中に記録紙がなくなっても自動的に受信内容がメモリに蓄えられるメモリ代行受信機能を備えています。

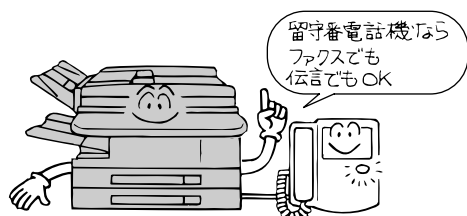


豊富で多彩な送受信機能を備えています
 順次同報送信、タイマ通信、ポーリング通信、親展通信、転送など、操作を簡単にしたり通信コストを削減するのに有効なさまざまな機能が搭載されています。



一般の電話機を接続して利用できます

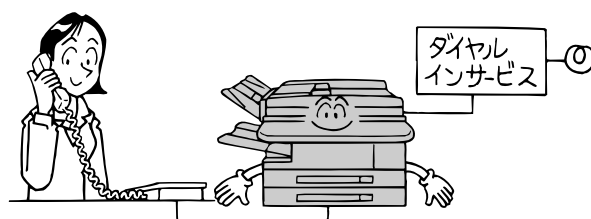
外付け電話機用差込口に、一般の電話機を接続できます。(●P360) 留守番電話機を接続すれば、相手方が電話なら伝言を録音し、ファクスなら自動的に受信します。(●P79)



ファクスと電話機に個別の電話番号を登録できます ダイヤルイン/サブアドレス着信

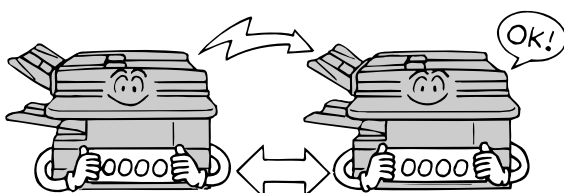
NTTのダイヤルインをご契約になると、本装置と接続した外付け電話機にそれぞれの電話番号を登録して、外からファクスと電話機を区別して呼び出すことができます。相手の方が一般電話回線(電話網)の場合でも利用できます。(●P170) INSネットのサブアドレス通知サービスを利用すると、ダイヤルインと同様の使い方ができますが、相手の方がISDN回線の場合に限られます。(●P177)

ダイヤルインやサブアドレス着信を利用すると、登録した電話番号ごとに受信モードを設定することができます。



Fコード(ITU-T規格)を利用して、さまざまな通信が行えます

相手機がITU-T規格に準じたFコードを認識できれば、メーカーや機種を問わず親展送信や中継指示送信などが行えます。(●P185)



送受信中でも次の送信予約ができます デュアル動作

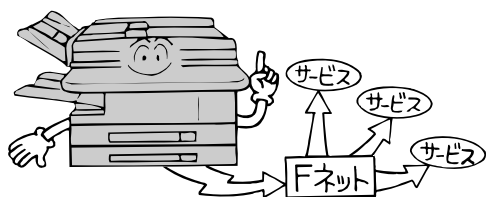
メモリ送信中に次の送信を予約したりコピーをするなど、通信/記録の動作を同時に処理することが可能です。時間のロスが軽減できます。(●P38)



特 長

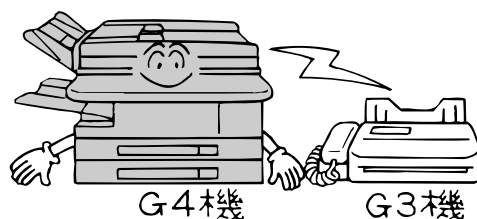
Fネット（ファクシミリ通信網）サービスをご利用になれます Fネットアクセス

NTTのFネットサービスをご契約になると、通信の手間やコストを削減するサービスがご利用になれます。（●P234）



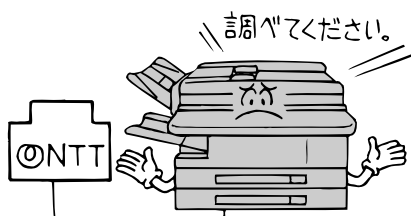
G4機として利用する場合もG3機と相互に通信できます

G4機としてISDN回線を通じて通信する場合でも、一般電話回線（電話網）に接続されているG3機と通信することができます。



当社のサービス取扱所から、遠隔操作でメンテナンスができます リモートメンテナンス

故障などでお客様の装置を保守する際に、通信状況の確認や、登録／設定内容の確認／変更を行うことができます。（●P347）



基本編

この取扱説明書は、基本編と応用編から構成されています。基本編はファクスの基本的な使用方法について、応用編はより便利なファクスの機能について説明しています。

1 お使いになる前に

本装置をお使いになる前に知っておいていただきたいことや、お使いになるための準備などについてまとめています。

2 ファクスを送る

ファクス送信の基本操作について説明しています。

3 ファクスを受ける

ファクス受信の基本操作について説明しています。

4 外付け電話機を使う

電話をかけたり、受けたりする基本操作について説明しています。

5 コピーする

本装置をコピー機として使う方法について説明しています。

操作説明のページの構成

章タイトル

この章のタイトルです。

タイトル

目的ごとにタイトルが付けられています。

操作パネル図 / 機能ボタン図

操作で使うボタンなどの位置を示します。

ワンポイント

本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明です。

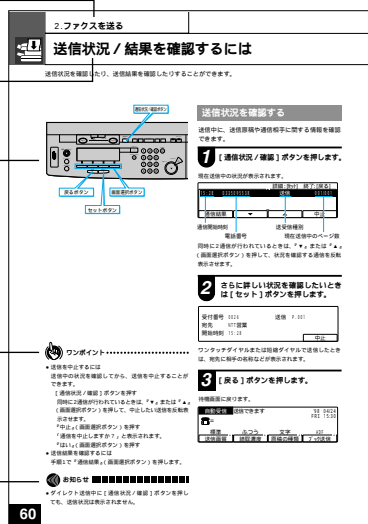
お願いまたはお知らせ

お願い

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示します。

お知らせ

この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示します。



操作手順説明

順番に操作を説明しています。

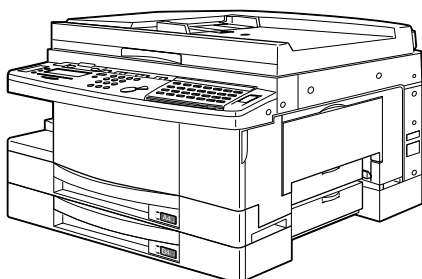
文中で操作パネルのボタンを表記する場合、イラスト、または [] で囲んで示します。
(例：(ファクス) ボタン、[クリア] ボタン)

ディスプレイ内に表示されたボタンを表記する場合、『 』で囲んで示します。
(例：『入力モード』(画面選択ボタン))
数値などをダイヤルボタンを押して入力する場合、『 ~ を入力します。』と表記します。
(例：相手の電話番号を入力します。)

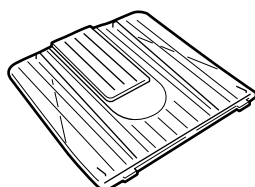
商品の構成

以下のものがそろっているか確かめてください。セットに足りないものがあったり、取扱説明書に落丁があった場合には、NTT窓口等へお問い合わせください。

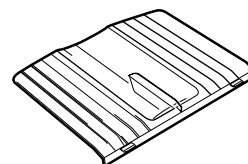
■ 本体（一式）



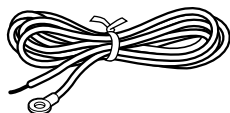
本装置 1台



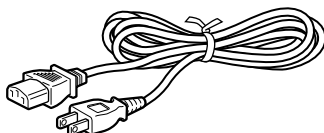
原稿トレイ 1個



記録紙トレイ 1個



アース線 1本

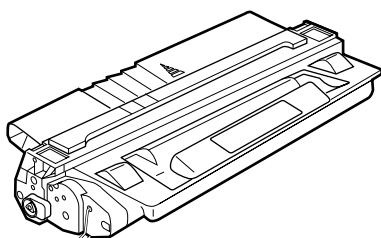


電源コード 1本

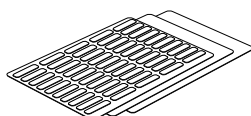


ISDN電話機コード 1本

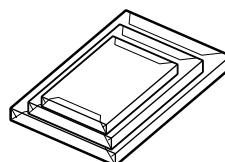
■ 付属品



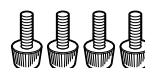
トナーカートリッジ
1個



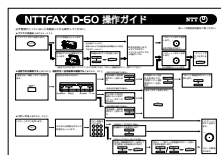
宛先ラベル3枚



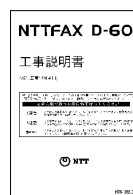
記録紙(A3、B4、A4) ローレットビス 4個
各250枚



取扱説明書（本書）1冊



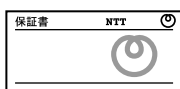
操作ガイド 1枚



工事説明書 1枚



商品アンケート
はがき 1枚



保証書 1枚



「NTT通信機器お取扱相談センター」シール 1枚

消耗品購入先変更案内 1枚
抵抗（終端抵抗用）2本
記録紙サイズ表示プレート
2枚（4段カセットタイプの場合は4枚）
記録紙サイズラベル
2枚（4段カセットタイプの場合は4枚）

各部の名称とはたらき

本装置には4段カセットタイプもありますが、本書では2段カセットタイプで説明しています。

【装置全体】

ADF（自動原稿送り装置）

原稿を送信したり（●P45）、コピーしたりするとき（●P80）に、原稿をセットします。

原稿ガイド（●P40）

セットする原稿の幅に合わせます。

フィーダカバー（●361）

原稿がつまったときに開けます。

原稿トレイ（●P359）

読み込まれた原稿が排出されます。

原稿台カバー（●P41）

原稿台ガラスに原稿をセットするときなどに開けます。

操作パネル（●P23）

前カバー

記録紙トレイ（●P359）

受信した原稿やコピーされた記録紙が排出されます。

記録紙カセット（●P335）

記録紙をセットします。

記録紙残量表示（●P335）

カセットにセットされている記録紙の残量を示します。

記録紙サイズラベル（●P336）

カセットにセットした記録紙のサイズを表示します。

原稿台ガラス

本などの原稿を送信したり（●P47）、コピーしたりするとき（●P82）に使います。

リリースレバー（●P338、363）

プリンタドアを開けるときに使います。

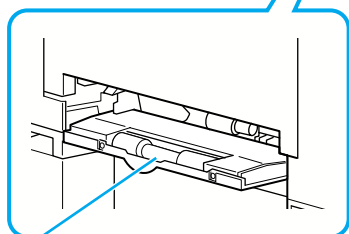
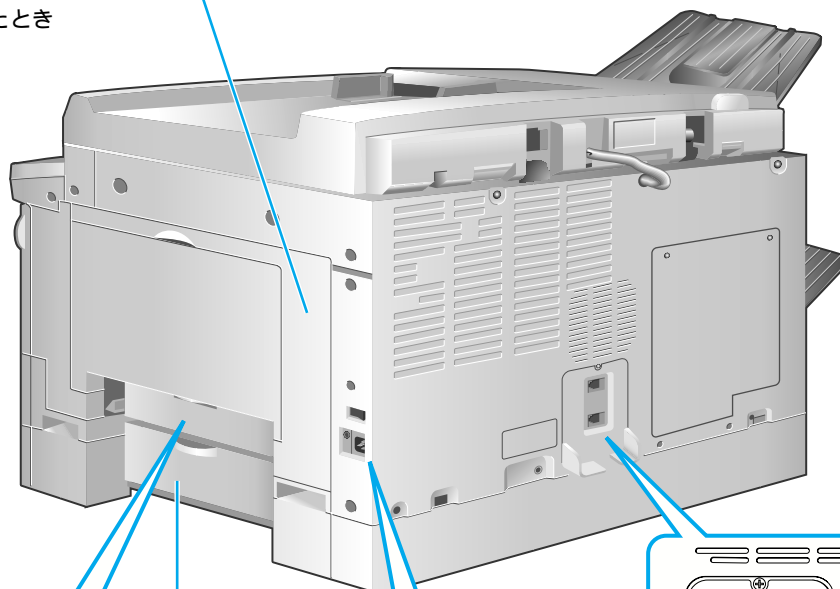
定着圧解除レバー（●P362）

排紙口に記録紙が詰まったときに使います。

各部の名称とはたらき

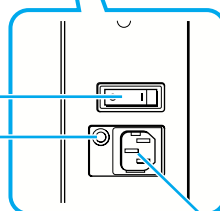
【背面】

プリンタドア
トナーカートリッジを交換するとき
(●P338) 記録紙がつまったとき
(●P363) に開けます。



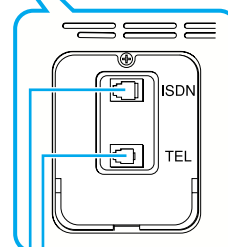
上段記録紙カセットの右ドア
(●P362)
記録紙がつまったときに開けます。

下段記録紙カセットの右ドア
(●P362)
記録紙がつまったときに開けます。



電源コード差込口
(●P360)
電源コードを接続します。

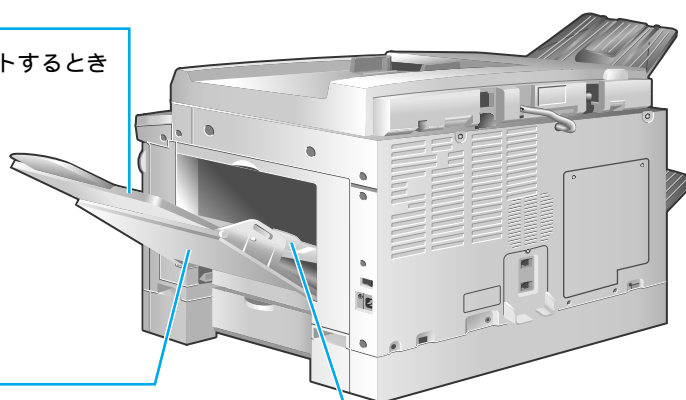
アース端子 (●P359)
アース線を接続します。
電源スイッチ (●P360)



外付け電話機用差込口
(●P360)
外付け電話機を接続します。

ISDN回線接続用差込口
(●P359)
ISDN電話機コードを接続
します。

手差し補助トレイ (●P337)
A3 / B4 / A4 ☐ の記録紙をセットするとき
に引き出します。



手差しトレイ (●P337)
A3 / B4 / A4 / B5 / A5サイズの記録紙
のほか、はがきやラベル用紙などをセッ
トできます。

記録紙ガイド (●P337)
手差しトレイにセットする記録
紙の幅に合わせます。

【操作パネル】

[通信状況 / 確認] ボタン

通信状況や通信結果を確認するとき、送信予約を解除するときを押します。(●P59、60、61、71、72)

[短縮] ボタン

短縮ダイヤルを使ってダイヤルするときに押します。(●P52)

[再ダイヤル] ボタン

ダイヤルボタンで最後にダイヤルした相手先に、もう一度ダイヤルするときに押します。(●P57)

[オンフック] ボタン

ファクス情報サービスなど、相手の応答を聞きながらファクスの送受信を行うときに押します。(●P143)

[PB] ボタン

PB信号(ビッポッパ)を送出するときに押します。(●P126、130)

[プログラム] ボタン

機能ボタンの1つを登録しておき、操作を簡単にしたいときに押します。(●P284)

[済スタンプ] ボタン

読み込みまたは送信の済んだ原稿にスタンプを付けるときに押します。(●P40)

[ダイレクト送信] ボタン

ダイレクト送信をするときに押します。(●P56)

[画面コントラスト] ボタン

ディスプレイの表示濃度を調節するときに回します。(●P27)

[ソートコピー] ボタン

原稿をソートしてコピーするときに押します。(●P80)

[コピー応用] ボタン

コピーの応用機能(枠消し、とじ代、ページ連写、2 in 1)を使うときに押します。(●P98、100、102、104、108、111、114)

[コピー] ボタン

コピーモードに切り替えるときに押します。

[ファクス] ボタン

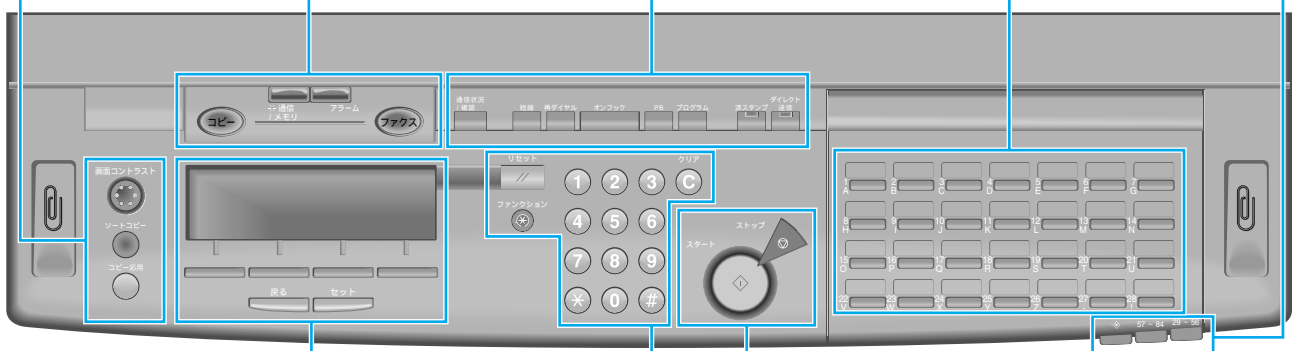
ファクスモードに切り替えるときに押します。

ワンタッチパネル

ワンタッチボタン1～28を使うとき、または文字を入力するときは、ワンタッチパネルを閉めておきます。ワンタッチボタン29～56を使うときはワンタッチパネルを1枚開き、ワンタッチボタン57～84を使うときはワンタッチパネルを2枚開きます。機能ボタンを使うときは、ワンタッチパネルを3枚開きます。

ワンタッチボタン

ワンタッチダイヤルやグループダイヤルなどを使うとき、または文字を入力するときに押します。



ディスプレイ

年月日、時刻、相手先、電話番号、各種動作の状況などを表示します。

画面選択ボタン

ディスプレイに表示された機能に対応するボタンです。ディスプレイに表示された内容によって機能が変わります。(●P27)

[戻る] ボタン

ひとつ前の画面に戻るときなどに押します。

[セット] ボタン

登録/設定した内容を確定するときに押します。また、原稿台ガラスから原稿を送信するときに押します。(●P47)

[ストップ] ボタン

送信やコピー、登録/設定などの操作を中止するときに押します。

[スタート] ボタン

送信やコピーを開始するときに押します。また、原稿台ガラスから原稿を読み込ませるときに押します。

[リセット] ボタン

コピーモードでご利用の場合、コピーホームポジション(●P280)に戻すときに押します。

[ファンクション] ボタン

電話番号や機能を登録/設定するときに押します。

ダイヤルボタン

ダイヤルするときや、各種機能を登録/設定するときに押します。

[クリア] ボタン

登録/設定した内容を削除して、入力し直すときに押します。

各部の名称とはたらき

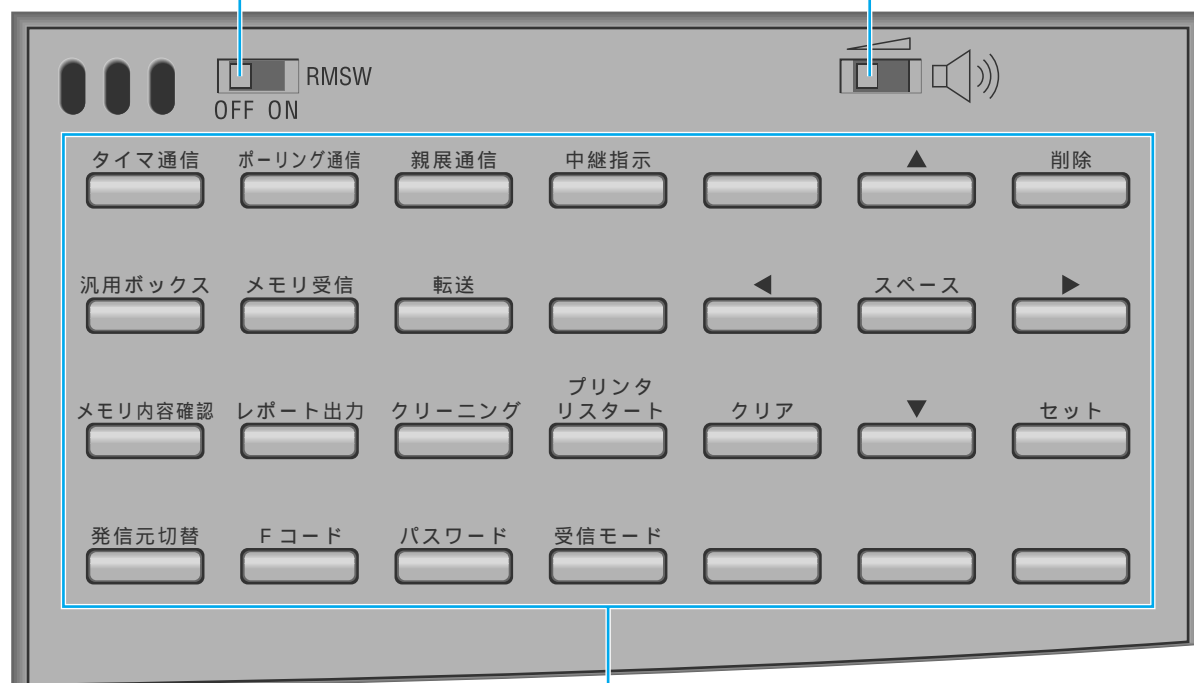
【機能ボタン】(ワンタッチパネルを3枚開いた状態)

RMSW

このスイッチは通常「OFF」にしておいてください。リモートメンテナンスを利用するときに「ON」にします。

スピーカ音量スイッチ

スピーカから出る音量を調節します。



[タイマ通信] ボタン

送信時刻を指定するときに押します。(●P140)

[ボーリング通信] ボタン

ボーリング通信をするときに押します。(●P194、198)

[親展通信] ボタン

親展通信をするときに押します。(●P210、212)

[中継指示] ボタン

中継指示送信をするときに押します。(●P216)

[汎用ボックス] ボタン

汎用ボックスへ原稿を蓄積するとき、汎用ボックスに受信した原稿をプリントするときに押します。(●P230、232)

[メモリ受信] ボタン

受信原稿をプリントせずにメモリ内に受信(メモリ受信)したいとき、本装置で受信した原稿をプリントするときに押します。(●P152、153)

[転送] ボタン

受信原稿を他のファクスへ転送するときに押します。(●P169)

[メモリ内容確認] ボタン

メモリの内容を確認したり、消去したりするときに押します。(●P154)

[レポート出力] ボタン

各種レポート/リストをプリントするときに押します。(●P239、246、247、256、258)

[クリーニング] ボタン

トナーカートリッジの交換の際、定着器ローラをクリーニングするときに押します。(●P341)

[プリンタリスタート] ボタン

将来の機能拡張時に使います。

[発信元切替] ボタン

発信元名称を切り替えるときに押します。(●P33)

[Fコード] ボタン

Fコードを使って送信するときに押します。(●P186)

[パスワード] ボタン

ITU-T規格のパスワードを使って送信するときに押します。(●P186)

[受信モード] ボタン

受信モードを切り替えるときに押します。(●P62) ただし、ダイヤルインまたはサブアドレス着信を「使用する」に設定しているとき(●P172、178)は無効です。

[▲][▼][◀][▶] ボタン

項目を検索するときに押します。

[クリア] ボタン

登録/設定した内容を削除して、入力し直すときに押します。

[セット] ボタン

登録/設定した内容を確定するときに押します。また、原稿台ガラスから原稿を送信するときに押します。(●P47)

[削除] ボタン

入力した文字を削除するときに押します。

[スペース] ボタン

数値や文字列にスペース(空白)を入れるときに使います。(●P34、36)

【ランプ表示】

コピーランプ（緑色）

コピーモードのときに点灯します。

ファクスランプ（緑色）

ファクスモードのときに点灯します。

通信／メモリランプ（緑色）

送信中や受信中で回線を使用しているときに点滅します。また、メモリ内に原稿があるときは点灯します。

アラームランプ（赤色）

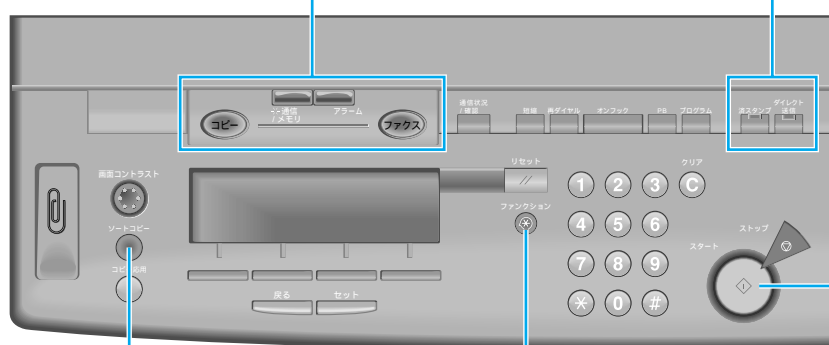
記録紙やトナーカートリッジのトナーがなくなったとき、記録紙がつまったときに点滅します。

済スタンプランプ（緑色）

済スタンプが設定されているときに点灯します。

ダイレクト送信ランプ（緑色）

ダイレクト送信を設定しているときに点灯します。



ソートコピーランプ（緑色）

ソートが設定されているときに点灯します。（●P80）

ファンクションランプ（緑色）

〔ファンクション〕ボタンを押して登録／設定の操作を行っているときに点滅します。

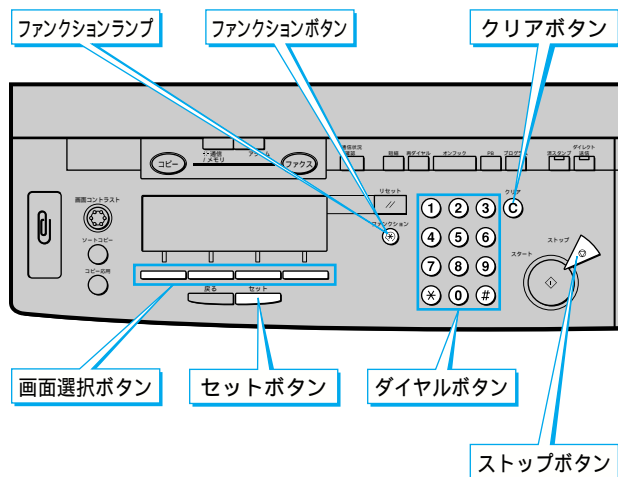
スタートランプ（緑色／赤色）

〔スタート〕ボタンを押すことができるときは緑に点灯します。〔スタート〕ボタンを押すことができないときは、赤く点灯します。

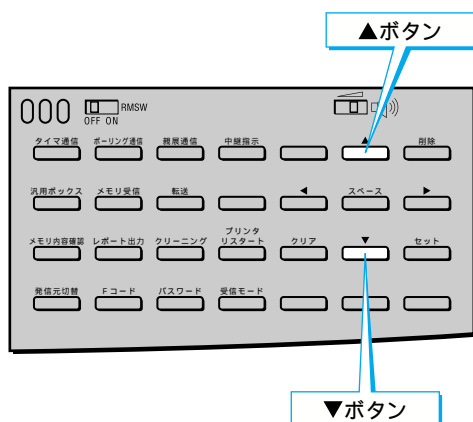
日付 / 時刻を登録します

(時計セット)

本装置をお使いになる前に、現在の日付と時刻を登録してください。時刻を指定して送信するときや、レポートなどに正確な通信時刻を記録するために必要です。



(ワンタッチパネルを3枚開いた状態)



1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して、「登録モード」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

3 [セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展がっく
登録モード	

4 [セット] ボタンを押します。

現在設定されている日付 / 時刻が表示されます。

時計セット
'98 04/19 19:02

5 現在の日付と時刻を入力します。

例：1998年4月24日午後3時30分

時計セット

98 04/24 15:30

日付 / 時刻は次の形式で入力します。

- 年号：西暦年号下2桁
- 月：2桁
- 日：2桁
- 時刻：24時間制（4桁）

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

6 [セット] ボタンを押します。

「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス

登録モード

7 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ]ボタンを押します。
- 画面選択ボタンについて
ディスプレイに表示された機能に対応するボタンです。
例：カーソルを右へ移動させる場合

時計セット

98 04/24 15:30

- 「▶」の下にある画面選択ボタンを押します。
本書では、「▶」（画面選択ボタン）を押します。」と表記しています。
- ディスプレイの表示が見にくいときは
[画面コントラスト]ボタン（P23）を回して表示濃度を調節します。
- 日付 / 時刻のタイプは
「04 / 24 / 98」（MM / DD / YY）、「24 / 04 '98」（DD / MM 'YY）のタイプに変更することができます。（P316、317）

STOP お願い

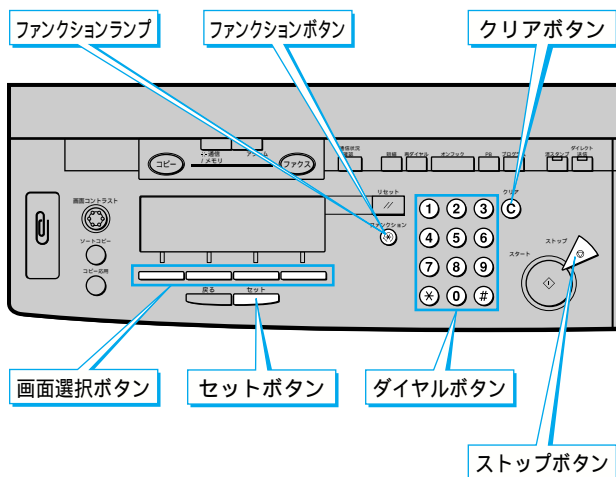
- 時刻表示はあくまでも目安としてご利用ください。なお、誤差が生じた場合は、登録をやり直してください。（時間精度：平均月差 ± 30秒以内）
- 長期間電源が切れていると、日時がずれることがあります。その場合は、登録をやり直してください。

ファクス番号と会社の名称を登録します

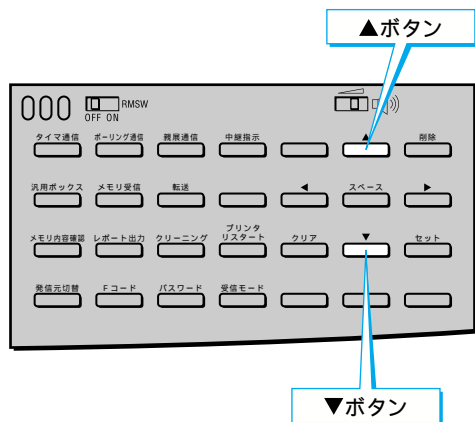
本装置のファクス番号（発信元番号）と、会社名や部署名（発信元略称）を登録します。

ファクスを送信すると、相手先の記録紙の先端に、送信時刻などといっしょにこちらのファクス番号や名称がプリントされます（発信元記録）。

また、発信元略称とは別の名称（発信元名称）を登録しておき、送信ごとに名称を使い分けることもできます。（●P32）発信者の名称を登録しておくとお便利です。



（ワンタッチパネルを3枚開いた状態）



お知らせ

- 発信元番号や発信元略称などを登録しなくても、原稿を送信することはできます。
- 発信元記録は、原稿をコピーするときは記録されません。
- 相手先のファクスによっては、レポートなどに発信元番号が表示されないことがあります。
- ナンバー・ディスプレイで相手先に通知されるのは契約者回線番号です。ここで登録した本装置の発信元番号や発信元略称ではありませんのでご注意ください。なお、こちらの電話番号（契約者回線番号）を相手の方に通知する／通知しないは、INSネット契約、本装置の「発信者番号通知」の設定、通信時に「184（通知しない）／186（通知する）」をダイヤルする、の組み合わせによって決定されます。（●P315）

STOP お願い

- 発信元番号は正しく登録してください。登録に誤りがあると、一部の機能が使用できなくなることがあります。

発信元番号を登録する

本装置のファクス番号（発信元番号）を登録します。発信元番号は、最大20桁まで登録できます。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して、「登録モード」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

3 [セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

4 [▼] または [▲] ボタンを押して、「発信元番号」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

5 [セット] ボタンを押します。

☎ 電話番号入力

削除

ダイヤルインを「使用する」に設定しているとき (●P172) は、電話番号選択のディスプレイが表示されます。

6 ファクス番号 (最大20桁) を入力します。

例: 「03 3740 7951」

☎ 電話番号入力

03 3740 7951

削除

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

7 [セット] ボタンを押します。

「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

サブアドレス着信を「使用する」に設定しているとき (●P178) は、サブアドレス選択のディスプレイが表示されます。

8 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます '98 04/24 FRI 15:30

☎ =

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- スペース (空白) を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース] ボタンを押します。
- 登録した内容を確認するには
登録した発信元番号や発信元略称などは、パラメータリストで確認できます。(●P258、261)
- 登録した発信元番号を削除するには
手順1～5の操作をする
登録されている発信元番号が表示されます。
[クリア] ボタンを押す
[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す
- 発信元記録のプリントされる位置は
お買い求めのときは、画像の内側 (中) にプリントされるように設定されています。画像の外側にプリントされるようにしたり、発信元記録をつけないように設定することができます。(●P308、309)

発信元記録の位置設定が「画像の外」のとき

発信元番号 発信元略称 日付 / 時刻 ページ番号 / 枚数

FAX連絡書

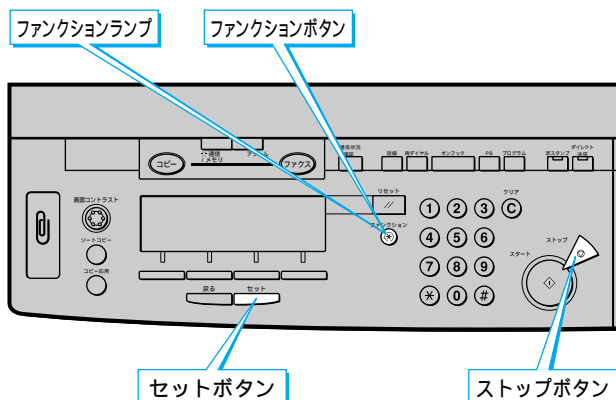
発信元記録の位置設定が「画像の中」のとき

FAX 03 3740 7951 N17 親展 '98 04/24 15:30 Q001/001

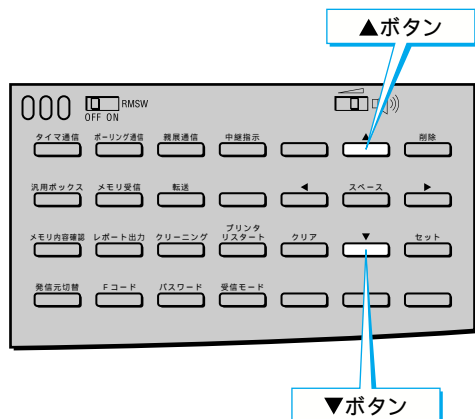
FAX連絡書

- 相手発信元記録の設定は
G4モードで利用しているときは、相手先の発信元番号や発信元略称などを受信した記録紙にプリントするかどうか設定できます。(●P308、309)
お買い求めのときは、プリントされないように設定されています。

ファクス番号と会社の名称を登録します



(ワンタッチパネルを3枚開いた状態)



発信元略称を登録する

会社名や部署名(発信元略称)を登録します。発信元略称は、全角文字で最大12文字まで登録できます。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して、「登録モード」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

3 [セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

4 [▼] または [▲] ボタンを押して、「発信元略称」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

5 [セット] ボタンを押します。

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

				かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード	

6 会社などの名称(最大全角12文字)を入力します。

例:「NTT東京」

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

NTT東京				かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード	

ひらがな/漢字/全角記号は最大12文字、カタカナ/英数字/半角記号は最大24文字まで入力できます。
文字を入力するには(●P34)

7 [セット] ボタンを押します。

「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
□□	04 発信元名称登録
登録モード	05 親展ボックス

8 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

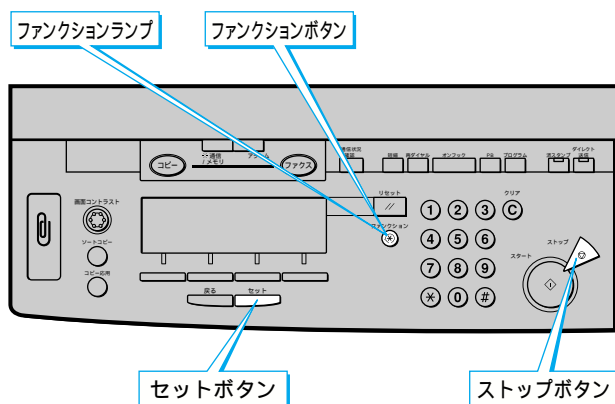
自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
ブック送信		



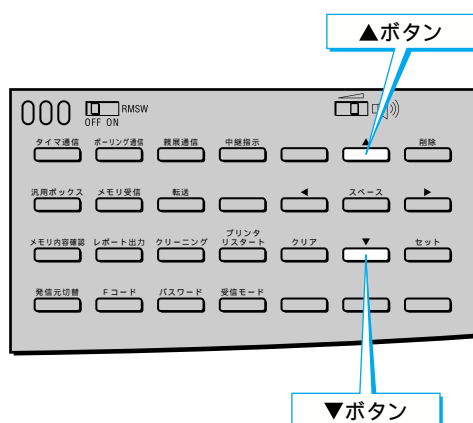
ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 登録した発信元略称を削除するには
手順1～5の操作をする
登録されている発信元略称が表示されます。
[クリア] ボタンを押す
[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

ファクス番号と会社の名称を登録します



(ワンタッチパネルを3枚開いた状態)



発信元名称を登録する

発信元略称 (P30) とは別の名称 (発信元名称) を登録しておく、送信ごとに名称を使い分けることができます。たとえば、発信元略称に「NTT東京」と登録している場合に、発信元名称に「営業」「総務」などを登録しておく、送信時の状況に応じてうまく使い分けることができます。発信元名称は、全角文字で最大12文字まで登録できます。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して、「登録モード」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

3 [セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

4 [▼] または [▲] ボタンを押して、「発信元名称登録」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

5 [セット] ボタンを押します。

発信元名称を選んでください	01
	02
	03
	04
	05
👤 発信元名称登録	

6 [▼] または [▲] ボタンを押して、登録番号 (01 ~ 09) を反転表示させます。

発信元名称を選んでください	01
	02
	03
	04
	05
👤 発信元名称登録	

7 [セット] ボタンを押します。

名称を入力してください(全角12文字まで)			
		かな漢字	
変換	単漢字	無変換	入力モード

8 送信ごとに使う名称 (最大全角12文字) を入力します。

例: 「営業 和田」

名称を入力してください(全角12文字まで)			
営業 和田			
		かな漢字	
変換	単漢字	無変換	入力モード

ひらがな / 漢字 / 全角記号は最大12文字、カタカナ / 英数字 / 半角記号は最大24文字まで入力できます。

文字を入力するには (P34)

9 [セット] ボタンを押します。

「登録しました」と表示されたあと、登録番号を選択するディスプレイが表示されます。

発信元名称を選んでください	01 営業 和田
	02
	03
	04
	05
👤 発信元名称登録	

続けて別の発信元名称の登録をするときは、手順6 ~ 9の操作を繰り返します。

10 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		フック送信



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

- 発信元名称を使って送信するには
ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットする場合は原稿をセットしたあとに、原稿台ガラスに原稿をセットする場合は、ワンタッチダイヤル(●P50) / 短縮ダイヤル(●P52) で相手先を指定したあと、またはダイヤル入力後に [セット] ボタンを押して相手先を指定したあとに、以下の操作で発信元名称を選択することができます。

ワンタッチパネルを3枚開いて、[発信元切替] ボタンを押す

[▼] または [▲] ボタンを押して、使用する発信元名称を反転表示させる

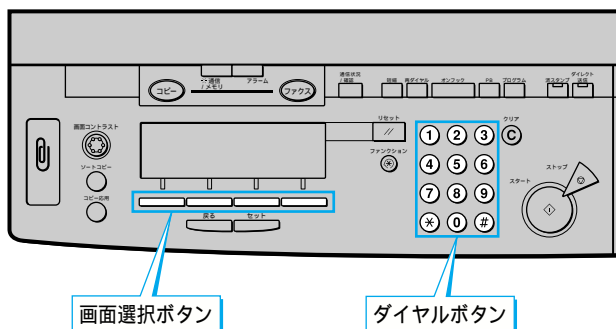
[セット] ボタンを押す

相手先を指定すると、ダイヤルタイムアウト機能がはたらき、自動的に送信されます。ダイヤルタイムアウト機能がはたらく前に発信元名称の選択を行ってください。ダイヤルタイムアウト機能がはたらかないように設定を変更することもできます。(●P300、301)

- 登録した発信元名称を削除するには
手順1 ~ 5の操作をする
[▼] または [▲] ボタンを押して、削除したい登録番号 (01 ~ 09) を反転表示させる
[セット] ボタンを押す
[クリア] ボタンを押す
[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

文字を入力するには

発信元略称や発信元名称、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルなどの登録には、文字の入力が必要です。文字（漢字、ひらがな、カタカナ、英大文字／英小文字、記号、区点コード）の入力には、ワンタッチボタンとダイヤルボタンを使います。漢字／ひらがなは全角、カタカナ／英大文字／英小文字は半角になります。漢字、ひらがな、カタカナの入力は、すべてローマ字入力で行います。ワンタッチボタンを押して入力される文字については、「ワンタッチボタンと入力文字の対応表」をご覧ください。



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 入力を間違えたときは
ワンタッチパネルを3枚開き、[◀] ボタンを押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース] ボタンを押します。
- 入力モードを切り替えるには
『入力モード』（画面選択ボタン）を繰り返し押すと、以下の順番で入力モードが切り替えられます。

→ かな漢字 → カタカナ → 英大
→ 区点コード → 記号 → 英小

ただし、かな漢字モードで文字を入力しているときは、文字を確定させる前に他の入力モードに切り替えることはできません。

- 適切な漢字の候補が表示されないときは
読みを細かく区切って単漢字変換（漢字を1文字ずつ変換すること）をすることができます。

例：「田名辺」と入力する場合

文字入力画面が表示されているときに、ワンタッチボタン（A～Z）で「TANABE」と入力する
ワンタッチパネルを3枚開いて [◀] ボタンを押し、カーソルを「た」のあとに移動する
『単漢字』（画面選択ボタン）を押して、漢字の候補を表示させる
適切な漢字の番号をダイヤルボタンで押す
続けて「な」「べ」も同じように変換する

漢字やひらがなを入力する

例：発信元略称に「いわき支店」と入力する場合

1 発信元略称の文字入力画面を表示させます。（P30、手順1～5）

発信元略称を入力してください（全角12文字まで）

—			かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード

2 ワンタッチボタン（A～Z）で「IWAKI」と入力します。

発信元略称を入力してください（全角12文字まで）

いわき—			かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード

3 『無変換』（画面選択ボタン）を押します。

発信元略称を入力してください（全角12文字まで）

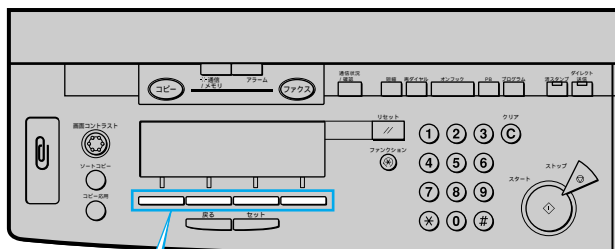
いわき—			かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード

4 ワンタッチボタン（A～Z）で「SITENN」と入力します。

発信元略称を入力してください（全角12文字まで）

いわきしてん—			かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード

文字を入力するには



画面選択ボタン

カタカナを入力する

例：発信元略称に「ソウム」と入力する場合

1 発信元略称の文字入力画面を表示させます。(P 30、手順1～5)

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

			かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード

2 『入力モード』(画面選択ボタン)を繰り返し押して、「カタカナ」をディスプレイの右端に表示させます。

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

			カタ
			入力モード

3 ワンタッチボタン(A～Z)で「SOUMU」と入力します。

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

ソウム			カタ
			入力モード



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 入力を間違えたときは
ワンタッチパネルを3枚開き、[◀] ボタンを押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。
[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。
- スペース (空白) を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース] ボタンを押します。

英大文字 / 英小文字を入力する

例：発信元略称に「NTTa」と入力する場合

1 発信元略称の文字入力画面を表示させます。(P30、手順1～5)

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

NTTa_			かな漢字
変換	単漢字	無変換	入力モード

2 『入力モード』(画面選択ボタン)を繰り返し押して、「英大」をディスプレイの右端に表示させます。

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

NTTa_			英大
			入力モード

3 ワンタッチボタン(A～Z)で「NTT」と入力します。

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

NTT_			英大
			入力モード

4 『入力モード』(画面選択ボタン)を繰り返し押して、「英小」をディスプレイの右端に表示させます。

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

NTT_			英小
			入力モード

5 ワンタッチボタン(A～Z)で「A」と入力します。

発信元略称を入力してください(全角12文字まで)

NTTaA_			英小
			入力モード

並行して行える動作について(デュアル動作)

本装置では、原稿の読み込みや通信、記録の動作を同時に処理することができます。たとえば、ファクスを送信しながら受信したり、コピーしながらファクスを受信したりすることもできます。並行して行える動作については下の表を参照してください。

同時に行える動作、操作	ダイレクト送信予約 (P56)	メモリ送信予約 (P45)	ダイレクト送信 (P56)	メモリ送信 (P45)	自動受信 (P63、64)	メモリ代行受信原稿のプリント (P156)	レポートの手動プリント) (P239、246、247)	レポートの自動プリント (P238)	コピー (P80、115)	クリーニング操作 (P341)	外付け電話機使用 (P74、79)
現在の動作、操作	(P56)	(P45)	(P56)	(P45)	(P63、64)	(P156)	(P239、246、247)	(P238)	(P80、115)	(P341)	(P74、79)
メモリ送信原稿の読み込み中	—	—	—			—	—		—	—	
ダイレクト送信中	—	—	—	—			—		—	—	
メモリ送信中											
受信							—	—			
受信原稿のプリント中						—	—	—		—	
レポートの手動プリント中						—	—	—	—	—	
レポートの自動プリント中						—	—	—	—	—	
コピーの操作、プリント中	—	—	—			—	—	—	—	—	
登録 / 設定操作中	—	—	—			—	—	—	—	—	
クリーニング操作中	—	—	—			—	—	—	—	—	
外付け電話機使用中											—

○ : 動作可能

- : 動作不可

ただし、本装置の受信モードが手動受信モード(●P62)、電話優先モード(●P64、65)、留守受信モード(●P79)に設定されていると、外付け電話機使用中はG3モードでのファクスは着信しません。



原稿をセットするには

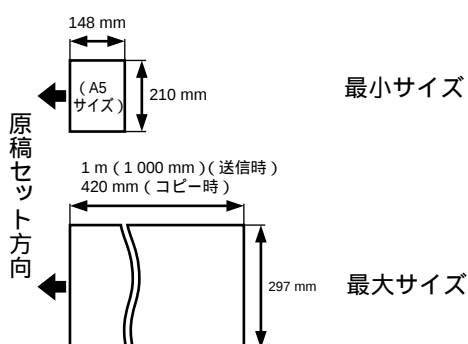
セットできる原稿の種類やセットのしかたは、原稿をコピーする場合も同様です。

原稿について

原稿は、ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスにセットします。セットする前に、原稿のサイズや厚さを確認してください。

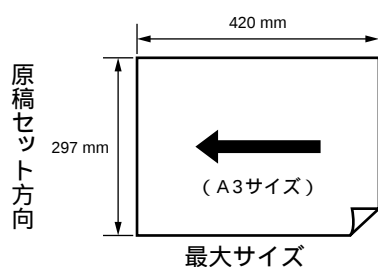
■ ADF（自動原稿送り装置）にセットできる原稿

ADF（自動原稿送り装置）にセットできる原稿サイズは以下のとおりです。



■ 原稿台ガラスにセットできる原稿

原稿台ガラスにセットできる最大サイズは以下のとおりです。セットできる最小サイズの制限はありません。



ワンポイント.....

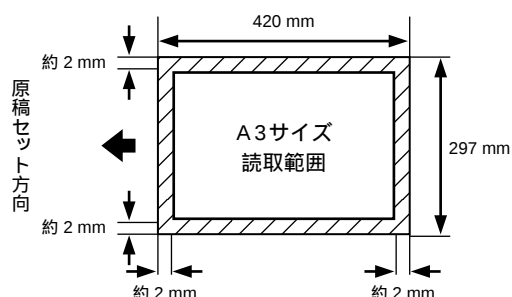
- 送信原稿のサイズと相手の記録紙サイズが違うときは相手の記録紙サイズに応じて、自動的に縮小して送信されます。

相手先	送信原稿のサイズ		
	A3	B4	A4
A3機	等倍	等倍	等倍
B4機	B4に縮小	等倍	等倍
A4機	A4に縮小	A4に縮小	等倍

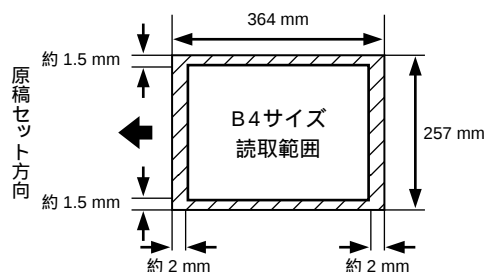
■ 原稿の標準読取範囲について

斜線で示す部分は読み取れませんのでご注意ください。

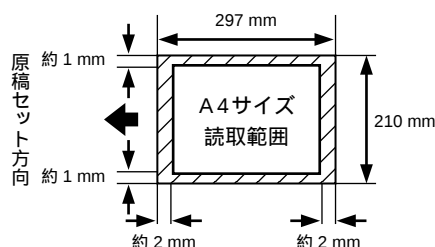
A3サイズ



B4サイズ



A4サイズ



お知らせ

- ADF（自動原稿送り装置）から1 000 mm以上の長さの原稿を送信できるようにしたい場合は、NTT窓口等へお問い合わせください。ただし、この場合は原稿づまりを検知しなくなりますので、充分ご注意ください。

原稿をセットするには

■ こんな原稿のときは

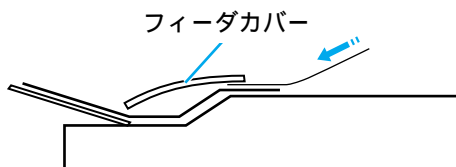
以下のような原稿をADF（自動原稿送り装置）にセットすると、原稿がつまったり、相手先で受信した内容が乱れたりすることがありますので、原稿台ガラスにセットしてください。この取扱説明書で使用している紙の1枚の厚さは、約0.08 mmです。

- 感熱紙や裏カーボン紙などの化学処理をした原稿
- 破れている原稿、しわや曲がりのはげしい原稿
- 裏または表がコーティングされている原稿
- 紙厚が薄すぎる原稿
(0.05 mm未満)
- 紙厚が厚すぎる原稿
(0.14 mm以上：布地、金属板、印画紙など)
- 小さすぎる原稿
(210 mm×148 mm未満)
- 穴のあいた原稿
- つなぎ合わせや貼り合わせのある原稿
- レポート用紙のようにノリで綴じられていた用紙（ノリの部分を取り除いてください）

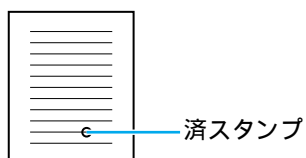


ワンポイント.....

- 原稿を追加するには
どうしても必要なときは、追加する原稿を上重ねて軽く差し込みます。ただし、原稿がつまる場合があるので、なるべく追加しないでください。



- 読み込みの済んだ原稿に済スタンプを押すには
送信する前に[済スタンプ]ボタンを押します。また、いつも済スタンプを押したい場合は、FAXホームポジションの済スタンプを「押す」に設定しておく（●P277）と、[済スタンプ]ボタンを押す手間が省けます。
済スタンプは下図の位置に押されます。ただし、原稿台ガラスから送信するときは、済スタンプを押すことはできません。

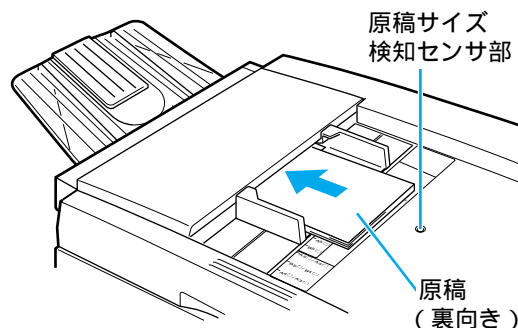


ダイレクト送信時の送信済み原稿だけに済スタンプを押すか、メモリ送信時の読み込み済み原稿にも済スタンプを押すか、選択することができます。（●P300、301）
済スタンプが薄くなってきたら、済スタンプインクを補充してください。（●P344）

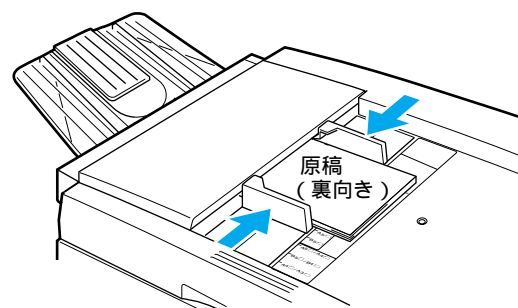
ADF（自動原稿送り装置）にセットする

ADF（自動原稿送り装置）に一度にセットできる枚数は、A4サイズの前稿は50枚、B4やA3サイズの原稿は20枚までです（原稿の種類や周囲の環境により、少なくなる場合があります）。一度に複数枚セットしたときは、一番下の原稿から順番に読み込まれます。

- ① 原稿の先端をそろえ、送る面を下に向けてADF（自動原稿送り装置）にのせます。原稿がつきあたるまで、差し込んでください。



- ② 原稿の幅に合わせて原稿ガイドを調節します。

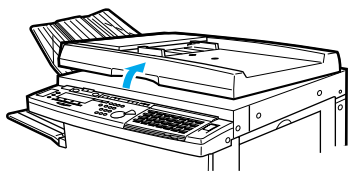


STOP お願い

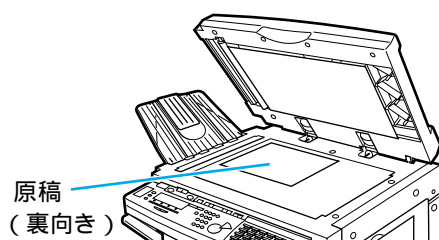
- クリップやホチキスの針は、必ず取り除いてください。
- インクやノリが付いている原稿は、乾かしてからセットしてください。
- サイズや厚さが異なる原稿をいっしょにセットしないでください。
- 送信/コピー中に、ADF（自動原稿送り装置）の原稿サイズ検知センサ部の上に紙や手などを5 cm以上近づけないでください。原稿サイズを誤検知して、ミスコピーなどを起こすことがあります。
- 送信/コピー中に、原稿台カバーにはさわらないでください。原稿台カバーが揺れて画像が乱れることがあります。
- 原稿の追加は原稿づまりや重送（複数枚が一度に送られること）のおそれがあります。原稿を追加するときは、充分に注意してください。

原稿台ガラスにセットする

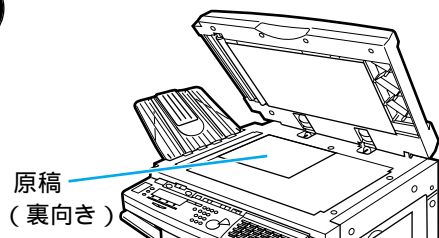
- ① 原稿台カバーを持ち上げて開きます。



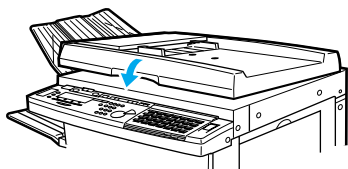
- ② 送る面を下に向けて原稿台ガラスにのせます。



- ③ 原稿を左奥スミのガイドにつきあてます。



- ④ 原稿台カバーを静かに閉じます。



お知らせ

- 原稿台ガラスにゴミやほこりがついていると、相手先が受信した原稿が汚れてしまいます。原稿台ガラスは常にきれいな状態にしておいてください。(●P332)

⚠ 注意

- 原稿台カバーは、手をはさまないように静かに閉じてください。けがの原因となる場合があります。
- 原稿台ガラスに本などの厚い原稿をセットしたときは、原稿台カバーを上から強く押さえないでください。原稿台ガラスが破損して、けがの原因となる場合があります。原稿台ガラスの許容荷重は約2 kg (約500ページの電話帳1冊分) までです。



ワンポイント.....

- セットする原稿のサイズと方向は

ADF (自動原稿送り装置) または原稿台ガラスのどちらにセットする場合でも、原稿の置きかたには と があります。原稿を正しい方向にセットしないと、送信した原稿やコピーの画像が欠けたり、必要以上に縮小されてしまう場合があります。原稿は正しい方向にセットするよう注意してください。

ADF (自動原稿送り装置) にセットするとき

- A5 / B5 / A4

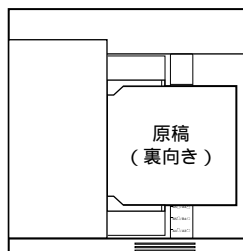


本装置の前に立った状態で、原稿を縦長にセットします。

* A4サイズの原稿を等倍コピーするときは、A4 にセットしてください。A4 にセットすると、コピーの速度が少し遅くなります。

B5 / A5サイズの原稿を送信するときは、B5 / A5 にセットしてください。

- A5 / B5 / A4 / B4 / A3



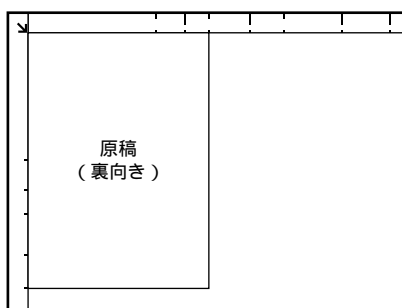
本装置の前に立った状態で、原稿を横長にセットします。

* A4サイズの原稿を送信するときは、A4 にセットしてください。

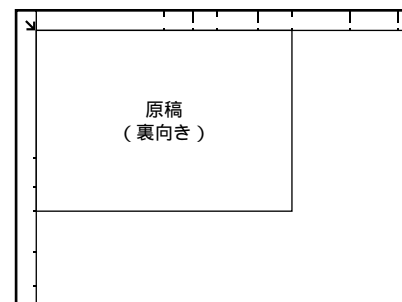
原稿台ガラスにセットするとき

原稿台ガラスにセットするときは、ラベル表示を参考にしてください。

- 往復ハガキ / A5 / B5 / A4



- ハガキ / A5 / B5 / A4 / B4 / A3



等倍コピーするときは、手差しトレイに同じサイズの記録紙をセットしておく必要があります。(●P86)

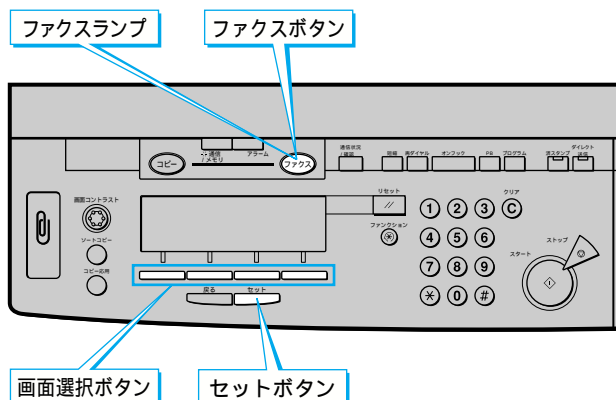
原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには

原稿に合わせて送信画質や読取濃度、原稿の種類を選択すると、より鮮明に送信することができます。

送信画質 : 標準、ファイン、スーパーファイン、ウルトラファイン

読取濃度 : うすく、ふつう、こく

原稿の種類 : 文字、文字 / 写真、写真



送信画質を選ぶ

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
 =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

2

『送信画質』(画面選択ボタン)を繰り返し押して、適切な送信画質を反転表示させます。

ウルトラファイン	送信できます			'98 04/24
スーパーファイン				FRI 15:30
ファイン				
標準	ふつう	文字	ADF	
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信	

送信画質の選択の目安

「標準」: 普通の文字 (新聞活字より大きな文字)

「ファイン」: 細かい文字 (新聞活字程度の文字)

「スーパーファイン」: 細かい文字や図があるとき (新聞活字の中の小さな文字)

「ウルトラファイン」: 精密図 (新聞活字より小さい文字)

ただし、G4モードで送信するときは、「スーパーファイン」/「ウルトラファイン」のどちらを選択しても、「ウルトラファイン」になります。

ワンポイント.....

- よく利用する送信画質、読取濃度、原稿の種類はあらかじめFAXホームポジションに設定しておく、送信のたびに指定する手間が省けます。(P277)



お知らせ

- 原稿読み込み中に、送信画質や読取濃度、原稿の種類の設定を変更することはできますが、変更後の設定が有効になるのは次ページの原稿からになります。
- 送信画質を「ファイン」「スーパーファイン」「ウルトラファイン」に設定すると、「標準」に設定したときよりも送信に時間がかかります。
- 相手機が「スーパーファイン」モードや「ウルトラファイン」モードに対応していない場合は、相手機の送信画質に合わせて送信されます。

3

「セット」ボタンを押します。

自動受信	送信できます	'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎=			
ファイン	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

送信画質を選択したあと3秒以上経過すると、「セット」ボタンを押さなくても送信画質が確定されます。

読取濃度を選ぶ

1

 ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類

2

『読取濃度』（画面選択ボタン）を繰り返し押し、適切な読取濃度を反転表示させます。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	こく	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類

読取濃度の選択の目安

- 「うすく」：色の濃い原稿
- 「ふつう」：通常原稿
- 「こく」：色の薄い原稿

3

[セット] ボタンを押します。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	こく	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類

読取濃度を選択したあと3秒以上経過すると、[セット] ボタンを押さなくても読取濃度が確定されます。



ワンポイント.....

- 読取濃度の内容を設定するには「うすく」「ふつう」「こく」の各読取濃度の設定を調整することができます。(P310、311)

原稿の種類を選ぶ

1

 ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類

2

『原稿の種類』（画面選択ボタン）を繰り返し押し、適切な原稿の種類を反転表示させます。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	写真
送信画質	読取濃度	原稿の種類

原稿の種類の選択の目安

- 「文字」：文字だけの原稿
- 「文字 / 写真」：文字と写真の両方ある原稿（新聞や雑誌など）
- 「写真」：写真のように中間調を持つ原稿

3

[セット] ボタンを押します。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
ファイン	ふつう	文字 / 写真
送信画質	読取濃度	原稿の種類

原稿の種類を選択したあと3秒以上経過すると、[セット] ボタンを押さなくても原稿の種類が確定されます。



お知らせ

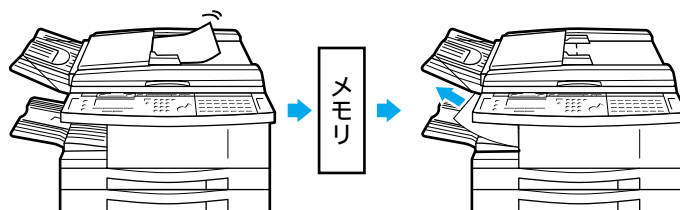
- 原稿の種類を「文字 / 写真」「写真」に設定すると、「文字」に設定したときよりも送信に時間がかかります。
- 原稿の種類を「文字 / 写真」「写真」に設定すると、送信画質は自動的に「ファイン」に設定されますが、送信画質を選ぶ操作で「スーパーファイン」「ウルトラファイン」を設定することもできます。

送信の種類について

ファクスの基本的な送信のしかたには、以下の種類があります。
ご利用に合わせて適切な方法を選んでください。

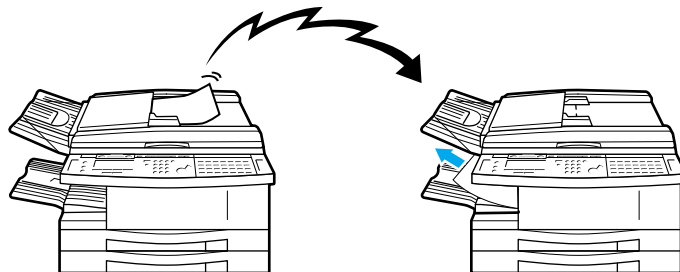
メモリ送信 (P 45)

ADF (自動原稿送り装置) または原稿台ガラスにセットした原稿を、メモリに読み込んでから送信します。読み込み速度が速く、送信が完了するのを待たずに原稿を持ち帰ることができます。メモリ送信中でも、他の原稿の送信予約をすることができます。



ダイレクト送信 (P 56)

ADF (自動原稿送り装置) にセットした原稿を、1枚ずつ確認しながら送信します。メモリ残量が少ない場合や、大量の原稿を送信する場合でも、メモリの容量を気にせず確実に送信することができます。なお、原稿台ガラスにセットした原稿をダイレクト送信することはできません。



ワンポイント.....

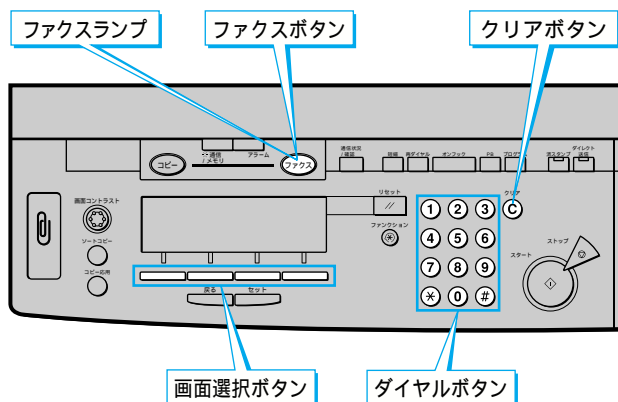
- ナンバー・ディスプレイをご利用の相手の方にこちらの電話番号を通知するには
こちらの電話番号 (契約者回線番号) を相手の方に通知する / 通知しないは、INSネット契約、本装置の「発信者番号通知」の設定、通信時に「184 (通知しない) 186 (通知する)」をダイヤルする、の組み合わせによって決定されます。(P315)
また、上記の設定とは別に、本装置に登録した発信元番号 (P28) や発信元略称 (P30) が、ファクス送信時に相手先の記録紙の先端にプリントされます (発信元記録)。相手機によってはこちらの発信元記録がディスプレイや通信レポートに表示されることもあります。発信元記録をつけないように設定することもできます。(P308、309) お買い求めのときは「つける」に設定されています。



メモリに読み込んで送信するには(メモリ送信)

メモリ送信予約は、最大70件まで行えます。

本のような厚みのある原稿を送信するときは、「本などの原稿を送信するには」(●P47)を参照してください。



ワンポイント.....

- A4サイズの原稿をセットするときは
A4 にセットします。(●P41) A4 にセットすると、縮小して送信されることがあります。
- 送信を中止するには (●P58)
- サブアドレスとは (●P177)
- サブアドレスを指定して送信するには
手順3で電話番号を入力したあと、『サブアドレス』(画面選択ボタン)を押してからサブアドレスを入力します。
- 読み込みの済んだ原稿に済スタンプを押すには (●P40)

お知らせ

- **ファクス** ボタンを押してファクスモードに切り替えたときや、ファクスモードでオートクリアタイムが経過したとき、原稿の読み込みや登録/設定の操作が終了したときは、送信画質や読取濃度などすべての設定がFAXホームポジションの状態に戻ります。FAXホームポジションの設定を変更することもできます。(●P277)
 - ダイヤル入力で宛先を指定した場合は、一括送信(●P51)の機能ははたらきません。
 - メモリ送信中でも、送信する原稿の読み込みが終了していれば、**コピー** ボタンを押してコピーすることができます。
 - 電源を入れたとき、ファクスモードにするかコピーモードにするかを設定できます(初期モード設定●P310、311)。お買い求めのときは、「ファクス」に設定されています。
- 何も操作せずに約2分経過すると、初期モードに自動的に戻ります(オートクリアタイム)。オートクリアタイムの時間は変更することができます。(●P310、311)

ADF(自動原稿送り装置)から送信する

ダイヤル入力のほかに、ワンタッチダイヤル(●P50)短縮ダイヤル(●P52)で相手先を指定することができます。

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		フック送信

2 ADF(自動原稿送り装置)に原稿をセットします。(●P40)

残り使用量	0%		
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信



自動受信	原稿がセットされました	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		フック送信

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには(●P42)
発信元名称を使って送信するには(●P33)

3 相手先の電話番号を入力します。

例: 「0335095538」

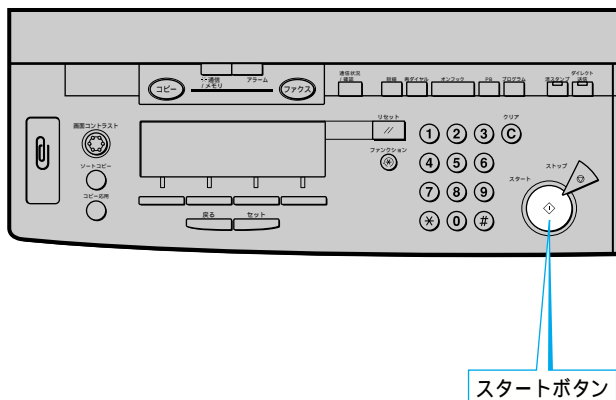
自動受信	'98 04/24
	= 0335095538
サブアドレス	Fネット
	削除

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

同じ原稿を複数の相手先に送信するには(●P137)

次ページに続きます。

メモリに読み込んで送信するには（メモリ送信）



4 [スタート]ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれます。

送信		受信番号 0030	
読込中 P.001			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信

送信			
宛先	=0335095538		
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信

読み込まれた原稿は、自動的に送信されます。



ワンポイント.....

- ディスプレイの表示内容は

送信		受信番号 0030	
読込中 P.001			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信

ページ番号

読み込み中の原稿が
何ページめであるか
を示しています。

受信番号

通信ごとに付けられる一連
番号で、通信を中止すると
きなどは、この番号を確認
して行います。

- 相手先がお話し中 / 通信中のときは
約3分間隔で2回まで自動的に再ダイヤルされます（自動再ダイヤル）。2回再ダイヤルしても相手先が応答しないときは、送信が中止され、エラー送信レポートが自動的にプリントされます。送信エラーが発生したときも、自動再ダイヤル機能ははたらきます。それでも送信できないときは、エラー送信レポートが自動的にプリントされますので、もう一度最初から送信し直してください。自動再ダイヤルの間隔と回数は変更することができます。（●P330、331）
再ダイヤル待機中を解除する場合は、P59を参照してください。
- 送信エラーになった原稿は
メモリから自動的に消去されます。また、消去されないように設定することもできます。（●P300、301）
メモリに残った原稿は、もう一度送信したり、宛先を変えて送信し直すこともできます。（●P155、158）
- メモリに蓄積できる枚数は
A4標準原稿を「標準」の送信画質で約128枚まで蓄積できます。また、オプションメモリを増設すると約640枚まで蓄積できます。

- 送信が正常に終了すると
メモリに蓄積された原稿が消去されます。
- ダイヤルタイムアウトについて
電話番号を入力したあと[セット]ボタンを押して5秒以上経過すると、[スタート]ボタンを押さなくても、原稿が自動的にメモリに読み込まれ、送信されます（ダイヤルタイムアウト）。
ダイヤルタイムアウト機能がはたらかないように設定を変更することもできます。（●P300、301）
- ECM通信について
本装置はECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正モード）方式で通信するように設定されています。ECM通信をすると、送信側と受信側で送受信状態を確認し合いながら通信するため、エラーのない通信をすることができます。相手機がECM通信をするように設定していないときは、通常的方式で通信します。
ただし、ECM通信をしていても、回線の状態によっては画像エラーが発生することがあります。また、回線のトラブルなどがあると、エラーを訂正しながら送信するため、通常の通信より時間がかかってしまいます。ECM通信をしないように設定することもできます。（●P316、317）
- 読み込み中に「メモリがいっぱいです」と表示されたときは
読み込み中の原稿がすべて消去されます。また、読み込ませることのできる原稿の枚数は、メモリ内に残っている原稿の量、および読み込ませる原稿の細かさや読み込み時の送信画質などによって変わります。一度に読み込ませる原稿は少なめにしてください。



本などの原稿を送信するには

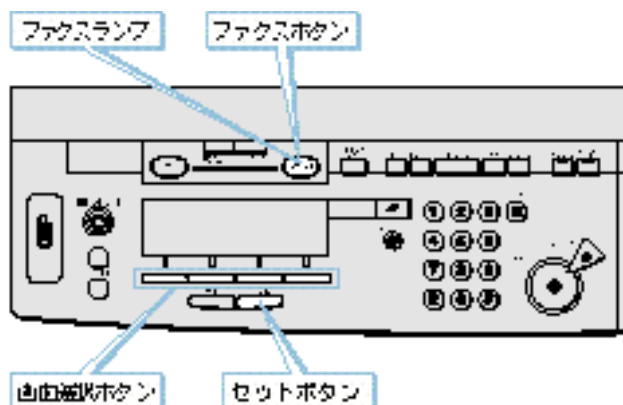
1 お使いになる前に

2 ファクスを送る

3 ファクスを受ける

4 外付け電話機を使う

5 コピーする



原稿台ガラスから送信する

本などのように厚みのある原稿や破れた原稿、傷みやすい原稿など、ADF（自動原稿送り装置）にセットできない原稿も、原稿台ガラスにのせてそのまま送信することができます。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

原稿台ガラスに原稿をセットします。（●P41）

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（●P42）

3

『ブック送信』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、原稿のサイズを反転表示させます。

自動受信	送信できます	A4 ☐
		B4 ☐
		A3 ☐
		ADF ☐
	=	
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

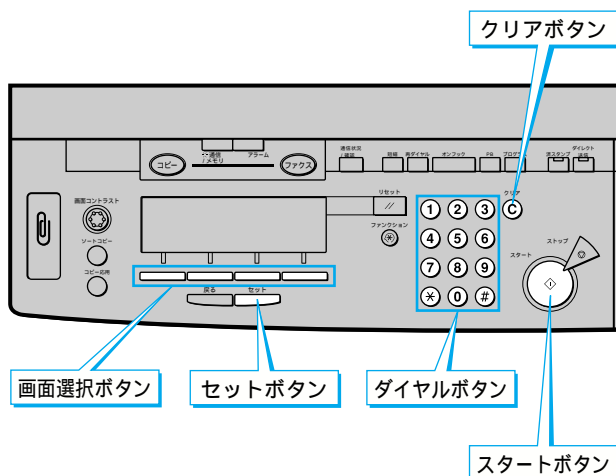
4

〔セット〕ボタンを押します。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
ADF		B4 ☐
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

次ページに続きます。

本などの原稿を送信するには



5 相手先の電話番号を入力します。

例：「0335095538」

自動受信	'98 04/24
☎= 0335095538	
サアドレス	Fネット
削除	

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

同じ原稿を複数の相手先に送信するには（●P137）

発信元名称を使って送信するには（●P33）

発信元名称の選択は、原稿がメモリに読み込まれる前に行ってください。

6 [スタート]ボタンを押します。

1枚目の原稿がメモリに読み込まれます。

送信	
読込中 P.001	受付番号0002
標準	ふつう
文字	B4 ☐
送信画質	読取濃度
原稿の種類	ブック送信

読み込みが完了した
ことを示します



次のページ：[スタート] 読込終了：[セット]	
読込中	受付番号0002
標準	ふつう
文字	B4 ☐
送信画質	読取濃度
原稿の種類	ブック送信

送信する原稿が1枚だけのときは手順8へ進みます。

次の原稿がある場合は、1分以内に次の原稿を読み込ませてください。

1分以上の間隔をあけると、読み込んだ原稿だけが自動的に送信されます。

7

読み込みの済んだ原稿を取り除いて、次の原稿を原稿台ガラスにセットし(●P41) [スタート] ボタンを押します。

2枚目の原稿がメモリに読み込まれます。

送信			
読込中 P.002		受付番号0002	
標準	ふつう	文字	B4 ☐
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信 ☐

読み込みが完了した
ことを示します



次のページ: [スタート] 読み終了: [セツ]			
読み中		受付番号 0002	
標準	ふつう	文字	B4 ☐
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信 ☐

3枚以上の原稿を送信するときは、手順7の操作を繰り返します。

読み込ませるページごとに送信画質や読取濃度などを変更することができます。

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには
(P42)

8

[セット] ボタンを押します。

指定した相手先にダイヤルされ、読み込まれた原稿が自動的に送信されます。

送信			
読込中 P.002		受付番号0002	
標準	ふつう	文字	B4 ☐
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信 ☐



ワンポイント.....

- A4サイズ の原稿をセッ トするときは
A4  にセッ トします。(●P41) A4  にセッ トすると、縮小して送信されることがあります。
- 送信を中止するには (●P58)
- サブアドレスとは (●P177)
- サブアドレスを指定して送信するには
手順5で電話番号を入力したあと、『サブアドレス』(画面選 択ボタ ン)を押してからサブアドレスを入力します。
- メモリに蓄積できる枚数は
A4標準原稿を「標準」の送信画質で約128枚まで蓄積できます。また、オプションメモリを増設すると約640枚まで蓄積できます。
- 読み込み中に「メモリがいっぱいです」と表示されたときは
読み込み中の原稿がすべて消去されます。また、読み込ませることのできる原稿の枚数は、メモリ内に残っている原稿の量、および読み込ませる原稿の細かさや読み込み時の送信画質などによって変わります。一度に読み込ませる原稿は少なめにしてください。

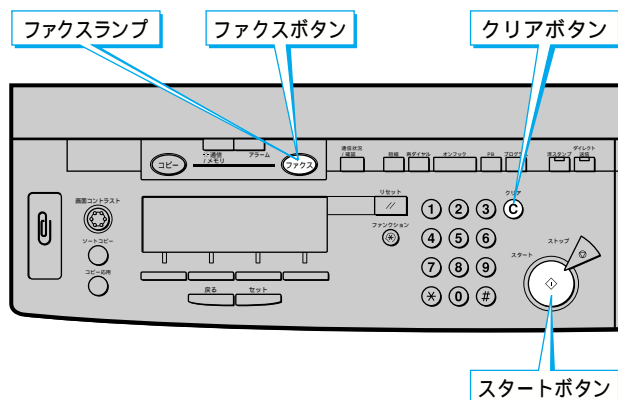


お知らせ

- 原稿読み込み中は原稿台カバーにさわらないでください。原稿台カバーが揺れて、画像が乱れることがあります。
- 電話番号を入力したあと〔セット〕ボタンを押した場合、5秒以上経過するとダイヤルタイムアウト機能がはたらき、自動的に原稿の読み込みが始まります。発信元名称を選択して送信するときは、〔セット〕ボタンを押したあとと約5秒以内に操作してください。複数の相手先を指定したときは、ダイヤルタイムアウト機能ははたらきません。また、ダイヤルタイムアウト機能がはたらかないように設定を変更することもできます。
(●P300、301)
- 原稿台ガラスにゴミやほこりがついていると、相手先が受信した原稿が汚れてしまいます。原稿台ガラスは常にきれいな状態にしておいてください。(●P332)

ワンタッチダイヤルで送信するには

相手先の電話番号は、ワンタッチボタンを押すだけで指定することもできます。あらかじめ相手先をワンタッチダイヤルに登録しておきます。(●P124) ワンタッチダイヤルは最大84件まで登録できます。



ADF (自動原稿送り装置) から送信する

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

2 ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットします。(●P40)

残紙使用量	0%
標準	ふつう
送信画質	読取濃度
	原稿の種類
	ADF
	ブック送信



自動受信	原稿がセットされました	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには (●P42)

発信元名称を使って送信するには (●P33)

お知らせ

- ワンタッチボタンを押したあと5秒以上経過すると、原稿が自動的にメモリに読み込まれます。このようなダイヤルタイムアウト機能がはたらかないように、設定を変更することもできます。(●P300、301)
- Fコードやパスワードが登録(●P264)されているワンタッチダイヤルで宛先を指定した場合は、一括送信の機能ははたらきません。

3 ワンタッチボタン（1～84）を押します。

例：ワンタッチボタン1

登録した電話番号と相手先の名称が表示されます。

自動受信	宛先数: 1	'98 04/24
ワンタッチ	NTT開発	FRI 15:30
No. [01]	03 3509 4202	
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

ワンタッチボタンを押し間違えたときは、5秒以内に〔クリア〕ボタンを押して、ワンタッチボタンを押し直します。

4 [スタート] ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれ、送信が開始されます。

〔スタート〕ボタンを押さないときは、約5秒後に原稿がメモリに読み込まれ、送信が自動的に開始されます。

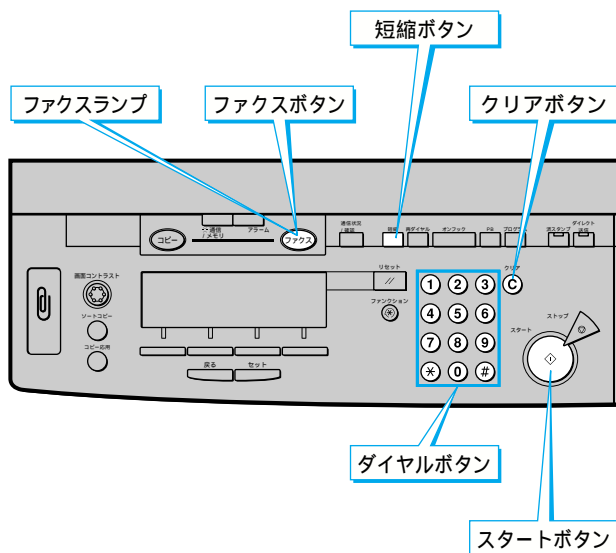


ワンポイント.....

- A4サイズの原稿をセットするときはA4 にセットします。（☛P41）A4 にセットすると、縮小して送信されることがあります。
- 送信を中止するには（☛P58）
- ワンタッチボタン（1～84）を押すときは1～28を押すときは、ワンタッチパネルをすべて閉じます。
29～56を押すときは、ワンタッチパネルを1枚開きます。
57～84を押すときは、ワンタッチパネルを2枚開きます。
- 登録していないワンタッチボタンを押したときはエラー音が鳴り、「未登録です」と表示されます。ワンタッチダイヤルを登録してから、もう一度操作してください。（☛P124）
- ワンタッチダイヤルにサブアドレスが登録されている（☛P124）ときは手順3で、「電話番号」「/」「サブアドレス」と表示されます。
- ワンタッチダイヤルに送信時刻が設定されている（☛P262）ときは設定時刻になったときに、自動的に送信されます。
- 原稿台ガラスからワンタッチダイヤルで送信するには「本などの原稿を送信するには」の手順1～4の操作（☛P47）をする
ワンタッチボタン（1～84）を押す
「本などの原稿を送信するには」の手順6～8の操作（☛P48）をする
- ワンタッチダイヤル電話番号リストを利用するとワンタッチダイヤル電話番号リストをプリントして（☛P256）本装置の近くに貼っておくと便利です。
- メモリに同じ宛先の原稿が読み込まれているときはそれらの原稿は自動的にまとめて送信されます（一括送信）。この機能がはたらかないように設定を変更することもできます。（☛P300、301）

短縮ダイヤルで送信するには

相手先の電話番号は、[短縮] ボタンを押したあと短縮番号（3桁）を入力して指定することもできます。あらかじめ相手先を短縮ダイヤルに登録しておきます。（●P128）短縮ダイヤルは最大116件まで登録できます。



ADF（自動原稿送り装置）から送信する

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2 ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットします。（●P40）

紙使用量	0%
標準	ふつう
文字	ADF
送信画質	読取濃度
	原稿の種類
	ブック送信



自動受信	原稿がセットされました	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（●P42）

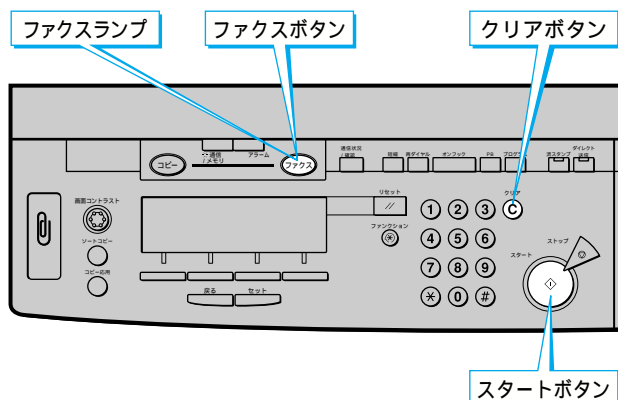
発信元名称を使って送信するには（●P33）

3 [短縮] ボタンを押します。

自動受信		'98 04/24
		FRI 15:30
☎= 短縮(*)		
No. [*]		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

グループダイヤルで送信するには

複数の相手先に同じ原稿を送信するときは、グループダイヤルを登録したワンタッチボタンを押すか、[短縮] ボタンを押したあとグループダイヤルを登録した短縮番号（3桁）を入力して指定することもできます。あらかじめ相手先（最大199件）をグループダイヤルに登録しておきます。（●P132）



ADF（自動原稿送り装置）から送信する

1 ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		フック送信

2 ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットします。（●P40）

紙使用量	0%
標準	ふつう
文字	ADF
送信画質	読取濃度
	原稿の種類
	フック送信



自動受信	原稿がセットされました	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		フック送信

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（●P42）

発信元名称を使って送信するには（●P33）

お知らせ

- グループダイヤルを指定したあと5秒以上経過すると、原稿が自動的にメモリに読み込まれます。このようなダイヤルタイムアウト機能がはたらかないように、設定を変更することもできます。（●P300、301）
- Fコードやパスワードが登録（●P264）されているワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルが宛先として指定されている場合は、一括送信の機能ははたらきません。

3

グループダイヤルの送信先をワンタッチダイヤル(●P50)または短縮ダイヤル(●P52)で指定します。

例：ワンタッチボタン5

登録したグループダイヤルの名称が表示されます。

自動受信	宛先数: 2	'98 04/24
ワンタッチ No. [05]	NTT 支店グループ A グループダイヤル	FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

ワンタッチボタンを押し間違えたときは、5秒以内に[クリア]ボタンを押して、ワンタッチボタンを押し直します。

例：短縮番号「005」

登録したグループダイヤルの名称が表示されます。

自動受信	宛先数: 2	'98 04/24
短縮(*) No. [*005]	NTT 支店グループ B グループダイヤル	FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

入力を間違えたときは、5秒以内に[クリア]ボタンを押して入力し直します。

4

[スタート]ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれ、送信が開始されます。

[スタート]ボタンを押さないときは、約5秒後に原稿がメモリに読み込まれ、送信が自動的に開始されます。



ワンポイント.....

- A4サイズ of 原稿をセットするときは A4 にセットします。(●P41) A4 にセットすると、縮小して送信されることがあります。
- 送信を中止するには(●P58)
- ワンタッチボタン(1~84)を押すときは
1~28を押すときは、ワンタッチパネルをすべて閉じます。
29~56を押すときは、ワンタッチパネルを1枚開きます。
57~84を押すときは、ワンタッチパネルを2枚開きます。
- 登録していないグループダイヤルを指定したときはエラー音が鳴り、「未登録です」と表示されます。グループダイヤルを登録してから、もう一度操作してください。(●P132)
- グループダイヤルに送信時刻が設定されている(●P132)ときは設定時刻になったときに、自動的に送信されます。
- 原稿台ガラスからグループダイヤルで送信するには「本などの原稿を送信するには」の手順1~4の操作(●P47)をする
グループダイヤルを登録したワンタッチボタン(1~84)を押す
または[短縮]ボタンを押してから、グループダイヤルを登録した短縮番号(3桁の数字)を入力する
「本などの原稿を送信するには」の手順6~8の操作(●P48)をする
- メモリに同じ宛先の原稿が読み込まれているときはそれらの原稿は自動的にまとめて送信されます(一括送信)。この機能がはたらかないように設定を変更することもできます。(●P300、301)



Diagram illustrating the front panel controls of a fax machine, with labels for various buttons and functions:

- ファクスランプ (Fax Lamp)
- ダイレクト送信ボタン (Direct Send Button)
- ダイレクト送信ランプ (Direct Send Lamp)
- ファクスボタン (Fax Button)
- クリアボタン (Clear Button)
- 画面選択ボタン (Screen Selection Button)
- ダイヤルボタン (Dial Button)
- スタートボタン (Start Button)



- 1**

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30
☎ =
標準 ふつう 文字 ADF
送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信



3

4

自動受信 98 04/24

☎=0335095538

サブアドレス Eネット 削除

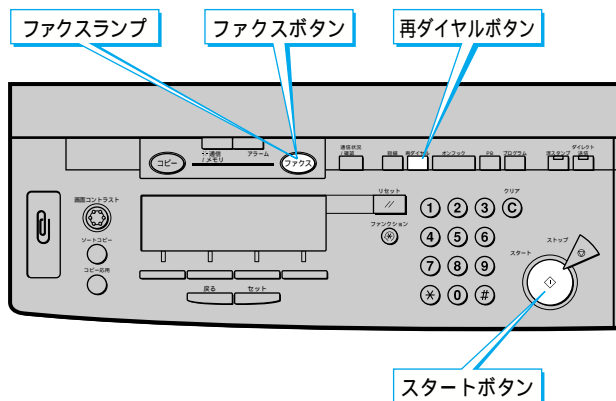
5

お知らせ

- 相手先を2件以上指定すると、ダイレクト送信の操作を行ってもメモリ送信になります。(●P137) また、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに送信時刻を設定(●P262)した場合もメモリ送信になります。
- 原稿1枚分はメモリに蓄積させるので、読み込み中に「メモリがいっぱいです」と表示される場合があります。メモリが空くのを待つか、メモリ内の原稿を消去してから(●P160)送信し直してください。

同じ相手先に送信し直すには(再ダイヤル送信)

ダイヤルボタンで最後にダイヤルした相手先に、[再ダイヤル] ボタンを使ってファクスを送ることができます。



ADF (自動原稿送り装置) から再ダイヤル送信する

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		フック送信

2 ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットします。(P40)

紙使用量	0%
標準	ふつう
送信画質	読取濃度
	原稿の種類
	ADF
	フック送信



自動受信	原稿がセットされました	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		フック送信

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには (P42)

発信元名称を使って送信するには (P33)

ワンポイント.....

- A4サイズの原稿をセットするときは A4 にセットします。(P41) A4 にセットすると、縮小して送信されることがあります。
- 送信を中止するには (P58)
- 原稿台ガラスから再ダイヤル送信するには
「本などの原稿を送信するには」の手順1～4の操作 (P47) をする
[再ダイヤル] ボタンを押す
「本などの原稿を送信するには」の手順7～8の操作 (P49) をする



お知らせ

- ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使ってダイヤルした相手先へは、再ダイヤル送信はできません。

3 [再ダイヤル] ボタンを押します。

最後にダイヤルした相手先の電話番号が表示されます。

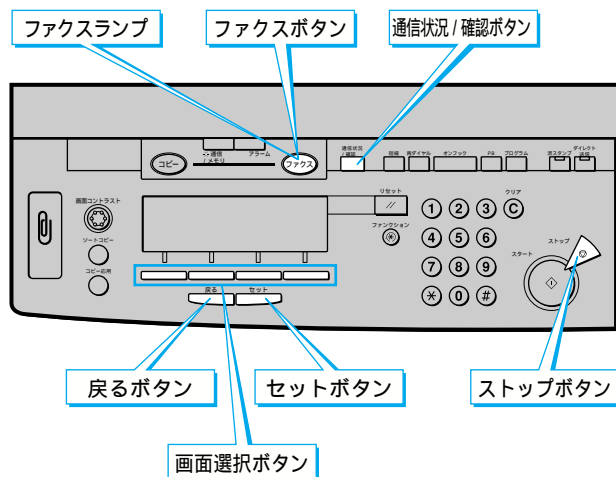
自動受信	宛先数: 1	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=	0335095538	
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		フック送信

4 [スタート] ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれ、送信が開始されます。

送信を中止するには

ダイヤル中や送信中に送信を中止したり（送信の中止）、再ダイヤル待機中やメモリ送信待機中の原稿の送信を中止したり（送信予約の解除）することができます。



送信を中止する

ダイヤル中や送信中に [ストップ] ボタンを押すと、送信を中止することができます。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎=			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

2

送信中に [ストップ] ボタンを押します。

通信を中止しますか？

はい

いいえ

ダイレクト送信のときは、すぐに送信が中止されます。
「通信を中止しますか？」と表示されないときは、もう一度 [ストップ] ボタンを押してください。
同時に2通信が行われているときは、どちらの通信を中止するかを選択するディスプレイが表示されます。『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して中止する通信を反転表示させてから、[セット] ボタンを押してください。

3

『はい』（画面選択ボタン）を押します。

送信が中止され、送信結果レポートがプリントされます。

自動受信		レポート出力中		'98 04/24
				FRI 15:30
 =				
標準		ふつう		文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ADF	
			ブック送信	

送信を中止しないときは、『いいえ』（画面選択ボタン）を押します。



お知らせ

- [ストップ] ボタンを押ただけでは送信は中止されません。[ストップ] ボタンを押したあと、『はい』（画面選択ボタン）を押したときに中止されます。
- ダイレクト送信を中止したときは、原稿がフィーダカバーの下につまった状態になることがあります。その場合は、フィーダカバーを開いて原稿を取り出してください。（☛P361）
- お買い求めのときは、送信結果レポートは「エラー時のみプリント」に設定されています。プリントしないようにしたり、送信ごとにプリントするようにしたりすることもできます。（☛P242）

送信予約を解除する

「待機中」と表示されている再ダイヤル待機中やメモリ送信待機中の原稿の送信を中止（送信予約の解除）することができます。

1 [通信状況 / 確認] ボタンを押します。

詳細: [外] 終了: [戻る]
 15:28 0335095538 送信 001/001
 通信結果 ▼ ▲ 中止

通信中の文書がないときは「現在、通信中の文書はありません」と表示されます。

2 『通信結果』(画面選択ボタン)を押します。

確認終了:[戻る]				
0025	--:--	0335095538	送信	待機中
0024	13:10	NTT開発	送信	NG #0995
5003	14:40	0335095538	受信	OK
通信状況				原稿外

受付番号	電話番号 (相手先名称)
------	-----------------

通信開始（予定）時刻

再ダイヤル、メモリ送信
などで送信待機中

通信開始（予定）時刻の欄は、通信中や再ダイヤル待機中には“--:--”と表示されます。

3 『▼』または『▲』(画面選択ボタン)を押して、予約解除したい送信を反転表示させます。

送信結果→受信結果の順に、通信（予定）時刻の新しい順（受付番号の大きいものから）に表示されます。

確認終了:[戻る]

0025	--:--	0335095538	送信	待機中
0024	13:10	NTT開発	送信	NG #0995
5003	14:40	0335095538	受信	OK
通信状況	▼	▲	原稿刈り	

過去40通信までさかのぼって表示できます。

4 『原稿クリア』（画面選択ボタン）を押します。

クリアしていいですか？

はい

いいえ

5 『はい』(画面選択ボタン)を押します。

ｸﾘｱしました 確認終了:[戻る]
 0025 --:-- 0335095538 送信 待機中
 0024 13:10 NTT開発 送信 NG #0995
 5003 14:40 0335095538 受信 OK
 通信状況

6 [戻る] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

 =

標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント・・・・・・・・・・・・・・・・

- 送信エラーが発生すると
エラー送信レポートが自動的にプリントされます。エラーの原因を確認してから、原稿を送信し直してください。エラー送信レポートをプリントしないようにすることもできます。(P242)

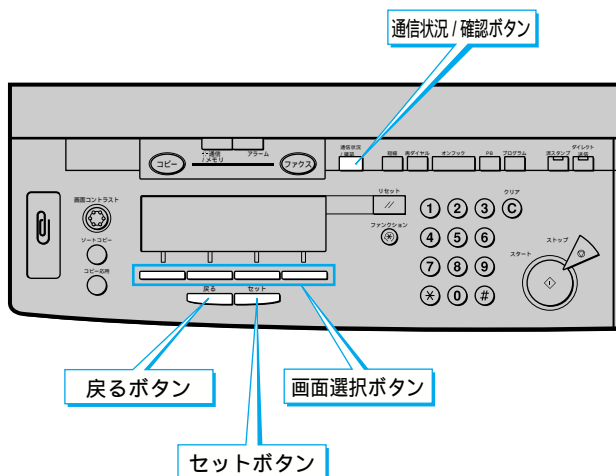


お知らせ

- **ダイレクト送信中に [通信状況 / 確認] ボタンを押しても、送信状況は表示されません。**

送信状況 / 結果を確認するには

送信状況を確認したり、送信結果を確認したりすることができます。



送信状況を確認する

送信中に、送信原稿や通信相手に関する情報を確認できます。

1 [通信状況 / 確認] ボタンを押します。

現在送信中の状況が表示されます。

詳細:[セット] 終了:[戻る]	
15:28	0335095538 送信 001/001
通信結果	中止
通信開始時刻	送受信種別
電話番号	現在送信中のページ数

同時に2通信が行われているときは、『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して、状況を確認する通信を反転表示させます。

2 さらに詳しい状況を確認したいときは [セット] ボタンを押します。

受付番号 0026	送信 P.001
宛先 NTT営業	
開始時刻 15:28	中止

ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで送信したときは、宛先に相手の名称などが表示されます。

3 [戻る] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		フック送信

ワンポイント.....

- 送信を中止するには
送信中の状況を確認してから、送信を中止することができます。
[通信状況 / 確認] ボタンを押す
同時に2通信が行われているときは、『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して、中止したい送信を反転表示させます。
『中止』（画面選択ボタン）を押す
「通信を中止しますか？」と表示されます。
『はい』（画面選択ボタン）を押す
- 送信結果を確認するには
手順1で『通信結果』（画面選択ボタン）を押します。



お知らせ

- ダイレクト送信中に [通信状況 / 確認] ボタンを押しても、送信状況は表示されません。

送信結果を確認する

送信結果を確認することができます。

1 「通信状況 / 確認」ボタンを押します。

15:28 0335095538		送信	001/001
通信結果	▼	▲	中止

通信中の文書がないときは「現在、通信中の文書はありません」と表示されます。

2 『通信結果』（画面選択ボタン）を押します。

確認終了:[戻る]			
0025 --:-- 0335095538	送信	待機中	
0024 13:10 NTT開発	送信	NG	#0995
0023 11:57 0335095538	送信	OK	
通信状況	▼	▲	原稿列

受付番号 電話番号 送受信種別 通信結果
 (相手先名称)
 通信開始(予定)時刻 エラー番号(●P369)

通信開始(予定)時刻: 通信中や再ダイヤル待機中には“--:--”と表示されます。

通信結果: OK...通信は正しく終了しました。
 NG...通信はエラー終了しました。
 待機中...再ダイヤル、タイマ送信などで送信待機中です。

3 『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して、送信結果を確認します。

送信結果→受信結果の順に、通信(予定)時刻の新しい順(受付番号の大きいものから)に表示されます。

確認終了:[戻る]			
0022 11:45 NTT東海	送信	OK	
0021 11:03 NTT開発	送信	OK	
5003 14:40 0335095538	受信	OK	
通信状況	▼	▲	原稿列

過去40通信までさかのぼって確認できます。

4 「戻る」ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎=			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



お知らせ

- 送信結果は、送信結果レポートや通信管理レポートで確認することもできます。(●P239、248、250)

受信モードを選ぶには

ファクスの受信のしかたには、以下の種類があります。
ご利用に合わせて適切な受信モードを選択することができます。

■ 受信モードの種類

受信モード		ご利用の目安	ディスプレイ表示	備考
自動受信	FAX専用 (●P63、65)	ファクスだけを受けたいとき	「自動受信」	お買い求めのときは、FAX専用 に設定されています。
	電話優先 (●P64、65)	電話もファクスも受けたいとき	「自動受信」	外付け電話機を接続して利用 します。(●P360) 呼出開始時間などの詳細設定を することができます。(●P68)
手動受信		ファクスよりも電話の方が多い とき	「手動受信」	外付け電話機を接続して (●P360)、リモート受信を行 います。(●P77)
留守受信(●P79)		留守中に、用件もファクスも受 けたいとき	「留守」	外付け電話機(留守番電話機)を 接続して利用します。(●P360)

■ 受信モードを切り替えるには

ワンタッチパネルを3枚開いて[受信モード]ボタンを繰り返し押すと、受信モードを切り替えることができます。

自動受信モード

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

☎=

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信

手動受信モード

手動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

☎=

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信

留守受信モード

留守 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

☎=

標準 ふつう 文字 ADF

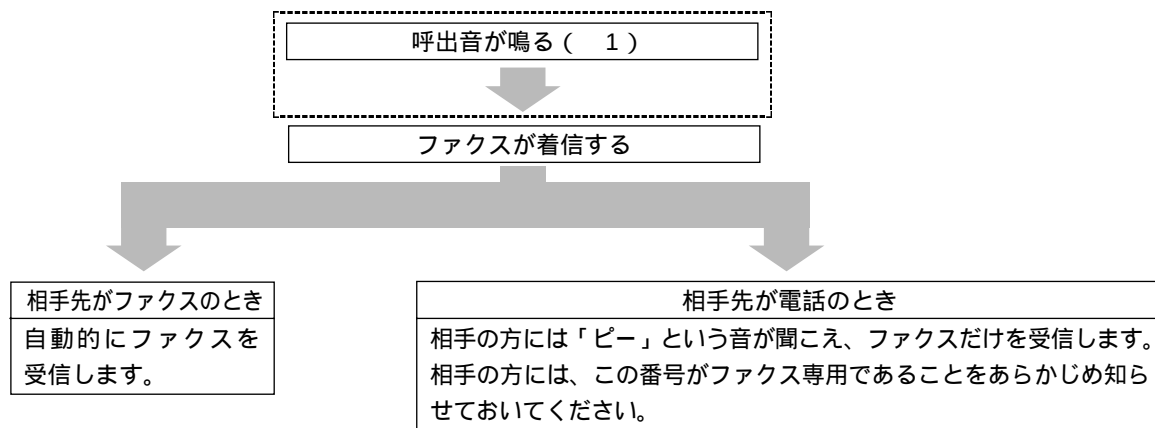
送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信



お知らせ

- 相手機がG4ファクスの場合は、設定した受信モードにかかわらず自動受信になります。
- ダイヤルインまたはサブアドレス着信を利用して発信元番号に複数の電話番号を登録しているとき(●P174、180)は、登録している電話番号ごとに受信モードが設定されているため、ディスプレイに受信モードは表示されません。
- 手動受信モード/留守受信モード設定時に、外付け電話機を使用しているときは、電話やファクスは着信しません。
- 接続した外付け電話機の種類によっては、呼出音が鳴らない場合がありますのでご注意ください。
- 外付け電話機(留守番電話機)が接続されていなかったり、接続されている留守番電話機が「留守」セットされていないときに、ディスプレイに「留守」を表示させると正常に受信することはできません。
- 外付け電話機は1台のみ接続できます。ただし、接続する電話機によっては正常に動作しないことがあります。また、電話機以外の通信機器やビジネスホンなどを接続しても正常に動作しないことがありますのでご注意ください。

自動受信（FAX専用モード）



1 お買い求めのときは、ベル回数設定は「しない」に設定されており、呼出音は鳴りません。呼出音（1～99回）が鳴るように設定することもできます。（●P330、331）

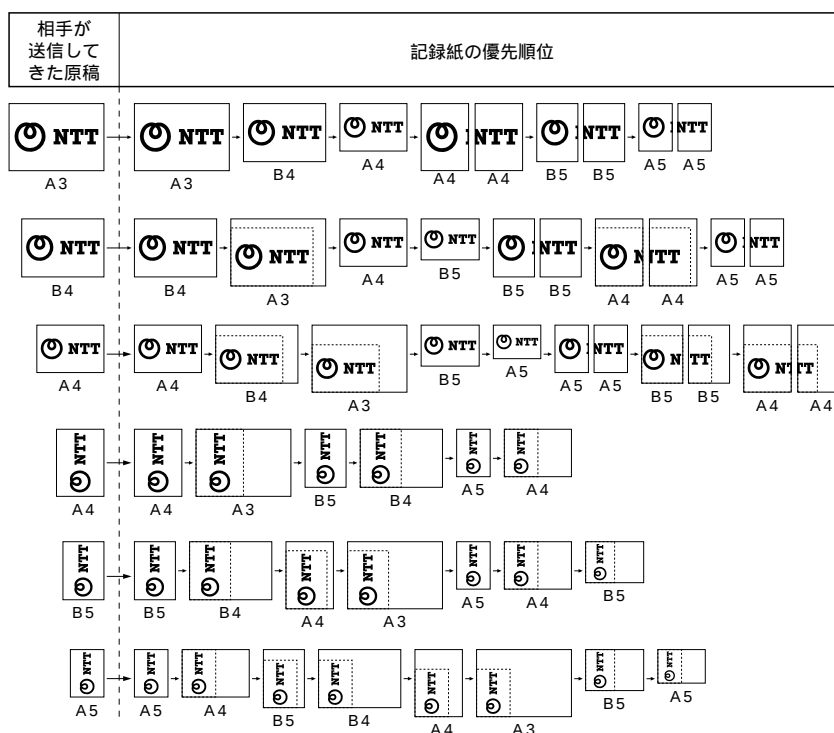


ワンポイント.....

- 記録紙サイズの優先順位は

受信した原稿は、通常は相手先が送信してきた原稿と同じサイズの記録紙が自動的に選択され、プリントされます。同じサイズの記録紙がないときは、以下の優先順位に従って、記録紙が選択されます。

また、すべての記録紙がなくなったときは、メモリ代行受信されます。(●P67)

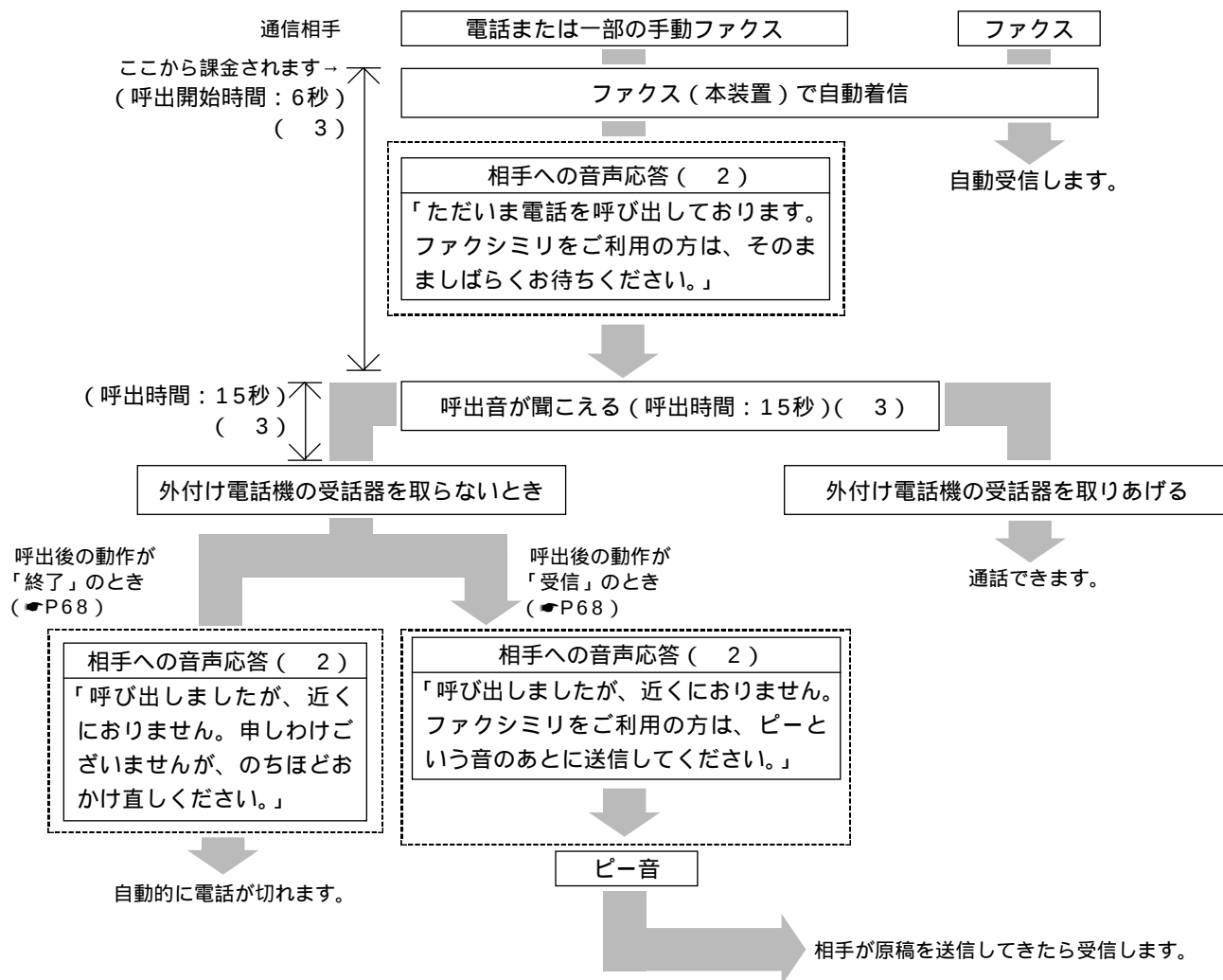


お知らせ

- 上段記録紙カセット、下段記録紙カセット、手差しトレイのそれぞれに同じサイズの記録紙がセットされている場合は、上段→下段→手差しトレイの順に記録紙が選択されます。
4段カセットタイプの場合は、最上段から順番に最下段→手差しトレイの順に記録紙が選択されます。
- プリント中に、その記録紙カセットの記録紙がなくなった場合は、自動的に他の記録紙カセットの記録紙が選択されます。
- 少し長いサイズで送信されてきた原稿は、複数の記録紙に分けずに、1枚に収まるサイズに自動的に縮小してプリントされます（自動縮小●P302、303）。
- 送信原稿のセットされた向きと、記録紙カセットの記録紙の向きが違う場合は、自動的に回転してプリントされます（回転記録●P306、307）。

受信モードを選ぶには

自動受信（電話優先モード）



2 音声応答を流さないように設定することもできます。(●P68) 音声応答を「しない」に設定すると、相手への音声応答は流れません。相手先には呼出音が聞こえないため、相手先は課金されていることに気づかないことがあるのでご注意ください。

3 電話優先モード時の呼出開始時間（0～30秒）と呼出時間（15～300秒）は変更することができます。(●P68)



お知らせ

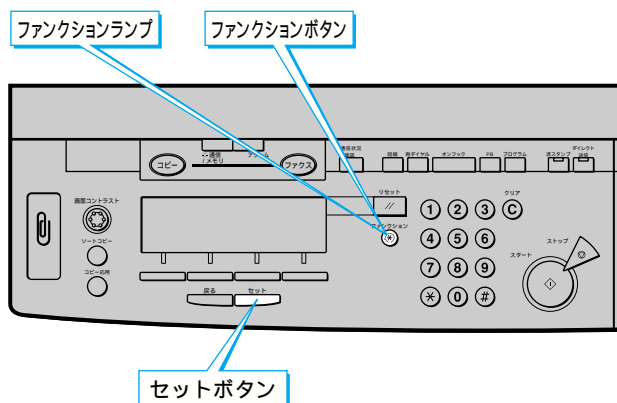
- 電話優先モードに設定している場合、外付け電話機で通話中のときは、電話やファクスは着信しません。
- 電話優先モードの場合、前カバー／プリンタドア／記録紙カセットの右ドアが開いている、メモリがいっぱいになっている、本装置のプリンタに故障が発生しているなどのときは、電話やファクスの着信ができなくなります。手動受信モード(●P62)に設定すると、電話の着信を受けることができます（ただし、リモート受信はできません）。故障内容によっては、手動受信モードに設定しても電話が利用できない場合があります。

- 電話優先モードのときは、ファクスが自動着信したときから課金が始まります。このとき、相手の方が電話の場合、電話にでなくても課金は始まっていますのでご注意ください。
- また、音声応答を「しない」に設定していると、ファクスが自動着信したときに、相手の方には呼出音が聞こえるだけにもかかわらず、課金が始まってしまうのでご注意ください。

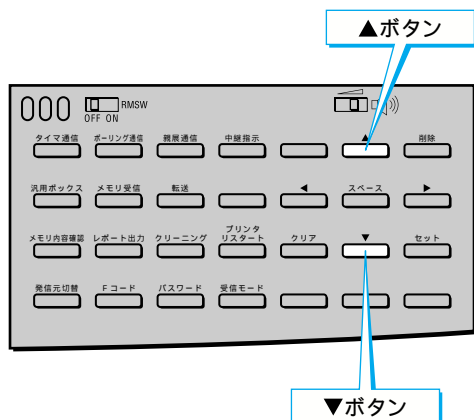
自動的に受信するには

(自動受信)

[受信モード] ボタンを繰り返し押しつけてディスプレイに「自動受信」を表示させておけば、ファクスが送られてきたとき、自動的に受信します(自動受信)。



(ワンタッチパネルを3枚開いた状態)



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 「FAX専用」に設定したときは
相手先が原稿を送信してくると、自動的に受信し、受信した原稿を記録紙にプリントします。
- 「電話優先」を選択したときは
呼出開始時間(着信から自動応答するまでの時間)や、呼出時間(外付け電話機を呼び出す時間)、音声応答をするかどうかなど、詳細を設定することができます。(P68) お買い求めのときは、呼出開始時間「6秒」、呼出時間「15秒」、呼出後の動作「受信」、音声応答「する」に設定されています。

自動受信のモードを設定する

自動受信には、「FAX専用」と「電話優先」の2つのモードがあります。あらかじめ、どちらのモードで自動受信するかを設定します。お買い求めのときは「FAX専用」に設定されています。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定
	03 ダイヤル
	04 サブアドレス着信
受信モード	

3 [セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 電話優先
	02 FAX専用
自動受信	

4 [▼] または [▲] ボタンを押して、設定する自動受信のモードを反転表示させます。

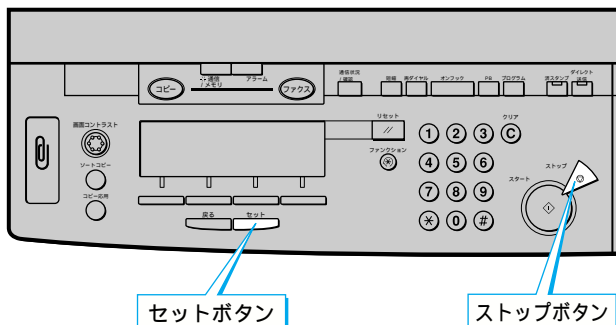
例：電話優先

項目を選んでください	01 電話優先
	02 FAX専用
自動受信	

次ページに続きます。

自動的に受信するには

(自動受信)



5 [セット] ボタンを押します。

次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定 ▾
	03 ダイヤル
	04 サブアドレス着信
受信モード	

「電話優先」を選択したときは、「電話優先詳細設定」を行ってください。(●P68)

6 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
 =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信



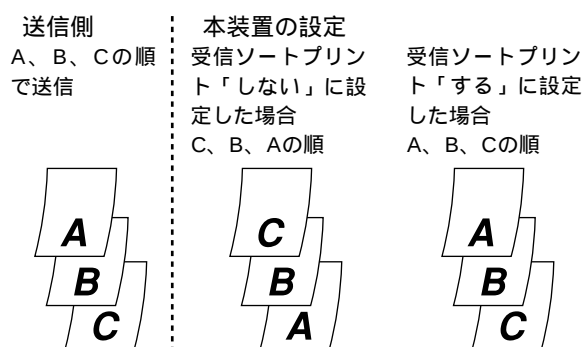
ワンポイント.....

- ダイレクトメールなどを受け付けないようにするにはワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに登録した相手先からのファクスだけ受信するように設定することができます。セレクト受信を「する」に設定してください。(●P300、301) お買い求めのときは「しない」に設定されています。

- 相手先が送信してきたのと同じ順番になるようにプリントするには

受信原稿は、先に受信した原稿からプリントされ、あとから受信した原稿はその上に重なるようにプリントされるため、相手先が送信してきた順番とは逆になってしまいます。原稿を並べ替える手間を省きたいときは、受信ソートプリントを「する」に設定する(●P302、303)と相手先が送信してきたのと同じ順番でプリントされます。

お買い求めのときは、受信ソートプリントを「しない」に設定されています。



ただし、受信ソートプリントを「する」に設定すると、すべての原稿の受信が終了するまでプリントが開始されないため、プリントが終了するまでの時間は通常の場合より長くなります。

また、1通信分の受信原稿がメモリに蓄積できなかった場合は、受信ソートプリントを「する」に設定していても受信ソートプリントの機能ははたらきません。

- 受信中に記録紙やトナーがなくなったときは自動的にメモリに蓄積されます(メモリ代行受信)。メモリに蓄積できる枚数は、A4標準原稿を「標準」の送信画質で約128枚までです。また、オプションメモリを増設すると約640枚まで蓄積できます。メモリがいっぱいのときは、メモリ代行受信の機能ははたらきません。

- 記録紙がなくなったとき(●P334)

「記録紙を補給してください」「代行受信しました」と表示されます。記録紙をセットすると、受信原稿がプリントされます。

- トナーがなくなったとき(●P338)

「トナーカートリッジが空になりました」「代行受信しました」と表示されます。トナーカートリッジを交換すると、受信原稿がプリントされます。

- カセット選択(●P302、303)によりプリントが禁止されている記録紙サイズの原稿を受信したとき「代行受信しました」と表示されます。記録紙をセットすると、受信原稿がプリントされます。

- 記録紙をセットしても受信原稿がプリントされないとき

メモリ代行受信した原稿サイズとセットした記録紙サイズが異なるときや、カセット選択によりプリントが禁止されている記録紙サイズの原稿を受信したときは、受信原稿がプリントされないことがあります。

ファクス ボタンを押してから[スタート]ボタンを押す

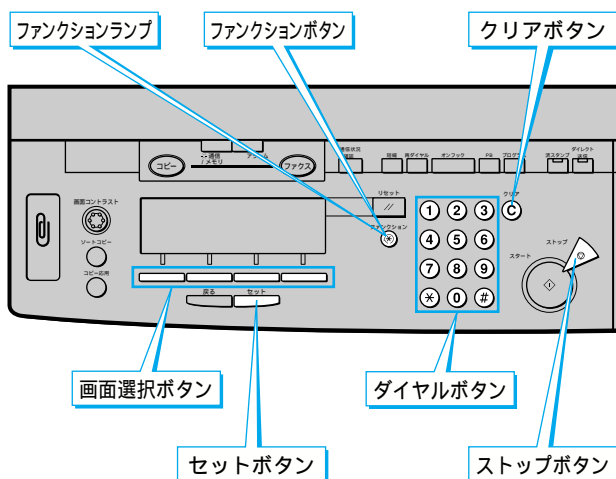
「他のサイズの記録紙にプリント?」と表示されます。違うサイズの記録紙にプリントするときは『はい』(画面選択ボタン)を押す

同じサイズの記録紙にプリントしたいときは、同じサイズの記録紙をセットしてからプリントします。

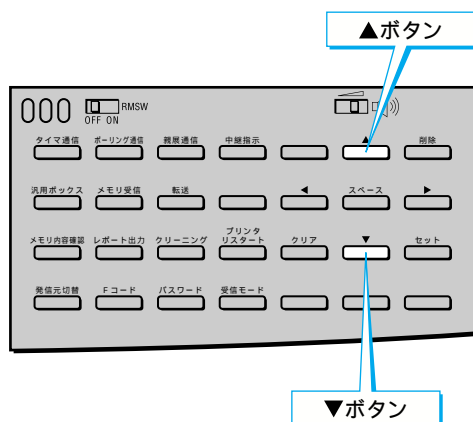
記録紙やトナーがなくなっても、メモリ代行受信しないように設定を変えることもできます。(●P300、301) また、メモリ代行受信したときにアラーム音を鳴らすように設定することもできます。(●P300、301)

自動的に受信するには

(自動受信)



(ワンタッチパネルを3枚開いた状態)



「電話優先」の詳細を設定する

「電話優先」を選択したときは、呼出開始時間（着信から自動応答するまでの時間）、呼出時間（外付け電話機を呼び出す時間）、呼出後の動作（呼出音を鳴らしてもこちらが電話に出ないときにファクス受信にするか電話を切るか）、音声応答をするかどうかを設定することができます。

お買い求めのときは、呼出開始時間「6秒」、呼出時間「15秒」、呼出後の動作「受信」、音声応答「する」に設定されています。

1 [ファンクション]ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定
	03 ダイヤル
	04 呼び出し着信
受信モード	

3 [▼]または[▲]ボタンを押して、「電話優先詳細設定」を反転表示させます。

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定
	03 ダイヤル
	04 呼び出し着信
受信モード	

4 [セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 呼出開始時間
	02 呼出時間
	03 呼出後の動作
	04 音声応答
電話優先詳細設定	

5 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

6 各項目を設定します。

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

呼出開始時間

呼出開始時間（00～30秒）を入力します。

例：6秒

呼出開始時間	
06秒	
-	+

『-』または『+』（画面選択ボタン）を押して呼出開始時間を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

呼出時間

呼出時間（015～300秒）を入力します。

例：20秒

呼出時間	
020秒	
-	+

『-』または『+』（画面選択ボタン）を押して呼出時間を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

呼出後の動作

[▼] または [▲] ボタンを押して、呼出後の動作を反転表示させます。

「受信」：ファクス受信状態にする

「終了」：電話を切る

項目を選んでください	01 受信 02 終了
呼出後の動作	

音声応答

[▼] または [▲] ボタンを押して、音声応答するかどうかを反転表示させます。

項目を選んでください	01 しない 02 する
音声応答	

7 続けて他の項目を設定するときは、手順5～6を繰り返します。

8 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

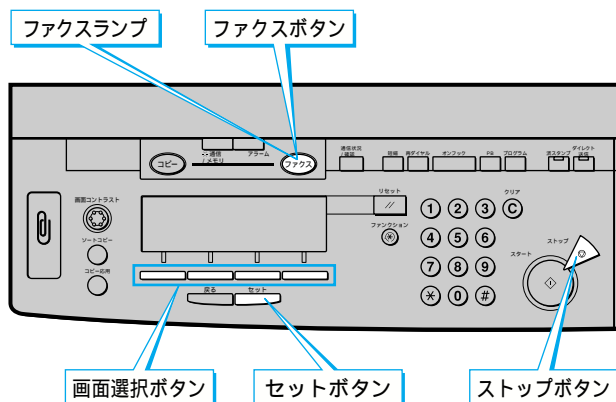


ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

受信を中止するには

受信中に [ストップ] ボタンを押すと、受信を中止することができます。



1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

受信中に [ストップ] ボタンを押します。

通信を中止しますか？

はい

いいえ

「通信を中止しますか？」と表示されないときは、もう一度 [ストップ] ボタンを押してください。

同時に2通信が行われているときは、どちらの通信を中止するかを選択するディスプレイが表示されます。『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して中止する通信を反転表示させてから、[セット] ボタンを押してください。

3

『はい』（画面選択ボタン）を押します。

受信が中止されます。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

受信を中止しないときは、『いいえ』（画面選択ボタン）を押します。

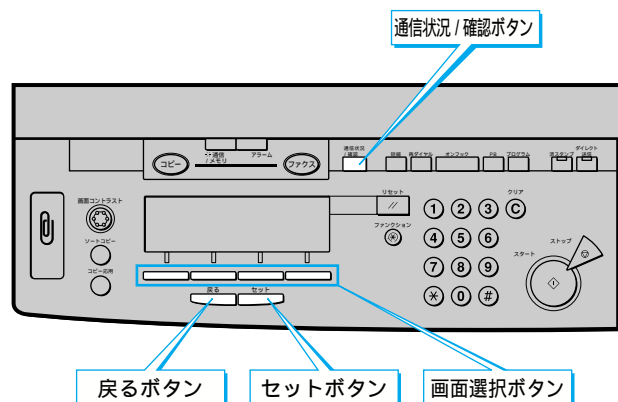


お知らせ

- [ストップ] ボタンを押ただけでは受信は中止されません。[ストップ] ボタンを押したあと、『はい』（画面選択ボタン）を押したときに中止されます。

受信状況 / 結果を確認するには

受信状況を確認したり、受信結果を確認したりすることができます。

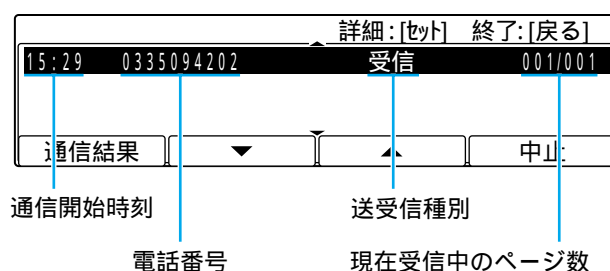


受信状況を確認する

受信中に、受信原稿や通信相手に関する情報を確認できます。

1 [通信状況 / 確認] ボタンを押します。

現在受信中の状況が表示されます。



同時に2通信が行われているときは、『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して、状況を確認する通信を反転表示させます。

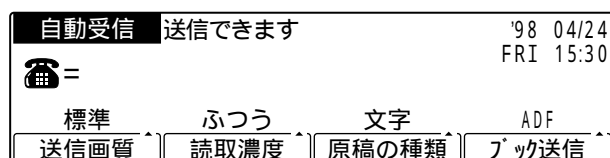
2 さらに詳しい状況を確認したいときは[セット] ボタンを押します。

受付番号 5004 受信 P.001
宛先 0335094202
開始時刻 15:29

中止

3 [戻る] ボタンを押します。

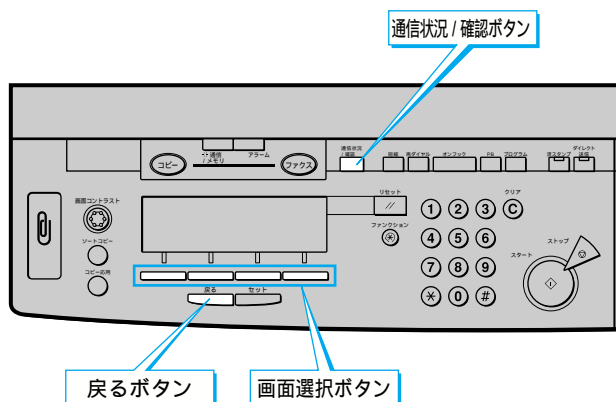
待機画面に戻ります。



ワンポイント.....

- 受信を中止するには
受信中の状況を確認してから、受信を中止することができます。
[通信状況 / 確認] ボタンを押す
同時に2通信が行われているときは、『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して、中止したい受信を反転表示させます。
『中止』（画面選択ボタン）を押す
「通信を中止しますか？」と表示されます。
『はい』（画面選択ボタン）を押す
- 受信結果を確認するには
手順1で『通信結果』（画面選択ボタン）を押します。
(▶P72)

受信状況 / 結果を確認するには



受信結果を確認する

受信結果を確認することができます。

1 「通信状況 / 確認」ボタンを押します。

15:29		0335094202	受信	001/001
通信結果	▼	▲	中止	

通信中の文書がないときは「現在、通信中の文書はありません」と表示されます。

2 『通信結果』（画面選択ボタン）を押します。

確認終了:[戻る]				
0025	--:--	0335095538	送信	待機中
0024	13:10	NTT開発	送信	NG #0995
5003	14:40	0335095538	受信	OK
通信状況	▼	▲	原稿列	

受付番号 電話番号 送受信種別 通信結果
(相手先名称)

通信開始 (予定) 時刻

エラー番号 (●P369)

通信結果: OK...通信は正しく終了しました。

NG...通信はエラー終了しました。

3 『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して、受信結果を確認します。

送信結果→受信結果の順に、通信 (予定) 時刻の新しい順 (受付番号の大きいものから) に表示されます。

確認終了:[戻る]				
5002	11:15	0335094202	受信	OK
5001	9:05	0335095538	受信	OK
5000	9:00	0522641434	受信	OK
通信状況	▼	▲	原稿列	

過去40通信までさかのぼって確認できます。

1
お使いになる前に

2
ファクスを送る

3
ファクスを受ける

4
外付け電話機を使う

5
コピーする

4 [戻る] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信



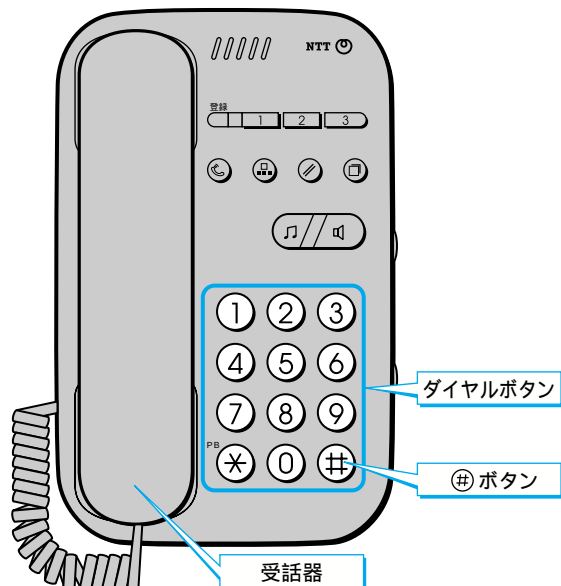
お知らせ

- 受信結果は、受信結果レポートや通信管理レポートで確認することもできます。(P239、248、252)

電話をかけるには

(発信)

本装置に一般電話回線で利用する電話機を接続して、電話をかけることができます。電話機の取り扱いかたについては、外付け電話機の取扱説明書をご覧ください。

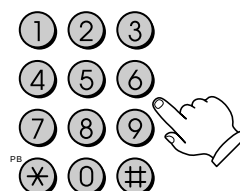


1 外付け電話機の受話器を取りあげます。

発信音が聞こえます。



2 相手先の電話番号を入力します。



#ボタンを押すと、すぐにダイヤルされます。

ワンポイント.....

- 外付け電話機を接続するには (●P360)
- サブアドレスを指定して電話をかけるには
手順1～2の操作をする
(*) ボタンを押す
サブアドレスを入力する
(#) ボタンを押すと、すぐにダイヤルされます。
手順3～4の操作をする

ただし、サブアドレス指定ボタンを「使用しない」に設定しているとき (●P312、313) は、外付け電話機からサブアドレスを指定して電話をかけることはできません。お買い求めのときは、サブアドレスを指定して電話をかけられるように設定されています。

3 相手の方が出たら、お話しください。

4 話しが終わったら、受話器を置きます。



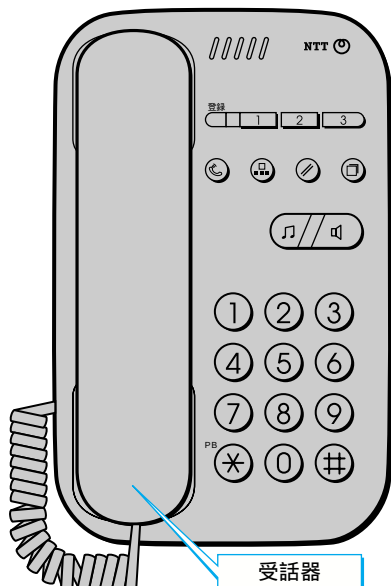
お知らせ

- 接続する外付け電話機の電話回線種別を必ず「プッシュ回線 (PB)」に設定してご利用ください。
- 受話器をきちんと置かないと、本装置から「ピロピロピロ...」という警告音が鳴ります (オフフックアラーム)。警告音が鳴らないように設定することもできます。(●P310、311)
電話番号を入力したあと、5秒以上経過するとダイヤル発呼タイムアウト機能がはたらき、自動的に発信します。この機能がはたらかないようにしたり、電話番号を入力してから発信が開始されるまでの時間の設定を変更することもできます。(●P312、313)
- 接続する電話機の種類によっては、発信や着信が正常に動作しないことがあります。
- 外付け電話機用差込口は、ナンバー・ディスプレイには対応していません。ナンバー・ディスプレイ対応の電話機を接続する場合は、電話機のナンバー・ディスプレイ機能を利用しないように設定してください。
- 自動受信のモードが「電話優先」に設定されているとき、ファクス着信と同時に外付け電話機の受話器を取り上げると、「ポー・ポー...」という音が聞こえることがあります。この場合は、リモート受信操作 (●P77) を行ってファクス文書を受信してから電話をかけ直してください。リモート受信を行わずに外付け電話機の受話器を置くと、ファクスが受信できませんのでご注意ください。オンフック受信 (●P78) を利用してファクス文書を受信することもできます。

電話がかかってきたときは

(着信)

本装置に外付け電話機を接続しているときに電話がかかってくると、外付け電話機の受話器を取りあげて電話を受けることができます。電話機の取り扱いかたについては、外付け電話機の取扱説明書をご覧ください。



1

外付け電話機の呼出音が鳴ります。



2

外付け電話機の受話器を取りあげて、相手の方とお話してください。



3

話しが終わったら、受話器を置きます。



1 お使いになる前に

2 ファックスを送る

3 ファックスを受ける

4 外付け電話機を使う

5 コピーする



ワンポイント.....

- 外付け電話機を接続するには (P360)

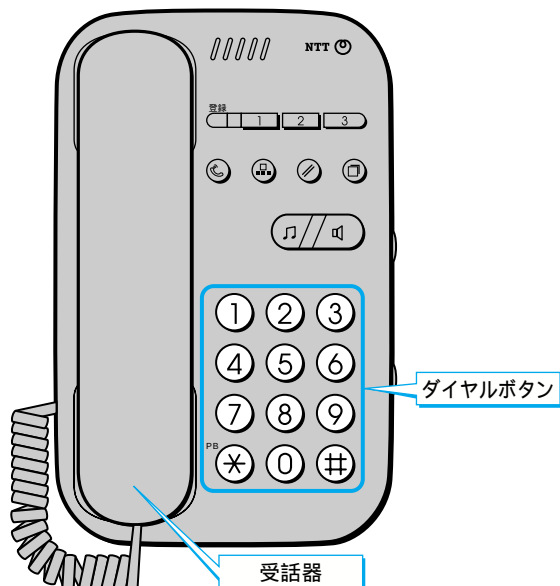


お知らせ

- 接続する電話機の種類によっては、発信や着信が正常に動作しないことがあります。

ブッシュホンサービスを利用するには

PB信号によるブッシュホンサービスを利用することができます。具体的なご利用方法については、各サービス提供元へお問い合わせください。

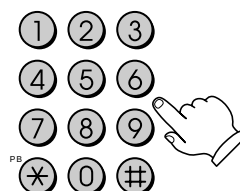


1 外付け電話機の受話器を取りあげます。

発信音が聞こえます。



2 サービス提供元の電話番号を入力します。



ワンポイント.....

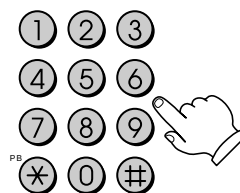
- 外付け電話機を接続するには (P360)
- 番号を間違えたときは
受話器を置いて、最初からやり直します。
- 利用できるブッシュホンサービスは
銀行ANSERサービス、クレジット通話サービス、ポケットベルサービス、照会案内サービス、ホームテレホンのテレコントロール、留守番電話のリモート操作などがご利用になれます。

STOP お願い

- 相手先の電話番号をダイヤルしたあと、ブッシュホンサービスや留守番電話のリモート操作などを利用するためにダイヤル入力するときは、確実に接続されていることを確認してから操作してください。相手先に接続される前にダイヤル操作をすると、ブッシュホンサービスを正しく受けることができなかったり、留守番電話のリモート操作などが正しく行えないことがあります。
- 外付け電話機では、ファクス情報サービスなどのファクスを使用するサービスを利用することができません。サービスをご利用になるときは、本装置で操作してください。(P143)

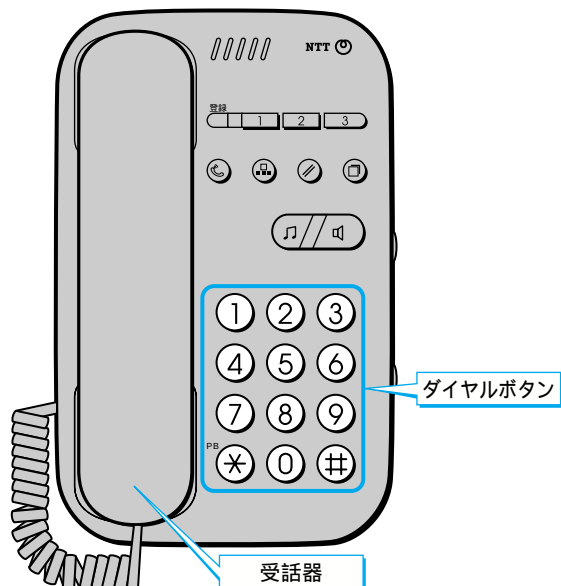
3 音声ガイダンスに従って、ダイヤルボタンを押します。

PB信号(「ピッポッパ」という音)で送出されます。



リモート番号を入力してファクスを受信するには (リモート受信)

本装置に外付け電話機を接続して、電話で話しをしたあと、外付け電話機でリモート番号 (⑤ ⑥) を入力してファクスを受信することができます。



1 外付け電話機の呼出音が鳴ります。

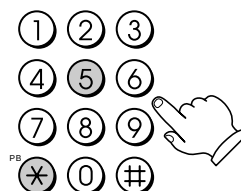


2 外付け電話機の受話器を取り上げて、相手の方と話しをします。



「ポー・ポー...」という音が聞こえたり、何も応答がないときは、すぐに手順3の操作を行います。

3 外付け電話機でリモート番号 (⑤ ⑥) を押します。



リモート番号 (⑤ ⑥) は変更することができます。
(☛P300、301)

4 受話器を置きます。

受信が開始されます。



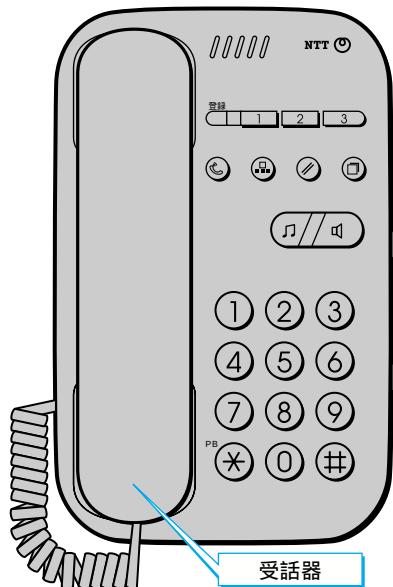
ワンポイント.....

- 外付け電話機を接続するには (☛P360)
- 受話器を置いただけでファクスを受信するには (オンフック受信) (☛P78)

お知らせ

- 接続した外付け電話機の電話回線種別を必ず「プッシュ回線 (PB)」に設定してください。「プッシュ回線」に設定していないと、リモート受信はできません。
- 留守受信モードにしているときは、リモート受信はできません。
- こちらから電話をかけた場合は、リモート受信はできません。
- お買い求めのときは、リモート受信を「する」に設定されています。リモート受信をしないように設定することもできます。(☛P300、301)

本装置に外付け電話機を接続して、電話で話しをしたあと、受話器を置くだけでファクスを受信することができます。あらかじめオンフック受信を「する」に設定しておきます。(●P300、301) お買い求めのときは「しない」に設定されています。



3 受話器を置きます。



ワンポイント.....

- 外付け電話機を接続するには (P360)
- リモート番号を入力してファクスを受信するには (リモート受信) (P77)



お知らせ

- 留守受信モードにしているときは、オンフック受信はできません。
- こちらから電話をかけた場合は、オンフック受信はできません。

留守番電話機を接続して受信するには

(留守受信)

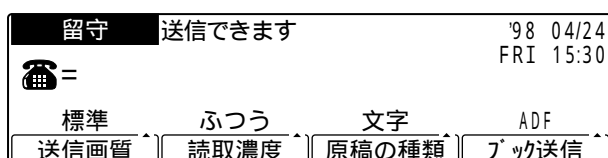
本装置に留守番電話機を接続して、ファクスのときは自動的に受信し、電話のときは留守番電話機に用件を録音することができます。

準備をする

留守番電話機を本装置に接続します。(●P360)
留守番電話機に応答メッセージを録音します(留守番電話機の取扱説明書を参照してください)。

外出する前に

ワンタッチパネルを3枚開いて[受信モード]ボタンを繰り返し押し、ディスプレイに「留守」を表示させます。



接続した留守番電話機を「留守」にセットします(留守番電話機の取扱説明書を参照してください)。

外出中には

呼出音が鳴る

留守番電話機の応答メッセージが流れる

相手先がファクスのとき
自動的にファクスを受信
します。

相手先が電話のとき
留守番電話機に用件を録
音します。

帰宅したら

接続した留守番電話機の「留守」セットを解除します(留守番電話機の取扱説明書を参照してください)。
ワンタッチパネルを3枚開いて[受信モード]ボタンを押し、他の受信モードにします。
受信したファクスを受け取ります。
留守番電話機に録音された用件を聞きます(留守番電話機の取扱説明書を参照してください)。



ワンポイント.....

- 外から留守番電話機を操作するときは
本装置のリモート番号(⑤⑧)と同じ番号を使用
すると、ファクスが受信状態になることがあります。
リモート番号を変更するか、リモート受信を「しない」
に設定してください。(●P300、301)

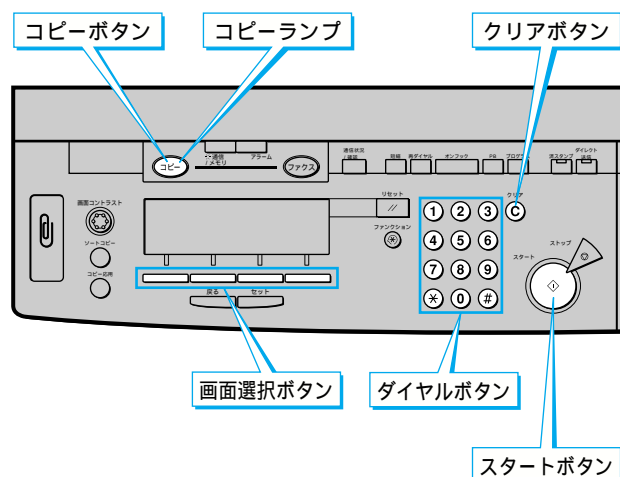


お知らせ

- 接続する留守番電話機の種類によっては、留守受信の機能が利用できないものがあります。また、録音件数がいっぱいになると応答できなくなる留守番電話機を接続した場合は、ファクスの受信ができなくなることがありますのでご注意ください。
- ダイヤルイン(●P170)またはサブアドレス着信(●P177)を「使用する」に設定しているときは、留守番電話機の機能は利用できません。
- 留守受信モードに設定している場合、外付け電話機で通話中のときは、電話やファクスは着信しません。
- 留守受信モードの場合、前カバー/プリンタドア/記録紙カセットの右ドアが開いている、メモリがいっぱいになっている、本装置のプリンタに故障が発生しているなどのときは、電話やファクスの着信ができなくなります。手動受信モード(●P62)に設定すると、電話の着信を受けることができます(ただし、リモート受信はできません)。
故障内容によっては、手動受信モードに設定しても電話が利用できない場合があります。

原稿をコピーするには

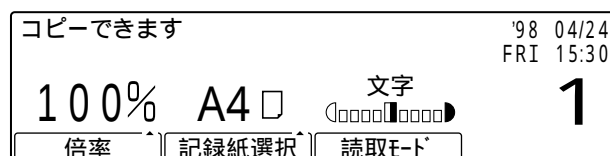
ADF（自動原稿送り装置）や原稿台ガラスに原稿をセットしてコピーすることができます（最大99部）。
本のように厚みのある原稿をコピーするときは、「原稿台ガラスからコピーする」を参照してください。（●P82）



ADF（自動原稿送り装置）からコピーする

1 コピーボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

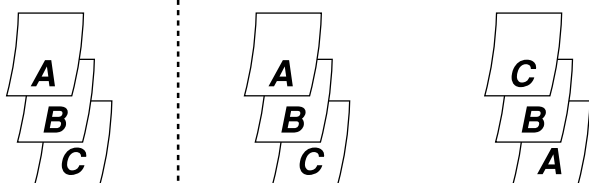


ワンポイント.....

- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。
- ソートしてコピーしたいときは
ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットして、[ソートコピー] ボタンを押します（ソートコピーランプが点灯します）。
原稿を複数枚コピーするとソートしてプリントされ、複数部を指定してコピーすると1部ずつまとめてプリントされます。お買い求めのときは、自動ソート「しない」に設定されています。

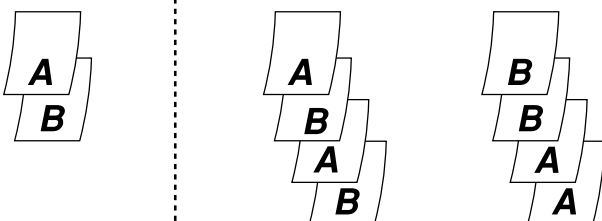
例 3枚の原稿を1部コピーした場合

A、B、Cの順にコピー（ソートコピーランプ点灯）（ソートコピーランプ消灯）
A、B、Cの順 C、B、Aの順



例 2枚の原稿を2部コピーした場合

A、Bの順にコピー（ソートコピーランプ点灯）（ソートコピーランプ消灯）
A、Bの順 B、Aの順



- 「自動用紙」とは
セットした原稿のサイズに適合する記録紙を自動的に選択する機能です。通常、ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットすると、自動的に「自動用紙」が表示されます。
- A4サイズの原稿を等倍コピーするときは
A4 にセットします。（●P41）

2 ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットします。（●P40）

「自動用紙」が選択されます。



原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（●P84）

3 コピー部数（1～99）を入力します。

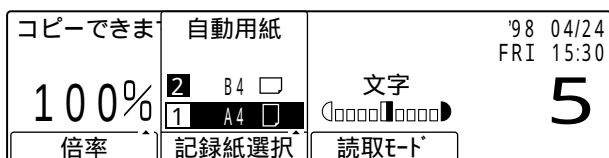
例：5部



1部だけコピーするときは、コピー部数の指定は不要です。
コピー部数を間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

コピーする記録紙のサイズを指定しないときは手順5へ進みます。

4 『記録紙選択』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、コピーする記録紙のサイズを反転表示させます。



上段カセットの記録紙サイズ（**1**）→下段カセットの記録紙サイズ（**2**）→「自動用紙」の順番に反転表示されます。

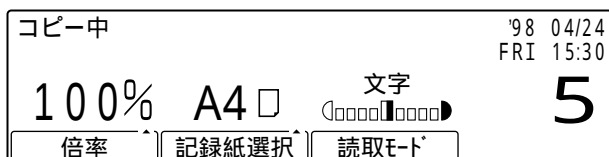
4段カセットタイプの場合は、最上段（**1**）から最下段（**4**）→「自動用紙」の順番に反転表示されます。

特に指定しない場合は、適切なサイズの記録紙が自動的に選択される「自動用紙」が選択されます。

拡大または縮小してコピーすることもできます。（●P90）

5 「スタート」ボタンを押します。

原稿が読み込まれ、コピーが開始されます。



ワンポイント.....

- 本などの原稿をコピーするには
原稿台ガラスに原稿をセットしてコピーしてください。（●P82）
- 手差しトレイにセットした記録紙でコピーするには
（●P86）
- OHPフィルムにコピーしたいときは
OHPフィルムを最上段カセットにセットしてください。一度にセットできる枚数は10枚までです。

STOP お願い

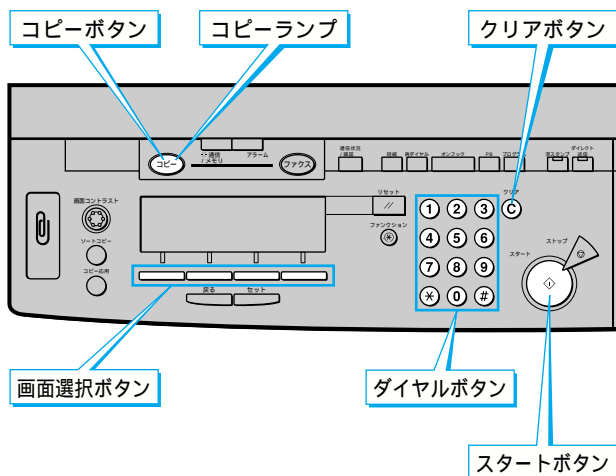
- 法律によりコピーが禁じられているものもあります。
次のようなもののコピーには注意してください。
 - 法律で禁止されているもの（絶対にコピーしないでください）
貨幣、紙幣、公債証券、政府発行の有価証券、郵便切手、官製はがき、印紙など（これらは外国で発行されたものも含みます）
 - 著作権のあるもの
書籍、楽譜、絵画、版画、地図、図面、写真など
 - その他注意を要するもの
民間発行の有価証券、パスポート、免許証、身分証明書、食券など



お知らせ

- ソートコピーは、ADF（自動原稿送り装置）でコピーする場合にのみ利用できます。
 - ご使用になる機会の多いサイズの記録紙は、上段の記録紙カセットにセットしておくとう便利です。
 - **コピー** ボタンを押してコピーモードに切り替えたときや、コピーモードでオートクリアタイムが経過したときなどは、読取モードやコピー部数などすべての設定がコピーホームポジションの状態に戻ります。コピーホームポジションの設定を変更することもできます。（●P281）
 - 「自動用紙」を選択して[スタート]ボタンを押したときに、「適正サイズの用紙がありません：A4」が表示された場合は、原稿に見合う大きさの記録紙（この場合はA4）がセットされていません。『記録紙選択』（画面選択ボタン）で記録紙を選択し直してください。記録紙を選択し直さずにもう一度[スタート]ボタンを押すと、余白または画像の欠けが最も少ない記録紙が自動的に選択され、コピーが開始されます。
 - コピーの設定途中で[ストップ]ボタンを押すと、指定したコピー部数や記録紙サイズなどがすべて消去されてしまうのでご注意ください。
 - コピーを中止した場合、原稿がフィーダカバーの下にしまった状態になることがあります。その場合は、フィーダカバーを開いて原稿を取り出してください。（●P361）
 - メモリに大量の原稿が蓄積されているときは、コピーできなくなることがあります。コピー中に「メモリがいっぱいです」と表示された場合は、メモリ内の受信原稿をプリントするか、送信予約されている原稿の送信が終了してからコピーし直してください。
 - 手差しトレイの記録紙サイズは、手差しサイズ指定を「する」に設定（●P306、307）していれば、手差しトレイに記録紙をセットしていない場合でも表示されます。
 - コピー中は原稿台カバーにさわらないでください。原稿台カバーが揺れて、画像が乱れることがあります。
 - コピー中はファクスモードに切り替えることはできません。[ストップ]ボタンを押してコピーを中止するか、コピーの終了を待ってファクスモードに切り替えてください。なお、自動受信は、コピーモードのままでも行うことができます。
 - 電源を入れたとき、ファクスモードにするかコピーモードにするかを設定できます（初期モード設定●P310、311）。お買い求めのときは、「ファクス」に設定されています。
- 何も操作せずに約2分経過すると、初期モードに自動的に戻ります（オートクリアタイム）。オートクリアタイムの時間は変更することができます。（●P310、311）

原稿をコピーするには



原稿台ガラスからコピーする

本のように厚みのある原稿や破れた原稿、傷みやすい原稿など、ADF（自動原稿送り装置）にセットできない原稿は、原稿台ガラスにセットしてコピーすることができます。

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます		'98 04/24 FRI 15:30	
100%	A4 □	文字 □□□□□□□□	1
倍率	記録紙選択	読取モード	

2 原稿台ガラスに原稿をセットします。(P41)

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには (P84)

3 コピー部数 (1 ~ 99) を入力します。

例：5部

コピーできます		'98 04/24 FRI 15:30	
100%	A4 □	文字 □□□□□□□□	5
倍率	記録紙選択	読取モード	

1部だけコピーするときは、コピー部数の指定は不要です。
コピー部数を間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

4

『記録紙選択』（画面選択ボタン）を
繰り返し押して、コピーする記録紙
のサイズを反転表示させます。

コピーできま		'98 04/24 FRI 15:30
100%	2 B4 ☐ 1 A4 ☐	文字 □□□□□□□□
倍率	記録紙選択	読取モード

上段カセットの記録紙サイズ(**1**) → 下段カセットの記録紙サイズ(**2**)の順番に反転表示されます。

4段カセットタイプの場合は、最上段（**1**）から最下段（**4**）の順番に反転表示されます。

拡大または縮小してコピーすることもできます。(●P90)

5

〔スタート〕 ボタンを押します。

コピーが開始されます。

コピー中 '98 04/24
FRI 15:30

100% B4 文字
倍率 記録紙選択 読取モード 5



ワンポイント.....

- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。
- A4サイズ of 原稿を等倍コピーするときは
A4  にセットします。(●P41)
- OHPフィルムにコピーしたいときは
OHPフィルムを最上段カセットにセットしてください。一度にセットできる枚数は10枚までです。



お知らせ

- 手順4で表示される手差しトレイの記録紙サイズは、手差しサイズ指定を「する」に設定していれば、手差しトレイに記録紙をセットしていない場合でも表示されます。(●P306、307)
- コピー中は原稿台カバーにさわらないでください。原稿台カバーが揺れて、画像が乱れることがあります。
- 原稿台ガラスにゴミやほりがついていると、コピーが汚れてしまいます。原稿台ガラスは常にきれいな状態にしておいてください。(●P332)



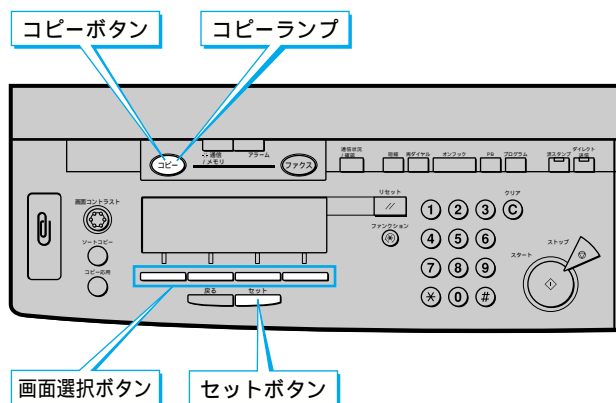
原稿に合わせて読取濃度や原稿の種類（読取モード）を選択すると、より鮮明にコピーすることができます。

読取濃度 : 9段階で調整可能

原稿の種類：文字、文字 / 写真、写真

自動 : 読取濃度を自動的に調整、原稿の種類は「文字」を選択

お買い求めのときは、読取濃度は9段階中の中間、原稿の種類は「文字」に設定されています。



読取濃度を選ぶ

1 **コピー** ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます '98 04/24
FRI 15:30

100% A4 文字
□□□□□□□□ 1

倍率 記録紙選択 読取モード

2 『読取モード』（画面選択ボタン）を押します。

読取モードを設定してください

☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐

うすく 自動 こく 文字
 原稿の種類

3 『こく』または『うすく』（画面選択ボタン）を押して、読取濃度を調整します。

読取モードを設定してください

◁ □ □ □ □ □ □ ■ □ ▷
文字
うすく
自動
こく
原稿の種類

色の濃い原稿のときは、『うすく』（画面選択ボタン）を押します。

色の薄い原稿のときは、『こく』（画面選択ボタン）を押します。

4 [セット] ボタンを押します。

コピーできます '98 04/24
FRI 15:30

100% A4 文字
□□□□□□□□

1

倍率 記録紙選択 読取モード

読取濃度を調整したあと3秒以上経過すると、[セット]
ボタンを押さなくても読取濃度が確定されます。



ワンポイント.....

- よく利用する読取濃度、原稿の種類はあらかじめコピーホームポジションに設定しておく、コピーのたびに指定する手間が省けます。(P281)



お知らせ

- 原稿読み取り中に読取濃度や原稿の種類の設定を変更することはできませんが、変更後の設定が有効になるのは次ページの原稿からになります。ただし、「自動」に変更することはできません。
- 本などの原稿をコピーする場合は、原稿台ガラスからコピーしてください。(P82)

原稿の種類を選ぶ

1 (コピー) ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100% A4 □ 文字	1
倍率 記録紙選択 読取モード	

2 『読取モード』(画面選択ボタン)を押します。

読取モードを設定してください	
うすく 自動 こく	文字 原稿の種類

3 『原稿の種類』(画面選択ボタン)を繰り返し押して、適切な原稿の種類を反転表示させます。

読取モードを設定してください	写真
うすく 自動 こく	文字/写真 文字
	原稿の種類

原稿の種類の選択の目安

「文字」：文字だけの原稿や、色地の原稿

「文字/写真」：文字と写真の両方ある原稿（新聞や雑誌など）

「写真」：写真のように中間調を持つ原稿

4 [セット] ボタンを押します。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100% A4 □ 写真	1
倍率 記録紙選択 読取モード	

原稿の種類を選択したあと3秒以上経過すると、[セット] ボタンを押さなくても原稿の種類が確定されます。

読取モードを自動的に調整する

1 (コピー) ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100% A4 □ 文字	1
倍率 記録紙選択 読取モード	

2 『読取モード』(画面選択ボタン)を押します。

読取モードを設定してください	
うすく 自動 こく	文字 原稿の種類

3 『自動』(画面選択ボタン)を押します。

読取モードを設定してください	
うすく 自動 こく	文字 原稿の種類

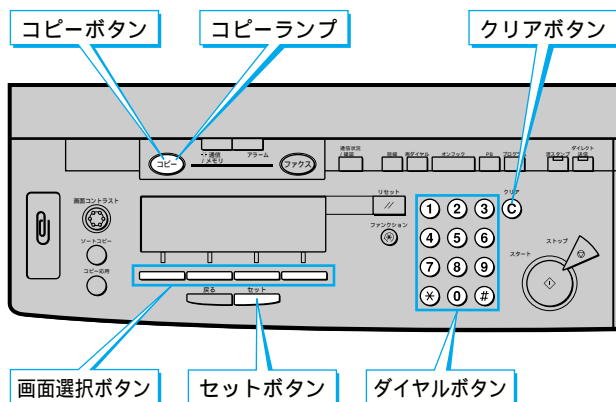
4 [セット] ボタンを押します。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100% A4 □ 自動	1
倍率 記録紙選択 読取モード	

『自動』(画面選択ボタン)を押したあと約3秒経過すると、[セット] ボタンを押さなくても「自動」が確定されます。

はがき、ラベル用紙などにコピーするには

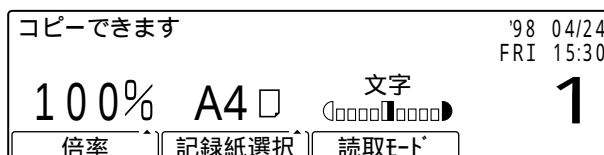
手差しトレイを利用すると、記録紙カセットと同じサイズの記録紙のほか、はがきやラベル用紙、フリーサイズの記録紙などにコピーすることができます。はがきやラベル用紙などは記録紙カセットにセットすることはできません。



1

コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。



2

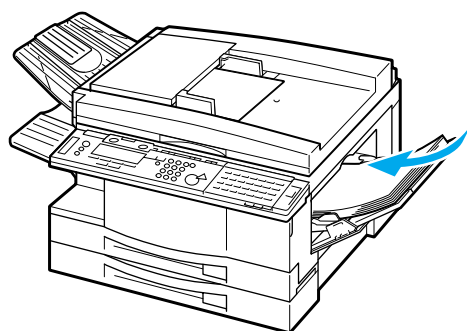
ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（●P40、41）

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（●P84）

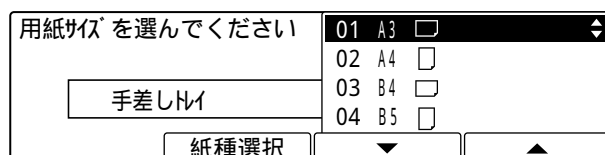
3

はがきやラベル用紙などを手差しトレイにセットします。（●P337）

記録面が上になるようにセットします。



手差しトレイのディスプレイが表示されます。



4 『▼』または『▲』（画面選択ボタン）を押して、手差しトレイにセットする記録紙のサイズを反転表示させます。

例：フリー

用紙サイズを選んでください	12 LGL ☐
手差しトレイ	13 脇キ ☐
紙種選択	14 往復脇キ ☐
	15 フリー

「フリー」以外のサイズを選択したときは手順9へ進みます。

5 [セット] ボタンを押します。

用紙サイズを入力してください	
420 mm	297 mm
よこ	たて

6 セットする記録紙の横サイズ（148～420 mm）を入力します。

例：「380」

用紙サイズを入力してください	
380 mm	297 mm
よこ	たて

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

7 『たて』（画面選択ボタン）を押します。

用紙サイズを入力してください	
380 mm	297 mm
よこ	たて

8 セットする記録紙の縦サイズ（100～297 mm）を入力します。

例：「150」

用紙サイズを入力してください	
380 mm	150 mm
よこ	たて

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

9 [セット] ボタンを押します。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100%	A4 ☐ 文字
倍率	記録紙選択

10 『記録紙選択』（画面選択ボタン）を押して、手差しトレイの記録紙サイズ（目）を反転表示させます。

例：フリー

コピーできます	自動用紙	'98 04/24 FRI 15:30
100%	フリー	文字
倍率	記録紙選択	読取モード

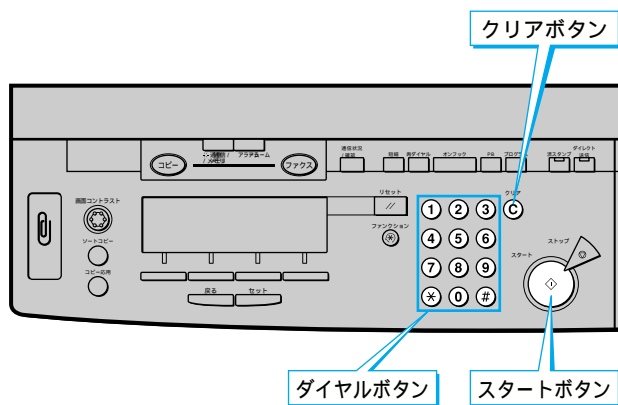
11 [セット] ボタンを押します。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100%	フリー
倍率	記録紙選択

記録紙を選択したあと3秒以上経過すると、[セット] ボタンを押さなくても記録紙が確定されます。

次ページに続きます。

はがき、ラベル用紙などにコピーするには



12 コピー部数 (1 ~ 99) を入力します。

例：5部

コピーできます		'98 04/24 FRI 15:30	
100%	フリー	文字	5
倍率	記録紙選択	読取モード	

1部だけコピーするときは、コピー部数の指定は不要です。
コピー部数を間違えたときは、[クリア]ボタンを押して
入力し直します。

13 [スタート]ボタンを押します。

コピー中		'98 04/24 FRI 15:30	
100%	フリー	文字	5
倍率	記録紙選択	読取モード	



ワンポイント・・・・・・・・・・・・・・・・

- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。
- A4サイズの下稿を等倍コピーするときには
A4  にセットします。(●P41)
- 一度にセットできる枚数は
ラベル用紙は1枚ずつ、はがきは30枚までです。
- OHPフィルムにコピーしたいときは
OHPフィルムをよくさばいてから最上段カセットに
セットしてください。一度にセットできる枚数は10枚
までです。
- 記録紙の紙の種類を設定するには
通常は、「普通紙」が選択されています。記録紙の特性
に応じて、以下の設定を行ってください。

手順1～3の操作をする

『紙種選択』（画面選択ボタン）を押して、セットする記録紙の紙種を反転表示させる

用紙の種類を選んでください

紙種選択	01 普通紙 02 厚紙 03 薄紙 04 特殊紙
------	------------------------------------

「普通紙」：通常の普通紙（●P334）

「厚紙」：ラベル紙のような厚めのもの

「薄紙」：非常に薄めのもの

「特殊紙」：極めて厚めのもの、表面がざらざらした
ものなど

「セット」ボタンを押す

- 常に同じサイズの記録紙を手差しトレイにセットしてコピーするときには
あらかじめ手差しサイズ指定を「する」にし、手差しトレイサイズを設定しておきます。(●P306、307)
ただし、はがきやフリーサイズの用紙などは設定できません。お買い求めのときは「しない」に設定されています。
- 手差しトレイにセットできる記録紙のサイズは
A3  / A4  / B4  / B5  / A4  / A5  /
B5  / A5  / 11×17  (11×17インチ) /
LTR (レターサイズ)  / LTR  / LGL (リーガル
サイズ)  / ハガキ  / 往復ハガキ  / フリー
(最大297×420 mm) の15種類です。
- 往復はがきをセットする方向は
A5  と同様の方向でセットします。

お知らせ

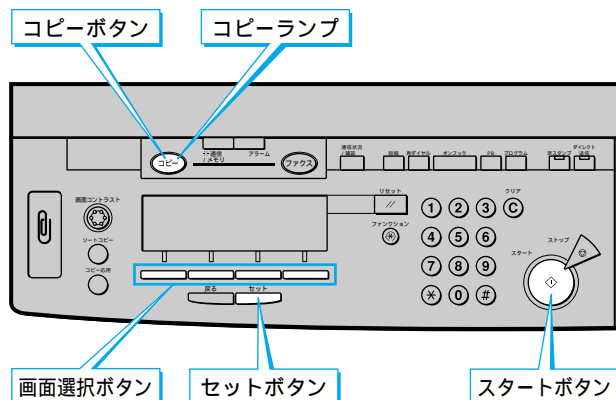
- 手順3 (☛P86) で手差しトレイサイズ指定の画面が表示されるのは、手差しサイズ指定を「しない」に設定しているときのみです。(☛P306、307)
- 手順4 (☛P87) で「フリー」を選択したときは、枠消し (☛P96) / とじ代 (☛P106) / ページ連写 (☛P110) / 2 in 1 (☛P113) の機能は利用できません。
- 自動変倍 (☛P94) / 枠消し (☛P96) / とじ代 (☛P106) / ページ連写 (☛P110) / 2 in 1 (☛P113) を設定しているときは、手順4 (☛P87) で「フリー」を選択することはできません。
- ここで設定した手差しトレイサイズは、ファクス受信時やレポートのプリント時には無効になります。オートカセット選択のファクス受信 (☛P304、305) やレポートカセット指定 (☛P304、305) で設定された値が有効になります。

STOP お願い

- 手差しトレイにセットする記録紙は、必ず記録面が上になるようにセットしてください。
- 手差しトレイには一度に多くの用紙をセットしないでください。万一、用紙がつまったときは、いったん用紙をすべて取り除いて前カバーを開閉したあと(●P365)、枚数を少なめに設定してセットし直してください。

拡大 / 縮小してコピーするには

原稿を拡大 / 縮小してコピーすることができます。定型サイズから別の定型サイズに拡大 / 縮小したり（定型変倍）、任意の倍率に拡大 / 縮小したり（ズーム）、適切な倍率を自動的に選択させたり（自動変倍）することができます。

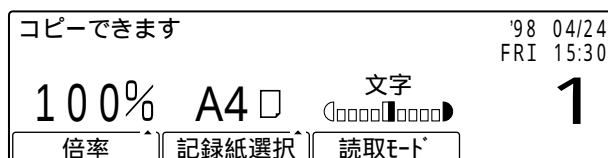


定型変倍を設定する

定型サイズから別の定型サイズに拡大 / 縮小することができます。

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

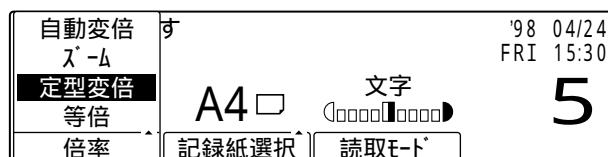


2 ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（☞P40、41）

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（☞P84）

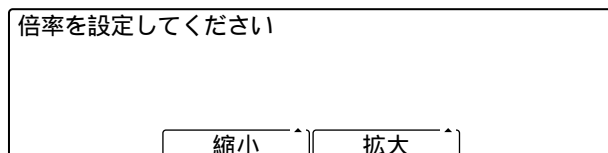
3 「原稿をコピーするには」の手順3～4の操作（☞P80）をします。

4 『倍率』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、「定型変倍」を反転表示させます。



5 [セット] ボタンを押します。

倍率を設定してください



「定型変倍」を反転表示させてから約3秒経過すると、[セット] ボタンを押さなくても「定型変倍」が設定されます。

6 『拡大』または『縮小』（画面選択ボタン）を押して、コピーの倍率を反転表示させます。

例：『拡大』（画面選択ボタン）を押した場合

倍率を設定してください	200% A5→A3
	141% A4→A3 B5→B4
	122% A4→B4 A5→B5
	115% B4→A3 B5→A4
縮小	拡大

例：『縮小』（画面選択ボタン）を押した場合

50% A3→A5	
70% A3→A4 B4→B5	
81% B4→A4 B5→A5	
86% A3→B4 A4→B5	
縮小	拡大

7 [セット] ボタンを押します。

コピーできます	'98 04/24
B4→A3 B5→A4	FRI 15:30
115% A4 ☐ 文字	5
倍率	記録紙選択
読取モード	

8 [スタート] ボタンを押します。

コピーが開始されます。

コピー中	'98 04/24
B4→A3 B5→A4	FRI 15:30
115% A4 ☐ 文字	5
倍率	記録紙選択
読取モード	



ワンポイント.....

- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。
- 拡大／縮小できるコピー倍率は
定型変倍で選択できる倍率は以下のとおりです。
倍率によって原稿をセットする方向が変わります。原稿セット方向に注意してセットしてください。

拡大コピー

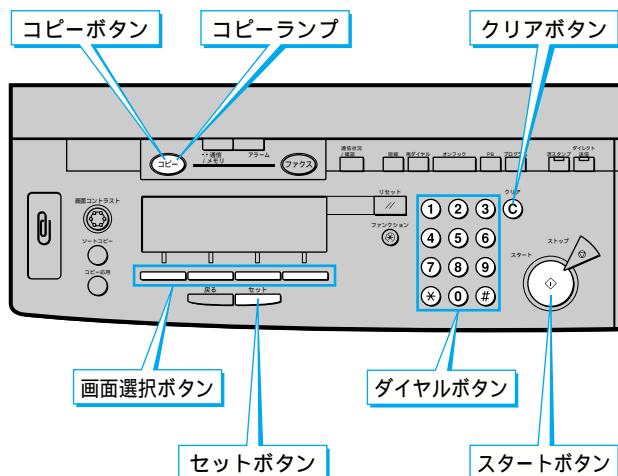
倍率	原稿サイズ	記録紙サイズ
200%	A5	A3
141%	A4	A3
	B5	B4
	A5	A4
122%	A4	B4
	A5	B5
115%	B4	A3
	B5	A4

縮小コピー

倍率	原稿サイズ	記録紙サイズ
50%	A3	A5
70%	A3	A4
	B4	B5
	A4	A5
81%	B4	A4
	B5	A5
86%	A3	B4
	A4	B5

A5 ☐ にセットするときは、は手差しトレイにセットします。

拡大 / 縮小してコピーするには



ズームを設定する

ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットした場合は、50～200%まで、原稿台ガラスにセットした場合は、25～400%まで倍率を指定することができます。

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます		'98 04/24 FRI 15:30	
100%	A4 □	文字 □□□□□□□□	1
倍率	記録紙選択	読取モード	

2 ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（●P40、41）

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（●P84）

3 「原稿をコピーするには」の手順3～4の操作（●P80）をします。

4 『倍率』（画面選択ボタン）を繰り返し押し押して、「ズーム」を反転表示させます。

自動変倍	す	'98 04/24 FRI 15:30	
ズーム			
定型変倍	A4 □	文字 □□□□□□□□	5
等倍			
倍率	記録紙選択	読取モード	

5 [セット] ボタンを押します。

例：ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットした場合

倍率を入力してください [50%～200%]	
	100%
-	+

「ズーム」を反転表示させてから約3秒経過すると、[セット] ボタンを押さなくても「ズーム」が設定されます。

6 コピーの倍率を入力します。

例：137%

倍率を入力してください [50% ~ 200%]

137%

- +

『 - 』または『 + 』（画面選択ボタン）を押して倍率を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

7 [セット] ボタンを押します。

コピーできます '98 04/24
FRI 15:30

137% A4 □ 文字 () 5

倍率 記録紙選択 読取モード

8 [スタート] ボタンを押します。

コピーが開始されます。

コピー中 '98 04/24
FRI 15:30

137% A4 □ 文字 () 5

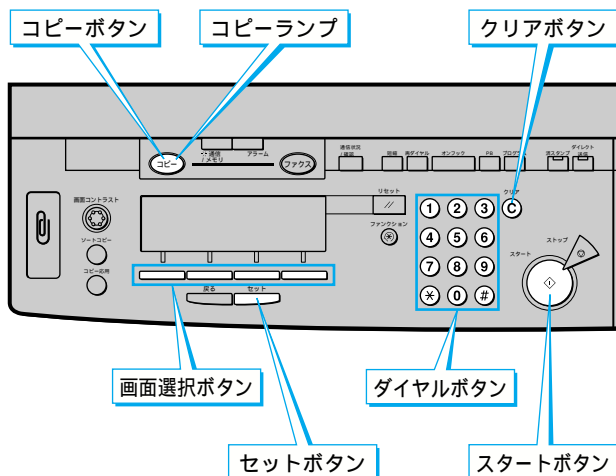
倍率 記録紙選択 読取モード



ワンポイント.....

- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。

拡大 / 縮小してコピーするには



自動変倍を設定する

記録紙サイズを指定して、適切な倍率を自動的に選択させることができます。

自動変倍の機能は、ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットした場合のみ利用できます。

例：原稿がA4、記録紙がB4の場合

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100% A4 □ 文字	1
倍率	記録紙選択
読取モード	

2 ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットします。（P40）

「自動用紙」が選択されます。

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100% 自動用紙 文字	1
倍率	記録紙選択
読取モード	

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（P84）

3 コピー部数（1～99）を入力します。

例：5部

コピーできます	'98 04/24 FRI 15:30
100% 自動用紙 文字	5
倍率	記録紙選択
読取モード	

1部だけコピーするときは、コピー部数の指定は不要です。
コピー部数を間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

原稿の枠などを消してコピーするには（枠消し）

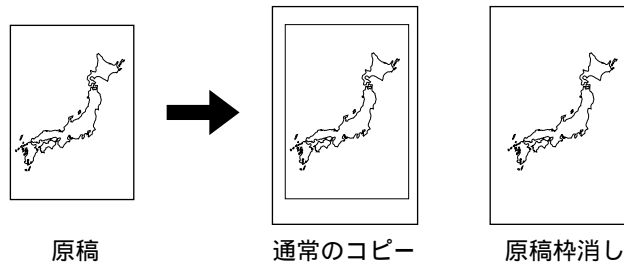
コピー時に写る原稿の枠やパンチ穴の影などを消してコピーすることができます。
 枠消しの機能は、原稿台ガラスに原稿をセットした場合のみ利用できます。

枠消しの種類

本装置では、次の4種類の枠消しを利用できます。

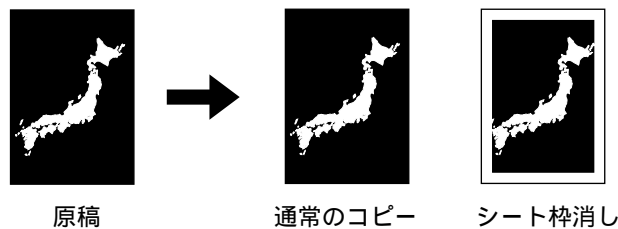
原稿枠消し（P98）

原稿が、コピーする記録紙より小さいときに、記録紙の周囲にできる枠や影を消してコピーします。



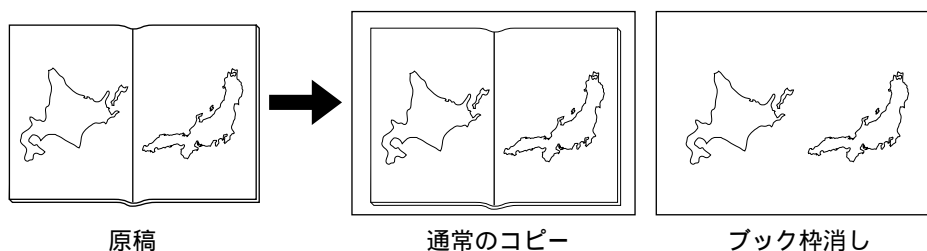
シート枠消し（P100）

コピーする記録紙の周囲に7 mm幅の余白を作ってコピーします。



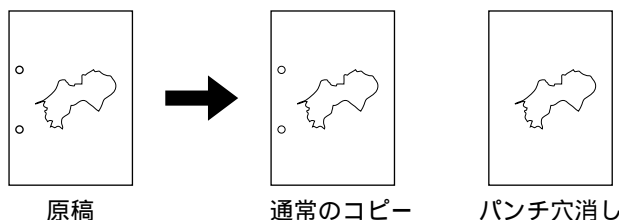
ブック枠消し (P102)

見開きの本などをコピーするときに、コピーする記録紙の周囲と中央にできる影を消します。



パンチ穴消し (P104)

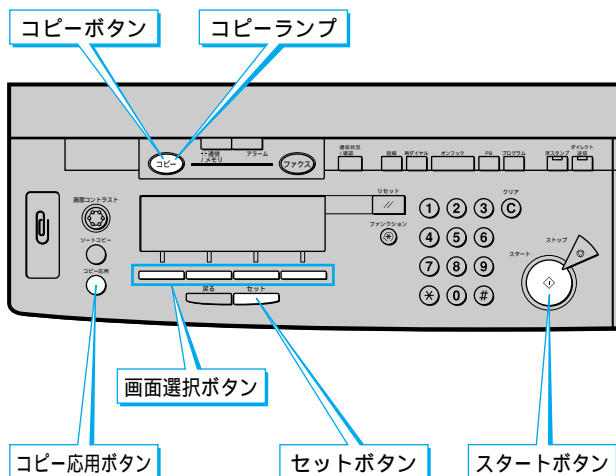
パンチ穴があいている原稿をコピーするときに、パンチ穴の影を消します。



お知らせ

- 原稿枠消し / ブック枠消しの周囲の枠消しの幅は、1 ~ 20 mmの範囲で設定することができます。(P308、309) お買い求めのときは「2 mm」に設定されています。
- ブック枠消しの中央の枠消しの幅は、3 ~ 50 mmの範囲で設定することができます。(P102) お買い求めのときは「10 mm」に設定されています。
- パンチ穴消しのパンチ穴の枠消しの幅は、3 ~ 20 mmの範囲で設定することができます。(P104) お買い求めのときは「18 mm」に設定されています。
- 枠消しの機能は、とじ代 (P106) / 2 in 1 (P113) の機能と同時に使うことはできません。また、パンチ穴消し (P104) は、ページ連写 (P110) の機能と同時に使うことはできません。

原稿の枠などを消してコピーするには（枠消し）



原稿枠消しを設定する

記録紙の周囲にできる原稿の枠や影を消します。枠消しの幅は1～20 mmの範囲で設定することができます。（☛P308、309）お買い求めのときは「2 mm」に設定されています。

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
100%	A4	文字	1
倍率	記録紙選択	読取モード	

2 原稿台ガラスに原稿をセットします。（☛P41）

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（☛P84）

3 [コピー応用] ボタンを押します。

設定する機能を選んでください			キャンセル: [戻る]
ページ連写	とじ代	枠消し	2 in 1

4 『枠消し』（画面選択ボタン）を押します。

枠消しの種類を選んでください			キャンセル: [戻る]
原稿枠消し	シート枠消し	ブック枠消し	パンチ穴消し

5 『原稿枠消し』（画面選択ボタン）を押します。

原稿サイズを選択してください

A4	
原稿サイズ	

6

『原稿サイズ』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、原稿サイズを反転表示させます。

原稿サイズ* を選択してください	B5 ☒ A4 ☐ A5 ☐ B5 ☐
原稿サイズ*	

7

〔セット〕ボタンを押します。

コピーできます [枠消し設定]	'98 04/24 FRI 15:30
100%自動用紙 文字	1
倍率 記録紙選択 読取モード	

8

「原稿台ガラスからコピーする」の手順3～4の操作（P82）をします。

9

〔スタート〕ボタンを押します。

コピーが開始されます。

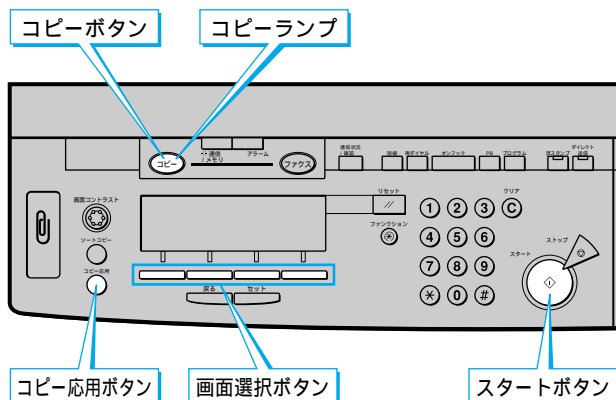
コピー中 [枠消し設定]	'98 04/24 FRI 15:30
100% A4 ☐ 文字	5
倍率 記録紙選択 読取モード	



ワンポイント.....

- 原稿枠消しを取り消すには
〔ストップ〕ボタンを押すと、「[枠消し設定]」の表示が消えます。コピー部数や読取モードなど、すべての設定がもとに戻ります。
- コピーを中止するには
〔ストップ〕ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。

原稿の枠などを消してコピーするには（枠消し）



シート枠消しを設定する

コピーする記録紙の周囲に7 mm幅の余白を作ってコピーします。

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます	'98 04/24
	FRI 15:30
100%	A4 □
倍率	記録紙選択
文字	読取モード
1	

2 原稿台ガラスに原稿をセットします。（☛P41）

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（☛P84）

3 [コピー応用] ボタンを押します。

設定する機能を選んでください	キャンセル: [戻る]
ページ連写	とじ代
枠消し	2 in 1

4 『枠消し』（画面選択ボタン）を押します。

枠消しの種類を選んでください	キャンセル: [戻る]
原稿枠消し	シート枠消し
ブック枠消し	パンチ穴消し

5 『シート枠消し』（画面選択ボタン）を押します。

コピーできます [枠消し設定]	'98 04/24
	FRI 15:30
100%	A4 □
倍率	記録紙選択
文字	読取モード
1	

6 「原稿台ガラスからコピーする」の
手順3～4の操作（●P82）をしま
す。

7 [スタート] ボタンを押します。

コピーが開始されます。

コピー中	[枠消し設定]	'98 04/24 FRI 15:30
100%	A4 □	文字 □□□□□□□□
倍率	記録紙選択	読取モード

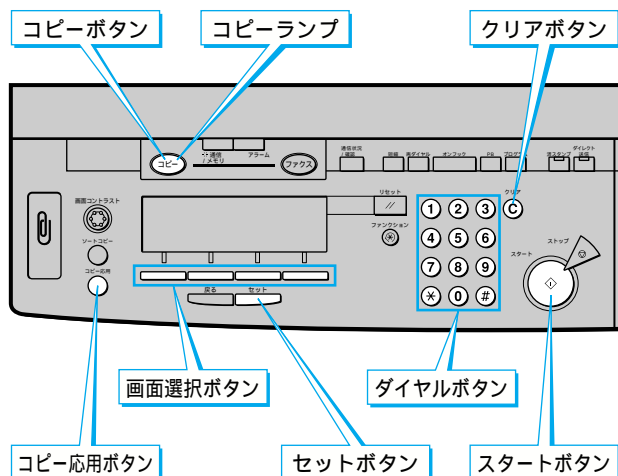
5



ワンポイント.....

- シート枠消しを取り消すには
[ストップ] ボタンを押すと、「[枠消し設定]」の表示
が消えます。コピー部数や読取モードなど、すべての
設定がもとに戻ります。
- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録
紙が1枚排出される場合があります。

原稿の枠などを消してコピーするには（枠消し）



ブック枠消しを設定する

コピーする記録紙の周囲と中央にできる影を消します。中央の枠消しの幅は3～50 mmの範囲で設定することができます。お買い求めのときは「10 mm」に設定されています。

1

コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
100%	A4	文字	1
倍率	記録紙選択	読取モード	

2

原稿台ガラスに原稿をセットします。（☞P41）

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには（☞P84）

3

〔コピー応用〕ボタンを押します。

設定する機能を選んでください			キャンセル: [戻る]
ページ連写	とじ代	枠消し	2 in 1

4

『枠消し』（画面選択ボタン）を押します。

枠消しの種類を選んでください			キャンセル: [戻る]
原稿枠消し	シート枠消し	ブック枠消し	パンチ穴消し

5

『ブック枠消し』（画面選択ボタン）を押します。

見開きの原稿サイズを選択してください

A4	
原稿サイズ	

6 『原稿サイズ』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、見開きの原稿サイズを反転表示させます。

見開きの原稿サイズを選択してください

B5	☐
A4	☐
B4	☒
A3	☐
原稿サイズ	

7 [セット] ボタンを押します。

枠消し幅を入力してください

10 mm

- +

8 中央の枠消し幅（3～50 mm）を入力します。

例：「20」

枠消し幅を入力してください

20 mm

- +

『-』または『+』（画面選択ボタン）を押して枠消し幅を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

9 [セット] ボタンを押します。

コピーできます [枠消し設定]

100% 自動用紙

文字

1

倍率 記録紙選択 読取モード

10 「原稿台ガラスからコピーする」の手順3～4の操作（P82）をします。

11 [スタート] ボタンを押します。

コピーが開始されます。

コピー中 [枠消し設定] '98 04/24 FRI 15:30

100% B4 文字

5

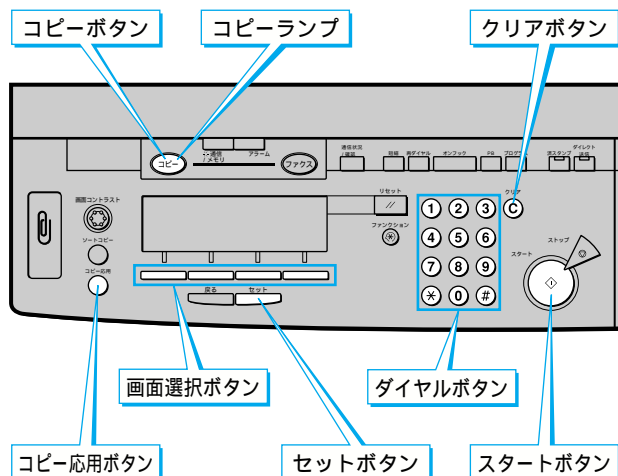
倍率 記録紙選択 読取モード



ワンポイント.....

- ブック枠消しを取り消すには
[ストップ] ボタンを押すと、「[枠消し設定]」の表示が消えます。コピー部数や読取モードなど、すべての設定がもとに戻ります。
- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。
- 周囲の枠消しの幅を変更するには
周囲の枠消し幅は、お買い求めのときは「2 mm」に設定されています。枠消しの幅は1～20 mmの範囲で変更することもできます。（P308、309）

原稿の枠などを消してコピーするには（枠消し）



パンチ穴消しを設定する

パンチ穴の影を消します。枠消しの幅は3～20 mmの範囲で設定することができます。お買い求めのときは「18 mm」に設定されています。

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
100%	A4	文字	1
倍率	記録紙選択	読取モード	

2 原稿台ガラスに原稿をセットします。(P 41)

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには (P 84)

3 [コピー応用] ボタンを押します。

設定する機能を選んでください			キャンセル: [戻る]
ページ連写	とじ代	枠消し	2 in 1

4 『枠消し』(画面選択ボタン)を押します。

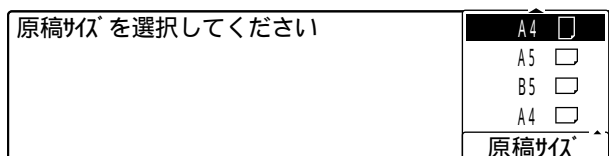
枠消しの種類を選んでください			キャンセル: [戻る]
原稿枠消し	シート枠消し	ブック枠消し	パンチ穴消し

5 『パンチ穴消し』(画面選択ボタン)を押します。

原稿サイズを選択してください

		A4	
		原稿サイズ	

6 『原稿サイズ』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、原稿サイズを反転表示させます。



7 [セット] ボタンを押します。



8 枠消し幅（3～20 mm）を入力します。

例：「10」



『-』または『+』（画面選択ボタン）を押して枠消し幅を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア]ボタンを押して入力し直します。

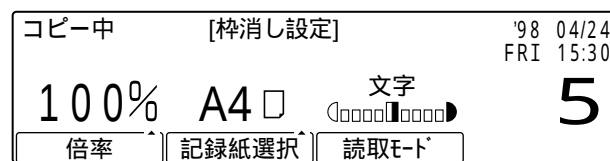
9 [セット] ボタンを押します。



10 「原稿台ガラスからコピーする」の手順3～4の操作（P82）をします。

11 [スタート] ボタンを押します。

コピーが開始されます。



 ワンポイント.....

- パンチ穴消しを取り消すには
[ストップ] ボタンを押すと、「[枠消し設定]」の表示が消えます。コピー部数や読取モードなど、すべての設定がもとに戻ります。
- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。

とじ代を取ってコピーするには

原稿の画像をずらし、上下、左右にとじ代として余白を取ってコピーすることができます。コピーしたあとでホチキスでとめたり、パンチ穴をあけたりする場合に便利です。

とじ代の機能は、原稿台ガラスに原稿をセットした場合のみ利用できます。

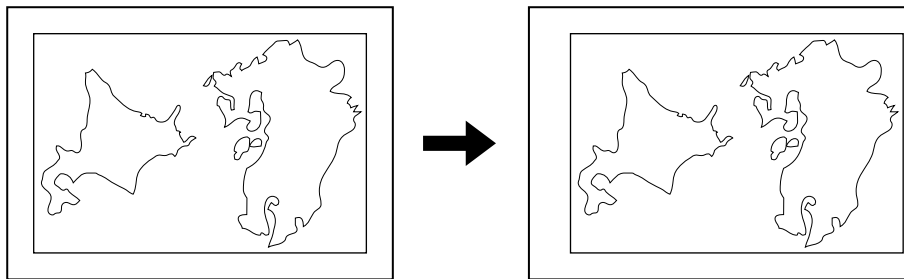
とじ代の種類

本装置では、次の4種類のとじ代を利用できます。

原稿の左端にとじ代を取りたいときは左とじ、原稿の右端にとじ代を取りたいときは右とじ、原稿の上端にとじ代を取りたいときは上とじ、原稿の下端にとじ代を取りたいときは下とじを選択します。

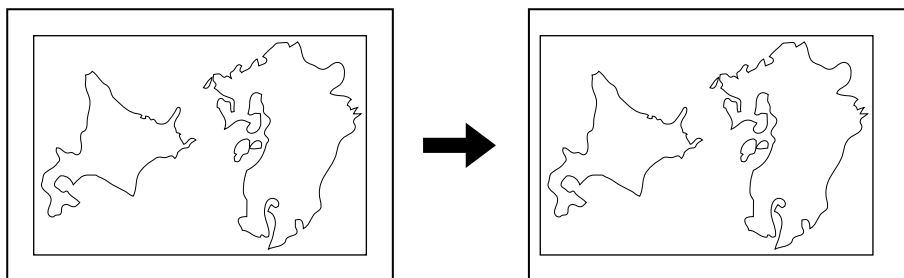
左とじ

画像を右に移動させ、原稿の左端に余白を取ります。



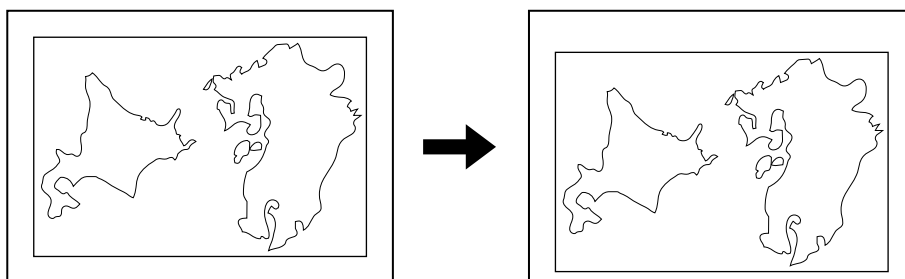
右とじ

画像を左に移動させ、原稿の右端に余白を取ります。



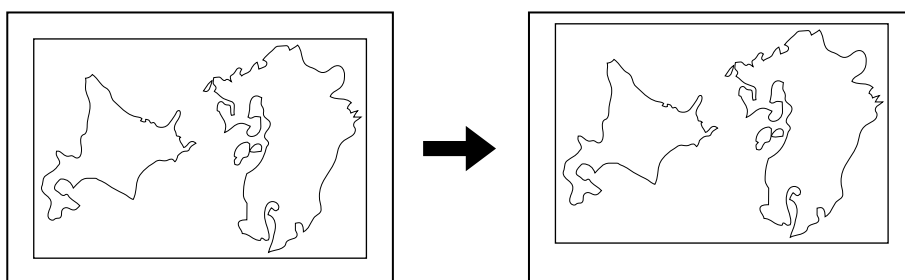
上とじ

画像を下に移動させ、原稿の上端に余白を取ります。



下とじ

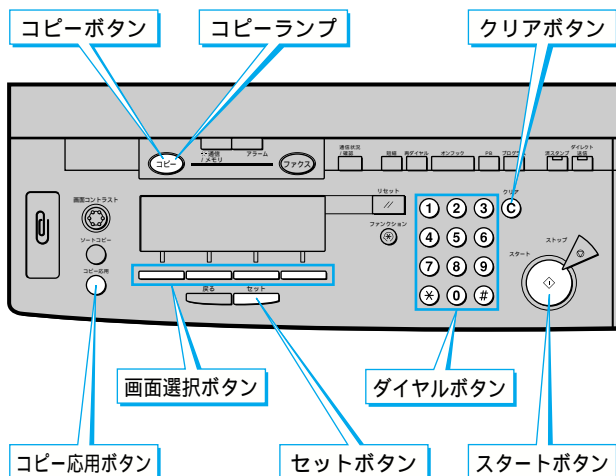
画像を上を移動させ、原稿の下端に余白を取ります。



お知らせ

- とじ代を設定してコピーすると、設定した方向に画像を移動させ、余白を取りますが、画像がはみ出す部分はプリントされません。
- とじ代の幅は、1～10 mmの範囲で設定することができます。(●P108) お買い求めのときは「10 mm」に設定されています。
- とじ代の機能は、枠消し(●P96) / ページ連写(●P110) / 2 in 1(●P113)の機能と同時に使うことはできません。

とじ代を取ってコピーするには

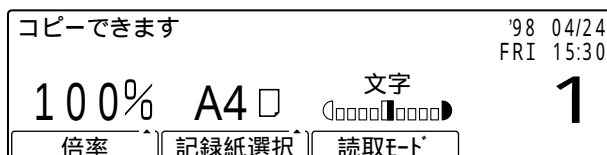


とじ代を設定する

左とじ / 右とじ / 上とじ / 下とじのいずれかを選択します。とじ代の幅は1 ~ 10 mmの範囲で設定することができます。お買い求めのときは「10 mm」に設定されています。

1 コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。



2 原稿台ガラスに原稿をセットします。(P41)

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには (P84)

3 [コピー応用] ボタンを押します。



4 『とじ代』(画面選択ボタン)を押します。



5 『左とじ』『右とじ』『上とじ』『下とじ』(画面選択ボタン)のいずれかを押します。

例：『上とじ』(画面選択ボタン)



6 とじ代幅 (1 ~ 10 mm) を入力します。

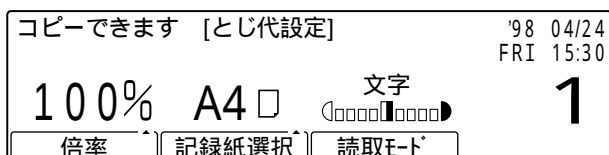
例：7 mm



『 - 』または『 + 』(画面選択ボタン)を押してとじ代幅を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

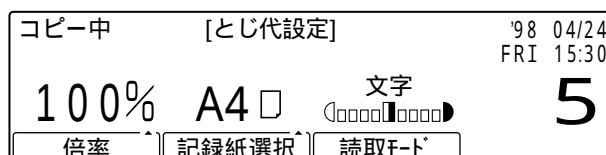
7 [セット] ボタンを押します。



8 「原稿台ガラスからコピーする」の手順3 ~ 4の操作 (P82) をします。

9 [スタート] ボタンを押します。

コピーが開始されます。



ワンポイント.....

- とじ代を取り消すには
[ストップ] ボタンを押すと、「[とじ代設定]」の表示が消えます。コピー部数や読取モードなど、すべての設定がもとに戻ります。
- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。

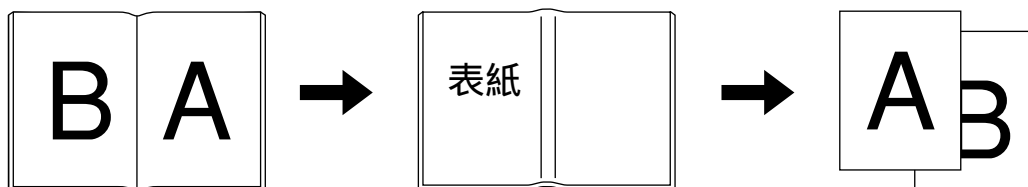
雑誌や本などの見開き原稿の左右ページを、1回の操作で別々の記録紙にコピーすることができます（ページ連写）。

ページ連写の種類

左開き

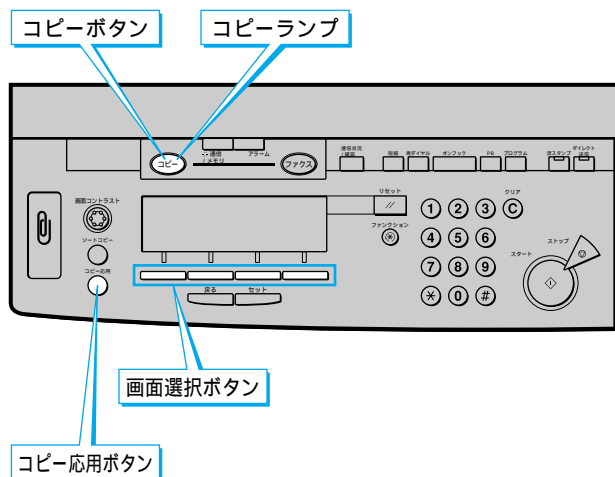


右開き



お知らせ

- 110



ページ連写を設定する

1 **コピー** ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます		'98 04/24	1
		FRI 15:30	
100%	A4	文字	
倍率	記録紙選択	読取モード	

2 原稿台ガラスに原稿をセットします。(P41)

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには (P84)

3 **[コピー応用]** ボタンを押します。

設定する機能を選んでください			キャンセル: [戻る]
ページ連写	とじ代	枠消し	2 in 1

4 『ページ連写』(画面選択ボタン)を押します。

ブックの見開き方向を選んでください		キャンセル: [戻る]
左開き	右開き	

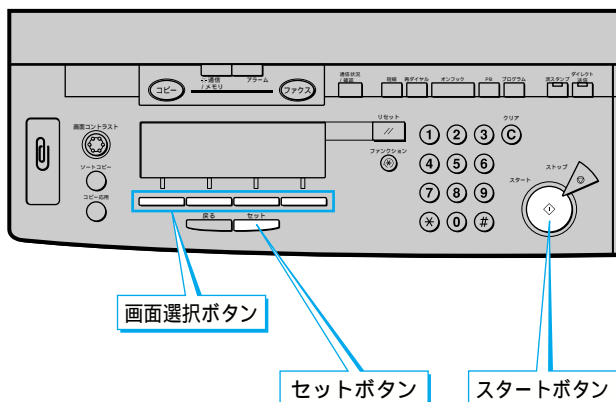
5 セットした原稿の向きに合わせて、『左開き』『右開き』(画面選択ボタン)のいずれかを押します。

見開きの原稿サイズを選択してください	
A4 ☐	
原稿サイズ	

次ページに続きます。

5. コピーする

見開きの左右ページを別々の記録紙にコピーするには (ページ連写)



6

『原稿サイズ』(画面選択ボタン)を繰り返し押して、見開きの原稿サイズを反転表示させます。

見開きの原稿サイズを選択してください

A4	☒
B4	☐
A3	☐
原稿サイズ	

7

〔セット〕ボタンを押します。

コピーできます [ページ連写設定]

'98 04/24
FRI 15:30

100%自動用紙 文字

1

倍率 記録紙選択 読取モード

8

「原稿台ガラスからコピーする」の手順3～4の操作(P 82)をします。

9

〔スタート〕ボタンを押します。

コピーが開始されます。

コピー中 [ページ連写設定]

'98 04/24
FRI 15:30

100% A5 文字

5

倍率 記録紙選択 読取モード



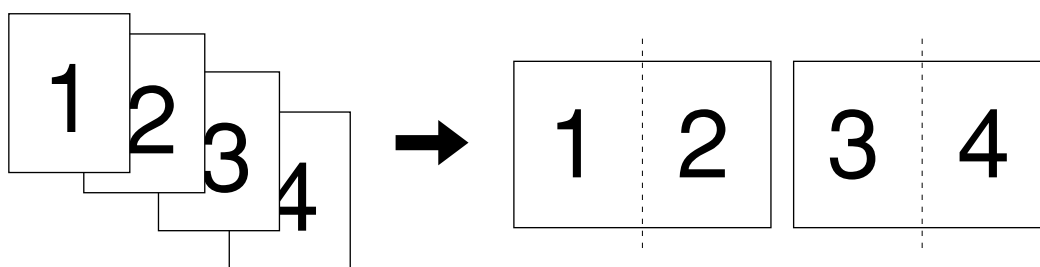
ワンポイント.....

- ページ連写を取り消すには
〔ストップ〕ボタンを押すと、「[ページ連写設定]」の表示が消えます。コピー部数や読取モードなど、すべての設定がもとに戻ります。
- コピーを中止するには
〔ストップ〕ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。



2枚の原稿を1枚にコピーするには(2 in 1)

2枚の原稿を自動的に縮小して、1枚の記録紙にコピーすることができます（2 in 1）。
2 in 1の機能は、ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットした場合のみ利用できます。



1 お使いになる前に

2 ファクスを送る

3 ファクスを受ける

4 外付け電話機を使う

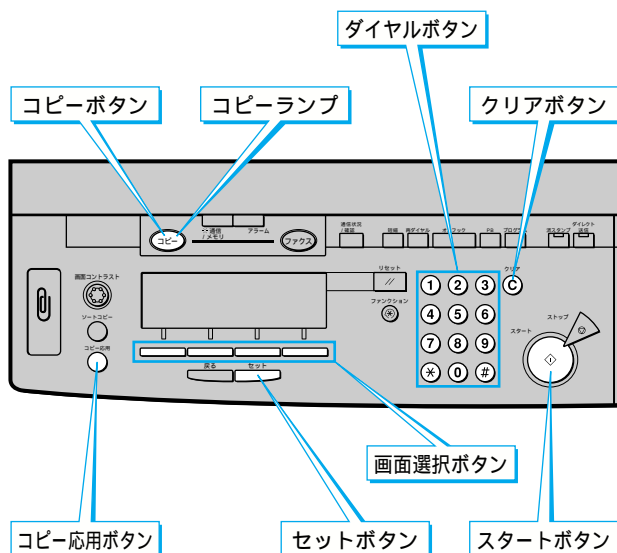
5 コピーする



お知らせ

- 2 in 1の機能は、枠消し (P96) / とじ代 (P106) / ページ連写 (P110) の機能と同時に使うことはできません。

2枚の原稿を1枚にコピーするには(2 in 1)



1

コピー ボタンを押します。

コピーランプが点灯し、コピーモードになります。

コピーできます		'98 04/24 FRI 15:30	
100%	A4	文字	1
倍率	記録紙選択	読取モード	

2

ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットします。(P40)

「自動用紙」が選択されます。

コピーできます		'98 04/24 FRI 15:30	
100%	自動用紙	文字	1
倍率	記録紙選択	読取モード	

原稿に合わせて読取濃度などを選ぶには (P84)

3

[コピー応用] ボタンを押します。

設定する機能を選んでください			キャンセル: [戻る]
ページ連写	とじ代	枠消し	2 in 1

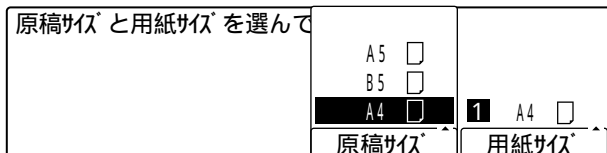
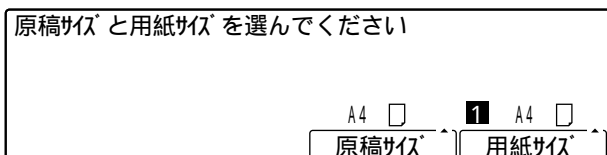
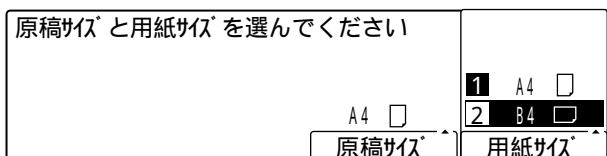
4

『2 in 1』(画面選択ボタン)を押します。

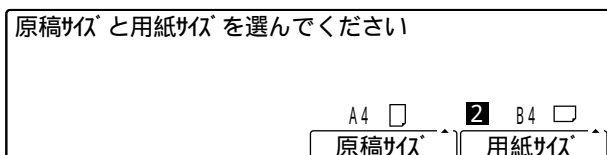
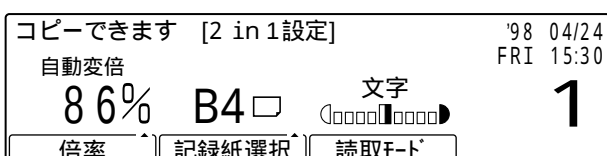
原稿サイズと用紙サイズを選んでください

A4	1	A4
原稿サイズ		用紙サイズ

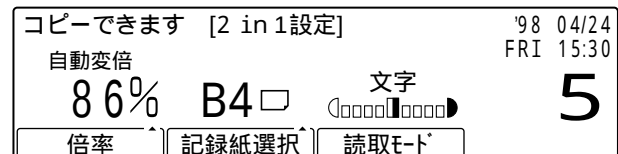
2 in 1を設定するときは、原稿のサイズと記録紙のサイズ(用紙サイズ)を必ず設定してください。

5 『原稿サイズ』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、原稿のサイズを反転表示させます。**6** [セット] ボタンを押します。**7** 『用紙サイズ』（画面選択ボタン）を繰り返し押して、記録紙のサイズ（用紙サイズ）を反転表示させます。

「自動用紙」（適切なサイズの記録紙を自動的に選択）は設定できません。

8 [セット] ボタンを押します。**9** [セット] ボタンを押します。**10** コピー部数（1～99）を入力します。

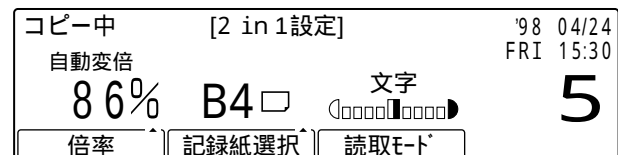
例：5部



1部だけコピーするときは、コピー部数の指定は不要です。コピー部数を間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

11 [スタート] ボタンを押します。

コピーが開始されます。

**ワンポイント**.....

- 2 in 1を取り消すには
[ストップ] ボタンを押すと、「[2 in 1設定]」の表示が消えます。コピー部数や読取モードなど、すべての設定がもとに戻ります。
- コピーを中止するには
[ストップ] ボタンを押します。このとき、白紙の記録紙が1枚排出される場合があります。
- セットできる原稿のサイズと向きは
A4 ☐、B5 ☐、A5 ☐ の3種類です。

お知らせ

- 2 in 1を設定すると、自動的に自動変倍に設定されます。（P94）定型変倍やズームに設定を変更することもできます。（P90、92）

MEMO

応用編

この取扱説明書は、基本編と応用編から構成されています。基本編はファクスの基本的な使用方法について、応用編はより便利なファクスの機能について説明しています。

こんな使い方ができます。

応用編で取りあげる各機能を、利用目的ごとに分けて紹介しています。

1 送信の便利な機能を使う

ファクスの送信に関する便利な機能について説明しています。

2 受信の便利な機能を使う

ファクスの受信に関する便利な機能について説明しています。

3 その他の便利な機能を使う

ファクスのさまざまな機能について説明しています。

4 各種レポート/リストをプリントする

通信に関するレポートや、登録内容を確認するためのリストについて説明しています。

5 いろいろな機能を登録/設定する

本装置をより機能的にお使いいただくための設定変更や各種登録の手順を、まとめて紹介しています。

6 ご参考に

各種のオプション機能、主な仕様、保守サービスのご案内などについて説明しています。

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能を登録/設定する

6 ご参考に

操作説明のページの構成

章タイトル

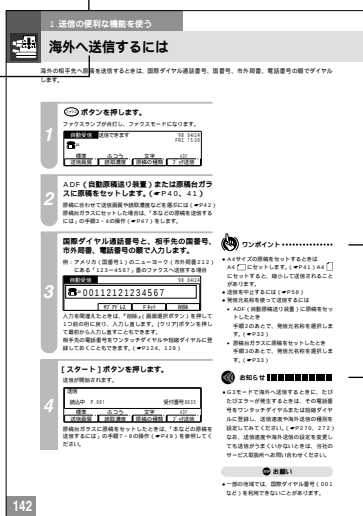
この章のタイトルです。

タイトル

目的ごとにタイトルが付けられています。

操作手順説明

順番に操作を説明しています。



ワンポイント

本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明です。

お願いまたはお知らせ

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示します。

お知らせ

この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示します。

文中で操作パネルのボタンを表記する場合、イラスト、または [] で囲んで示します。
(例: **ファクス** ボタン、[**クリア**] ボタン)
ディスプレイ内に表示されたボタンを表記する場合、『 』で囲んで示します。
(例: 『入力モード』(画面選択ボタン))
数値などをダイヤルボタンを押して入力する場合、「~」を入力します。」と表記します。
(例: 相手先の電話番号を入力します。)

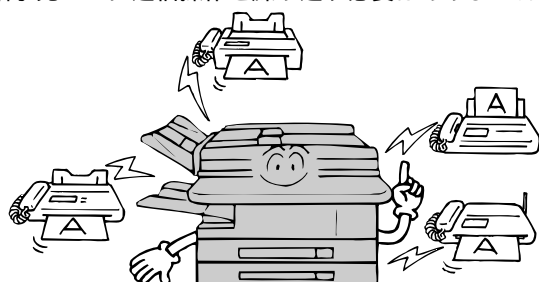
こんな使い方ができます

送信操作の手間を省く

■ 順次同報送信

同じ原稿なら、1回の送信操作で最大210件の相手先に送信できます。(●P137)

相手先ごとに送信操作を繰り返す必要はありません。

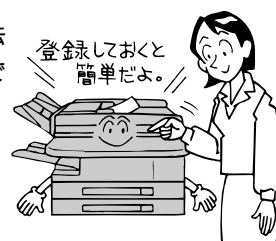


■ ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤル

よく原稿を送る相手先を登録しておくと、簡単な操作で送信できます。(●P124、128)

相手先の電話番号や名称を登録しておきます。

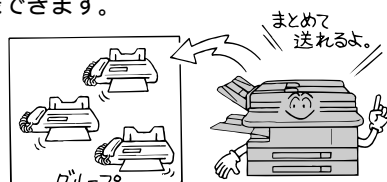
さらに、送信時刻や送信方法などを登録しておくこともできます。(●P262)



■ グループダイヤル

複数の相手先をワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルにグループ登録しておくと、簡単な操作で順次に送信できます。(●P132)

送信の相手先を、目的別にグループ化して登録しておくことで便利です。最大199件の相手先を1グループとして登録できます。

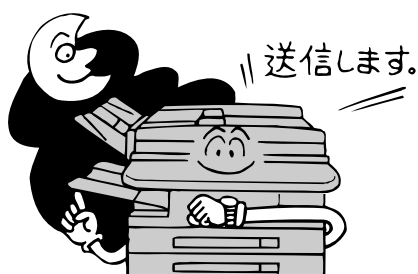


通信コストを下げる

■ タイマ通信

深夜などの、料金の安い時間帯を指定して自動的に送信できます。(●P140)

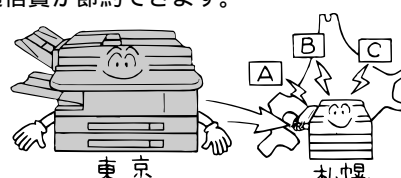
大量の原稿を送信する場合などに便利です。



■ 中継同報送信

遠方にある同じ地域内の複数の相手先に同報送信するとき、相手先の近くにあるファクスを中継して送信させることができます。(●P215)

いったん中継機に送信して、中継機から各相手先に送信されるので、直接それぞれの相手先に送信するよりも、通信費が節約できます。

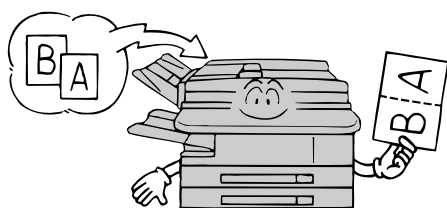


記録紙の無駄をなくす

■ N in 1 記録

小さいサイズの原稿を続けて受信したときは、複数枚の原稿を1枚の記録紙にプリントできます。(●P144)

たとえば、A5サイズの2枚の原稿は、A4サイズの記録紙1枚にプリントされます。

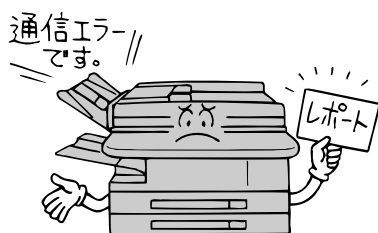


通信エラーに対処する

■ 各種の結果レポート

通信の結果をレポートに記録できます。(●P238)

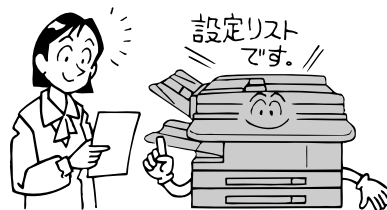
通信エラーがあったときだけ結果レポートを自動的にプリントさせたり、送受信の記録を定期的にプリントさせたりできます。



■ 各種の登録リスト

各種の登録内容をリストでプリントさせて確認することができます。(●P256)

ダイヤル登録の内容や、本装置の登録/設定内容のリストをプリントさせて、登録内容を確認したり、記録として保存したりできます。



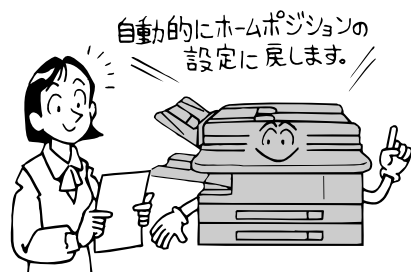
こんな使い方ができます

設定の手間を省く

■ ホームポジション（ファクス/コピー）

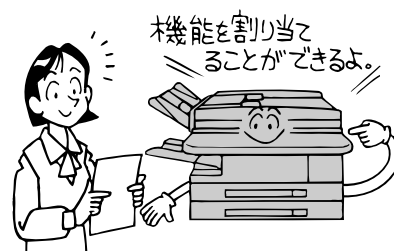
ファクスを送信するときの原稿の種類や読取濃度、原稿をコピーするときの読取濃度や倍率などを、使い勝手に合わせて頻度の高い設定にしておく、送信やコピーのたびに設定を確認する手間が省けます。（●P276、280）

一時的に設定を変えて送信やコピーをしても、自動的にホームポジションの設定に戻ります。



■ プログラムボタン登録

ワンタッチパネル下の機能ボタンの1つを「プログラム」ボタンに割り当てて、ワンタッチパネルを開かなくても操作できるようにできます。（●P284）



情報の提供 / 収集をする

■ ファクス情報サービス

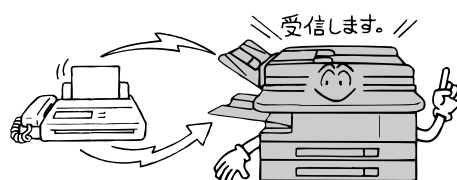
ビジネス関連情報など各種の情報をファクスで取り出すことができます。（●P143）



■ ポーリング通信

送信側がセットした原稿を、受信側の操作で送信させることができます。（●P189）

通信料金は受信側の負担となります。また、ポーリング受信をする時刻をセットして、自動的に受信することもできます（定時ポーリング受信）。

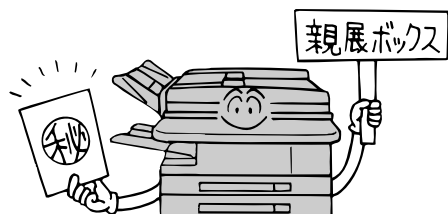


機密性の高い通信をする

■ 親展通信

メモリ内に受信箱（親展ボックス）を作り、Fコードや暗証番号を入力しなければプリントできないようにします。（●P205）

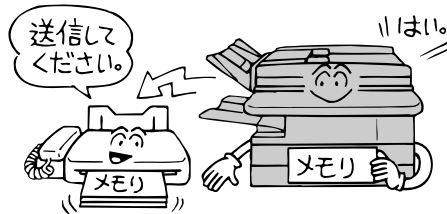
特定の人以外に見られたくない原稿は、あらかじめ設定した親展ボックス宛に送信してもらうと、Fコードや暗証番号を知っている人しか受信原稿を取り出せません。



■ 汎用ボックス

ITU-T規格のFコードやパスワードを指定して、通信におけるさまざまな機能を利用することができます。（●P224）

必要な情報を汎用ボックスに読み込ませ、他のファクスからFコードを使ってその情報を引き出すこともできます（揭示板機能）。



こんな使い方ができます

ビジネスの能率を上げる

■ メモリ受信

夜間や休日など、オフィスが無人になる時間帯に受信した原稿を、プリントせずにメモリに蓄積させることができます。(●P147)

メモリ受信した原稿は、都合のよいときにプリントできます。



■ メモリ内の原稿確認

メモリ内に蓄積された原稿を確認することができます。(●P154)

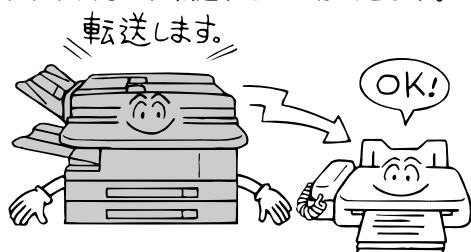
メモリ内の原稿リストをプリントしたり、エラーになった原稿を再送信したり、メモリ内の原稿をプリント/送信したりすることができます。



■ 受信転送

受信した原稿を自動的に他のファクスに転送できます。(●P162)

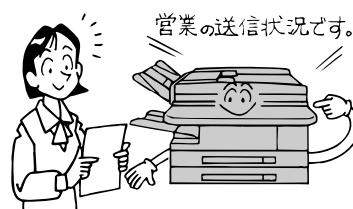
たとえば夜間や休日にオフィスで受信した原稿を、自宅のファクスなどに転送することができます。



■ 使用者制限

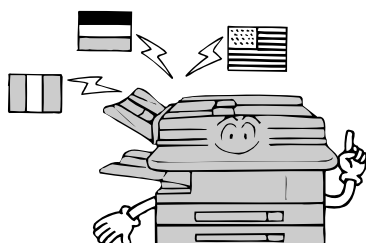
ファクスの送信やコピーの使用者を制限したり、部門ごとのファクスの送信状況を管理したりすることができます。(●P286)

部門別管理を設定すると、通信管理レポートに部門別の送信状況がプリントされます。



■ 海外送信

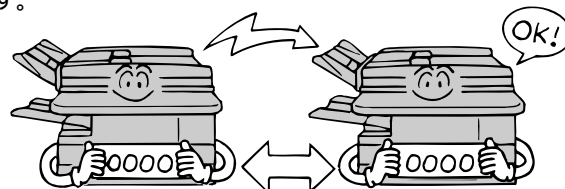
海外へも簡単な操作で送信できます。(●P142)



■ Fコード通信

ITU-T規格のFコードに対応したファクスであれば、機種を問わず通信することができます。(●P185)

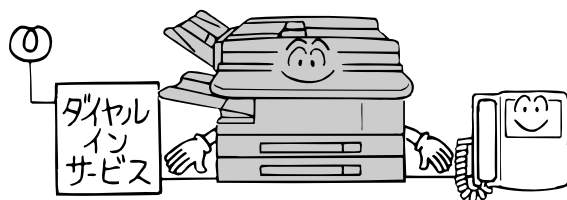
Fコードやパスワードを指定して原稿を送信できます。



NTTのさまざまなサービスを利用する

■ダイヤルイン

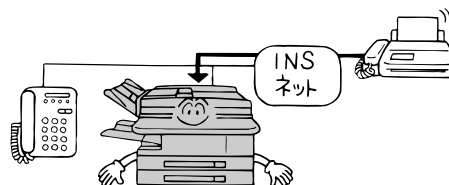
NTTのダイヤルインをご契約になると、本装置と接続した外付け電話機にそれぞれの電話番号を登録して、外から特定のファクスや電話機を呼び出すことができます。相手の方が一般電話回線（電話網）の場合でも利用できます。（●P170）



■サブアドレス通信

INSネットのサブアドレス通知サービスを利用すると、相手先のサブアドレスを指定してファクスを送信したり、相手先にこちらのサブアドレスを指定してもらい、本装置または接続した外付け電話機を個別に応答させたりすることができます。（●P177）

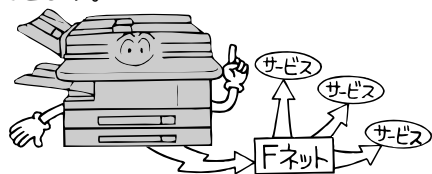
サブアドレス着信は、相手の方がISDN回線の場合に限られるので、一般電話回線（電話網）からのファクスや電話を受けることがある場合は、ダイヤルインをご契約になった方がより便利にお使いいただけます。



■Fネットサービス

送信の手間、通信エラー、通信コストが削減できます。（●P234）

NTTのファクシミリ専用ネットワーク（Fネット）に加入すると、原稿の送受信をよりスムーズにするサービスや、いろいろな情報案内サービスなどを利用することができます。





名称や電話番号を登録するには(ダイヤル登録)

よくかける相手先の名称や電話番号をワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しておくと、簡単な操作でダイヤルすることができます。また、複数の相手先を登録して、グループダイヤルとして利用することもできます。

ワンタッチダイヤルを登録する

よくかける相手先（最大84件）をワンタッチダイヤルに登録しておくと、ワンタッチボタンを押すだけでダイヤルすることができます。送信のしかたについては、「ワンタッチダイヤルで送信するには」(P50)を参照してください。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
☐ 登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「ダイヤル登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
☐ 登録/設定	



項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル
	02 短縮ダイヤル
	03 グループダイヤル
☐ ダイヤル登録モード	

3 [セット] ボタンを押します。

3

登録する番号を選んでください	01 未登録です
	02 未登録です
	03 未登録です
	04 未登録です
	05 未登録です
☐ ワンタッチダイヤル	

登録するワンタッチボタン(1～84)を押し、 [セット]ボタンを押します。

例：ワンタッチボタン1

登録する番号を選んでください	01 未登録です
	02 未登録です
	03 未登録です
	04 未登録です
	05 未登録です

ワンタッチダイヤル

[▼]または[▲]ボタンを押して指定することもできます。
すでに登録済みの番号を指定したときは、相手先の名称や電話番号が表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力
	02 名称
	03 詳細設定

□□□□
ワンタッチダイヤル

[セット]ボタンを押します。

電話番号入力
Fネット 削除

相手先の電話番号(最大120桁)を入力し、 [セット]ボタンを押します。

例：「03 3509 4202」

電話番号入力
03 3509 4202
Fネット 削除

すでに登録されている電話番号を削除するときは、[クリア]ボタンを押します。

入力を間違えたときは、[クリア]ボタンを押して最初から入力し直します。

「登録しました」と表示されたあと、サブアドレス入力のディスプレイになります。

サブアドレス入力
削除

サブアドレスを入力しないときは、[セット]ボタンを押したあと手順8へ進んでください。

お知らせ

- サブアドレス発信を「使用しない」に設定しているとき(●P312、313)は、手順6でサブアドレス入力の画面は表示されません。相手先の電話番号を入力し、[セット]ボタンを押したあと、手順8へ進んでください。

お買い求めのときは、サブアドレス発信を「使用する」に設定されています。

次ページに続きます。

名称や電話番号を登録するには(ダイヤル登録)

相手先のサブアドレス(最大19桁)を入力し、[セット]ボタンを押します。

例:「08」

サブアドレス入力	
08	削除

7

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力 02 名称 03 詳細設定
□□□□ ワンタッチダイヤル	

[セット]ボタンを押します。

8

名称を入力してください(全角8文字まで)			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

相手先の名称(最大全角8文字)を入力し、[セット]ボタンを押します。

例:「NTT開発」

名称を入力してください(全角8文字まで)			
NTT開発_			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

9

ひらがな/漢字/全角記号は最大8文字、カタカナ/英数字/半角記号は最大16文字まで入力できます。
文字を入力するには(●P34)



「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力 02 名称 03 詳細設定
□□□□ ワンタッチダイヤル	



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ]ボタンを押します。
- 登録したワンタッチダイヤルを削除するには
手順1~3の操作(●P124)をする
削除したいワンタッチボタン(1~84)を押す、もしくは[▼]または[▲]ボタンを押して指定する
[セット]ボタンを2回押す
[クリア]ボタンを押す
[セット]ボタンを押す
「クリアしました」と表示されます。
[ストップ]ボタンを押す
電話番号を削除すると、その他の登録内容もすべて削除されます。
- ワンタッチボタン(1~84)を押すときは
1~28を押すときは、ワンタッチパネルをすべて閉じます。
29~56を押すときは、ワンタッチパネルを1枚開きます。
57~84を押すときは、ワンタッチパネルを2枚開きます。
- よく利用するプッシュホンサービスなどを登録するには
手順1~5の操作(●P124)をする
サービス提供元などの電話番号を入力する
[PB]ボタンを押す
プッシュホンサービスなどの番号を入力する
[セット]ボタンを押す
手順7~12の操作をする
- ワンタッチダイヤルの登録内容をリストで確認するには
ワンタッチダイヤルに登録した相手先の名称や電話番号などは、ダイヤルリストをプリントして確認することもできます。(●P256、259)

10

[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□	
詳細設定	

11

[▼] または [▲] ボタンを押して通信機能の詳細設定をするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：しない

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□	
詳細設定	



登録する番号を選んでください	01 NTT開発 02 未登録です 03 未登録です 04 未登録です 05 未登録です
ワンタッチダイヤル	

「しない」を選択したときは、別の登録番号が反転表示されます。続けて他のワンタッチダイヤルを登録するときは、手順4～11の操作を繰り返します。

通信機能の詳細設定（送信時刻設定、Fコード、パスワードなどの送信詳細設定、通信モード、海外送信設定、送信速度、ECM通信）をするときはP262を参照してください。

12

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
☎=		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



お知らせ

- ワンタッチダイヤルに登録した相手先の名称を宛先ラベルに記入して、ワンタッチパネルに貼っておくと便利です。
- すでに他のワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録されている電話番号の桁数によっては、120桁まで登録できない場合があります。

お願い

- 誤送信や間違い電話を防ぐため、ワンタッチダイヤルを登録する際は、番号間違いのないようディスプレイ表示を見ながら正確に行ってください。また、登録後はダイヤルリスト（P256、259）で正しく登録されていることを確認してください。
- 一般電話の電話番号を誤って登録すると、自動再ダイヤルにより相手の方を何度も呼び出し、大変ご迷惑をおかけすることになりますのでご注意ください。



名称や電話番号を登録するには(ダイヤル登録)

短縮ダイヤルを登録する

よくかける相手先(最大116件)を短縮ダイヤルに登録しておくと、[短縮]ボタンを押して短縮番号を入力するだけでダイヤルすることができます。送信のしかたについては、「短縮ダイヤルで送信するには」(P52)を参照してください。

[ファンクション]ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

[▼]または[▲]ボタンを押して「ダイヤル登録モード」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル
	02 短縮ダイヤル
	03 グループダイヤル
ダイヤル登録モード	

[▼]または[▲]ボタンを押して「短縮ダイヤル」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

3

項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル
	02 短縮ダイヤル
	03 グループダイヤル
ダイヤル登録モード	



登録する番号を選んでください	*000 未登録です
	*001 未登録です
	*002 未登録です
	*003 未登録です
	*004 未登録です
No. [----]	
短縮ダイヤル	

4 [短縮] ボタンを押したあと登録する短縮番号（3桁の数字）を入力し、[セット] ボタンを押します。

例：「001」

登録する番号を選んでください	*000 未登録です
No. [----]	*001 未登録です
短縮ダイヤル	*002 未登録です
	*003 未登録です
	*004 未登録です

[▼] または [▲] ボタンを押して指定することもできます。すでに登録済みの番号を指定したときは、相手先の名称や電話番号が表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力
短縮ダイヤル	02 名称
	03 詳細設定

5 [セット] ボタンを押します。

電話番号入力	
ネット	削除

6 相手先の電話番号（最大120桁）を入力し、[セット] ボタンを押します。

例：「03 3509 5538」

電話番号入力	
03 3509 5538	
ネット	削除

すでに登録されている電話番号を削除するときは、[クリア] ボタンを押します。

入力を間違えたときは、[クリア] ボタンを押して最初から入力し直します。

「登録しました」と表示されたあと、サブアドレス入力のディスプレイになります。

サブアドレス入力	
削除	

サブアドレスを入力しないときは、[セット] ボタンを押したあと手順8へ進んでください。

次ページに続きます。



名称や電話番号を登録するには(ダイヤル登録)

相手先のサブアドレス(最大19桁)を入力し、[セット]ボタンを押します。

例:「11」

サブアドレス入力	
11	削除

7

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力 02 名称 03 詳細設定
短縮ダイヤル	



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ]ボタンを押します。
- 登録した短縮ダイヤルを削除するには
手順1~3の操作(●P128)をする
[短縮]ボタンを押したあと削除したい短縮番号(3桁の数字)を入力する、もしくは[▼]または[▲]ボタンを押して指定する
[セット]ボタンを2回押す
[クリア]ボタンを押す
[セット]ボタンを押す
「クリアしました」と表示されます。
[ストップ]ボタンを押す
電話番号を削除すると、その他の登録内容もすべて削除されます。

8

[セット]ボタンを押します。

名称を入力してください(全角8文字まで)			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

9

相手先の名称(最大全角8文字)を入力し、[セット]ボタンを押します。

例:「NTT営業」

名称を入力してください(全角8文字まで)			
NTT営業			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

ひらがな/漢字/全角記号は最大8文字、カタカナ/英数字/半角記号は最大16文字まで入力できます。
文字を入力するには(●P34)



「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力 02 名称 03 詳細設定
短縮ダイヤル	

- よく利用するプッシュホンサービスなどを登録するには
手順1~5の操作(●P128)をする
サービス提供元などの電話番号を入力する
[PB]ボタンを押す
プッシュホンサービスなどの番号を入力する
[セット]ボタンを押す
手順7~12の操作をする
- 短縮ダイヤルの登録内容をリストで確認するには
短縮ダイヤルに登録した相手先の名称や電話番号などは、ダイヤルリストをプリントして確認することもできます。(●P256、259)

10

[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□ 詳細設定	

11

[▼] または [▲] ボタンを押して通信機能の詳細設定をするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：しない

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□ 詳細設定	



登録する番号を選んでください	*000 未登録です *001 NTT営業 *002 未登録です *003 未登録です *004 未登録です
No. [----] 短縮ダイヤル	

「しない」を選択したときは、別の登録番号が反転表示されます。続けて他の短縮ダイヤルを登録するときは、手順4～11の操作を繰り返します。

通信機能の詳細設定（送信時刻設定、Fコード、パスワードなどの送信詳細設定、通信モード、海外送信設定、送信速度、ECM通信）をするときはP262を参照してください。

12

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
☎=		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



お知らせ

- すでに他のワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録されている電話番号の桁数によっては、120桁まで登録できない場合があります。
 - サブアドレス発信を「使用しない」に設定しているとき（P312、313）は、手順6でサブアドレス入力画面は表示されません。相手先の電話番号を入力し、[セット] ボタンを押したあと、手順8へ進んでください。
- お買い求めのときは、サブアドレス発信を「使用する」に設定されています。

STOP お願い

- 誤送信や間違い電話を防ぐため、短縮ダイヤルを登録する際は、番号間違いのないようディスプレイ表示を見ながら正確に行ってください。また、登録後はダイヤルリスト（P256、259）で正しく登録されていることを確認してください。
- 一般電話の電話番号を誤って登録すると、自動再ダイヤルにより相手の方を何度も呼び出し、大変ご迷惑をおかけすることになりますのでご注意ください。



名称や電話番号を登録するには(ダイヤル登録)

グループダイヤルを登録する

あらかじめワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録してあるいくつかの相手先(最大199件)を1つにまとめ、グループダイヤルとして利用することができます。グループダイヤルには、送信時刻を設定することもできます。送信のしかたについては、「グループダイヤルで送信するには」(P54)を参照してください。

[ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

[▼] または [▲] ボタンを押して「ダイヤル登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル
	02 短縮ダイヤル
	03 グループダイヤル
ダイヤル登録モード	

[▼] または [▲] ボタンを押して「グループダイヤル」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

3

項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル
	02 短縮ダイヤル
	03 グループダイヤル
ダイヤル登録モード	



登録する番号を選んでください	01 NTT営業
	02 未登録です
	03 未登録です
	04 未登録です
	05 未登録です
グループダイヤル	

グループダイヤルを登録する番号を、ワンタッチダイヤル（●P50）または短縮ダイヤル（●P52）で指定します。

例：ワンタッチダイヤル20

ワンタッチボタン20を押します。

登録する番号を選んでください	18 未登録です
	19 未登録です
	20 未登録です
	21 未登録です
	22 未登録です
グループダイヤル	

[▼]または[▲]ボタンを押して指定することもできます。

例：短縮ダイヤル010

[短縮]ボタンを押したあと「010」を入力します。

登録する番号を選んでください	*008 未登録です
	*009 未登録です
	*010 未登録です
	*011 未登録です
	*012 未登録です
No. [----]	
グループダイヤル	

すでに登録済みの番号を指定したときは、相手先の名称や電話番号が表示されます。

[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 電話番号入力
	02 名称
	03 送信時刻設定
□□□□	
グループダイヤル	

すでに登録済みのワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを指定したときは、「このワンタッチボタン（短縮ダイヤル）は使えません」と表示されます。もう一度指定し直してください。

[セット]ボタンを押します。

相手先を指定してください	
No. [----]	
ワンタッチ/短縮ダイヤル	

次ページに続きます。



名称や電話番号を登録するには(ダイヤル登録)

グループダイヤルに登録する複数の相手先(最大199件)を、ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで指定します。

例: ワンタッチダイヤル1と短縮ダイヤル001

ワンタッチボタン1を押します。

相手先を指定してください	01 NTT開発
No. [----]	
ワンタッチ/短縮ダイヤル	



[短縮] ボタンを押したあと「001」を入力します。

相手先を指定してください	*001 NTT営業
No. [----]	01 NTT開発
ワンタッチ/短縮ダイヤル	

グループダイヤルとして登録してあるワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを指定することもできます。

未登録のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを指定したときは、「未登録です」と表示されます。もう一度指定し直してください。

[セット] ボタンを押します。

次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力
□□□□	02 名称
グループダイヤル	03 送信時刻設定

7

8

9

[セット] ボタンを押します。

名称を入力してください(全角8文字まで)			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

グループダイヤルの名称(最大全角8文字) を入力し、[セット] ボタンを押します。

例:「NTT支店グループC」

名称を入力してください(全角8文字まで)	
NTT支店グループC	
英大	入力モード

ひらがな/漢字/全角記号は最大8文字、カタカナ/英数字/半角記号は最大16文字まで入力できます。

文字を入力するには(▶P34)



「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 電話番号入力 02 名称 03 送信時刻設定
グループダイヤル	

送信時刻を設定しないときは手順14へ進みます。

続けて他のグループダイヤルを登録するときは、[戻る] ボタンを押したあと、手順4~10の操作を繰り返します。

10

[セット] ボタンを押します。

登録する番号を選んでください	01 --:-- 02 --:-- 03 --:-- 04 --:-- 05 --:--
送信時刻設定	

次ページに続きます。

11



名称や電話番号を登録するには(ダイヤル登録)

12 [セット] ボタンを押します。

送信時刻(4桁の数字)を入力し、[セット] ボタンを押します。

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、2つめの送信時刻が反転表示されます。

登録する番号を選んでください	01 10:00
	02 --:--
	03 --:--
	04 --:--
	05 --:--

複数の送信時刻(最大5時刻)を設定するときは、手順12～13の操作を繰り返します。

すべての時刻を設定する必要はありません。

14 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 登録したグループダイヤルを削除するには
手順1～3の操作(●P132)をする
削除したいグループダイヤルの登録番号をワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで指定する
[セット] ボタンを2回押す
グループダイヤルに登録されていたすべての相手先の電話番号と名称が消えるまで、[クリア] ボタンを繰り返し押す
[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す
- 登録されている相手先を削除するには
手順7(●P134)で、[▼]または[▲] ボタンを押して削除したい相手先を反転表示させ、[クリア] ボタンを押します。
- 相手先を追加するには
手順7(●P134)で、ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで指定します。
- ワンタッチボタン(1～84)を押すときは
1～28を押すときは、ワンタッチパネルをすべて閉じます。
29～56を押すときは、ワンタッチパネルを1枚開きます。
57～84を押すときは、ワンタッチパネルを2枚開きます。
- 送信時刻を設定すると
設定した時刻にまとめて送信され、通信コストが削減できます。

同じ原稿を複数の相手先に送信するには

(順次同報送信)

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

1回の送信操作で、同じ原稿を最大210件の相手先へ送信することができます。

相手先はワンタッチダイヤル(最大84件)、短縮ダイヤル(最大116件)、ダイヤル入力(最大10件)で指定できます。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

2

ADF(自動原稿送り装置)または原稿台ガラスに原稿をセットします。(P40、41)

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには(P42) 原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順3~4の操作(P47)をします。

複数の相手先(最大210件)を指定します。

例: ワンタッチダイヤル1、短縮ダイヤル001、「052264-1434」(ダイヤル入力)を指定する場合
ワンタッチボタン1を押します。

自動受信	宛先数: 1	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=ワンタッチ	NTT開発	
No. [01]	03 3509 4202	
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



[短縮] ボタンを押したあと「001」を入力します。

3

自動受信	宛先数: 2	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=短縮(*)	NTT営業	
No. [*001]	03 3509 5538	
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



「0522641434」を入力したあと、必ず[セット] ボタンを押します。

自動受信	宛先数: 3	'98 04/24
☎=0522641434		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

相手先の指定を間違えたときは、[クリア] ボタンを押して指定し直します。

次ページに続きます。



ワンポイント.....

- A4サイズの前稿をセツトするときは A4 ☐ にセツトします。(P41) A4 ☐ にセツトすると、縮小して送信されることがあります。
- 送信を中止するには(P58) 送信を中止すると、すべての相手先への送信が中止されます。1件のみ送信を中止することはできません。
- 発信元名称を使って送信するには
 - ADF(自動原稿送り装置)に原稿をセツトしたとき 手順2のあとで、発信元名称を選択します。(P33)
 - 原稿台ガラスに原稿をセツトしたとき 手順3のあとで、発信元名称を選択します。(P33)
- グループダイヤルで相手先を指定すると 1回の指定操作で最大199件の相手先を指定することができます。(P54、132)
- 相手先が応答しないときは 応答しない相手先には、その他のすべての相手先に送信したあとで、自動再ダイヤルされます。(P46)
- 通信結果を確認するには マルチ通信結果レポート(複数の相手先への送信結果レポート)をプリントして確認することができます。(P251)[プログラム] ボタンに「送信結果レポート予約」を設定しておく(P284)と、手順2のあとに[プログラム] ボタン→『はい』(画面選択ボタン)と押すと、順次同報送信終了後にマルチ通信結果レポートがプリントされます。
- 時刻を指定して順次同報送信するには タイマ通信(P140)で複数の相手先を指定すると、タイマ順次同報送信をすることができます。

（順次同報送信）

原稿がメモリに読み込まれます。

送信			
宛先 = 順次同報送信			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

原稿の読み込みが終了すると、ワンタッチダイヤル→短縮ダイヤル→ダイヤル入力の順に送信されます。

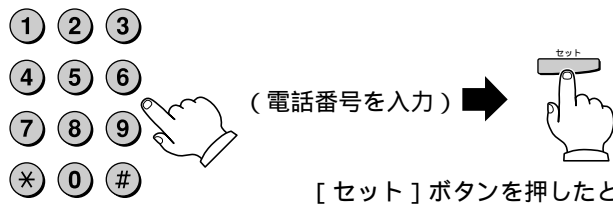
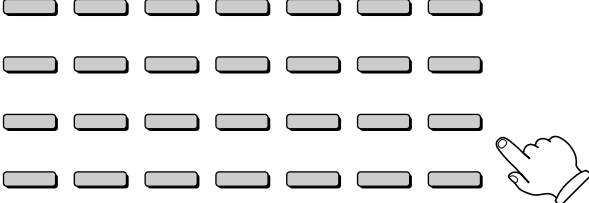
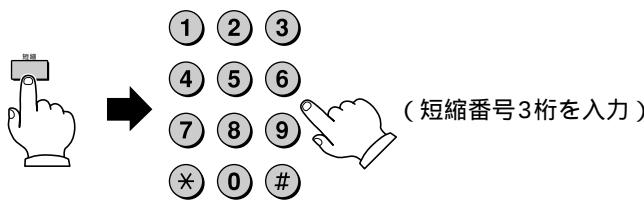
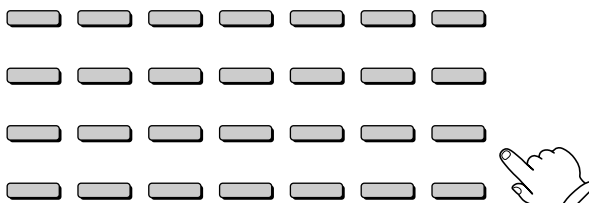
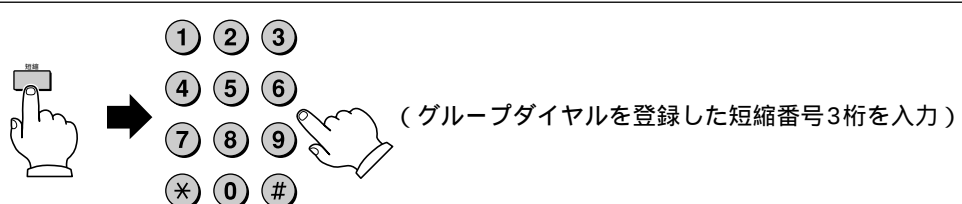


- 正常に順次同報送信が終了すると、原稿は自動的にメモリから消去されます。
- 1件目の相手先を指定したあとは、5秒以内に2件目の相手先を指定してください。約5秒経過すると自動的にダイヤルが開始されてしまいます。このようなダイヤルタイムアウト機能がはたらかないように設定を変更することもできます。(▶P300、301)
- 2件目以降の相手先を指定すると、ダイヤルタイムアウト機能ははたらかません。
- 順次同報送信の相手先の件数が多いときは、通信が終了するまでに多少時間がかかります。
- ダイレクト送信を指定しているときでも、手順3で複数の相手先を指定すると、自動的にメモリ送信となり、原稿は順次同報送信されます。

順次同報送信した原稿は、一括送信されません。

複数の相手先を指定するには

順次同報送信などを行う場合には、以下の操作を繰り返して複数の相手先を指定します。

ダイヤルの種類	操 作
ダイヤル入力	 (電話番号を入力) [セット] ボタンを押したときに、相手先が確定されます。
ワンタッチダイヤル	 (相手先を登録したワンタッチボタンを押す)
短縮ダイヤル	 (短縮番号3桁を入力)
グループダイヤル	 (グループダイヤルを登録したワンタッチボタンを押す)
	 (グループダイヤルを登録した短縮番号3桁を入力)

相手先の指定を間違えたときは、[クリア] ボタンを押して指定し直します。

時刻を指定して送信するには (タイマ通信)

あらかじめ設定した時刻に、自動的に原稿を送信することができます。大量の原稿を、通信料金の安い深夜に送信したいときなどに便利です。タイマ通信は最大70件までセットできます。

1 (ファクス) ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2 ADF (自動原稿送り装置) または原稿台ガラスに原稿をセットします。(●P40、41)

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには(●P42) 原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順3～4の操作(●P47)をします。

3 ワンタッチパネルを3枚開いて、[タイマ通信] ボタンを押します。

現在の時刻が表示されます。

タイマ通信
⌚ 15:30
◀ ▶

4 送信時刻(4桁の数字)を入力し、[セット] ボタンを押します。

送信時刻は、24時間制(4桁)で入力してください。

例：午後11時30分

タイマ通信
⌚ 23:30
◀ ▶

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



自動受信	宛先を入力してください	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

ワンポイント.....

- A4サイズ of 原稿をセットするときは A4 にセットします。(●P41) A4 にセットすると、縮小して送信されることがあります。
- 操作を中止するには [ストップ] ボタンを押します。
- 発信元名称の選択画面が表示されたときは 発信元名称を登録しているとき(●P32) は、手順6で [スタート] ボタンを押すと 発信元名称の選択画面が表示されます。 [▼] または [▲] ボタンを押して使用する 発信元名称を反転表示させ、[セット] ボタンを押すと、原稿がメモリに読み込まれてタイマ通信がセットされます。
- タイマ通信を解除するには [通信状況 / 確認] ボタンを押す 『通信結果』(画面選択ボタン)を押す 『▼』または『▲』(画面選択ボタン)を押して解除したいタイマ通信の受付番号を反転表示させる 『原稿クリア』(画面選択ボタン)を押す 『はい』(画面選択ボタン)を押す [戻る] ボタンを押す [メモリ内容確認] ボタンを使ってタイマ通信を解除することもできます。(●P160)
- タイマ通信の予約内容を確認するには [通信状況 / 確認] ボタンを押して確認できます。(●P60) また、原稿リストをプリントして確認することもできます。(●P154)
- 送信結果を確認したいときは 送信結果レポートを「プリントする」に設定してください。(●P242)
- サブアドレスを指定して送信するには 手順5で電話番号を入力したあと、『サブアドレス』(画面選択ボタン)を押してからサブアドレスを入力します。

相手先を指定します。

例：「0335095538」

自動受信 '98 04/24
☎=0335095538
アドレス Eネット 削除

相手先は、ダイヤル入力（●P45、47）／ワンタッチダイヤル（●P50）／短縮ダイヤル（●P52）で指定できます。ダイヤル入力で指定するときは、電話番号を入力したあとに[セット]ボタンを押してください。入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

複数の相手先（最大210件）を指定することもできます。
(P139)

〔スタート〕 ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれます。

外伝通信 読込中 P.001				受付番号 0004			
標準		ふつう		文字		ADF	
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信				

外伝通信 宛先 =0335095538							
標準		ふつう		文字		ADF	
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信				

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、「本などの原稿を送信するには」の手順7～8の操作（●P49）を参照してください。



お知らせ

- 正常にタイマ通信が終了すると、原稿は自動的にメモリから消去されます。
- 手順6で表示される受付番号は、タイマ通信を解除するときに使用します。忘れないようにしてください。
- タイマ通信での順次同報送信の相手先の件数が多いときは、通信が終了するまでに多少時間がかかります。

STOP お願い

- 現在の時刻が正確に設定されていないと、指定した時刻に送信されません。時刻の登録方法については「日付／時刻を登録します」(P26)を参照してください。

海外の相手先へ原稿を送信するときは、国際ダイヤル通話番号、国番号、市外局番、電話番号の順でダイヤルします。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

1

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

☎ =

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 フック送信

2

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（●P42）
原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信する
には」の手順3～4の操作（●P47）をします。

3

例：アメリカ（国番号1）のニューヨーク（市外局番212）にある「123-4567」番のファクスへ送信する場合

自動受信 '98 04/24

☎=00112121234567

サブアドレス Fネット 削除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先の電話番号をワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しておくこともできます。（▶P124、128）

送信が開始されます。

4

送信			
読込中 P.001		受付番号 0035	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、「本などの原稿を送信するには」の手順7～8の操作（●P49）を参照してください。



ワンポイント・・・・・・・・

- A4サイズの原稿をセットするときは
A4  にセットします。(☛P41) A4 
にセットすると、縮小して送信されることがあります。
- 送信を中止するには (☛P58)
- 発信元名称を使って送信するには
 - ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットしたとき
手順2のあとで、発信元名称を選択します。(☛P33)
 - 原稿台ガラスに原稿をセットしたとき
手順3のあとで、発信元名称を選択します。(☛P33)



お知らせ

- G3モードで海外へ送信するときに、たびたびエラーが発生するときは、その電話番号をワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに登録し、送信速度や海外送信の種別を設定してみてください。(☛P270、272)
- なお、送信速度や海外送信の設定を変更しても送信がうまくいかないときは、当社のサービス取扱所へお問い合わせください。

STOP お願い

- 一部の地域では、国際ダイヤル番号（001 など）を利用できないことがあります。

ファクス情報サービスを活用するには

ビジネス関連情報やスキーのゲレンデ情報、観光情報など各種の情報をファクスで取り出せる「ファクス情報サービス」(プッシュホンサービス)を利用することができます。

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎=			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

2 **[オンフック]** ボタンを押します。

通信 / メモリランプが点滅し、「ツー」という発信音が聞こえます。

☎=		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		Fネット

3 **相手先を指定します。**

相手先は、ダイヤル入力 / ワンタッチダイヤル (●P50) / 短縮ダイヤル (●P52) で指定できます。

ダイヤル入力で指定する場合は、入力後 **(#)** ボタンを押してください。

指定を間違えたときは、[ストップ] ボタンを押して手順2からやり直してください。

4 **音声ガイダンスに従って、ダイヤルボタンを押します。**

5 **受信するときは [スタート] ボタンを押します。**

ファクス情報サービスからの受信を開始します。

6 **サービスの利用を終了するときは [オンフック] ボタンを押します。**

お知らせ

- プッシュホンサービスによって操作方法は異なります。ご利用になるプッシュホンサービスの内容や操作方法については、あらかじめサービスの提供元などに確認してください。
- また、プッシュホンサービスによっては、本装置の電話番号を入力していったん回線を切ると、情報を送信してくる場合もあります。
- Fネットを契約されている場合は、Fネットのファクシミリ案内サービスを活用して、情報を簡単に取り出すことができます。「Fネット (ファクシミリ通信網) を利用するには (Fネットアクセス)」(●P234) を参照してください。

お願い

- 相手先の電話番号をダイヤルしたあと、プッシュホンサービスや留守番電話のリモート操作などを利用するためにダイヤル入力するときは、確実に接続されていることを確認してから操作してください。相手先に接続される前にダイヤル操作をすると、プッシュホンサービスを正しく受けることができなったり、留守番電話のリモート操作などが正しく行えないことがあります。

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート / リストをプリントする

5 いろいろな機能の登録 / 設定

6 ご参考に

複数の原稿を1枚の記録紙にプリントするには

(N in 1記録)

1枚の記録紙に何枚分の受信原稿をプリントできるかは、受信原稿のサイズによって異なります。

受信原稿



2

A5サイズ



1

2

A4サイズ

[illegible]

- N in 1記録の機能は、受信原稿を記録紙にプリントするときと、[メモリ内容確認] ボタンを使ってメモリ内に蓄積された受信原稿を記録紙にプリントするときにご利用できます。

- メモリ残量が少ないときには、N in 1 記録の機能がご利用になれないことがあります。この場合は、N in 1 記録されずにプリントされます。

N in 1記録を設定する

お買い求めのときは、N in 1記録を「しない」に設定されています。

1

【ファンクション】ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2

【▼】または【▲】ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 レポート設定
	02 機能設定
	03 プリント設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	

3

【▼】または【▲】ボタンを押して「プリント設定」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 レポート設定
	02 機能設定
	03 プリント設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	



項目を選んでください	01 受信プリント部数
	02 加印選択
	03 自動縮小
	04 受信ポートプリント
	05 印字継続
プリント設定	

次ページに続きます。

複数の原稿を1枚の記録紙にプリントするには

(N in 1 記録)

4 **[▼] または [▲] ボタンを押して「N in 1 記録」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。**

項目を選んでください	07 ポートカット指定 08 手差しサイズ指定 09 回転記録 10 N in 1 記録
□□□□ プリク設定	



項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□ N in 1 記録	

5 **[▼] または [▲] ボタンを押して「する」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□ N in 1 記録	

N in 1 記録を設定しないときは「しない」を反転表示させます。



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 ポート設定 02 機能設定 03 プリク設定 04 装置設定 05 システム設定
□□ 設定モード	

6 **[ストップ] ボタンを押します。**

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎ =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。



受信した原稿をメモリに蓄積するには

(メモリ受信)

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能登録/設定する

6 ご参考に

メモリ受信とは

受信した原稿をメモリに蓄積させて、記録紙にプリントしないようにすることができます(メモリ受信)。オフィスが無人になる夜間や休日に、メモリ受信することができます。メモリ内に受信した原稿があると、通信/メモリランプが点灯します。

メモリ受信を行う時間帯は、あらかじめ指定しておくことができます。また、指定した時間帯以外でも、一時的にメモリ受信機能をONにすることができます。(●P152)メモリ受信した原稿は、都合のよいときに記録紙にプリントできます。(●P153)

メモリ受信の準備をする

メモリ受信するには、あらかじめ以下の設定をしておきます。(●P148)

1. メモリ受信の設定

メモリ受信を「する」に設定します。

2. プリント暗証番号

メモリ受信した原稿を保護したい場合に登録します。プリント暗証番号を登録すると、メモリ受信した原稿をプリントするときにプリント暗証番号の入力が必要になります。

3. レポート

受信原稿をプリントしないだけでなく、受信結果レポートや通信結果レポートなど、すべてのレポートをプリントしないようにすることができます。お買い求めのときは、「プリントしない」に設定されています。

4. 時間指定(ON時刻/OFF時刻)

メモリ受信機能を起動する時刻と、解除する時刻を指定します。ON/OFFを毎日同じ時刻にする方法と、曜日別にON/OFF時刻を指定する方法があります。曜日別に指定する場合は、各曜日ごとに最大5時刻、1週間で最大35時刻の設定が可能です。

お買い求めのときは、ON時刻、OFF時刻ともに「毎日」に設定されています。

メモリ受信を設定する

メモリ受信をするときは、あらかじめメモリ受信を「する」に設定しておきます。お買い求めのときは「しない」に設定されています。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 ポート設定
	02 機能設定
	03 プリンタ設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「システム設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

3

項目を選んでください	01 ポート設定
	02 機能設定
	03 プリンタ設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	



項目を選んでください	01 管理暗証番号
	02 サブアドレス発信
	03 発信開始ボタンの
	04 ダイヤル発呼タイムアウト
	05 発信者番号通知
システム設定	

システム設定の管理暗証番号を登録しているとき（▶P293）は、4桁の管理暗証番号を入力し、[セット] ボタンを押してください（管理暗証番号は表示されません）。

4

[▼] または [▲] ボタンを押して「メモリ受信」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	04 ダイヤル発信呼び出し
□□□□	05 発信者番号通知
システム設定	06 使用者制限
	07 メモリ受信
	08 ECM送信



項目を選んでください	01 しない
□□□□	02 する
メモリ受信	

5

[▼] または [▲] ボタンを押して「する」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 しない
□□□□	02 する
メモリ受信	



項目を選んでください	01 プリント暗証番号
□□□□□	02 ポート
メモリ受信	03 時間指定

6

[▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

各項目を設定します。

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

プリント暗証番号

メモリ受信した原稿をプリントするときの暗証番号 (0000 ~ 9999) を入力します。

例: 「1253」

7

4桁のプリント暗証番号を入力してください(0000~9999)	
1253	◀ ▶

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。
[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

次ページに続きます。

受信した原稿をメモリに蓄積するには

(メモリ受信)

レポート

[▼] または [▲] ボタンを押して、受信結果レポートをプリントするかどうかを反転表示させます。

項目を選んでください	01 プリントする 02 プリントしない
レポート	

時間指定

[▼] または [▲] ボタンを押して時間指定をするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：する

項目を選んでください	01 しない 02 する
時間指定	

「しない」を反転表示させた場合は、時間指定の設定が完了します。



[▼] または [▲] ボタンを押して、メモリ受信を開始する時刻を設定する場合は「ON時刻」、終了する時刻を設定する場合は「OFF時刻」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 ON時刻 02 OFF時刻
時間指定	



[▼] または [▲] ボタンを押して、メモリ受信を毎日行う場合は「毎日」、曜日を決めて行う場合は「曜日指定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 毎日 02 曜日指定
ON時刻	

「曜日指定」を反転表示させた場合は、[▼] または [▲] ボタンを押して曜日を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 SUN 02 MON 03 TUE 04 WED 05 THU
曜日指定	



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- メモリ受信の設定を解除するには
手順5 (P149) で「しない」を反転表示させます。
- プリント暗証番号を登録すると
メモリ受信した原稿をプリントするときに
プリント暗証番号の入力が必要となります。
また、[メモリ受信] ボタンを押して
メモリ受信機能をON / OFFする際にも、
プリント暗証番号の入力が必要となります。
時間指定でON時刻とOFF時刻を設定
した場合は、プリント暗証番号の入力は必
要ありません。
- ON時刻 / OFF時刻を設定するときは
ON時刻 / OFF時刻の登録番号は1～5まで
あり、1日のうち最大5時刻までON時刻 /
OFF時刻を指定できます。登録番号は [▼]
または [▲] ボタンで選択できます。複数
の時刻を指定するときは、登録番号を反転
表示させて [セット] ボタンを押し、ON
時刻 / OFF時刻の入力操作を繰り返してく
ださい。
また、複数の曜日にメモリ受信を設定する
場合は、曜日の選択とON時刻 / OFF時刻
の指定を繰り返してください。
すべての時刻を登録する必要はありません。
すべてのON時刻を登録しないでOFF時刻
を登録するときは、ON時刻を入力したあ
と [戻る] ボタンを2回押すと、ON時刻 /
OFF時刻の選択画面になります。
- メモリ受信の時間指定のON時刻になると
メモリ受信機能が自動的にはたらき、デ
ィスプレイに次のように表示されます。

自動受信	メモリ受信	98 04/24
		FRI 15:30
標準 ふう 文字 ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類 プック送信

OFF時刻になると、メモリ受信機能は自動
的に解除され、受信原稿は自動的にプリン
トされます。

「...」の表示を確認したあと、[セット] ボタンを押します。

登録する番号を選んでください	01 --:--
	02 --:--
	03 --:--
	04 --:--
	05 --:--



メモリ受信を開始または終了する時刻（最大5時刻）を24時間制で入力します。

例：日曜日の午後9時

SUN	21:00
-----	-------

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。
[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



お知らせ

- 手順7の レポート で、受信結果レポートを「プリントする」に設定しても、レポート設定の受信結果レポートを「プリントしない」に設定している場合は、受信結果レポートはプリントされません。（P244）お買い求めのときは、レポート設定の受信結果レポートは「プリントしない」に設定されています。
- 手順7の 時間指定 で、ON時刻を「毎日」に指定したときは、「曜日指定」に指定することはできません。「曜日指定」に指定したときは、「毎日」に指定することはできません。「毎日」「曜日指定」の両方に時刻を設定したときは、あとに指定した内容で登録されます（OFF時刻の場合も同じです）。
- 手順7の 時間指定 で、ON時刻を「毎日」に指定しても、OFF時刻を「曜日指定」に指定できます。ON時刻を「曜日指定」に指定しても、OFF時刻を「毎日」に指定できます。
- 記録紙やトナーがなくなったときに自動的にメモリに受信するメモリ代行受信（P67）については、何も設定する必要はありません。
- メモリ受信中でも、**コピー** ボタンを押してコピーすることができます。

7

8

続けて他の項目を設定するときは、手順6～7を繰り返します。

9

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

受信した原稿をメモリに蓄積するには

(メモリ受信)

指定時間外にメモリ受信をON / OFFする

時間指定をしていないときや、登録しておいた時間帯以外でも、メモリ受信をすることができます。ただし、あらかじめメモリ受信を「する」に設定していないとき(●P148)は、メモリ受信をすることはできません。

プリント暗証番号を登録している場合(●P148)は、メモリ受信をON / OFFするときにプリント暗証番号の入力が必要です。

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2 **ワンタッチパネルを3枚開いて、[メモリ受信] ボタンを押します。**

自動受信	メモリ受信	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

プリント暗証番号を登録しているときは、4桁のプリント暗証番号を入力し、[セット] ボタンを押してください。



ワンポイント

- メモリ受信のON時刻を設定しているときは設定した時刻になると、自動的にメモリ受信が開始されます。
- メモリ受信のOFF時刻を設定しているときは設定した時刻になると、自動的にメモリ受信が解除され、受信原稿がプリントされます。
- メモリ受信できる枚数は
A4標準原稿を「標準」の送信画質で約128枚まで蓄積できます。また、オプションメモリを増設すると約640枚まで蓄積できます。

メモリ受信した原稿をプリントする

メモリ内に受信した原稿があると、通信 / メモリランプが点灯します。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	メモリ受信	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[メモリ受信] ボタンを押します。

メモリ受信が解除され、受信原稿がプリントされます。
プリント暗証番号を登録しているときは、4桁のプリント暗証番号を入力し、[セット] ボタンを押してください。
受信原稿がすべてプリントされると、メモリ内の原稿は自動的に消去されます。



ワンポイント

- 通信 / メモリランプが消えているときは
メモリ内に受信した原稿はありません。
[メモリ受信] ボタンを押すとメモリ受信
が解除されますが、原稿はプリントされま
せん。



メモリ内の原稿を確認 / 消去するには

メモリ内に蓄積されている原稿のリストをプリントしたり、原稿の読み込み時に指定した相手先とは別の相手先に送信したり、メモリ内の原稿を消去したりすることができます。

メモリ内の原稿リストをプリントする

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	ADF
	原稿の種類	ブック送信

2 ワンタッチパネルを3枚開いて、[メモリ内容確認] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 原稿リスト
	02 17-再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
	05 原稿削除

メモリ内に原稿が蓄積されていない場合は、「蓄積文書がありません」と表示されます。

3 [セット] ボタンを押します。

原稿リストのプリントが開始されます。

自動受信	ポート出力中	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	ADF
	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

原稿リストのプリント例

原稿リストでは、以下の情報が確認できます。

FAX 03 3740 7951		NTT東京		'98 04/24 15:30		001	
***** ... 原稿リスト ... *****							
受付番号	通信モード	相手先	枚数	受付時刻	開始時刻	発信元名称	
0049	タイマ送信	[01]NTT開発	1	04/24 14:41	23:00	NTT 営業	
0050	タイマ送信	[06]NTT東海	1	04/24 14:55	23:00	NTT 営業 田中	
5018	親展受信		1	04/24 13:39			
5031	親展受信		1	04/24 15:18			
5032			1	04/24 15:30			

エラー原稿を再送信する

送信エラー原稿をメモリから消去しないように設定したとき（●P300、301）は、エラー原稿を再送信することができます。お買い求めのときは、送信エラー原稿はメモリから消去されるように設定されています。

1

「メモリ内の原稿リストをプリントする」の手順1～2の操作（●P154）をします。

項目を選んでください	01 原稿リスト
	02 17-再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
	05 原稿別
メモリ内容確認	

2

〔▼〕または〔▲〕ボタンを押して「エラー再送信」を反転表示させ、〔セット〕ボタンを押します。

項目を選んでください	01 原稿リスト
	02 17-再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
	05 原稿別
メモリ内容確認	

送信エラーになった通信が表示されます。

確認終了:[戻る]	
0003 --:-- [01]NTT開発	送信
0001 --:-- [*001]NTT営業	送信

3

〔▼〕または〔▲〕ボタンを押して再送信したい原稿の受付番号を反転表示させ、〔セット〕ボタンを押します。

確認終了:[戻る]	
0003 --:-- [01]NTT開発	送信
0001 --:-- [*001]NTT営業	送信

受付番号は原稿リストで確認できます。（●P154）

原稿の再送信が開始されます。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
〔ストップ〕ボタンを押します。

メモリ内の原稿を確認 / 消去するには

メモリ内の原稿をプリントする

メモリ内に蓄積されている原稿を記録紙にプリントすることができます。

1

「メモリ内の原稿リストをプリントする」の手順1～2の操作（▶P154）をします。

項目を選んでください	01 原稿リスト
	02 17-再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
メモリ内容確認	05 原稿削除

2

[▼] または [▲] ボタンを押して「原稿プリント」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 原稿リスト
	02 17-再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
メモリ内容確認	05 原稿削除



確認終了:[戻る]		
0009 22:00 0335095538	送信	待機中
0005 19:00 [*001]NTT営業	送信	待機中
0003 --:-- [01]NTT開発	送信	

[▼] または [▲] ボタンを押してプリントしたい原稿の受付番号を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

確認終了:[戻る]		
0009 22:00 0335095538	送信	待機中
0005 19:00 [*001]NTT営業	送信	待機中
0003 --:-- [01]NTT開発	送信	

3

受付番号は原稿リストで確認できます。（▶P154）



1ページのみ出力？
はい いいえ

親展ボックスやポーリングボックス、汎用ボックスなどの原稿をプリントするときに、それらのボックスに暗証番号が登録されている場合は、4桁の暗証番号を入力し、[セット] ボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。

4

1 ページめのみプリントするときは『はい』
(画面選択ボタン)、全ページプリントするときは『いいえ』(画面選択ボタン)を押します。

原稿のプリントが開始されます。

原稿プリント			
プリント中 P.001/002		受付番号 0005	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

メモリに蓄積されている原稿が1ページのみの場合は、『はい』 / 『いいえ』(画面選択ボタン)のどちらを押してもかまいません。

5

プリントが終了したら、[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

☎ =

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 フック送信



 ワンポイント・・・・・・・・・・・・・・・・

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。



 お知らせ 

- 通信中の原稿はプリントできません。
- メモリ受信した原稿は「原稿プリント」の操作ではプリントできません。(●P153)



メモリ内の原稿を確認 / 消去するには

メモリ内の原稿を送信する

メモリ代行受信した原稿など、メモリ内に蓄積されている原稿を、宛先を決めて送信することができます。また、送信エラー原稿を、最初に指定した相手先とは別の相手先に送信することもできます。

1

「メモリ内の原稿リストをプリントする」の手順1～2の操作（P154）をします。

項目を選んでください	01 原稿以外
	02 17-再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
	05 原稿列ア
メモリ内容確認	

2

[▼]または[▲]ボタンを押して「蓄積文書送信」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 原稿以外
	02 17-再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
	05 原稿列ア
メモリ内容確認	



確認終了:[戻る]		
0009 22:00 0335095538	送信	待機中
0005 19:00 [*001]NTT営業	送信	待機中
0003 --:-- [01]NTT開発	送信	

[▼] または [▲] ボタンを押して送信したい原稿の受付番号を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

確認終了:[戻る]			
0009	22:00	0335095538	送信 待機中
0005	19:00	[*001]NTT営業	送信 待機中
0003	--:--	[01]NTT開発	送信

受付番号は原稿リストで確認できます。(●P154)

送信予約されている原稿や、再ダイヤル待機中の原稿、メモリ受信した原稿は選択できません。



自動受信	宛先を入力してください	'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎=			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

親展ボックスやポーリングボックス、汎用ボックスなどの原稿を送信するときに、それらのボックスに暗証番号が登録されている場合は、4桁の暗証番号を入力し、[セット] ボタンを押してください(暗証番号は表示されません)。

相手先を指定します。

例:「0335095538」

自動受信	'98 04/24
☎=0335095538	
Fネット	削除

相手先は、ダイヤル入力／ワンタッチダイヤル(●P50)／短縮ダイヤル(●P52)で指定できます。

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



ワンポイント……………

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 手順5のあと発信元名称の選択画面が表示されたときは
発信元名称を登録しているとき(●P32)は、ワンタッチダイヤル(●P50)／短縮ダイヤル(●P52)で相手先を指定すると、手順5のあと発信元名称の選択画面が表示されます。ダイヤル入力で相手先を指定した場合は、手順5のあとで[セット] ボタンを押すと発信元名称の選択画面が表示されます。

[▼] または [▲] ボタンを押して使用する発信元名称を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

- 宛先を決めて送信できる原稿は
メモリ代行受信、ポーリング送信、親展受信した原稿、また、送信エラー原稿をメモリから消去しないように設定したとき(●P300、301)のエラー原稿のみです。

[セット] ボタンを押します。

選択した原稿が送信されます。

送信			
宛先	=0335095538		
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



メモリ内の原稿を確認 / 消去するには

メモリ内の原稿を消去する

メモリ内に蓄積されている原稿を消去することができます。

1

「メモリ内の原稿リストをプリントする」の手順1～2の操作（P154）をします。

項目を選んでください	01 原稿リト
	02 リー再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
メモリ内容確認	05 原稿クリア

2

[▼]または[▲]ボタンを押して「原稿クリア」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 原稿リト
	02 リー再送信
	03 原稿プリント
	04 蓄積文書送信
メモリ内容確認	05 原稿クリア



確認終了:[戻る]		
0009 22:00 0335095538	送信	待機中
0005 19:00 [*001]NTT営業	送信	待機中
0003 --:-- [01]NTT開発	送信	

3

[▼]または[▲]ボタンを押して消去したい原稿の受付番号を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

確認終了:[戻る]		
0009 22:00 0335095538	送信	待機中
0005 19:00 [*001]NTT営業	送信	待機中
0003 --:-- [01]NTT開発	送信	

受付番号は原稿リストで確認できます。（P154）



クリアしていいですか？
はい いいえ

親展ボックスやポーリングボックス、汎用ボックスなどの原稿を消去するときに、それらのボックスに暗証番号が登録されている場合は、4桁の暗証番号を入力し、[セット]ボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。

4

『はい』（画面選択ボタン）を押します。

「クリアしました」と表示され、原稿が消去されます。

確認終了:[戻る]

0005	19:00	[*001]	NTT営業	送信	待機中
0003	--:--	[01]	NTT開発	送信	

『いいえ』（画面選択ボタン）を押すと手順3に戻ります。
続けて他の原稿を消去するときは手順3～4の操作を繰り返します。

5

「ストップ」ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

☎ =

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 ブック送信



ワンポイント・・・・・・・・

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。



お知らせ

- 親展ボックスやポーリングボックス、汎用ボックスなどの送信予約の原稿は、[通信状況/確認] ボタンを押して消去することもできます。(P59)



受信した原稿を転送するには

転送とは

受信した原稿を、自動的に他のファクスに転送できます。転送機能を活用すると、オフィスが無人になる夜間や休日に、受信原稿を自宅や外出先に転送することができます。

受信原稿の転送を行う時間帯は、あらかじめ転送ボックスに登録しておくことができます。また、登録した時間帯以外でも、一時的に転送機能をONにすることができます。(●P169)

転送の準備をする

転送機能を利用するには、あらかじめ転送ボックスに以下の内容を登録しておきます。(●P163)

1. ボックス名称 (最大全角12文字)
任意の名称を登録します。
2. 宛先 (最大200件)
受信原稿の転送先を登録します。ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルあわせて最大200件まで登録できます。
3. 暗証番号 (4桁の数字)
転送ボックスの登録 / 設定内容を保護したい場合に登録します。暗証番号を登録すると、転送ボックスを削除したり内容を変更したりするときに、入力が必要になります。
4. 指示元制限
特定の相手先 (指示元) からの原稿だけを転送したいときには「する」に設定します。「する」に設定するときは、指示元の登録が必要です。指示元は、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルあわせて最大200件まで登録できます。指示元制限をすると、登録されていない相手先からの原稿は転送されなくなります。
お買い求めのときは、「しない (すべての受信原稿を転送する)」に設定されています。
5. 時間指定 (ON時刻 / OFF時刻)
転送機能を起動する時刻と、解除する時刻を指定します。ON / OFFを毎日同じ時刻にする方法と、曜日別にON / OFF時刻を指定する方法があります。曜日別に指定する場合は、各曜日ごとに最大5時刻、1週間で最大35時刻の設定が可能です。
お買い求めのときは、ON時刻、OFF時刻ともに「毎日」に設定されています。
6. 受信原稿プリント
受信原稿を本装置でもプリントするかどうかを設定します。「する」に設定するときは、プリントする部数 (01 ~ 99枚) を設定することができます。
お買い求めのときは、「しない」に設定されています。



お知らせ

- 親展ボックス (●P205) 中継ボックス (●P215) 汎用ボックス (●P224) で受信した原稿は転送できません。

転送ボックスを設定する

転送機能を利用する前に、転送ボックスを設定します。
転送ボックスは1個しか設定できません。

1

【ファンクション】ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2

【▼】または【▲】ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

3

【▼】または【▲】ボタンを押して「転送ボックス」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	07 汎用ボックス
	08 定時ボースリング設定
	09 ボースリングボックス
	10 転送ボックス
	11 ページ回数設定
登録モード	



項目を選んでください	01 作成
	02 変更
	03 取消
転送ボックス	

次ページに続きます。



受信した原稿を転送するには

4 **[セット] ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 ボックス名称
□□□□	02 宛先
作成	03 暗証番号
	04 指示元制限
	05 時間指定

すでに転送ボックスが設定されているときは、「すでに作成されています」と表示されます。パラメータリスト (●P258、261) で設定内容を確認してください。設定内容は変更することができます。(●P167)

5 **[セット] ボタンを押します。**

ボックス名称を入力してください(全角12文字まで)			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

転送ボックス名称(最大全角12文字)を入力し、[セット] ボタンを押します。

例: 「NTT転送」

ボックス名称を入力してください(全角12文字まで)			
NTT転送			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

6 ひらがな / 漢字 / 全角記号は最大12文字、カタカナ / 英数字 / 半角記号は最大24文字まで入力できます。文字を入力するには (●P34)



「登録しました」と表示されたあと、次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 ボックス名称
□□□□	02 宛先
作成	03 暗証番号
	04 指示元制限
	05 時間指定

7

[セット] ボタンを押します。

相手先を指定してください	
No. [----]	
ワンタッチ/短縮ダイヤル	

8

転送先を、ワンタッチダイヤル (P50) / 短縮ダイヤル (P52) で指定し、[セット] ボタンを押します。

例：ワンタッチダイヤル1

相手先を指定してください	01 NTT開発
No. [----]	
ワンタッチ/短縮ダイヤル	

複数の転送先 (最大200件) を指定することもできます。
(P139)

ダイヤル入力で転送先を指定することはできません。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して指定し直します。



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 ボックス名称
	02 宛先
	03 暗証番号
	04 指示元制限
	05 時間指定
作成	

9

[▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

次ページに続きます。



受信した原稿を転送するには

各項目を設定します。

暗証番号は登録しなくてもかまいません。

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

暗証番号

暗証番号(0000~9999)を入力します。

例:「1153」

4桁の暗証番号を入力してください(0000~9999)	
1153	◀ ▶

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。

[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

指示元制限

[▼] または [▲] ボタンを押して、指示元制限をするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例: する

項目を選んでください	01 しない 02 する ▼
□□□□□□ 指示元制限	

「しない」を反転表示させた場合は、指示元制限の設定が完了します。



指示元(最大200件)を指定します。

例: 短縮ダイヤル001

相手先を指定してください	*001 NTT営業 ▼
No. [----]	
ワンタッチ/短縮ダイヤル	

指示元は、ワンタッチダイヤル(●P50) / 短縮ダイヤル(●P52)で指定します。ダイヤル入力での指示元を指定することはできません。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して指定し直します。



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 転送ボックスの暗証番号とは
転送ボックスの設定内容を保護するための管理用の暗証番号です。暗証番号を登録すると、転送機能をON/OFFしたり、転送ボックスの設定内容を変更/削除するとき、入力が必要となります。
- ON時刻 / OFF時刻を設定するときは
ON時刻 / OFF時刻の登録番号は1~5まであり、1日のうち最大5時刻までON時刻 / OFF時刻を指定できます。登録番号は[▼] または [▲] ボタンで選択できます。複数の時刻を指定するときは、登録番号を反転表示させて[セット] ボタンを押し、ON時刻 / OFF時刻の入力操作を繰り返してください。
また、複数の曜日に転送を設定する場合は、曜日の選択とON時刻 / OFF時刻の指定を繰り返してください。
すべての時刻を登録する必要はありません。
- 指示元制限とは
特定の相手先(指示元)からの原稿だけを転送するように制限することができます。指示元制限をすると、登録されていない相手先からの原稿は転送されません。

時間指定

[▼] または [▲] ボタンを押して、転送機能を開始する時刻を設定する場合は「ON時刻」、終了する時刻を設定する場合は「OFF時刻」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 ON時刻 02 OFF時刻
時間指定	



[▼] または [▲] ボタンを押して、転送機能を毎日設定する場合は「毎日」、曜日を決めて設定する場合は「曜日指定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 毎日 02 曜日指定
ON時刻	

「曜日指定」を反転表示させた場合は、[▼] または [▲] ボタンを押して曜日を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 SUN 02 MON 03 TUE 04 WED 05 THU
曜日指定	



「...」の表示を確認したあと、[セット] ボタンを押します。

登録する番号を選んでください	01 --:-- 02 --:-- 03 --:-- 04 --:-- 05 --:--
SUN	



転送機能を開始または終了する時刻（最大5時刻）を24時間制で入力します。

例：日曜日の午後8時30分

SUN	20:30
-----	-------

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



ワンポイント

- 転送ボックスの設定内容を変更するには
手順1～3の操作（P163）をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「変更」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット] ボタンを押す
[▼] または [▲] ボタンを押して変更する項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
手順10を参照して、各項目の設定内容を変更する
 - 宛先を追加するときは、追加する宛先をワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルで指定します。
 - 指示元制限の相手を追加するときは、「する」を反転表示させて[セット] ボタンを押したあと、追加する相手をワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルで指定します。
 - 登録済みの宛先を削除するときは、[▼] または [▲] ボタンを押して削除する宛先を反転表示させ、[クリア] ボタンを押します。
 - 登録済みの指示元制限の相手を削除するときは、「する」を反転表示させて[セット] ボタンを押したあと、[▼] または [▲] ボタンを押して削除する相手を反転表示させ、[クリア] ボタンを押します。
 - 管理用の暗証番号を変更するときは、現在の暗証番号を入力して（暗証番号は表示されません）[セット] ボタンを押したあと、新しい暗証番号を入力します。
 - 管理用の暗証番号を削除するときは、現在の暗証番号を入力したあと（暗証番号は表示されません）[セット] ボタンを2回押します。
- 各項目を変更したあと、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

受信した原稿を転送するには

受信原稿プリント

[▼] または [▲] ボタンを押して、受信原稿を本装置でもプリントするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：する

項目を選んでください	01 しない 02 する
受信原稿プリント	

「しない」を反転表示させた場合は、受信原稿プリントの設定が完了します。



プリント部数（01～99枚）を入力します。

例：「02」

受信プリント部数	02枚	-	+
----------	-----	---	---

『-』または『+』（画面選択ボタン）を押してプリント部数を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。
1部しかプリントしないときは、設定する必要はありません。

11 続いて他の項目を設定するときは、手順9～10を繰り返します。

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24 FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF



ワンポイント

- 転送ボックスを削除するには
手順1～3の操作（P163）をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「取消」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す
- 転送機能の時間指定のON時刻になると転送機能が自動的にはたらき、ディスプレイに次のように表示されます。

自動受信	転送	'98 04/24 FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF

OFF時刻になると、転送機能は自動的に解除されます。



お知らせ

- 転送の対象となるのは、通常の受信原稿です。親展ボックス（P205）、中継ボックス（P215）、汎用ボックス（P224）で受信した原稿は、転送の対象にはなりません。
- 手順10の 時間指定 で、ON時刻を「毎日」に指定したときは、「曜日指定」に指定することはできません。「曜日指定」に指定したときは、「毎日」に指定することはできません。「毎日」「曜日指定」の両方に時刻を設定したときは、あとに指定した内容で登録されます（OFF時刻の場合も同じです）。
- 手順10の 時間指定 で、ON時刻を「毎日」に指定しても、OFF時刻を「曜日指定」に指定できます。ON時刻を「曜日指定」に指定しても、OFF時刻を「毎日」に指定できます。

お願い

- 暗証番号を登録したときは、忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れてしまうと、転送機能をON/OFFしたり、転送ボックスの設定内容を変更/削除したりすることができなくなるので注意してください。

指定時間外に転送をON / OFFする

あらかじめ転送ボックスに登録しておいた時間帯以外でも、[転送] ボタンで転送機能を設定したり解除することができます。転送ボックスに暗証番号を登録している場合（●P163）は、転送をON / OFFするときに暗証番号の入力が必要です。

1

 **ボタンを押します。**

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[転送] ボタンを押します。

自動受信	転送	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

暗証番号を登録しているときは、4桁の暗証番号を入力し、[セット] ボタンを押してください（暗証番号は表示されません）。



お知らせ

- 転送ボックスが設定されていないときは、[転送] ボタンは機能しません。
また、転送ボックスが設定されていても、宛先（転送先）が登録されていないと、[転送] ボタンは機能しません。
- [転送] ボタンで転送をONにした場合でも、転送ボックスで設定したOFF時刻（●P163）になると、自動的に転送がOFFになります。
- エラー原稿クリアを「しない」に設定しているとき（●P300、301）に、転送がうまくいかなかった場合は、原稿はメモリに蓄積されます。メモリに蓄積された原稿はプリントすることができます。お買い求めのときは、エラー原稿クリアを「する」に設定されています。

ファクス番号と電話番号を使い分けるには

(ダイヤルイン)

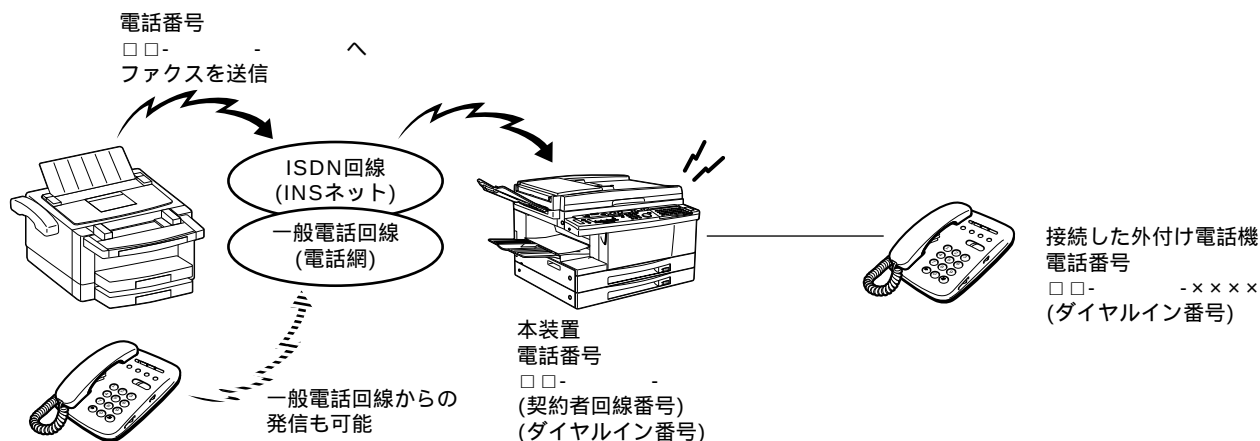
ダイヤルインとは

NTTのダイヤルイン（有料）をご契約になると、契約者回線番号とは別に複数の追加番号（ダイヤルイン番号）を持つことができます。相手の方がダイヤルイン番号に電話をかけてきたとき、INSネットから本装置にダイヤルイン番号が通知され、着信する通信機器を特定することができます。また、ダイヤルインは相手の方がISDN回線の場合でも、一般電話回線（電話網）の場合でも利用することができます。

ISDN回線では、1回線に複数の通信機器を接続することができます。ダイヤルインの利用方法には、以下の2つがあります。

本装置と外付け電話機を呼び分ける

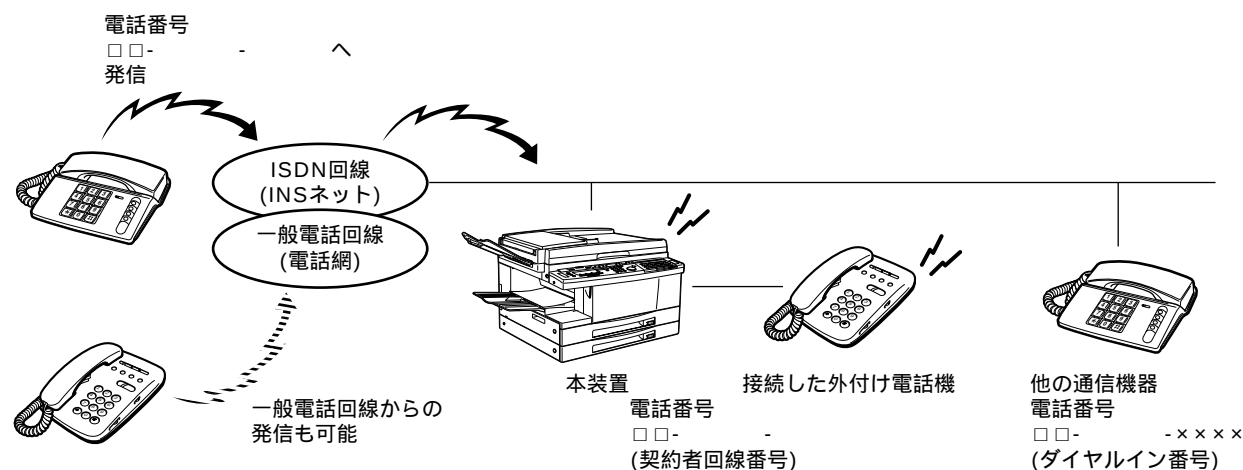
本装置でダイヤルインを「使用する」に設定します（●P172）。ダイヤルイン番号を発信元番号に登録し、ダイヤルイン番号ごとに受信モードを選択します（●P174）。



同じ回線に接続されている他の通信機器に別のダイヤルイン番号を付与することで、他の通信機器と本装置、または外付け電話機を呼び分けることもできます。

同じ回線に接続された本装置（接続された外付け電話機を含みます）と他の通信機器を呼び分ける

本装置でダイヤルインを「使用しない」に設定し（●P172）、着アドレスチェックを「する」に設定します。本装置に登録した発信元番号（●P28）に着信があったときは、設定されたモードに従って着信します。お買い求めのときは、着アドレスチェックは「しない」に設定されています。



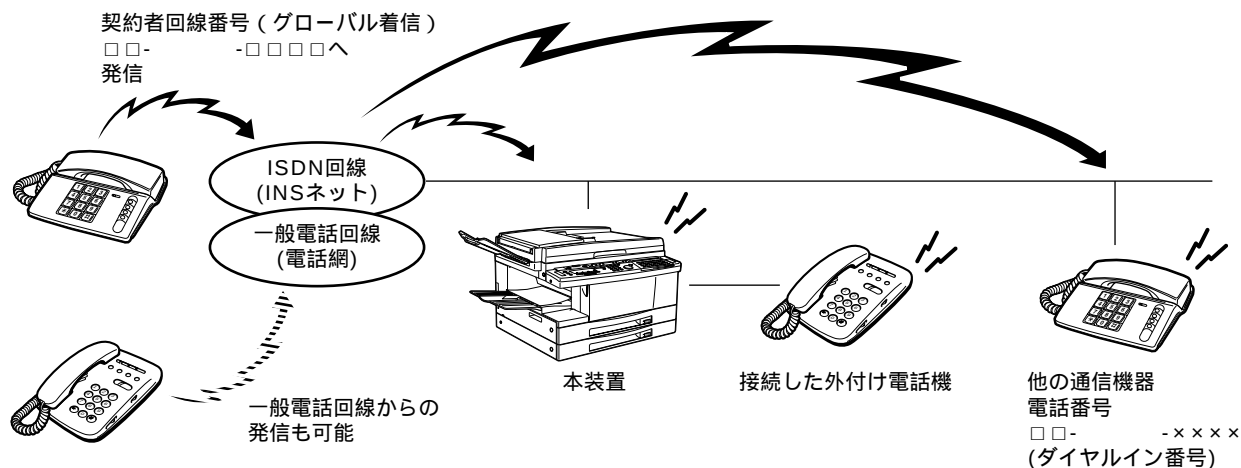
お知らせ

- 本装置でダイヤルインを「使用する」に設定しているときは、待機画面に受信モード（●P62）は表示されません。
- 本装置でグローバル着信を「する」に設定しているとき、G4ファクスからグローバル着信があると、本装置の受信モードの設定にかかわらず自動受信モードで着信します。
- 本装置と相手の双方がNTTの「INSネット64」などのISDN回線に接続している場合は、サブアドレスを指定することによって特定の機器を呼び出すこともできます。（●P177）
- ダイヤルイン、グローバル着信について、詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

グローバル着信とは

グローバル着信の契約をしている場合は、本装置でのグローバル着信の設定によって、相手先が契約者回線番号にかけてきたときの着信方法を選択することができます。

本装置でダイヤルインを「使用する」に設定すると、グローバル着信の設定画面が表示されます。(●P172) グローバル着信を利用すると、相手の方が契約者回線番号に電話をかけてきたとき、INSネットから本装置に契約者回線番号が通知されません。その場合に着信するかどうかは、本装置でグローバル着信の設定をします。



一般的に、契約者回線番号への着信時 (グローバル着信時) には、接続されたすべての通信機器が鳴動します。本装置ではグローバル着信の設定によって、本装置が自動応答 (FAX専用) したり、外付け電話機を呼び出したり (電話優先、TEL専用) することができます。また、着信しないように設定することもできます。

● グローバル着信を「する」に設定したとき

相手先がダイヤルイン番号にかけてきたときは、あらかじめ設定された着信先を呼び出します。契約者回線番号 (グローバル着信) にかけてきたときは、発信元番号「01」に設定された受信モード (●P174) に従って着信します。グローバル着信時の受信モードは、発信者番号通知 (●P314、315) を「する」に設定したときに表示されるFAX 発信者番号で変更することができます。お買い求めのときは、発信元番号 (●P174) の「01」に設定されています。

● グローバル着信を「しない」に設定したとき

相手先がダイヤルイン番号にかけてきたときは、あらかじめ設定された着信先を呼び出します。契約者回線番号 (グローバル着信) でかけてきたときは着信しません。本装置と同じ回線に他の通信機器が接続されているときは、その通信機器に着信します。ただし、通信機器によっては設定が必要となります。

■ ダイヤルイン番号を使って通信するには

ダイヤルインを「使用する」に設定します。(●P172)
グローバル着信をする / しないを設定できます。

発信元番号にダイヤルイン番号と受信モードを登録します。(●P174)

3つ (01 ~ 03) の発信元番号を登録することができ、それぞれにダイヤルイン番号と受信モードを割り当てることができます。

たとえば、本装置用 (01) / 接続した外付け電話機用 (02) のそれぞれのダイヤルイン番号と受信モード (ファクスなら「FAX専用」、電話専用なら「TEL専用」など) を登録します。

登録したダイヤルイン番号を相手先に知らせます。

本装置を呼び出すときは本装置用の番号で、外付け電話機を呼び出すときは外付け電話機用の番号で、という具合にそれぞれの番号を指定して呼び出してもらいます。

ファクス番号と電話番号を使い分けるには (ダイヤルイン)

ダイヤルインを設定する

ダイヤルインを「使用する」に設定します。また、グローバル着信をするかどうか設定することができます。お買い求めのときはダイヤルインは「使用しない」、グローバル着信は「する」に設定されています。そのあと、発信元番号にダイヤルイン番号を登録してください。(▶P174)

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

2 [セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 自動受信 02 電話優先詳細設定 03 ダイヤルイン 04 サブアドレス着信
受信モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「ダイヤルイン」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

3

項目を選んでください	01 自動受信 02 電話優先詳細設定 03 ダイヤルイン 04 サブアドレス着信
受信モード	



項目を選んでください	01 使用する 02 使用しない
ダイヤルイン	

4

[▼] または [▲] ボタンを押して「使用する」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 使用する 02 使用しない
ダイヤル	



項目を選んでください	01 する 02 しない
グローバル着信	

5

[▼] または [▲] ボタンを押してグローバル着信をするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 する 02 しない
グローバル着信	



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 自動受信 02 電話優先詳細設定 03 ダイヤル 04 サブアドレス着信
受信モード	

6

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎ =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

ファクス番号と電話番号を使い分けるには

(ダイヤルイン)

発信元番号にダイヤルイン番号を登録する

1

【ファンクション】ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

2

【▼】または【▲】ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

3

【▼】または【▲】ボタンを押して「発信元番号」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

電話番号を選択してください	01 未登録です 02 未登録です 03 未登録です
発信元番号	

4

番号（01～03）を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

例：01

電話番号を選択してください	01 未登録です 02 未登録です 03 未登録です
発信元番号	

電話番号入力	削除
--------	----

本装置のダイヤルイン番号（最大20桁）を
入力し、[セット]ボタンを押します。

例：「3740 7952」

☎ 電話番号入力	
3740 7952	削除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して
1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して
最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、受信モードの選択画面
になります。

項目を選んでください	01 FAX専用
□□□□	02 電話優先
受信モード	03 TEL専用

[▼]または[▲]ボタンを押して本装置の受
信モードを反転表示させ、[セット]ボタンを
押します。

例：FAX専用

項目を選んでください	01 FAX専用
□□□□	02 電話優先
受信モード	03 TEL専用



次の番号が反転表示されます。

電話番号を選択してください	01 3740 7952
□□□	02 未登録です
発信元番号	03 未登録です

続けて他の番号を登録するときは、手順4～6の操作を繰り
返します。

次ページに続きます。

(ダイヤルイン)

例：02

電話番号を選択してください	01 3740 7952
	02 未登録です
	03 未登録です
〇〇〇	
発信元番号	



電話番号入力	削除
---	---

例：「3740 7953」

電話番号入力 3740 7953	削除
--	---------------

例：TEL専用

項目を選んでください	01 FAX専用 02 電話優先 03 TEL専用 ▾
□□□□ 受信モード	



電話番号を選択してください 000 発信元番号	01 3740 7952 02 3740 7953 03 未登録です
--	---

待機画面に戻ります。



ワンポイント・・・・・・・・

- 操作を中止するには
「ストップ」ボタンを押します。



お知らせ

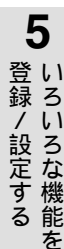
- 手順6で、本装置の受信モードを「TEL専用」に設定すると、外付け電話機が使用中のときは、本装置への着信は拒否されます。

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート／リストをプリントする



6 ご参考に



- 本装置が、複数の装置とバス接続されているときは、各装置に割り当てられたサブアドレス以外の呼び出しを受け付けないように各装置に設定しておいてください。



サブアドレスを設定して通信するには

サブアドレス着信を設定する

本装置がサブアドレスを使って呼び出されるようにするには、サブアドレス着信を「使用する」に設定します。お買い求めのときは「使用しない」に設定されています。そのあと、発信元番号にサブアドレスを登録してください。(▶P180)

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定
	03 ダイヤル
	04 サブアドレス着信
受信モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「サブアドレス着信」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

3

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定
	03 ダイヤル
	04 サブアドレス着信
受信モード	



項目を選んでください	01 使用する
	02 使用しない
サブアドレス着信	

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

4

[▼] または [▲] ボタンを押して「使用する」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 使用する 02 使用しない
サブアドレス着信	



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

5

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

送信できます		'98 04/24	
=		FRI 15:30	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。



サブアドレスを設定して通信するには

発信元番号にサブアドレスを登録する

1

「発信元番号にダイヤルイン番号を登録する」の手順1～2の操作（P174）をします。

項目を選んでください	01 時計セット
□□	02 発信元番号
登録モード	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス

2

[▼]または[▲]ボタンを押して「発信元番号」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 時計セット
□□	02 発信元番号
登録モード	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス



電話番号入力
□□□□□□□□
削除

3

本装置のファクス番号（最大20桁）を入力し、[セット]ボタンを押します。

例：「03 3740 7951」

電話番号入力
03 3740 7951
削除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、サブアドレス選択のディスプレイになります。

サブアドレスを選択してください	01 未登録です
□□□□	02 未登録です
サブアドレス選択	03 未登録です

4

[▼]または[▲]ボタンを押して番号(01～03)を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

例：01

サブアドレスを選択してください	01 未登録です
	02 未登録です
	03 未登録です
□□□□	
サブアドレス選択	



サブアドレス入力
□□□□
削除

本装置のサブアドレス(最大19桁)を入力し、[セット]ボタンを押します。

例：「1」

サブアドレス入力
1
削除

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、受信モードの選択画面になります。

項目を選んでください	01 FAX専用
	02 電話優先
	03 TEL専用
□□□□□□	
受信モード	

次ページに続きます。

5



サブアドレスを設定して通信するには

6

[▼] または [▲] ボタンを押して本装置の受信モードを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：FAX専用

項目を選んでください	01 FAX専用
□□□□□□	02 電話優先
受信モード	03 TEL専用



次の番号が反転表示されます。

サブアドレスを選択してください	01 1
□□□□	02 未登録です
サブアドレス選択	03 未登録です

7

[▼] または [▲] ボタンを押して外付け電話機のサブアドレス番号（01～03）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：サブアドレス02

サブアドレスを選択してください	01 1
□□□□	02 未登録です
サブアドレス選択	03 未登録です



サブアドレス入力	
削除	

外付け電話機のサブアドレス（最大19桁）
を入力し、[セット]ボタンを押します。

例：「3」

サポアドレス入力	
3	削除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。〔クリア〕ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、受信モードの選択画面になります。

項目を選んでください	01 FAX専用 02 電話優先 03 TEL専用
□□□□□□ 受信E-ト	

[▼]または[▲]ボタンを押して外付け電話機の受信モードを反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

例：TEL専用

項目を選んでください	01 FAX専用
	02 電話優先
	03 TEL専用
受信モード	



次の番号が反転表示されます。

ガブアド⁴を選択してください □□□□ ガブアド⁴選択	01 1 02 3 03 未登録です
-----------------------------------	---------------------------------

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

送信できます '98 04/24
FRI 15:30

 =

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信



ワンポイント・・・・・・・・

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。



お知らせ

- 手順7で、本装置の受信モードを「TEL専用」に設定すると、外付け電話機が使用中のときは、本装置への着信は拒否されます。
- 相手先からサブアドレスが指定されないときは、01の受信モードに従って着信します。

サブアドレスを指定して送信する

ファクス ボタンを押します。

2

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには(●P42)
原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信する
には」の手順3~4の操作(●P47)をします。

3

例：「0335095538」

'98 04/24

 = 0335095538

サ・アドレ Eネット 削除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

4

例：サブアドレス「1111」を指定する場合

'98 04/24

☎=0335095538/1111

サブアドレス Fネット 削除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

5

原稿がメモリに読み込まれます。

送信			
読込中 P.001		受付番号 0030	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、「本などの原稿を送信するには」の手順7～8の操作（●P49）を参照してください。

読み込まれた原稿は、自動的に送信されます。



ワンポイント・・・・・・・・

- 送信を中止するには (●P58)
- 発信元名称を使って送信するには
 - ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットしたとき
手順2のあとで、発信元名称を選択します。(●P33)
 - 原稿台ガラスに原稿をセットしたとき
手順4のあとで、発信元名称を選択します。(●P33)
- ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルで相手先を指定するには
電話番号を登録するときに、あわせてサブアドレスを登録しておく必要があります。
(●P124、128)
手順1～2の操作をする
サブアドレスを登録したワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで相手先を指定する
手順5の操作をする



お知らせ

- お買い求めのときは、サブアドレス発信を「使用する」、サブアドレス指定ボタンは「*ボタンを使用」に設定されています。
- 外付け電話機からサブアドレスを指定して電話をかける場合は、**(*)** ボタンを使用してください。(●P74)
- サブアドレス発信をしないようにしたり、サブアドレス指定ボタンを使用しないように変更することもできます。(●P312、313)

Fコードやパスワードを指定して特定の相手先と通信するには

ITU-T規格のFコード/パスワードとは

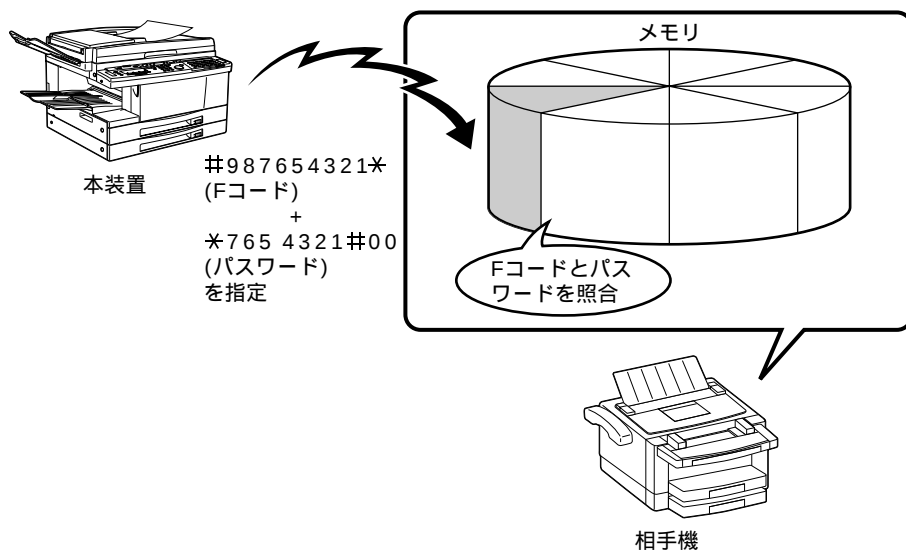
本装置では、原稿を送信するときに、ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）の規格に従ったFコードやパスワードを指定して、特定の相手先と通信することができます。

- ・Fコード（最大20桁）：ファクスのメモリ内の特定の場所を示す番号
- ・パスワード（最大20桁）：Fコードが示す場所への通信を制限するための暗証番号

Fコード/パスワードは、数字、＊、＃、スペースから構成されます。

通信を行うときにFコードとパスワードを指定して、一致すれば相手先のファクスのメモリ内の特定の場所へ原稿を送信したり、その場所に蓄積された原稿を引き出したりすることができます。Fコードは銀行の口座番号、パスワードはキャッシュカードの暗証番号にたとえることができます。

Fコード送信は、Fコード対応のファクスどうしであれば、メーカーや機種を問わずに行うことができます。



Fコード/パスワードを利用した機能

本装置では、ポーリングボックス（●P189）、親展ボックス（●P205）、中継ボックス（●P215）、汎用ボックス（●P224）などの各種メモリボックスを識別するためにFコードやパスワードが使用されています。各メモリボックスを利用した通信（ポーリング通信、親展通信など）は、ITU-T規格のFコードやパスワード対応のファクスどうしであれば、メーカーや機種を問わずに行うことができます。

また、本装置からFコード送信した原稿が相手機でどのように扱われるかは、相手機の設定内容によって変わります。たとえば、本装置の親展ボックスに相当するメモリ内の場所をFコードで指定した場合は、親展文書として相手機のメモリに蓄積されます。



お知らせ

- ITU-T規格のFコードやパスワードは今後さまざまな使い方が想定されます。このため、将来的な使われ方によっては一部機能が制限されることも考えられます。あらかじめご了承ください。

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に



Fコードやパスワードを指定して特定の相手先と通信するには

Fコード送信をする

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信		送信できます		'98 04/24	
				FRI 15:30	
☎ =					
標準	ふつう	文字	ADF		
送信画質 ^	読取濃度 ^	原稿の種類 ^	ブック送信 ^		

2 **ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（☛P40、41）**

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（☛P42）
原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順3～4の操作（☛P47）をします。

3 **相手先の電話番号を入力します。**

例：「0335095538」

自動受信		'98 04/24	
☎ = 0335095538			
サフアドレス	Fネット	削除	

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先は、ワンタッチダイヤル（☛P50）/短縮ダイヤル（☛P52）で指定することもできます。

4

ワンタッチパネルを3枚開いて、[Fコード]
ボタンを押します。

Fコード（最大20桁）を入力し、[セット]
ボタンを押します。

例：「 * 123456789# 」

5

数字、*、#、スペースが入力できます。ただし、最初に
スペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して
1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押
して最初から入力し直すこともできます。



6

ワンタッチパネルを3枚開いて、[パスワード]
ボタンを押します。

次ページに続きます。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 送信を中止するには (●P58)
- サブアドレスを指定して送信するには
手順3で電話番号を入力したあと、『サブア
ドレス』（画面選択ボタン）を押してから
サブアドレスを入力します。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]
ボタンを押します。
- メモリに読み込まれた送信原稿は
送信終了後、自動的に消去されます。
- 時刻を指定してFコード送信するには
手順1～3の操作をする
ワンタッチパネルを3枚開いて、[タイマ
通信] ボタンを押す
時刻を入力し、[セット] ボタンを押す
手順4～8の操作をする
- 発信元名称の選択画面が表示されたときは
発信元名称を登録しているとき (●P32)
は、手順8で [スタート] ボタンを押すと
発信元名称の選択画面が表示されます。
[▼] または [▲] ボタンを押して使用する
発信元名称を反転表示させ、[セット] ボ
タンを押します。

7

削除

自動受信宛先数: 1 '98 04/24
FRI 15:30
☎ = 0335095538
標準 ふつう 文字 ADF
送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信

8

送信			
読込中 P.001		受付番号0020	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

送信			
宛先		=0335095538	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

STOP お願い

- 188



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

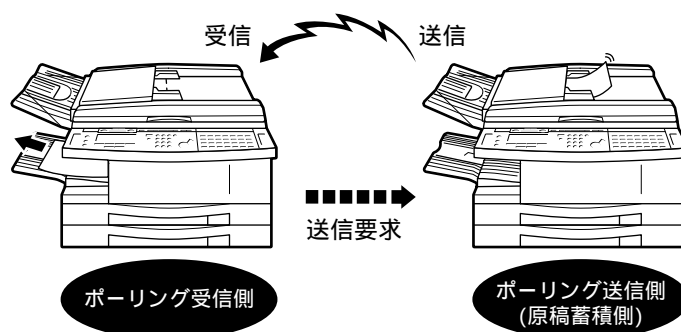
4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

ポーリング通信とは

送信側があらかじめセットしておいた原稿を、受信側の操作で送信させることができます。ポーリング通信では、通信料金は受信側の負担となります。



本装置のポーリング通信では、Fコードを使用します。
また、機密を守るために、送信パスワードを使って送信先を制限することができます。

ポーリング通信の準備をする

■ ポーリング送信をするとき

ポーリングボックスを設定します。(●P190)



ポーリングボックスに登録したFコードを相手先（受信側）に連絡しておきます。
送信パスワードを登録している場合は、送信パスワードも連絡しておいてください。



「ポーリング送信をセットする」の操作をします。(●P194)

■ ポーリング受信をするとき

相手先（送信側）のポーリングボックスに登録されたFコードを確認しておきます。
相手先が送信パスワードを登録している場合は、送信パスワードも確認しておいてください。



「ポーリング受信をする」の操作をします。(●P198)
定時ポーリング受信をするときは、「定時ポーリングボックスを設定する」の操作をします。(●P201)



ワンポイント

- Fコードをサポートしていないファクスにポーリング送信する場合は
ボックスNo.「00」を設定します。

定時ポーリング受信

定時ポーリングボックスに設定しておいた時刻に自動的にポーリング受信します。(●P201) 同じ時刻に定期的に原稿をポーリング受信する場合に便利です。また、遠くの地域からポーリング受信する場合に、低料金の深夜の時間帯をセットすると料金の節約になります。



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

ポーリングボックスを設定する

ポーリング送信をする前に、ポーリングボックスを設定します。ポーリングボックスは、転送ボックス（●P163）、定時ポーリングボックス（●P201）、親展ボックス（●P206）、中継ボックス（●P219）、汎用ボックス（●P226）とあわせて70個まで設定できます。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード 02 デバイス登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 受信モード 02 デバイス登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「ポーリングボックス」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

3

項目を選んでください	07 汎用ボックス 08 定時ポーリング設定 09 ポーリングボックス 10 転送ボックス 11 ヘルプ回数設定
登録モード	



項目を選んでください	01 作成 02 変更 03 取消
ポーリングボックス	

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

4 [セット] ボタンを押します。

ポーリングボックスNo. (00～99) を入力し、[セット] ボタンを押します。

例: 「05」

『-』または『+』(画面選択ボタン)を押してポーリングボックスNo.を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。



すでに設定されているポーリングボックスNo.を指定したときは、「すでに作成されています」と表示されます。パラメータリスト (P258、261) で設定内容を確認してください。設定内容は変更することができます。(P192)

6 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

次ページに続きます。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- ポーリングボックスの暗証番号とは
ポーリングボックスの設定内容を保護するための管理用の暗証番号です。暗証番号を登録すると、ポーリングボックスの設定内容を変更/削除するときに、入力が必要となります。
- Fコードをサポートしていないファクスに
ポーリング送信する場合や、相手先を選ばず無条件にポーリング送信する場合は
ボックスNo.「00」を設定します。



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

各項目を設定します。

暗証番号 / 送信パスワードは、登録しなくてもかまいません。
各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

ボックス名称

ポーリングボックス名称（最大全角12文字）を入力します。

例：「NTT ポーリング」

ボックス名称を入力してください(全角12文字まで)

NTT ポーリング

追加
入力モード

ひらがな / 漢字 / 全角記号は最大12文字、カタカナ / 英数字 / 半角記号は最大24文字まで入力できます。

文字を入力するには（●P34）

暗証番号

暗証番号（0000～9999）を入力します。

例：「1150」

4桁の暗証番号を入力してください(0000～9999)

1150

◀ ▶

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。
[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

Fコード

Fコード（最大20桁）を入力します。

例：「*0987654321#」

Fコード

*0987654321#

削除

他のポーリングボックス / 親展ボックス / 中継ボックス / 汎用ボックスに登録済みのFコードは使用できません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



ワンポイント

- Fコードや送信パスワードに登録できる文字は
数字、＊、＃、スペースが入力できます。
ただし、最初にスペースを入力することはできません。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース] ボタンを押します。
- 手順7の 送信後の原稿クリア で「しない」 / 「する」を選択したときは
「しない」を選択したとき：
ポーリング送信が終了しても原稿は消去されず、ポーリングボックス内に残ります。複数の相手先に送信したいときに選択します。
ポーリングボックス内の原稿は、あとで消去することができます。（●P160）
「する」を選択したとき：
ポーリング送信が終了すると、ポーリングボックス内から原稿は消去されます。
ポーリングボックス内の原稿は、原稿リストで確認できます。（●P154）
- ポーリングボックスの設定内容を変更するには
手順1～3の操作（●P190）をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「変更」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
変更するポーリングボックスNo.を入力し、[セット] ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット] ボタンを押す
[▼] または [▲] ボタンを押して変更する項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
手順7を参照して、各項目の設定内容を変更する
 - 管理用の暗証番号を変更するときは、現在の暗証番号を入力して（暗証番号は表示されません）[セット] ボタンを押したあと、新しい暗証番号を入力します。
 - 管理用の暗証番号を削除するときは、現在の暗証番号を入力したあと（暗証番号は表示されません）[セット] ボタンを2回押します。
 各項目を変更したあと、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

7

送信パスワード

送信パスワード（最大20桁）を入力します。

例：「#0987654321*」

送信パスワード	
#0987654321*	削除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

送信後の原稿クリア

[▼] または [▲] ボタンを押して、複数の相手先に送信したい場合は「しない」（送信後も原稿をポーリングボックス内に残しておく）それ以外の場合は、「する」（送信終了後に原稿が消去される）を反転表示させます。

項目を選んでください	01 しない 02 する
送信後の原稿クリア	

8

続けて他の項目を設定するときは、手順6～7を繰り返します。

ボックスNo.の入力画面が表示されたときは、手順5～8の操作を繰り返して他のポーリングボックスの設定をすることができます。

9

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



ワンポイント

- ポーリングボックスを削除するには
手順1～3の操作（P190）をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「取消」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
削除するポーリングボックスNo.を入力し、[セット] ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す
削除しようとしたポーリングボックスに原稿が蓄積されている場合は、「取消できません」と表示されます。ポーリングボックス内の原稿の送信が終了してから、または原稿をメモリから消去してから（P160）ポーリングボックスを削除してください。

STOP お願い

- 暗証番号を登録したときは、忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れてしまうと、ポーリングボックスの設定内容を変更/削除することができなくなるので注意してください。



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

ポーリング送信をセットする

原稿をメモリに蓄積させ、受信側の操作で自動的に送信できるようにします。

ポーリング送信をセットするには、ポーリングボックスをあらかじめ設定しておく必要があります。（●P190）

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎ =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質 ^	読取濃度 ^	原稿の種類 ^	ブック送信 ^

2

ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（●P40、41）

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（●P42）
原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順3～4の操作（●P47）をします。

3

ワンタッチパネルを3枚開いて、[ポーリング通信] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 ポーリング送信 02 ポーリング受信
ポーリング	

4

[セット] ボタンを押します。

Fコード 	削除
------------------------------	----

ボックスNo.が「00」の場合は手順6へ進みます。

ポーリングボックスのFコード（最大20桁）
を入力します。

例：「*0987654321#」

✖ Fコード

*0987654321#

削除

数字、*、#、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。〔クリア〕ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

〔セット〕ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれます。

ポ一リング 送信

読込中 P.001 受付番号5020

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、「本などの原稿を送信するには」の手順7～8の操作（▶P49）を参照してください。



 ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 手順6のあと発信元名称の選択画面が表示されたときは
発信元名称を登録しているとき(●P32)は、
ワンタッチダイヤル(●P50) / 短縮ダイヤル(●P52)で相手先を指定すると、手順6のあと発信元名称の選択画面が表示されます。ダイヤル入力で相手先を指定した場合は、手順6のあとで[セット] ボタンを押すと発信元名称の選択画面が表示されません。
- [▼] または [▲] ボタンを押して使用する
発信元名称を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
- スペース (空白) を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース] ボタンを押します。
- ポーリング送信をセットすると
通信相手がポーリング受信の操作をする
と、原稿が送信されます。送信が終了すると、
原稿はメモリから消去されます。原稿がメモリから消去されないように設定することもできます。(●P190)



 お知らせ

- 受付番号は、ポーリング送信のセットを解除するときに使用します。忘れないようにしてください。
- Fコードは、ポーリングボックスに登録されているものと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

ポーリング送信のセットを解除する

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
FRI 15:30			
☎ =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質 ^	読取濃度 ^	原稿の種類 ^	ブック送信 ^

2 ワンタッチパネルを3枚開いて、[メモリ内容確認] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 原稿リト
	02 リ-再送信
	03 原稿プ リト
	04 蓄積文書送信
	05 原稿列リ
メモリ内容確認	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「原稿クリア」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 原稿リト
	02 リ-再送信
	03 原稿プ リト
	04 蓄積文書送信
	05 原稿列リ
メモリ内容確認	



確認終了:[戻る]	
0009 22:00 0335095538	送信 待機中
0003 --:-- [01]NTT開発	送信
5005 19:00 [*001]NTT営業	送信 待機中

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

4 **[▼] または [▲] ボタンを押してポーリング
送信を解除したい原稿を反転表示させ、
[セット] ボタンを押します。**

確認終了:[戻る]			
0009	22:00	0335095538	送信 待機中
0003	--:--	[01]NTT開発	送信
5005	19:00	[*001]NTT営業	送信 待機中

受付番号は原稿リストで確認できます。(▶P154)



クリアしていいですか?	
はい	いいえ

暗証番号を登録しているときは、4桁の暗証番号を入力し、
[セット] ボタンを押してください(暗証番号は表示されま
せん)。

5 『はい』(画面選択ボタン)を押します。

「クリアしました」と表示され、ポーリング送信のセットが
解除されます。

確認終了:[戻る]			
0009	22:00	0335095538	送信 待機中
0003	--:--	[01]NTT開発	送信

6 **[ストップ] ボタンを押します。**

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎=			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

ポーリング受信をする

送信側にセットされた原稿を、本装置から操作して受信します。送信側がFコードや送信パスワードを登録しているファクスの場合は、送信側のFコード／送信パスワードを確認しておいてください。

1 **（ファクス） ボタンを押します。**

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎ =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質 ^	読取濃度 ^	原稿の種類	ブック送信 ^

2 **ワンタッチパネルを3枚開いて、[ポーリング通信] ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 ポーリング送信 ⇅
	02 ポーリング受信 ⇅
ポーリング	

3 **[▼] または [▲] ボタンを押して「ポーリング受信」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 ポーリング送信
	02 ポーリング受信 ⇅
ポーリング	



自動受信 宛先を入力してください		'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎ =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質 ^	読取濃度 ^	原稿の種類	ブック送信 ^

相手先の電話番号を入力します。

例：「0335095538」

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先は、ワンタッチダイヤル（●P50）/短縮ダイヤル（●P52）で指定することもできます。

複数の相手先（最大210件）を指定することもできます。（●P139）

相手先がFコードを登録していないときは手順7へ、Fコードも送信パスワードも登録していないときは手順9へ進みます。

ワンタッチパネルを3枚開いて、[Fコード]ボタンを押します。

相手先のFコード（最大20桁）を入力します。

例：「*24681357#」

数字、*、#、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先が送信パスワードを登録していないときは手順9へ進みます。

次ページに続きます。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ]ボタンを押します。
- 原稿の受信を中止するには（●P70）
- サブアドレスを指定してポーリング受信するには
手順4で電話番号を入力したあと、『サブアドレス』（画面選択ボタン）を押してからサブアドレスを入力します。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]ボタンを押します。



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

7

ワンタッチパネルを3枚開いて、[パスワード] ボタンを押します。

8

相手先の送信パスワード（最大20桁）を入力し、[セット] ボタンを押します。

例：「#24681357*」

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。
入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



9

[スタート] ボタンを押します。

相手先にダイヤルされ、受信が開始されます。



お知らせ

- 手順4で、ワンタッチダイヤル(●P50)/短縮ダイヤル(●P52)で相手先を指定した場合は、5秒以内に次の操作へ進んでください。約5秒経過すると、自動的に通信が開始され、Fコードやパスワードを指定できなくなってしまう(ダイヤルタイムアウト機能)。ダイヤルタイムアウト機能がはたらかないように設定を変更することもできます。(●P300、301)
- Fコードや送信パスワードは、相手機に登録されているものと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。

STOP お願い

- 本装置のFコードは、G4通信とG3通信で利用できますが、相手機がG4ファクスであってもG3通信モードでしかFコードやパスワードに対応していない場合があります。そのような相手にFコードやパスワードを利用して通信する場合は、必ずワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに相手先、Fコードとパスワード(●P264)、通信モード「G3」(●P268)を登録してご利用ください。登録したワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで相手先を指定しないと通信エラーとなります。

定時ポーリングボックスを設定する

定時ポーリング受信をする前に、定時ポーリングボックスを設定します。

定時ポーリングボックスは、転送ボックス（●P163）ポーリングボックス（●P190）親展ボックス（●P206）中継ボックス（●P219）汎用ボックス（●P226）とあわせて70個まで設定できます。

1

【ファンクション】ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤ登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

2

【▼】または【▲】ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤ登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

3

【▼】または【▲】ボタンを押して「定時ポーリング設定」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	04 発信元名称登録 05 親展ボックス 06 中継ボックス 07 汎用ボックス 08 定時ポーリング設定
登録モード	



項目を選んでください	01 作成 02 変更 03 取消
定時ポーリング設定	

次ページに続きます。



受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

4

〔セット〕ボタンを押します。

定時ポーリングのボックスNo.（00～99）を入力し、〔セット〕ボタンを押します。

例：「05」

『－』または『＋』（画面選択ボタン）を押してボックスNo.を指定することもできます。

間違えたときは、〔クリア〕ボタンを押して入力し直します。

5

すでに設定されている定時ポーリングのボックスNo.を指定したときは、「すでに作成されています」と表示されます。パラメータリスト（●P258、261）で設定内容を確認してください。

設定内容は変更することができます。（●P203）

6

〔▼〕または〔▲〕ボタンを押して設定項目を反転表示させ、〔セット〕ボタンを押します。

各項目を設定します。

暗証番号は登録しなくてもかまいません。

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

ボックス名称

定時ポーリングのボックス名称（最大全角12文字）を入力します。

例：「NTT定時ポーリング」

ひらがな / 漢字 / 全角記号は最大12文字、カタカナ / 英数字 / 半角記号は最大24文字まで入力できます。

文字を入力するには(●P34)

暗証番号

暗証番号(0000~9999)を入力します。

例：「1151」

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

宛先

定時ポーリングの相手先(最大200件)を指定します。

例：ワンタッチダイヤル1

相手先は、ワンタッチダイヤル(●P50) / 短縮ダイヤル(●P52)で指定します。ダイヤル入力で相手先を指定することはできません。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して指定し直します。

次ページに続きます。



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 原稿の受信を中止するには(●P70)
- 定時ポーリングボックスの暗証番号とは
定時ポーリングボックスの設定内容を保護するための管理用の暗証番号です。暗証番号を登録すると、定時ポーリングボックスの設定内容を変更 / 削除するときに、入力が必要となります。
- 開始時刻を設定するときは
開始時刻の登録番号は1~5まであり、1日のうち最大5時刻まで開始時刻を指定できます。登録番号は[▼]または[▲]ボタンで選択できます。複数の時刻を指定するときは、登録番号を反転表示させて[セット] ボタンを押し、開始時刻の入力操作を繰り返してください。
また、複数の曜日に定時ポーリングを設定する場合は、曜日の選択と開始時刻の指定を繰り返してください。
すべての時刻を登録する必要はありません。
- 定時ポーリングボックスの設定内容を変更するには
手順1~3の操作(●P201)をする
[▼]または[▲]ボタンを押して「変更」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
変更するボックスNo.を入力し、[セット] ボタンを押す
暗証番号(登録しているときのみ)を入力し、[セット] ボタンを押す
[▼]または[▲]ボタンを押して変更する項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
手順7を参照して、各項目の設定内容を変更する
- 宛先を追加するときは、追加する宛先をワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルで指定します。
- 登録済みの宛先を削除するときは、[▼]または[▲]ボタンを押して削除する宛先を反転表示させ、[クリア] ボタンを押します。
- 管理用の暗証番号を変更するときは、現在の暗証番号を入力して(暗証番号は表示されません)[セット] ボタンを押したあと、新しい暗証番号を入力します。
- 管理用の暗証番号を削除するときは、現在の暗証番号を入力したあと(暗証番号は表示されません)[セット] ボタンを2回押します。
各項目を変更したあと、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

受信側の操作で通信を行うには（ポーリング通信）

開始時刻

[▼] または [▲] ボタンを押して、定時ポーリング受信を毎日行う場合は「毎日」、曜日を決めて行う場合は「曜日指定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 毎日
	02 曜日指定
開始時刻	

「曜日指定」を反転表示させた場合は、[▼] または [▲] ボタンを押して曜日を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 SUN
	02 MON
	03 TUE
	04 WED
	05 THU
曜日指定	

「...」の表示を確認したあと、[セット] ボタンを押します。

登録する番号を選んでください	01 --:--
	02 --:--
	03 --:--
	04 --:--
	05 --:--
SUN	

ポーリング受信の開始時刻（最大5時刻）を24時間制で入力します。

例：日曜日の午後7時

SUN	19:00
-----	-------

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

続けて他の項目を設定するときは、手順6～7を繰り返します。

ボックスNo.の入力画面が表示されたときは、手順5～8の操作を繰り返して他の定時ポーリングボックスの設定をすることができます。

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

ワンポイント

- 定時ポーリングボックスを削除するには
手順1～3の操作（P201）をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「取消」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
削除するボックスNo.を入力し、[セット] ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

お知らせ

- 手順7の 宛先 で複数の相手先を指定したときは、定時ポーリング受信の開始時刻になると、登録した複数の相手先から順次ポーリング受信が開始されます。
- 手順7の 開始時刻 で「毎日」に指定したときは、「曜日指定」に指定することはできません。「曜日指定」に指定したときは、「毎日」に指定することはできません。「毎日」「曜日指定」の両方に時刻を設定したときは、あとに指定した内容で登録されます。

STOP お願い

- 暗証番号を登録したときは、忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れてしまうと、定時ポーリングボックスの設定内容を変更／削除することができなくなるので注意してください。



親展で通信を行うには

(親展通信)

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

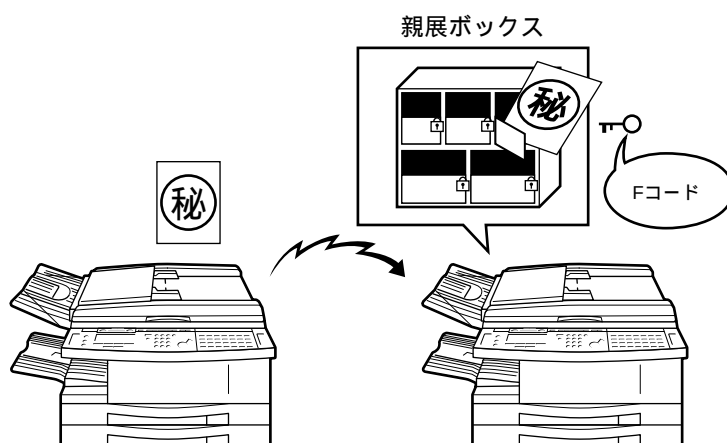
5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

親展通信とは

特定の人以外には見られたくない原稿は、親展で送信することができます。

親展で送信した原稿は、相手先のファクスのメモリ内に設定した親展ボックスに蓄積されます。登録されているFコードを入力したときのみプリントできます。Fコードを知っている人だけが親展文書を受け取ることができるので、機密性の高い通信を行うことができます。



親展で送信された原稿を受信すると、親展受信レポート (●P253) がプリントされます。

親展通信の準備をする

■ 親展受信をするとき

親展ボックスを設定します。(●P206)



親展ボックスに登録したFコードを相手先に連絡しておきます。

受信パスワードを登録している場合は、受信パスワードも連絡しておいてください。

■ 親展送信をするとき

相手先の親展ボックスに登録されたFコードを確認しておきます。

相手先が受信パスワードを登録している場合は、受信パスワードも確認しておいてください。



親展で通信を行うには

（親展通信）

親展ボックスを設定する

親展受信をする前に、親展ボックスを設定します。

親展ボックスは、転送ボックス（●P163）、ポーリングボックス（●P190）、定時ポーリングボックス（●P201）、中継ボックス（●P219）、汎用ボックス（●P226）とあわせて70個まで設定できます。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
登録モード	05 親展ボックス

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「親展ボックス」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

3

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
登録モード	05 親展ボックス



項目を選んでください	01 作成
	02 変更
	03 取消
親展ボックス	

1
使う
送信の便利な機能を

2
使う
受信の便利な機能を

3
使う
その他の便利な機能を

4
各種レポート/リストをプリントする

5
登録/設定する
いろいろな機能を

6
ご参考に

4

[セット] ボタンを押します。

親展ボックスNo.(00～99)を入力し、[セット] ボタンを押します。

例：「05」

『-』または『+』（画面選択ボタン）を押して親展ボックスNo.を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

5



すでに設定されている親展ボックスNo.を指定したときは、「すでに作成されています」と表示されます。パラメータリスト（●P258、261）で設定内容を確認してください。

設定内容は変更することができます。（●P208）

6

[▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

次ページに続きます。



親展で通信を行うには

(親展通信)

各項目を設定します。

暗証番号 / 受信パスワードは、登録しなくてもかまいません。
各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

ボックス名称

親展ボックス名称 (最大全角12文字) を入力します。

例: 「NTT営業」

ボックス名称を入力してください(全角12文字まで)			
NTT営業			
変換	単漢字	無変換	かな漢字 入力モード

ひらがな / 漢字 / 全角記号は最大12文字、カタカナ / 英数字 / 半角記号は最大24文字まで入力できます。

文字を入力するには (P34)

暗証番号

暗証番号 (0000 ~ 9999) を入力します。

例: 「1156」

4桁の暗証番号を入力してください(0000 ~ 9999)			
1156			
	◀	▶	

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

Fコード

Fコード (最大20桁) を入力します。

例: 「*987654321#」

Fコード	
*987654321#	削除

他の親展ボックス / ポーリングボックス / 中継ボックス / 汎用ボックスに登録済みのFコードは使用できません。

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
 - 親展ボックスの暗証番号とは
親展ボックスの設定内容を保護するための管理用の暗証番号です。暗証番号を登録すると、親展ボックスの受信原稿をプリントしたり、親展ボックスの設定内容を変更 / 削除するときに、入力が必要となります。
 - Fコードや受信パスワードに登録できる文字は
数字、*、#、スペースを入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。
 - スペース (空白) を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース] ボタンを押します。
 - 親展ボックスの設定内容を変更するには
手順1 ~ 3の操作 (P206) をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「変更」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
変更する親展ボックスNo.を入力し、[セット] ボタンを押す
暗証番号 (登録しているときのみ) を入力し、[セット] ボタンを押す
[▼] または [▲] ボタンを押して変更する項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
手順7を参照して、各項目の設定内容を変更する
 - 管理用の暗証番号を変更するときは、
現在の暗証番号を入力して (暗証番号は表示されません) [セット] ボタンを押したあと、新しい暗証番号を入力します。
 - 管理用の暗証番号を削除するときは、
現在の暗証番号を入力したあと (暗証番号は表示されません) [セット] ボタンを2回押します。
- 各項目を変更したあと、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

7

受信パスワード

受信パスワード（最大20桁）を入力します。

例：「00 #1234 567 *」

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

受信プリント部数

親展受信した原稿をプリントする部数（01～99枚）を入力します。

例：「02」

『-』または『+』（画面選択ボタン）を押して受信プリント部数を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア]ボタンを押して入力し直します。1部しかプリントしないときは、設定する必要はありません。

8

続けて他の項目を設定するときは、手順6～7を繰り返します。

ボックスNo.の入力画面が表示されたときは、手順5～8の操作を繰り返して他のポーリングボックスの設定をすることができます。

9

[ストップ]ボタンを押します。

待機画面に戻ります。



ワンポイント・・・・・・・・・・

- 親展ボックスを削除するには
手順1～3の操作（●P206）をする
[▼]または[▲]ボタンを押して「取消」を反転表示させ、[セット]ボタンを押す
削除する親展ボックスNo.を入力し[セット]ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット]ボタンを押す
[ストップ]ボタンを押す
削除しようとした親展ボックスに原稿が蓄積されている場合は、「取消できません」と表示されます。親展ボックス内の原稿をプリントしてから（●P210）または原稿をメモリから消去してから（●P160）、親展ボックスを削除してください。

STOP お願い

- 暗証番号を登録したときは、忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れてしまうと、親展ボックスの受信原稿をプリントしたり、親展ボックスの設定内容を変更／削除することができなくなるので注意してください。



親展で通信を行うには

(親展通信)

親展で受信した原稿をプリントする

親展で送信された原稿を受信すると、ディスプレイに「親展受信しました」と表示され、親展受信レポート(●P253)がプリントされます。

親展で受信したら、受信した親展ボックスのFコードを指定して、受信原稿をプリントします。

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信



自動受信	親展受信しました	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[親展通信] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 親展送信
	02 親展受信
親展通信	

3

[▼] または [▲] ボタンを押して、「親展受信」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 親展送信
	02 親展受信
親展通信	



Fコード	
	削除

親展ボックスのFコード（最大20桁）を入力
します。

例：「*987654321#」

✖ Fコード

*987654321#

削除

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。〔クリア〕ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

暗証番号を登録しているときは、[セット] ボタンを押し、4桁の暗証番号を入力してください（暗証番号は表示されません）。

「セット」ボタンを押します。

受信原稿のプリントが開始されます。

親展受信			
プリント中 P.001/003			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

プリントが終了すると、自動的に待機画面に戻ります。
受信した原稿がすべてプリントされると、メモリ内の原稿は自動的に消去されます。



 ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]
ボタンを押します。
- 親展ボックスが複数設定されているときは
受信原稿をプリントする前に、親展受信レ
ポート（●P253）で受信した親展ボッ
クスを確認してください。



 お知らせ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

- お買い求めのときは、親展受信したことを知らせる親展受信レポートがプリントされるように設定されています。プリントされないように設定を変更することもできます。(●P298、299)
- Fコードは、親展ボックスに登録されているものと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。



親展で通信を行うには

（親展通信）

親展で送信する

親展送信をするときは、相手先の親展ボックスや汎用ボックスに登録されたFコードを確認しておきます。相手先が受信パスワードを設定している場合は、受信パスワードも確認しておいてください。

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（☛P40、41）

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（☛P42）
原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順3～4の操作（☛P47）をします。

3

ワンタッチパネルを3枚開いて、[親展通信] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 親展送信 02 親展受信
親展通信	

4

[セット] ボタンを押します。

自動受信	宛先を入力してください	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

相手先の電話番号を入力し、[セット]ボタンを押します。

例：「0335095538」

5

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先は、ワンタッチダイヤル（●P50）/短縮ダイヤル（●P52）で指定することもできます。



相手先の親展ボックスのFコード（最大20桁）を入力します。

例：「#987654321*」

6

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先が受信パスワードを登録していないときは手順9へ進みます。

ワンタッチパネルを3枚開いて、[パスワード]ボタンを押します。

7

次ページに続きます。

（親展通信）

8

例：「**✳**765 4321**＃**00」

ハ° スワート°
*765 4321#00
肖川除

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

自動受信宛先数: 1 '98 04/24
FRI 15:30
☎ = 0335095538
標準 ふつう 文字 ADF
送信画質 読取濃度 原稿の種類 フック送信

原稿の送信が開始されます。

親展送信			
読込中 P.001		受付番号0027	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

9

親展送信			
宛先		=0335095538	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

送信が終了すると、メモリに読み込まれた原稿は自動的に消去されます。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 送信を中止するには (● P58)
- スペース (空白) を入力するとき
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]
ボタンを押します。
- 発信元名称を使って送信するには
 - ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセッ
トしたとき
手順2のあとで、発信元名称を選択しま
す。(● P33)
 - 原稿台ガラスに原稿をセットしたとき
手順8のあとで、発信元名称を選択しま
す。(● P33)
- 送信時刻を設定するには
手順1～4の操作 (● P212) をする
ワンタッチパネルを3枚開いて、[タイマ
通信] ボタンを押す
送信時刻を24時間制で入力し、[セット]
ボタンを押す
手順5～9の操作 (● P213) をする



お知らせ

- Fコードや受信パスワードは、相手に登録されているものと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。

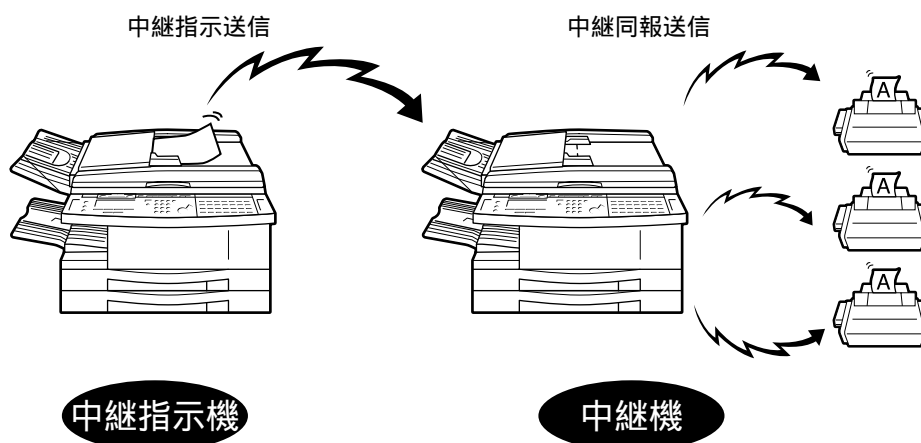
STOP お願い

- 本装置のFコードは、G4通信とG3通信で利用できますが、相手機がG4ファクスであってもG3通信モードでしかFコードやパスワードに対応していない場合があります。そのような相手にFコードやパスワードを利用して通信する場合は、必ずワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに相手先、Fコードとパスワード（●P264）、通信モード「G3」（●P268）を登録してご利用ください。登録したワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで相手先を指定しないと通信エラーとなります。

中継機を経由して送信するには（中継同報送信）

中継同報送信とは

複数の相手先に同じ原稿を送るときに、直接それぞれの相手先に送信するのではなく、中継用の他のファクス（中継機）にいったん送信し（中継指示送信）、そこから各相手先に同報送信すること（中継同報送信）ができます。遠方の同じ地域内にある複数の相手先に同報送信をする場合に、相手先と同じ地域にある中継機を経由して送信すれば、時間も通信料金も節約できます。



本装置の中継同報送信では、Fコードを使用します。
また、機密を守るために、受信パスワードを使って指示元を制限することができます。

中継同報送信の準備をする

■ 中継指示機での準備

中継機の中継ボックスに登録されたFコードを確認しておきます。

中継機が受信パスワードに登録している場合は、受信パスワードも確認しておいてください。

■ 中継機での準備

中継同報送信をする相手先を、中継グループとして中継ボックスに登録しておきます。（●P219）

中継ボックスに登録したFコードを中継指示機となる相手先に連絡しておきます。

受信パスワードに登録している場合は、受信パスワードも連絡しておいてください。

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に



中継機を経由して送信するには（中継同報送信）

中継指示送信をする

1

（ファクス） ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（☛P40、41）

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（☛P42）
原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順3～4の操作（☛P47）をします。

3

ワンタッチパネルを3枚開いて、[中継指示] ボタンを押します。

自動受信	宛先を入力してください	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

相手先の電話番号を入力し、[セット]ボタンを押します。

例：「0335095538」

4

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先は、ワンタッチダイヤル（☎P50）/短縮ダイヤル（☎P52）で指定することもできます。



相手先の中継ボックスのFコード（最大20桁）を入力します。

例：「＊99876543211＃」

5

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

相手先が受信パスワードを登録していないときは手順8へ進みます。

次ページに続きます。

6

 ハ° スワート°

7

ハ° スワート°
#99876543211*
削除

中継送信			
読込中 P.001		受付番号0045	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

8

中継送信			
宛先 = 0335095538			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	フック送信



STOP お願い

- 218

中継ボックスを設定する

本装置が中継機となる場合は、中継同報送信をする相手先を、中継グループとして中継ボックスに登録します。

中継ボックスは、転送ボックス（●P163） ポーリングボックス（●P190） 定時ポーリングボックス（●P201） 親展ボックス（●P206） 汎用ボックス（●P226）とあわせて70個まで設定できます。

1

【ファンクション】ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤ登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

2

【▼】または【▲】ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤ登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

3

【▼】または【▲】ボタンを押して「中継ボックス」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	04 発信元名称登録 05 親展ボックス 06 中継ボックス 07 汎用ボックス 08 定時ポーリング設定
登録モード	



項目を選んでください	01 作成 02 変更 03 取消
中継ボックス	

次ページに続きます。

中継機を経由して送信するには（中継同報送信）

4 [セット] ボタンを押します。

中継ボックスNo.（00～99）を入力し、
[セット] ボタンを押します。

例：「05」

『-』または『+』（画面選択ボタン）を押して中継ボックス
No.を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。



すでに設定されている中継ボックスNo.を指定したときは、
「すでに作成されています」と表示されます。パラメータリ
スト（●P258、261）で設定内容を確認してください。
設定内容は変更することができます。（●P222）

6 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を
反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

各項目を設定します。

暗証番号 / 受信パスワードは、登録しなくてもかまいません。
各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

ボックス名称

中継ボックス名称（最大全角12文字）を入力します。

例：「NTT開発」

ひらがな / 漢字 / 全角記号は最大12文字、カタカナ / 英数
字 / 半角記号は最大24文字まで入力できます。

文字を入力するには（●P34）



暗証番号

暗証番号（0000～9999）を入力します。

例：「1157」

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

Fコード

Fコード（最大20桁）を入力します。

例：「*11234567899#」

他の中継ボックス/ポーリングボックス/親展ボックス/汎用ボックスに登録済みのFコードは使用できません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

受信パスワード

受信パスワード（最大20桁）を入力します。

例：「#11234567899*」

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

次ページに続きます。

 ワンポイント.....

- 操作を中止するには
[ストップ]ボタンを押します。
- 中継ボックスの暗証番号とは
中継ボックスの設定内容を保護するための管理用の暗証番号です。暗証番号を登録すると、中継ボックスの設定内容を変更/削除するときに、入力が必要となります。
- Fコードや受信パスワードに登録できる文字は
数字、*、#、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]ボタンを押します。
- 指示元制限とは
特定の相手先（指示元）からの原稿だけを中継同報送信するように制限することができます。指示元制限をすると、登録されていない相手先からの原稿は中継同報送信されません。

中継機を経由して送信するには（中継同報送信）

指示元制限

[▼] または [▲] ボタンを押して、指示元制限をするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：する

項目を選んでください	01 する 02 しない
指示元制限	

「しない」を反転表示させた場合は、指示元制限の設定が完了します。



指示元（最大200件）を指定します。

例：短縮ダイヤル000

相手先を指定してください	*000 NTT北海道
No. [----]	
ワンタッチ/短縮ダイヤル	

指示元は、ワンタッチダイヤル（P50）/短縮ダイヤル（P52）で指定します。ダイヤル入力で指示元を指定することはできません。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して指定し直します。

受信原稿プリント

[▼] または [▲] ボタンを押して、中継指示機からの受信原稿を本装置でもプリントするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：する

項目を選んでください	01 しない 02 する
受信原稿プリント	

「しない」を反転表示させた場合は、受信原稿プリントの設定が完了します。



プリント部数（01～99枚）を入力します。

例：「02」

受信プリント部数	02枚	-	+
----------	-----	---	---

「-」または「+」（画面選択ボタン）を押してプリント部数を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

1部しかプリントしないときは、設定する必要はありません。



ワンポイント

- 中継ボックスの設定内容を変更するには
手順1～3の操作（P219）をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「変更」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
変更する中継ボックスNo.を入力し、[セット] ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット] ボタンを押す
[▼] または [▲] ボタンを押して変更する項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
手順7（P220）を参照して、各項目の設定内容を変更する
 - 指示元制限の相手を追加するときは、「する」を反転表示させて[セット] ボタンを押したあと、追加する相手をワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルで指定します。
 - 宛先を追加するときは、追加する宛先をワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルで指定します。
 - 登録済みの指示元制限の相手を削除するときは、「する」を反転表示させて[セット] ボタンを押したあと、[▼] または [▲] ボタンを押して削除する相手を反転表示させ、[クリア] ボタンを押します。
 - 登録済みの宛先を削除するときは、[▼] または [▲] ボタンを押して削除する宛先を反転表示させ、[クリア] ボタンを押します。
 - 管理用の暗証番号を変更するときは、現在の暗証番号を入力して（暗証番号は表示されません）[セット] ボタンを押したあと、新しい暗証番号を入力します。
 - 管理用の暗証番号を削除するときは、現在の暗証番号を入力したあと（暗証番号は表示されません）[セット] ボタンを2回押します。
- 各項目を変更したあと、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

宛先

中継同報送信の相手先（最大200件）を指定します。

相手先を指定してください	*001 NTT営業 01 NTT開発
No. [----]	
ワンタッチ/短縮ダイヤル	

相手先は、ワンタッチダイヤル（●P50）/短縮ダイヤル（●P52）で指定します。ダイヤル入力で相手先を指定することはできません。

間違えたときは、[クリア]ボタンを押して指定し直します。
送信結果レポート

[▼]または[▲]ボタンを押して、送信結果レポートを中継指示機に送信するかどうかを反転表示させます。

項目を選んでください	01 送信しない 02 送信する
□□□□□□	
送信結果レポート	

送信開始時刻

「...」の表示を確認したあと、[セット]ボタンを押します。

送信開始時刻	⌚	— : —
	◀ ▶	



中継同報送信の送信時刻を24時間制で入力します。

例：午後4時

送信開始時刻	⌚	16:00
	◀ ▶	

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

中継同報

[▼]または[▲]ボタンを押して、中継同報送信を許可するかどうかを反転表示させます。

項目を選んでください	01 する 02 しない
□□□□□□	
中継同報	

7

8 続けて他の項目を設定するときは、手順6～7を繰り返します。

ボックスNo.の入力画面が表示されたときは、手順5～8の操作を繰り返して他のポーリングボックスの設定をすることができます。

9

[ストップ]ボタンを押します。

待機画面に戻ります。



ワンポイント.....

- 送信結果レポートを送信できるのは指示元として登録している中継指示機へのみ送信結果レポートを送信することができます（指示元制限）。
- 中継ボックスを削除するには
手順1～3の操作（●P219）をする
[▼]または[▲]ボタンを押して「取消」を反転表示させ、[セット]ボタンを押す
削除する中継ボックスNo.を入力し、[セット]ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入力し、[セット]ボタンを押す
[ストップ]ボタンを押す

STOP お願い

- 暗証番号を登録したときは、忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れてしまうと、中継ボックスの設定内容を変更/削除することができなくなるので注意してください。



汎用ボックスを活用するには（汎用ボックス）

汎用ボックスとは

汎用ボックスを活用すると、ITU-T規格のFコードやパスワードを指定して、通信におけるさまざまな機能を利用できるようになります。

ITU-T規格のFコードやパスワードに対応できる機種であれば、親展通信や掲示板機能などを利用することができます。Fコードとパスワードについては、「Fコードやパスワードを指定して特定の相手先と通信するには」(P185)を参照してください。

汎用ボックスを利用するときは相手機種が限定されます。詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

汎用ボックスを活用するための準備をする

汎用ボックスを活用するには、あらかじめ汎用ボックスに以下の内容を登録しておきます。(P226)

1. ボックス名称（最大全角12文字）
任意の名称を登録します。
2. 暗証番号（4桁の数字）
汎用ボックスの登録/設定内容を保護したい場合に登録します。暗証番号を登録すると、汎用ボックスを削除したり内容を変更したりするときに、入力が必要になります。
3. Fコード（最大20桁）
ITU-T規格のFコードを登録します。
4. 送信パスワード（最大20桁）
汎用ボックスからのポーリング送信原稿に付加するパスワード（ITU-T規格）を登録します。
5. 受信パスワード（最大20桁）
受信した原稿に付加されているパスワードと照合するためのパスワード（ITU-T規格）を登録します。
6. 受信
汎用ボックスでの受信を許可するかどうかを設定します。
お買い求めのときは、「許可しない」に設定されています。
 - 指示元制限
特定の相手先（指示元）からの原稿だけを受信したいときには「する」に設定します。「する」に設定するときは、指示元の登録が必要です。指示元は、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルあわせて最大200件まで登録できます。
お買い求めのときは、「しない（どの相手先からの中継指示も受け付ける）」に設定されています。
 - 受信原稿プリント
受信した原稿をプリントするかどうかを設定します。
「する」に設定するときは、プリント方法（手動/自動）、プリントする部数（01～99枚）を設定することができます。
お買い求めのときは、自動的に1部のみプリントするように設定されています。
7. 送信
汎用ボックスからの送信を許可するかどうかを設定します。
お買い求めのときは、「許可しない」に設定されています。
 - 宛先
送信する相手先を登録します。ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルあわせて最大200件まで登録できます。
 - 送信原稿
受信原稿：
汎用ボックスで受信した原稿を送信するかどうかを設定します。
お買い求めのときは、「送信する」に設定されています。
読込原稿送信：
汎用ボックスに読み込んだ原稿を送信するかどうかを設定します。
お買い求めのときは、「送信する」に設定されています。
 - 送信開始時刻
原稿を送信する時刻を指定します。送信を毎日同じ時刻にする方法と、曜日別に送信時刻を指定する方法があります。曜日別に指定する場合は、各曜日ごとに最大5時刻、1週間で最大35時刻の設定が可能です。
お買い求めのときは、「毎日」に設定されています。

8. ポーリング送信

汎用ボックスからのポーリング送信を許可するかどうかを設定します。

お買い求めのときは、「許可しない」に設定されています。

- 送信後の原稿クリア

ポーリング送信後に、汎用ボックスに蓄積された原稿を消去するかどうかを設定します。

お買い求めのときは、「する」に設定されています。

- 送信原稿

受信原稿：

汎用ボックスで受信した原稿をポーリング送信するかどうかを設定します。

お買い求めのときは、「送信する」に設定されています。

読込原稿送信：

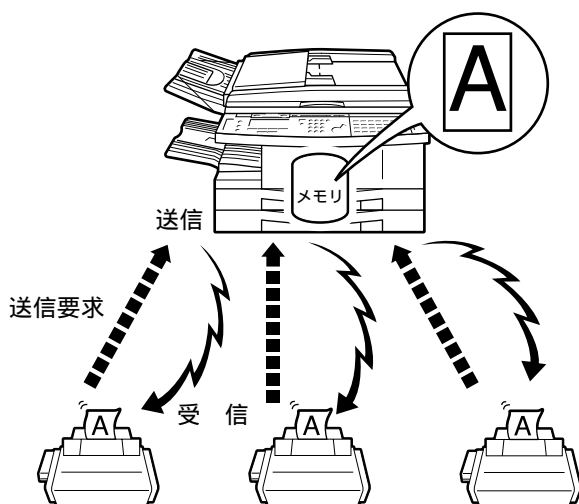
汎用ボックスに読み込んだ原稿をポーリング送信するかどうかを設定します。

お買い求めのときは「送信する」に設定されています。

汎用ボックスの活用例

必要な情報を汎用ボックスに読み込ませておき、他のファクスのポーリング受信機能を使って、その情報を引き出すことができます（汎用ボックスの掲示板機能）。

掲示板機能を活用すると、たとえば在庫情報や新製品に関する情報などを汎用ボックスに読み込ませておき、必要なときに全国どこからでも引き出すことができます。



掲示板機能を使って引き出すことができる情報の数や量は、汎用ボックスの設定値や情報量によって異なります。



汎用ボックスを活用するには（汎用ボックス）

汎用ボックスを設定する

汎用ボックスの機能を利用する前に、汎用ボックスを設定します。

汎用ボックスは、転送ボックス（●P163）、ポーリングボックス（●P190）、定時ポーリングボックス（●P201）、親展ボックス（●P206）、中継ボックス（●P219）とあわせて70個まで設定できます。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

1

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
登録モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「汎用ボックス」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

3

項目を選んでください	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
	06 中継ボックス
	07 汎用ボックス
	08 定時ポーリング設定
登録モード	



項目を選んでください	01 作成
	02 変更
	03 取消
汎用ボックス	



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 汎用ボックスの暗証番号とは
汎用ボックスの設定内容を保護するための
管理用の暗証番号です。暗証番号を登録す
ると、汎用ボックスの設定内容を変更 / 削
除するときに、入力が必要となります。
- Fコードに登録できる文字は
数字、＊、井、スペースが入力できます。
ただし、最初にスペースを入力することは
できません。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]
ボタンを押します。
- 汎用ボックスの設定内容を変更するには
手順1～3の操作をする
[▼]または[▲]ボタンを押して「変更」
を反転表示させ、[セット]ボタンを押す
変更する汎用ボックスNo.を入力し[セッ
ト]ボタンを押す
暗証番号（登録しているときのみ）を入
力し、[セット]ボタンを押す
[▼]または[▲]ボタンを押して変更す
る項目を反転表示させ、[セット]ボタ
ンを押す
手順7（P228）を参照して、各項目
の設定内容を変更する
- 「受信」の「指示元制限」で相手を追加
するときは、「する」を反転表示させて
[セット]ボタンを押したあと、追加す
る相手をワンタッチダイヤル / 短縮ダ
イヤルで指定します。
- 「送信」の「宛先」で宛先を追加する
ときは、追加する宛先をワンタッチダ
イヤル / 短縮ダイヤルで指定します。
- 「受信」の「指示元制限」で登録済みの
相手を削除するときは、「する」を反転
表示させて [セット] ボタンを押した
あと、[▼]または[▲] ボタンを押
して削除する相手を反転表示させ、[ク
リア] ボタンを押します。
- 「送信」の「宛先」で登録済みの宛先を
削除するときは、[▼]または[▲] ボ
タンを押して削除する宛先を反転表示
させ、[クリア] ボタンを押します。
- 管理用の暗証番号を変更するときは、
現在の暗証番号を入力して（暗証番号は
表示されません）[セット] ボタンを押
したあと、新しい暗証番号を入力します。
- 管理用の暗証番号を削除するときは、
現在の暗証番号を入力したあと（暗証
番号は表示されません）[セット] ボ
タンを2回押します。
各項目を変更したあと、[セット] ボ
タンを押す
[ストップ] ボタンを押す

4 [セット] ボタンを押します。

汎用ボックスNo.(00～99)を入力し、[セット] ボタンを押します。

例：「05」

『 - 』または『 + 』（画面選択ボタン）を押して汎用ボックス
No.を指定することもできます。
間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。



項目を選んでください	01 ボックス名称
	02 暗証番号
	03 Fコード
	04 送信パワード
	05 受信パワード

すでに設定されている汎用ボックスNo.を指定したときは、
「すでに作成されています」と表示されます。パラメータリ
スト（P258、261）で設定内容を確認してください。
設定内容は変更することができます。

6 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を
反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

次ページに続きます。

汎用ボックスを活用するには(汎用ボックス)

各項目を設定します。

汎用ボックスを利用するために基本的に必要な項目は、ボックス名称 / Fコードです

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

ボックス名称

汎用ボックス名称 (最大全角12文字) を入力します。

例: 「NTT東海」

ボックス名称を入力してください(全角12文字まで)

NTT東海_

かな漢字

変換 単漢字 無変換 入力モード

ひらがな / 漢字 / 全角記号は最大12文字、カタカナ / 英数字 / 半角記号は最大24文字まで入力できます。

文字を入力するには(☛P34)

暗証番号

暗証番号 (0000 ~ 9999) を入力します。

例: 「1152」

4桁の暗証番号を入力してください(0000 ~ 9999)

1152

◀ ▶

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

Fコード

Fコード (最大20桁) を入力します。

例: 「*135792468#」

Fコード

*135792468#

削除

他の汎用ボックス / ポーリングボックス / 親展ボックス / 中継ボックスに登録済みのFコードは使用できません。

入力を間違えたときは、『削除』(画面選択ボタン)を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

汎用ボックスの詳細の項目(送信パスワード、受信パスワードなど)を設定するときは、P322 ~ 325を参照してください。



ワンポイント

- 汎用ボックスを削除するには

手順1 ~ 3の操作(☛P226)をする

[▼] または [▲] ボタンを押して「取消」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す

削除する汎用ボックスNo.を入力し、[セット] ボタンを押す

暗証番号(登録しているときのみ)を入力し、[セット] ボタンを押す

[ストップ] ボタンを押す

削除しようとした汎用ボックスに原稿が蓄積されている場合は、「取消できません」と表示されます。汎用ボックス内の原稿の送信が終了してから、または原稿をプリントする(☛P232) / 原稿をメモリから消去する(☛P160)などの操作をしてから、汎用ボックスを削除してください。

8

続けて他の項目を設定するときは、手順6～7を繰り返します。

ボックスNo.の入力画面が表示されたときは、手順5～8の操作を繰り返して他の汎用ボックスの設定をすることができません。

9

「ストップ」ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30

 =

標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント・・・・・・・・

- 本装置の汎用ボックスを掲示板（➡P225）として活用するには
汎用ボックスの各項目を以下のように設定してください。

ボックス内の設定項目	設定内容
ボックス番号	2桁の数字（00～99）
ボックス名称	全角12文字までの文字
暗証番号	4桁の数字（0000～9999）
Fコード	20桁以内の数字、＊、＃、スペース
送信パスワード	20桁以内の数字、＊、＃、スペース
受信パスワード	不要
受信	許可しない
送信	許可しない
ポーリング送信	許可する
送信後の原稿クリア	しない
（送信原稿 - 受信原稿）	送信しない
（送信原稿 - 読込原稿送信）	送信する

- 掲示板の情報を引き出すとき
汎用ボックスに読み込ませた情報を他の
ファクスで引き出すときは、ポーリング
受信機能を使います。(▶P198) ポーリ
ング受信するときは、Fコードと送信パ
スワードを指定してください。送信パス
ワードは、掲示板として使っている本装
置の汎用ボックスの送信パスワードと完
全に一致するように指定してください。



お知らせ

- Fコードは回線を通じて汎用ボックスの情報を引き出すときに照合するためのものです。汎用ボックスを設定するときに指定するボックスNo.と混同しないように注意してください。



STOP お願い

- 暗証番号を登録したときは、忘れないよう
にご注意ください。暗証番号を忘れてしま
うと、汎用ボックスの設定内容を変更／削
除することができなくなるので注意してく
ださい。



汎用ボックスを活用するには（汎用ボックス）

汎用ボックスから送信する

汎用ボックスを活用して送信するときは、本装置に設定している汎用ボックス内に原稿を蓄積させます。原稿は、汎用ボックスの設定内容に従って自動的に送信されます。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質 ^	読取濃度 ^	原稿の種類
		ブック送信 ^

2

ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（☛P40、41）

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（☛P42）原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順3～4の操作（☛P47）をします。

3

ワンタッチパネルを3枚開いて、[汎用ボックス] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 汎用送信 02 汎用受信
汎用ボ ックス	

4

[セット] ボタンを押します。

原 Fコード 	削除
--------------------------------	----

汎用ボックスのFコード（最大20桁）を入力
します。

例：「*135792468#」

✖ コト

*135792468#

削除

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。〔クリア〕ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

「セット」ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれます。

送信			
読込中 P.001		受付番号0030	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、「本などの原稿を送信するには」の手順7～8の操作（▶P49）を参照してください。

原稿は汎用ボックスの設定内容に従って自動的に送信されます。



ワンポイント・・・・・・・・

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 送信を中止するには (● P58)
- 手順6のあと発信元名称の選択画面が表示されたときは
発信元名称を登録しているとき (● P32) は、
ワンタッチダイヤル (● P50) / 短縮ダイヤル (● P52) で相手先を指定すると、手順6
のあと発信元名称の選択画面が表示されま
す。ダイヤル入力で相手先を指定した場合
は、手順6のあとで [セット] ボタンを押す
と発信元名称の選択画面が表示されます。
- [▼] または [▲] ボタンを押して使用する
発信元名称を反転表示させ、[セット] ボ
タンを押します。
- スペース (空白) を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]
ボタンを押します。
- 汎用ボックス内の原稿を消去するには
[メモリ内容確認] ボタンを使って消去する
ことができます。 (● P160)



お知らせ

- 受付番号は、汎用送信を取り消すときに使
います。忘れないようにしてください。
- 「汎用ボックスを設定する」の手順 7
(●P228)で、「送信」を「許可する」に
設定し、さらに、「送信原稿」の「読込原稿
送信」を「送信しない」に設定したときは、
汎用ボックスに原稿を読み込ませることは
できません。お買い求めのときは、「送信す
る」に設定されています。
- Fコードは、汎用ボックスに登録されてい
るものと、スペースも含めて完全に一致す
るように指定してください。



汎用ボックスを活用するには(汎用ボックス)

汎用ボックスで受信した原稿をプリントする

汎用ボックスで受信するときは、あらかじめ汎用ボックスを設定しておきます。(●P226)

汎用ボックスの設定項目のうち、「受信」を「許可する」に設定し、「受信原稿プリント」を「する」、「原稿プリント方法」を「手動」に設定したとき(●P322、323)は、以下の方法でプリントしてください。

1 **ファクス** ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信 送信できます		'98 04/24	
		FRI 15:30	
☎ =			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[汎用ボックス] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 汎用送信 02 汎用受信
汎用ボックス	

3

[▼] または [▲] ボタンを押して「汎用受信」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 汎用送信 02 汎用受信
汎用ボックス	



Fコード	
削除	

汎用ボックスのFコード（最大20桁）を入力
します。

例：「✱135792468✱」

✖ Fコード	*135792468#	削除
--------	-------------	----

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。〔クリア〕ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

暗証番号を登録しているときは、[セット] ボタンを押し、4桁の暗証番号を入力してください（暗証番号は表示されません）。

〔セット〕ボタンを押します。

受信原稿のプリントが開始されます。

汎用受信			
プリント中 P.001/001		受付番号0030	
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信

プリントが終了すると、自動的に待機画面に戻ります。



ワンポイント・・・・・・・・

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]
ボタンを押します。



お知らせ

- 「受信原稿プリント」を「しない」に設定しているときは、受信原稿はプリントできません。「する」に設定してください。(●P322、323)
- 「受信原稿プリント」を「する」、「原稿プリント方法」を「自動」に設定しているとき(●P322、323)は、汎用ボックスで受信した原稿は自動的にプリントされます。
- Fコードは、汎用ボックスに登録されているものと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。



Fネット（ファクシミリ通信網）を利用するには （Fネットアクセス）

Fネットは、NTTのファクシミリ専用ネットワークです。Fネットに加入すると、通信をより経済的かつ効率的にするサービスがご利用になれます。



Fネットサービスの主な内容

■ 明確な2段階制料金

Fネットをご利用になると、送信に時間のかかる細かい文字の原稿でもB4版1ページ25円（夜間/100 km以内）で日本国内どこへでも送れます（昼間でも40円）。100 kmを超える遠距離の場合でも、夜間30円、昼間は50円の低価格の一定料金です（標準モードの場合）。（平成10年3月現在）

■ Fネット月極割引

毎月定額料のお支払いで、月々のFネット通信料が割り引きされるサービスです。（平成10年3月現在）

サービスプラン名	サービスプラン内容（1回線ごとに）
Fネット月極割引10	月々550円の定額料のお支払いで、Fネット通信料が10%割引
Fネット月極割引15	月々1550円の定額料のお支払いで、Fネット通信料が15%割引

■ 一斉同報通信

短縮ダイヤルをご契約になると、簡単な1回の操作で同じ原稿が最大10,000か所まで送れます。

■ 自動再送信

一斉同報通信で送信できなかった相手先には、簡単なダイヤル操作（送信できなかった相手先の受付番号を入力）だけで再送信することができます。

■ 再コール・不達通知

相手先がお話し中だった場合、Fネットが2分間隔で5回まで、自動的に再コールします。それでも送信できなかったときには、送信内容の一部と送信できなかった理由を、通知文でお知らせします。

■ 夜間配送指定通信

昼間Fネットへ原稿を送信しておき、夜間の割引時間帯（午後7時から翌朝8時まで）にFネットから相手先への送信をすることができます。料金が約40%の割引になります。

■ 漢字宛名付加サービス

宛名をあらかじめ登録しておけば、送られた原稿に自動的に宛名が印刷されます。人の多い職場でも、届けたい方へ確実に原稿が届きます。

■ 無鳴動自動受信

Fネットを使った受信では、呼出音を鳴らさず自動的に受信することができます。電話と間違えて受話器を取ることがないので、1本の電話回線で電話とファクスを効率よく使うことができます。

■ Fネット親展通信

暗証番号を使って通信するサービスです。暗証番号を知っている人しか受信文書を取り出すことができないので、重要書類のやりとりも安心です。

■ 閉域接続

お互いに登録した相手先とだけ通信できるシステムです。第三者からの送信やダイヤルの誤操作による情報漏れが防げます。（ ）

■ ファクシミリボックス

Fネットで送信された原稿を、Fネット側で一時預かりするサービスです。ファクスを長時間使用するときには、あらかじめファクシミリボックスをセットしておけば、その間に蓄積された原稿をあとで受け取ることができます。（ ）

■ G4サービス

Fネットなら、G4ファクスの「高品質原稿を高速に送信する」という特徴を活かしたG4～G3間の通信がスムーズに行えます。注文受付など、受信が集中する場合の高速処理も効率的にサポートします。

■ エンド・エンド着信課金

Fネットのフリーダイヤルサービスです。ファクスによる注文受付などに便利です。()

■ センタ・ツ・エンド通信

ファクスをコンピュータのデータ入出力端末として利用
できます。大型コンピュータからパソコンまで様々な機
種と接続でき、データは文書からイメージ情報まで幅広
く対応できます。()

■ファクシミリ案内

レジャー、スポーツ、観光、金融、くらしにかかわる
様々な情報が、簡単に取り出せます。

- 取り出し方法

④ (ファクス) ボタンを押す

「オンフック」ボタンを押す

「162」を入力する

「プップップ」という音を確認する

「 284(または 287) - x x - x x x x -
x x x x - 」と入力する

「サービスを受け付けました」とアナウンスが聞こえる

アナウンスに従って操作する

情報がプリントされる

● ファクス番号

162 . . . 284 - x x - x x x x - x x x x -

プップップ 情報提供者番号 情報案内
番号



お知らせ

- ()印のサービスには別途ご契約が必要です。
- Fネットをご利用の場合、本装置の中継指示送信 (●P216)、親展通信(●P205)、ポーリング通信 (●P189)、Fコードやパスワードを使った通信 (●P185)はご利用になれません。
- Fネットのご利用には、利用契約が必要です。詳しくはNTT窓口等お問い合わせください。なお、記載しているサービス内容および料金は、平成10年3月現在のものです。

Fネット（ファクシミリ通信網）を利用するには （Fネットアクセス）

Fネットを利用して送信する

例：Fネットで「03-3509-5538」「03-3509-4202」の
相手先に一斉同報送信するとき

1

（ファクス） ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ADF（自動原稿送り装置）または原稿台ガラスに原稿をセットします。（☛P40、41）

原稿に合わせて送信画質や読取濃度などを選ぶには（☛P42）
原稿台ガラスにセットした場合は、「本などの原稿を送信する
には」の手順3～4の操作（☛P47）をします。

3

Fネットの番号（162）を入力します。

自動受信	'98 04/24
☎= 162	
サブアドレス	Fネット
削除	

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して
1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して
最初から入力し直すこともできます。

4

『Fネット』（画面選択ボタン）を押します。

自動受信	'98 04/24
☎= 162 .	
サブアドレス	Fネット
削除	

1 送
信
の
便
利
な
機
能
を
使
う2 受
信
の
便
利
な
機
能
を
使
う3 そ
の
他
の
便
利
な
機
能
を
使
う4 各
種
レ
ポ
ー
ト
ノ
リ
ス
ト
を
プ
リ
ン
ト
す
る5 い
ろ
い
ろ
な
機
能
を
登
録
ノ
設
定
す
る6 ご
参
考
に

サービス指示コードと電話番号を入力します。

自動受信	'98 04/24
☎=#2130335095538*033	
サブアドレス	Fネット
削除	

「#213」は、一斉同報送信のサービス指示コードです。



自動受信	'98 04/24
☎=095538*0335094202#	
サブアドレス	Fネット
削除	

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア]ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

[スタート]ボタンを押します。

原稿がメモリに読み込まれたあと、Fネットに送信されます。原稿台ガラスに原稿をセットした場合は、「本などの原稿を送信するには」の手順7～8の操作（●P49）を参照してください。

送信		受信番号0050	
読込中 P.001			
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



送信			
宛先	=2・#2130335095538*0335094202#		
標準	ふつう	文字	ADF
送信画質	読取濃度	原稿の種類	ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ]ボタンを押します。
- ＊、＃を入力するには
手順5で＊や＃を入力するときは、あらかじめサブアドレス発信のサブアドレス指定ボタンを「使用しない」に、発信開始ボタンを「＃ボタンを使用しない」に設定しておいてください。（●P312、313）

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

通信管理レポートを手動でプリントする

通信管理レポートは、必要なときに手動でプリントすることもできます。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎= 標準 ふつう 文字 ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[レポート出力] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理レポート
	02 ダイヤリスト
	03 パラメータリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
レポート	

3

[セット] ボタンを押します。

通信管理レポートがプリントされます。

自動受信	レポート出力中	'98 04/24
		FRI 15:30
☎= 標準 ふつう 文字 ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 通信管理レポートのプリント例は
(▶P248)

各種の通信結果を確認するには

通信管理レポートの設定をする

お買い求めのときは、通信管理レポートは40通信ごとに自動的にプリントされるように設定されています。自動的にプリントしない、または指定した時刻にプリントする、送信結果と受信結果を分けてプリントするなどの設定ができます。

1

【ファンクション】ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2

【▼】または【▲】ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 設定モード
	02 機能設定
	03 プリンタ設定
	04 装置設定
設定モード	05 システム設定

3

【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 送信結果レポート
	02 受信結果レポート
	03 通信管理レポート
	04 親展受信レポート
レポート設定	05 汎用ボックスレポート

4

【▼】または【▲】ボタンを押して「通信管理レポート」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 送信結果レポート
	02 受信結果レポート
	03 通信管理レポート
	04 親展受信レポート
レポート設定	05 汎用ボックスレポート



項目を選んでください	01 自動プリント
	02 指定時刻プリント
	03 送信/受信分離
通信管理レポート	

1 送信の便利な機能を
使う2 受信の便利な機能を
使う3 その他の便利な機能を
使う4 各種レポート/リスト
をプリントする5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

5 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を
反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

各項目を設定します。

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。
自動プリント

[▼] または [▲] ボタンを押して、通信管理レポートを40通
信ごとに自動的にプリントするかどうかを反転表示させます。

項目を選んでください	01 する 02 しない
□□□□□	
自動プリント	

指定時刻プリント

[▼] または [▲] ボタンを押して、時刻を指定するかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：する

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□□	
指定時刻プリント	

「しない」を反転表示させた場合は、指定時刻プリントの設定が完了します。



通信管理レポートをプリントする時刻を24時間制で入力します。

例：午後5時30分

🖨️ プリント時刻
⌚ 17:30
◀ ▶

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

送信 / 受信分離

[▼] または [▲] ボタンを押して、送信と受信を分けてプリントするかどうかを反転表示させます。

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□□	
送信/受信分離	



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

次ページに続きます。

各種の通信結果を確認するには

7

続けて他の項目を設定するときは、手順5～6を繰り返します

8

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎ =		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

送信結果レポートの設定をする

お買い求めのときは、送信結果レポートはエラー発生時のみプリントされるように設定されています。プリントしない、送信終了ごとにプリントするなどの設定ができます。またレポートをプリントするときに、送信原稿の画像をプリントするかしないかを設定できます。

1

「通信管理レポートの設定をする」の手順1～3の操作（P240）をします。

項目を選んでください	01 送信結果レポート
	02 受信結果レポート
	03 通信管理レポート
	04 親展受信レポート
	05 汎用ボックスレポート
□□□□	
レポート設定	

2

[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 プリントしない
	02 エア時のみプリント
	03 プリントする
□□□□	
送信結果レポート	

[▼] または [▲] ボタンを押して設定するプリント方法を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

「プリントしない」：常に送信結果レポートをプリントしない

「エラー時のみプリント」：エラーになったときのみ送信結果
レポートをプリントする

「プリントする」：送信が終了することに送信結果レポートをプリントする

例：エラー時のみプリント

項目を選んでください	01 プリントしない
	02 5時のみプリント ◆
	03 プリントする

送信結果レポート

「プリントしない」を選択したときは、手順5へ進みます。

項目を選んでください □□□□ 送信画像	01 つけない 02 つける
---	------------------------------

[▼]または[▲]ボタンを押して、送信原稿の画像の一部をプリントするかどうかを反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 つけない
	02 つける

送信画像

次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 送信結果レポート
	02 受信結果レポート
	03 通信管理レポート
	04 親展受信レポート
	05 汎用ボックスレポート

「ストップ」ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信 送信できます '98 04/24
FRI 15:30
標準 ふつう 文字 ADF
送信画質 読取濃度 原稿の種類 プリント送信

 ワンポイント

- 操作を中止するには
「ストップ」ボタンを押します。

 お知らせ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

- 手順4で送信画像を「つける」に設定しても、ダイレクト送信時にはプリントされません。

各種の通信結果を確認するには

受信結果レポートの設定をする

お買い求めのときは、受信結果レポートはプリントしないように設定されています。受信ごとにプリントする、エラー発生時のみプリントするように設定することができます。

1

「通信管理レポートの設定をする」の手順1～3の操作（●P240）をします。

項目を選んでください	01 送信結果レポート
	02 受信結果レポート
	03 通信管理レポート
	04 親展受信レポート
	05 汎用ボックスレポート
□□□□	
レポート設定	

2

[▼]または[▲]ボタンを押して「受信結果レポート」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 送信結果レポート
	02 受信結果レポート
	03 通信管理レポート
	04 親展受信レポート
	05 汎用ボックスレポート
□□□□	
レポート設定	



項目を選んでください	01 プリントしない
	02 エラー時のみプリント
	03 プリントする
□□□□	
受信結果レポート	

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

[▼] または [▲] ボタンを押して設定するプリント方法を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

「プリントしない」：常に受信結果レポートをプリントしない

「エラー時のみプリント」：エラーになったときのみ受信結果レポートをプリントする

「プリントする」：受信が終了するごとに受信結果レポートをプリントする

例：エラー時のみプリント

項目を選んでください	01 プリントしない
□□□□	02 エラー時のみプリント
受信結果レポート	03 プリントする



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 送信結果レポート
□□□□	02 受信結果レポート
レポート設定	03 通信管理レポート
	04 親展受信レポート
	05 汎用ボックスレポート

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
☎=		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

各種の通信結果を確認するには

親展文書リストをプリントする

親展ボックスに受信した原稿をリストで確認することができます。

親展文書リストは、必要なときに手動でプリントすることができます。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[レポート出力] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理レポート
	02 ダイヤリスト
	03 パラメータリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
レポート	

3

[▼] または [▲] ボタンを押して「親展文書リスト」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理レポート
	02 ダイヤリスト
	03 パラメータリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
レポート	



親展文書リストがプリントされます。

自動受信	レポート出力中	'98 04/24
		FRI 15:30
☎=		
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信



ワンポイント

● 親展文書リストのプリント例は (● P254)

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

汎用ボックス管理リストをプリントする

汎用ボックスに受信した原稿をリストで確認することができます。

汎用ボックス管理リストは、必要なときに手動でプリントすることができます。

1

 ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[レポート出力] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理レポート
	02 ダイヤリスト
	03 パラメータリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
レポート	

3

[▼] または [▲] ボタンを押して「汎用ボックス管理リスト」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
	06 汎用ボックス管理リスト
レポート	



汎用ボックス管理リストがプリントされます。

自動受信	レポート出力中	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



ワンポイント

- 汎用ボックス管理リストのプリント例は (P255)

各種の通信結果を確認するには

各種レポート/リストのプリント例

■ 通信管理レポートのプリント例

FAX 03 3740 7951		NTT東京		'98 04/24 15:30		001	

--- 通信管理レポート ---							

開始時刻	相手先	発信元名称	No.	通信モード	枚数	通信結果	
*04/24 14:52	03 3509 4202		5028	自動受信 ECM	0	NG	00'18
*04/24 15:09	NTT開発		0008	ポーリング受信 G4	1	OK	00'24
	03 3509 4202		*5027				
*04/24 15:13	03 3509 4202		5029	自動受信 ECM	1	OK	00'16
04/24 15:15	NTT開発	NTT 営業 佐藤	0009	タイ送信 ECM	1	OK	00'24
	03 3509 4202						
04/24 15:16			5030	自動受信 ECM	0	NG	00'10
					0		
04/24 15:17	NTT北陸		0010	送信 ECM	0	NG	00'11
	0762 44 6785				0	#0102	
	Fコード 1234567890						
04/24 15:20	NTT営業		0011	送信 ECM	1	NG	00'00
	03 3509 5538				0	#0995	
	Fコード 234567890*						
04/24 15:21	0762 44 6785		5031	親展受信 ECM	1	OK	00'23
	Fコード 34567890*#						
04/24 15:22	NTT東海		0012	送信 ECM	1	OK	00'18
	052 264 1434						
	サブアドレス 12345						
	Fコード 234567890#						
04/24 15:30	052 264 1434		5032	代行受信 ECM	1	OK	00'16

● 部門コード（部門別管理を設定しているとき）

● 開始時刻

実際に通信動作を開始した時刻

*：一度プリントしたものに付きます。

● 相手先

ワンタッチダイヤル／短縮ダイヤルに登録されている相手先略称、相手先電話番号、受信した相手先の電話番号、サブアドレス（下10桁）、Fコード（下10桁）

● 発信元名称

送信時に使用した発信元名称

● No.

0001～4999：送信を行った順の一連番号（4999のあとは0001に戻る）

5001～9999：受信した順の一連番号（9999のあとは5001に戻る）

*：ポーリング受付番号

● ポーリング受信は0001～4999、ポーリング送信は5001～9999のNo.が付きます。

● 転送や中継同報送信のときは、原稿受信時のNo.（5001～9999）が、転送先への送信時にも使用されます。

● 通信モード

送受信の種類、通信モード、使用した機能

● 枚数

正常に通信された原稿枚数

● 通信結果

OK：正常終了

NG：エラー終了

ストップ：通信中に[ストップ]ボタンによる中断

通信に要した時間

何枚目でエラー終了したのか

エラー番号



お知らせ

● 受信した相手先の電話番号としてレポートにプリントされるのは、相手の方が発信元番号として登録したファクス番号で、相手の方の契約者回線番号ではありません。

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

送信 / 受信分離の場合

FAX 03 3740 7951		NTT東京		'98 04/24 15:30		001	
***** --- 通信管理レポート (送信) --- *****							
開始時刻	相手先	発信元名称	No.	通信モード	枚数	通信結果	
*04/24 15:15	NTT開発 03 3509 4202	NTT 営業 佐藤	0009	タテ送信 ECM	1	OK	00'24
*04/24 15:17	NTT北陸 0762 44 6785 Fコード 1234567890		0010	送信 ECM	0	NG	00'11 0 #0102
04/24 15:20	NTT営業 03 3509 5538 Fコード 234567890*		0011	送信 ECM	1	NG	00'00 0 #0995
04/24 15:22	NTT東海 052 264 1434 サブアドレス 12345 Fコード 234567890#		0012	送信 ECM	1	OK	00'18

***** --- 通信管理レポート (受信) --- *****							
開始時刻	相手先	発信元名称	No.	通信モード	枚数	通信結果	
*04/24 14:52	03 3509 4202		5028	自動受信 ECM	0	NG	00'18
*04/24 15:13	03 3509 4202		5029	自動受信 ECM	1	OK	00'16
*04/24 15:16			5030	自動受信 ECM	0	NG	00'10 0
04/24 15:21	0762 44 6785 Fコード 34567890#		5031	親展受信 ECM	1	OK	00'23
*04/24 15:30	052 264 1434		5032	代行受信 ECM	1	OK	00'16

部門別管理を設定している場合

FAX 03 3740 7951		NTT東京		'98 04/24 15:30		001	
***** --- 通信管理レポート (送信) --- *****							
部門コード:1625							
開始時刻	相手先	発信元名称	No.	通信モード	枚数	通信結果	
*04/24 15:15	NTT開発 03 3509 4202	NTT 営業 佐藤	0009	タテ送信 ECM	1	OK	00'24
*04/24 15:17	NTT北陸 0762 44 6785 Fコード 1234567890		0010	送信 ECM	0	NG	00'11 0 #0102
04/24 15:20	NTT営業 03 3509 5538 Fコード 234567890*		0011	送信 ECM	1	NG	00'00 0 #0995
部門コード:1626							
開始時刻	相手先	発信元名称	No.	通信モード	枚数	通信結果	
04/24 15:22	NTT東海 052 264 1434 サブアドレス 12345 Fコード 234567890#		0012	送信 ECM	1	OK	00'18

各種の通信結果を確認するには

■ 送信結果レポートのプリント例

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001
..... ... 送信結果レポート			
次の送信は正しく終了しました			
受付番号	0009		
相手の電話番号		03 3509 4202	
相手先略称	NTT開港		
開始時刻	04/24 15:15		
通信時間	00'24		
枚数	1		
通信結果	OK		
THE SLEREXE COMPANY LIMITED SAPORS LANE-BOOLE DORSET-BH 25 8 ER TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617-TELEX 123456			
Our Ref. 350/PJC/EAC			
Dr. P. N. Cundall. Dr. P. N. Cundall.			

エラー送信レポート

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001
..... ... エラー送信レポート			
次の送信はエラー終了しました			
受付番号	0010		
相手の電話番号		0762 44 6785	
相手先略称	NTT北陸		
開始時刻	04/24 15:17		
通信時間	00'11		
枚数	0		
通信結果	NG		
THE SLEREXE COMPANY LIMITED SAPORS LANE-BOOLE DORSET-BH 25 8 ER TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617-TELEX 123456			
Our Ref. 350/PJC/EAC			
Dr. P. N. Cundall. Dr. P. N. Cundall.			

送信原稿の画像の一部（プリントするように設定したとき）

- 受付番号
送信を行った順の一連番号
- 部門コード（部門別管理を設定しているとき）
- 相手の電話番号
送信先の電話番号
- 相手先略称
ワンタッチダイヤル／短縮ダイヤルに登録されている相手先略称（ポーリング送信のときは記録されません）
- サブアドレス（サブアドレスを指定したとき）
- Fコード（Fコードを指定したとき）
- 開始時刻
実際に通信動作を開始した時刻
- 通信時間
通信に要した時間
- 枚数
正常に通信された原稿枚数
- 通信結果
OK：正常終了
NG：エラー終了

マルチ通信結果レポート

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001

*** マルチ通信結果レポート ***			

受付番号	0048		
枚数	1		
未通信相手先	(2)	052 264 1434	
終了相手先	(1)	0762 44 6785	
エラー相手先			

- 受付番号
送信を行った順の一連番号
- 部門コード（部門別管理を設定しているとき）
- 枚数
正常に通信された原稿枚数
- 未通信相手先
まだ通信していない相手先の電話番号
- 終了相手先
通信が正常に終了した相手先の電話番号
- エラー相手先
通信できなかった相手先の電話番号

中継同報結果レポート

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001

*** 中継同報結果レポート ***			

受付番号	5025		
枚数	1		
未通信相手先	[06]052 264 1434	NTT東海	
終了相手先	[10]0762 44 6785	NTT北陸	
エラー相手先			

- 中継グループ
中継同報先のグループ番号、グループ名称
- 受付番号
送信を行った順の一連番号
- 部門コード（部門別管理を設定しているとき）
- 未通信相手先
まだ通信していない相手先の電話番号
- 終了相手先
通信が正常に終了した相手先の電話番号
- エラー相手先
通信できなかった相手先の電話番号

各種の通信結果を確認するには

■ 受信結果レポートのプリント例

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001
***** *** 受信結果レポート *** *****			
次の受信は正しく終了しました			
受付番号	5029		
相手の電話番号		03 3509 4202	
Fコード		#1234	
相手先略称			
開始時刻	04/24 15:13		
通信時間	00'16		
枚数	1		
通信結果	OK		

- | | |
|---|-------------------------------|
| ● 受付番号
受信した順の一連番号 | ● 開始時刻
実際に通信動作を開始した時刻 |
| ● 相手の電話番号
受信した相手の電話番号（最大20桁まで表示されます） | ● 通信時間
通信に要した時間 |
| ● サブアドレス（サブアドレスが指定されたとき） | ● 枚数
正常に通信された原稿枚数 |
| ● Fコード（Fコードが指定されたとき） | ● 通信結果
OK：正常終了
NG：エラー終了 |
| ● 相手先略称
ワンタッチダイヤル／短縮ダイヤルに登録されている
相手先からポーリング受信した場合の相手先略称 | |

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

■ 親展受信レポートのプリント例

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001

--- 親展受信レポート ---			

親展ボックスNo.	#10		
親展ボックス名称	NTT親展		
受付番号	5018		
相手の電話番号		0488 82 6645	
Fコード		123456789	
相手先略称			
開始時刻	04/24 13:30		
通信時間	00'23		
枚数	1		
通信結果	OK		

- 親展ボックスNo.
受信した親展ボックスのNo.
- 親展ボックス名称
受信した親展ボックスの名称
- 受付番号
受信した順の一連番号
- 相手の電話番号
受信した相手の電話番号（最大20桁まで表示されます）
- サブアドレス（サブアドレスが指定されたとき）
- Fコード（Fコードが指定されたとき）
- 相手先略称（空欄）
- 開始時刻
実際に通信動作を開始した時刻
- 通信時間
通信に要した時間
- 枚数
正常に通信された原稿枚数
- 通信結果
OK：正常終了
NG：エラー終了



お知らせ

- 受信した相手先の電話番号としてレポートにプリントされるのは、相手の方が発信元番号として登録したファクス番号で、相手の方の契約者回線番号ではありません。

各種の通信結果を確認するには

■ 汎用ボックスレポートのプリント例

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001

*** 汎用ボックスレポート ***			

ボックスNo.	#03		
ボックス名称	NTT開発		
受付番号	5008		
相手の電話番号		03 3509 4202	
Fコード		#1234	
相手先略称			
開始時刻	04/24 14:30		
通信時間	00'23		
枚数	1		
通信結果	OK		

- ボックスNo.
受信した汎用ボックスのNo.
- ボックス名称
受信した汎用ボックスの名称
- 受付番号
受信した順の一連番号
- 相手の電話番号
受信した相手の電話番号（最大20桁まで表示されます）
- サブアドレス（サブアドレスが指定されたとき）
- Fコード（Fコードが指定されたとき）
- 相手先略称（空欄）
- 開始時刻
実際に通信動作を開始した時刻
- 通信時間
通信に要した時間
- 枚数
正常に通信された原稿枚数
- 通信結果
OK：正常終了
NG：エラー終了

■ 親展文書リストのプリント例

FAX 03 3740 7951	NTT東京	'98 04/24 15:30	001

*** 親展文書リスト ***			

親展ボックスNo.	親展ボックス名称	枚数	
10	NTT親展	1	

- 親展ボックスNo.
受信した親展ボックスのNo.
- 親展ボックス名称
受信した親展ボックスの名称
- 枚数
正常に通信された原稿枚数

■ 汎用ボックス管理リストのプリント例

FAX 03 3740 7951 NTT東京 '98 04/24 15:30 001

*** 汎用ボックス管理リスト ***

ボックスNo.	ボックス名称	枚数
03	NTT開発	1

- ボックスNo.
受信した汎用ボックスのNo.
- ボックス名称
受信した汎用ボックスの名称
- 枚数
正常に通信された原稿枚数

■ メモリクリアリストのプリント例

FAX 03 3740 7951 NTT東京 '98 04/24 15:30 001

*** メモリクリアリスト ***

次の通信予約またはメモリはクリアされました

受付番号	通信モード	相手先	枚数	受付時刻	開始時刻	発信元名称
0049	順次同報送信	[01]NTT開発	1	04/24 11:41	12:00	NTT 営業 伊藤
0050	送信	[01]NTT開発	1	04/24 11:55	12:00	NTT 営業 久保
5003	親展受信		1	04/24 10:39	-----	
5004	親展受信		1	04/24 11:21	-----	
5005	親展受信		1	04/24 11:30	-----	

- 受付番号
0001～4999：送信を行った順の一連番号
5001～9999：受信した順の一連番号
*：ポーリング受付番号
- 通信モード
送受信の種類、通信モード、使用した機能
- 相手先
ワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルに登録されている
相手先略称、相手先電話番号、受信した相手先の電話番号
- 枚数
メモリに記憶されていた原稿枚数
- 受付時刻
通信を受け付けた時刻
- 開始時刻
通信予約されていた時刻
- 発信元名称
送信時に使用した発信元名称

● お知らせ

- 受信した相手先の電話番号としてレポートにプリントされるのは、相手の方が発信元番号として登録したファクス番号で、相手の方の契約者回線番号ではありません。

● STOP お願い

- 本装置に内蔵されているバックアップ電池を完全に充電しておくようにしてください。充電するためには、本装置の電源を24時間以上連続で入れておく必要があります。バックアップ電池が完全に充電されていないときは、電源が切れている状態が3時間以内でも、メモリ内の原稿が消去されてしまうことがあります。

登録 / 設定した内容を確認するには

登録 / 設定した内容のリストをプリントして確認することができます。

リストには以下の種類があります。各種リストのプリント例はP259～261を参照してください。

■ リストの種類

ダイヤルリスト

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤルの登録内容をリストでプリントします。

- ワンタッチダイヤル電話番号リスト1 / 短縮ダイヤル電話番号リスト1
登録された相手の電話番号（サブアドレスを登録しているときはサブアドレスも含む）や相手先略称、送信方法、送信時間が確認できます。
- ワンタッチダイヤル電話番号リスト2 / 短縮ダイヤル電話番号リスト2 :
ダイヤルリスト1の内容に加え、送信速度やFコードなど詳細が確認できます。
- グループダイヤル電話番号リスト :
グループダイヤルに登録されたワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルが確認できます。

パラメータリスト (P258)

本装置に登録 / 設定されている各種の設定内容をリストでプリントします。

ダイヤルリストをプリントする

ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤル（リスト1 / リスト2）、グループダイヤルのそれぞれについて、登録内容のリストをプリントします。

1 ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
	=	FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[レポート出力] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理レポート
	02 ダイヤリスト
	03 パラメータリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
レポート	

[▼]または[▲]ボタンを押して「ダイヤルリスト」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理ポ-ト
	02 ダイヤリスト ▾
	03 パラメ-タリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
ポ-ト	



項目を選んでください	01 ワンタッチダ イヤリスト1	▼
	02 短縮ダ イヤリスト1	
	03 ワンタッチダ イヤリスト2	
	04 短縮ダ イヤリスト2	
ダ イヤリスト	05 グループダ イヤリスト	

[▼]または[▲] ボタンを押してプリントするダイヤルリストを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：ワンタッチダイヤルリスト2

項目を選んでください	01 ワンタッチ イヤリスト1
	02 短縮 イヤリスト1
	03 ワンタッチ イヤリスト2
	04 短縮 イヤリスト2
ダ イヤリスト	05 グループ ダ イヤリスト



ダイヤルリストがプリントされます。

自動受信 印刷出力中 '98 04/24
FRI 15:30

標準 ふつう 文字 ADF
送信画質 読取濃度 原稿の種類 プック送信



 ワンポイント・・・・・・・・・・

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- ダイヤルリストのプリント例は (●P259)



お知らせ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

- 手順2で表示される「原稿リスト」とは、
[メモリ内容確認]ボタンを押して表示される「原稿リスト」(●P154)と同一のもので、メモリ内に蓄積されている原稿のリストをプリントすることができます。
- 電話番号は最大120桁まで登録できますが、ダイヤルリスト(リスト1)には最大40桁までしかプリントされません。40桁を超える登録内容は、ダイヤルリスト(リスト2)で確認してください。

登録 / 設定した内容を確認するには

パラメータリストをプリントする

ダイヤル登録以外の設定項目の内容をすべてリストでプリントします。

1

ファクス ボタンを押します。

ファクスランプが点灯し、ファクスモードになります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
☎= 標準 ふつう 文字 ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信

2

ワンタッチパネルを3枚開いて、[レポート出力] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理レポート
	02 ダイヤリスト
	03 パラメータリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
レポート	

3

[▼] または [▲] ボタンを押して「パラメータリスト」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 通信管理レポート
	02 ダイヤリスト
	03 パラメータリスト
	04 原稿リスト
	05 親展文書リスト
レポート	

パラメータリストがプリントされます。

自動受信	レポート出力中	'98 04/24
		FRI 15:30
☎= 標準 ふつう 文字 ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ブック送信



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- パラメータリストのプリント例は
(● P261)

各種リストのプリント例

■ ダイヤルリストのプリント例

ワンタッチダイヤル電話番号リスト1 / 短縮ダイヤル電話番号リスト1

FAX 03 3740 7951		NTT東京		'98 04/24 15:30		①001	
***** *** ワンタッチダイヤル電話番号リスト *** *****							
No.	相手の電話番号		相手先略称		送信方法		②
[01]	03 3509 4202/08		NTT開発		通常送信		10:00
[02]	0488 82 6645		NTT埼玉		Fコード送信		
[05]	グループダイヤル		NTT支店グループ A		通常送信		
[06]	052 264 1434		NTT東海		通常送信		
[10]	0755		NTT北陸		通常送信		

FAX 03 3740 7951		NTT東京		'98 04/24 15:30		②001	
***** --- 短縮ダイヤル電話番号リスト --- *****							
No.	相手の電話番号			相手先略称		送信方法	①
[*000]	011 251 0491			NTT北海道		通常送信	08:30
[*001]	03 3509 5538/11			NTT営業		通常送信	
[*002]	0292 31 1049			NTT茨城		通常送信	
[*005]	グループダイヤル			NTT支店グループB		通常送信	
[*010]	0286 32 3617			NTT栃木		通常送信	
[*012]	0899 33 4442			NTT四国		通常送信	
[*014]	096 352 3673			NTT九州		通常送信	

- No.1
ワンタッチボタンの番号、短縮番号
(＊：短縮ダイヤル)
- 相手の電話番号
登録されている相手先電話番号
(サブアドレスを登録しているときは、「電話番号」「/」「サブアドレス」と表示)
上から40桁
- 相手先略称
登録されている相手先略称
- 送信方法
使用した送信の種類
- 
タイマ通信開始時刻



お知らせ

- 電話番号（サブアドレスも含む）は最大120桁まで登録できますが、ダイヤルリスト（リスト1）には最大40桁までしかプリントされません。40桁を超える登録内容は、ダイヤルリスト（リスト2）で確認してください。

登録 / 設定した内容を確認するには

ワンタッチダイヤル電話番号リスト2 / 短縮ダイヤル電話番号リスト2

FAX 03 3740 7951 NTT東京 '98 04/24 15:30 001

--- ワンタッチダイヤル電話番号リスト2 ---

[01]相手の電話番号	03 3509 4202
サブアドレス	8
相手先略称	NTT開発
通信モード	G3
送信速度	9600bit/s(0)
送信方法	通常送信
ECM通信	する
[02]相手の電話番号	0488 82 6645
サブアドレス	
相手先略称	NTT埼玉
送信時刻	(1)10:00 (2)12:00 (3)13:00 (4)14:00 (5)15:00
通信モード	G4/G3
送信速度	14400bit/s(0)
送信方法	Fコード
Fコード	123456789
ECM通信	する
[05]相手の電話番号	グループダイヤル
サブアドレス	
相手先略称	NTT支店グループA
通信モード	G4/G3
[06]相手の電話番号	052 264 1434
サブアドレス	
相手先略称	NTT東海
通信モード	

- [XX] (XXは数字)
ワンタッチボタンの番号、短縮番号
(* : 短縮ダイヤル)
- 相手の電話番号
登録されている相手先電話番号
- サブアドレス (サブアドレス
発信「使用する」のとき)
登録されている相手先サブアドレス
- 相手先略称
登録されている相手先略称
- 送信時刻
タイム通信開始時刻
- 通信モード
使用した通信モード
- 送信速度
使用した送信速度
- 送信方法
使用した送信の種類
- ECM通信
ECM通信をする / しない

FAX 03 3740 7951 NTT東京 '98 04/24 15:30 001

--- 短縮ダイヤル電話番号リスト2 ---

[*000]相手の電話番号	011 251 0491
相手先略称	NTT北海道
サブアドレス	
送信時刻	(1)08:30 (2)09:00 (3)12:00 (4)15:00 (5)17:00
通信モード	G4/G3
送信速度	14400bit/s(0)
送信方法	通常送信
ECM通信	する
[*001]相手の電話番号	03 3509 5538
サブアドレス	11
相手先略称	NTT営業
通信モード	G3
送信速度	9600bit/s(0)
送信方法	通常送信
ECM通信	する

グループダイヤル電話番号リスト

FAX 03 3740 7951 NTT東京 '98 04/24 15:30 001

--- グループダイヤル電話番号リスト ---

[05]NTT支店グループA	[*000]011 251 0491	NTT北海道
	[01]03 3509 4202/08	NTT開発
	[06]052 264 1434	NTT東海
[*005]NTT支店グループB	[*002]0292 31 1049	NTT茨城
	[*010]0286 32 3617	NTT栃木
	[*012]0899 33 4442	NTT四国
	[*014]096 352 3673	NTT九州

- [XX] (XXは数字)
グループダイヤルが登録されているワンタッチボタンの番号、短縮番号
(* : 短縮ダイヤル)
- 登録されているグループダイヤルの名称
- グループダイヤルに登録されているワンタッチボタンの番号、短縮番号とそれぞれの電話番号 / サブアドレス
(* : 短縮ダイヤル)
上から30桁
- 登録されている相手先略称

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録 / 設定する

6 ご参考に

■パラメータリストのプリント例

FAX 03 3740 7951 NTT東京 '98 04/24 15:30 001	
***** ... パラメータリスト ... *****	
1. 受信モード	FAX専用
自動受信	
電話優先詳細設定	
呼出開始時間	6秒
呼出時間	15秒
呼出後の動作	受信
音声応答	する
ダイヤルイン	使用しない
着アドレッシング	しない
サブアドレッシング	使用しない
2. ダイヤル登録モード	
3. 設定モード	
3-1レポート設定	
送信結果レポート	エラー時のみプリント
送信画像	つける
受信結果レポート	プリントしない
通信管理レポート	
自動プリント	する
指定時刻プリント	しない
送信/受信分離	する
親展受信レポート	プリントする
汎用ボックスレポート	プリントする
3-2機能設定	
通信モード	G4/G3
一括送信	する
エラー原稿クリア	
ダイヤルアウト	
読取済スキャン	
レポート受信	
[*001]	
1. 19:00 2. 3. 4.	
ボックス	
#00 ボックス名称	
Fコード	する
送信後の原稿クリア	
#05 ボックス名称	NTT ボーリング
Fコード	*0987654321#
送信後の原稿クリア	する
転送ボックス	
ボックス名称	NTT転送
宛先	[01]
指示元制限	する
指示元	[*001]
ON時刻	
[SUN]	1. 20:30 2. 3. 4. 5.
OFF時刻	
[MON]	1. 10:00 2. 3. 4. 5.
受信原稿プリント	する
受信プリント部数	2枚
ベル回数設定	しない
自動再ダイヤル	する
再ダイヤル回数	2回
再ダイヤル間隔	3分
送信エラー時再ダイヤル	する
再ダイヤル送信ページ	1ページ とエラーページ
全メモリ容量	10.240 MByte



ワンポイント

- 読取濃度の設定内容はパラメータリストでは、「3-4 装置設定」の「読取濃度」は、以下の数値で表示されます。

うすく : 3 ~ 9

ふつう : 2 ~ 8

こく : 1 ~ 7

ダイヤル登録でいろいろな通信機能を設定するには

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルには、電話番号や相手の名称などのほかに送信時刻、Fコードやパスワード、通信モードを設定することができます。また、G3モードで利用している場合は、海外送信、送信速度、ECM通信などの通信機能を設定することもできます。

特定の相手先に対して、常に一定の送信方法で原稿を送信するときに便利です。

送信時刻を設定する

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに送信時刻を設定しておくと、同じ宛先へ送付する複数の文書を順次メモリに記憶させておき、設定した時刻にまとめて送信できるので、通信コストが削減できます。

特定の相手先に対して、いつも同じ時刻に送信する場合に便利です。また、1日最大5時刻まで設定できるので、定期便のような情報伝達に使うことができます。

1

ダイヤル登録の操作を行います。

ワンタッチダイヤルの登録：手順1～9（●P124）

短縮ダイヤルの登録：手順1～9（●P128）

「詳細設定」が反転表示されます。

2

「セット」ボタンを押します。

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□□	
詳細設定	

3

「▼」または「▲」ボタンを押して「する」を反転表示させ、「セット」ボタンを押します。

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□□	
詳細設定	



詳細設定で設定できる項目が表示されます。

項目を選んでください	01 送信時刻設定 02 送信詳細設定 03 通信モード 04 G3詳細設定
□□□□□	
詳細設定	

4

「セット」ボタンを押します。

登録する番号を選んでください	01 --:-- 02 --:-- 03 --:-- 04 --:-- 05 --:--
□	
送信時刻設定	

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

5

[セット] ボタンを押します。

1つめの送信時刻の設定になります。

6

送信時刻（4桁の数字）を入力し、[セット] ボタンを押します。

送信時刻は、24時間制（4桁）で入力してください。

例：午後8時5分

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



「登録しました」と表示されたあと、2つめの送信時刻が反転表示されます。

すべての時刻を登録する必要はありません。

送信時刻の設定を終了するときは、手順9へ進みます。

7

複数の送信時刻（最大5時刻）を設定するときは、[セット] ボタンを押します。

2つめの送信時刻の設定になります。

8

手順6～7を繰り返し、送信時刻を設定します。

9

[戻る] ボタンを押します。

続けて他の設定操作を行うことができます。

設定を終了するときは[ストップ] ボタンを押します。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 複数の送信時刻を設定すると
送信のための操作を行った時点から、一番
早い設定時刻に原稿が送信されます。
- グループダイヤルに登録できるのは
グループダイヤルには、送信時刻だけを設
定することができます。（●P132）

ダイヤル登録でいろいろな通信機能を設定するには

Fコードとパスワードを登録する

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルにFコードとパスワードを登録しておくと、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルで親展送信（●P212）、中継指示送信（●P216）、Fコード送信（●P186）、ポーリング受信（●P198）ができます。

特定の相手先に対して、いつも親展送信を行う場合などに便利です。

お買い求めのときは、「通常送信」に設定されています。

「送信時刻を設定する」の手順1～3の操作（●P262）をします。

1

項目を選んでください	01 送信時刻設定
000000	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定

[▼]または[▲]ボタンを押して「送信詳細設定」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 送信時刻設定
000000	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定



項目を選んでください	01 通常送信
000000	02 親展送信
送信詳細設定	03 中継指示
	04 Fコード
	05 ポーリング受信

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

[▼] または [▲] ボタンを押して設定する送信方法を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

- 「通常送信」 : 登録中のダイヤルで通常を送信を行う
「親展送信」 : 登録中のダイヤルで親展送信を行う
「中継指示」 : 登録中のダイヤルで中継指示送信を行う
「Fコード」 : 登録中のダイヤルでFコード送信を行う
「ポーリング受信」 : 登録中のダイヤルでポーリング受信を行う

例：親展送信

項目を選んでください	01 通常送信 02 親展送信 03 中継指示 04 Fコード 05 ポーリング受信
送信詳細設定	



項目を選んでください	01 パスワード 02 Fコード
親展送信	

相手機がパスワードを設定していないときは、[▼] または [▲] ボタンを押して「Fコード」を反転表示させ、手順6へ進みます。

[セット] ボタンを押します。

パスワードの登録になります。

パスワード	
	削除

次ページに続きます。



ダイヤル登録でいろいろな通信機能を設定するには

パスワード（最大20桁）を入力し、[セット] ボタンを押します。

例：「 # 123456789 * 」

パスワード	
#123456789*	削除

5

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



項目を選んでください	01 パスワード 02 Fコード
□□□□□□□□	
親展送信	

[セット] ボタンを押します。

Fコードの登録になります。

6

Fコード	
	削除

7

Fコード（最大20桁）を入力し、[セット]
ボタンを押します。

例：「✖123456789#」

Fコード

*123456789#

削除

数字、＊、＃、スペースが入力できます。ただし、最初にスペースを入力することはできません。

入力を間違えたときは、『削除』（画面選択ボタン）を押して1つ前の桁に戻り、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 送信時刻設定
	02 送信詳細設定
	03 通信モード
	04 G3詳細設定

□□□□□□
詳細設定

続けて他の設定操作を行うことができます。

設定を終了するときは[ストップ]ボタンを押します。



ワンポイント・・・・・・・・

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- スペース（空白）を入力するときは
ワンタッチパネルを3枚開いて、[スペース]
ボタンを押します。



お知らせ

- パスワードやFコードは、相手に登録されているものと、スペースも含めて完全に一致するように指定してください。

ダイヤル登録でいろいろな通信機能を設定するには

通信モードを設定する

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに、通信時に利用する通信モードを登録することができます。

特定の相手先に対していつもG3モードで送信する場合や、相手がG4通信を受け付けないという場合などに利用します。

お買い求めのときは、「G4 / G3」に設定されています。

「送信時刻を設定する」の手順1～3の操作（●P262）をします。

1

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定

2

[▼] または [▲] ボタンを押して「通信モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定



項目を選んでください	01 G4/G3
□□□□□□	02 G3
通信モード	

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

3

[▼] または [▲] ボタンを押して登録する通信モードを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：G4 / G3

項目を選んでください	01 G4/G3
	02 G3
通信モード	



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 送信時刻設定
	02 送信詳細設定
	03 通信モード
	04 G3詳細設定
詳細設定	

続けて他の設定操作を行うことができます。

設定を終了するときは[ストップ] ボタンを押します。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

STOP お願い

- 相手機がG4ファクスであってもG3通信モードでしかFコードやパスワードに対応していない場合は、通信モードを「G3」に登録してください。

ダイヤル登録でいろいろな通信機能を設定するには

海外送信を設定する

G3モードで利用している場合に、ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルに海外の通信相手を登録するとき、海外送信の種別を設定することができます。相手先が海外で、送信エラーがよく発生するときは、海外送信設定を行ってみてください。
お買い求めのときは、「国内送信」に設定されています。

「送信時刻を設定する」の手順1～3の操作（●P262）をします。

1

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定

2

[▼] または [▲] ボタンを押して「G3詳細設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定



項目を選んでください	01 海外送信設定
□□□□□□	02 送信速度
G3詳細設定	03 ECM通信

3

[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 国内送信
□□□□□□□□	02 海外送信設定(1)
海外送信設定	03 海外送信設定(2)
	04 海外送信設定(3)

4

[▼] または [▲] ボタンを押して設定する海外送信の種別を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

例：海外送信設定（１）

項目を選んでください	01 国内送信
□□□□□□□□	02 海外送信設定(1) ▾
海外送信設定	03 海外送信設定(2)
	04 海外送信設定(3)



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 海外送信設定
□□□□□□□□	02 送信速度 ▾
G3詳細設定	03 ECM通信

まず「海外送信設定（１）」に設定してみてください。エラーが解消されないときは（２）（３）の順に設定してみてください。

続けて他の設定操作を行うことができます。

設定を終了するときは[ストップ] ボタンを押します。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

ダイヤル登録でいろいろな通信機能を設定するには

送信速度を設定する

G3モードで利用している場合に、ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルに原稿を送信するときの速度を、14 400 bit/s、9 600 bit/s、4 800 bit/sの中から選択して設定することができます。回線状態が安定している地域の通信相手には送信速度を上げ、回線状態が悪い地域の通信相手にはエラーが発生しにくいように調整することができます。

お買い求めのときは、「14 400 bit/s」に設定されています。

「送信時刻を設定する」の手順1～3の操作（●P262）をします。

1

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定

[▼] または [▲] ボタンを押して「G3詳細設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

2

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定



項目を選んでください	01 海外送信設定
□□□□□□	02 送信速度
G3詳細設定	03 ECM通信

1
使う
送信の便利な機能を

2
使う
受信の便利な機能を

3
使う
その他の便利な機能を

4
各種レポート/リストをプリントする

5
登録/設定する
いろいろな機能を

6
ご参考に

3

[▼]または[▲]ボタンを押して「送信速度」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 海外送信設定
□□□□□□	02 送信速度
G3詳細設定	03 ECM通信



項目を選んでください	01 14400bit/s
□□□□□□	02 9600bit/s
送信速度	03 4800bit/s

4

[▼]または[▲]ボタンを押して設定する送信速度を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

例：9 600 bit/s

項目を選んでください	01 14400bit/s
□□□□□□	02 9600bit/s
送信速度	03 4800bit/s



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 海外送信設定
□□□□□□	02 送信速度
G3詳細設定	03 ECM通信

続けて他の設定操作を行うことができます。

設定を終了するときは[ストップ]ボタンを押します。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ]ボタンを押します。

ダイヤル登録でいろいろな通信機能を設定するには

ECM通信を設定する

G3モードで利用している場合に、ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルに、ECM通信をするかどうかを設定することができます。ECM通信は、送信側と受信側のファクスで通信状態を確認しながら通信する方法です。回線の状態が悪いときでもより確実な通信ができます。

お買い求めのときは、「する」に設定されています。

「送信時刻を設定する」の手順1～3の操作(☞P262)をします。

1

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定

2

[▼] または [▲] ボタンを押して「G3詳細設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 送信時刻設定
□□□□□□	02 送信詳細設定
詳細設定	03 通信モード
	04 G3詳細設定



項目を選んでください	01 海外送信設定
□□□□□□	02 送信速度
G3詳細設定	03 ECM通信

3

[▼] または [▲] ボタンを押して「ECM通信」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 海外送信設定
□□□□□□	02 送信速度
G3詳細設定	03 ECM通信



項目を選んでください	01 する
□□□□□□	02 しない
ECM通信	

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能登録/設定する

6 ご参考に

4

[▼] または [▲] ボタンを押してECM通信をするかどうかを反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 する
	02 しない

ECM通信



「ワンタッチダイヤルを登録する」の手順4 (●P125) または「短縮ダイヤルを登録する」の手順4 (●P129) になります。

続けてワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルの登録操作を行うことができます。

登録を終了するときは [ストップ] ボタンを押します。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- ダイヤル登録の内容を確認するには (ダイヤルリスト)
ダイヤル登録されている内容は、ダイヤルリストをプリントして確認することができます。(●P256、259)



よく使う送信のモードをホームポジションとして設定する (FAXホームポジション)

FAXホームポジションとは

ファクスを送信するときによく使う機能をあらかじめFAXホームポジション（標準状態）として設定しておく、送信のたびに設定する手間が省けます。また、FAXホームポジションに設定した内容は、送信するときに一時的に変更することもできます。

FAXホームポジションの設定に自動的に戻るのは以下の場合です。

- 原稿の読み込みが終了したとき
- **ファクス** ボタンを押してファクスモードに切り替えたとき
- ファクスモードで、オートクリアタイム（●P45）が経過したとき
- 登録 / 設定の操作が終了したとき

FAXホームポジションに設定できる機能

FAXホームポジションに設定できる機能は以下のとおりです。

お買い求めのときは、 に設定されています。

設定できる機能	設定の種類	各機能の参照先
送信画質	しない / 標準 / ファイン / スーパーファイン / ウルトラファイン	●P42
読取濃度	しない / うすく / ふつう / こく	●P43
原稿の種類	しない / 文字 / 文字 / 写真 / 写真	●P43
ブック送信読取サイズ	ADF（自動原稿送り装置） / A3 / B4 / A4 / B5 / A5 	●P47
ダイレクト送信	しない / する	●P44
済スタンプ	押さない / 押す	●P40

「しない」に設定すると、送信時に設定した内容が保持されます。

FAXホームポジションを設定する

1

【ファンクション】ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

2

【▼】または【▲】ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

3

【▼】または【▲】ボタンを押して「装置設定」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。

項目を選んでください	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	



項目を選んでください	01 発信元記録 02 相手発信元記録: G4 03 受信情報記録 04 FAXホームポジション 05 レポートホームポジション
装置設定	

次ページに続きます。

よく使う送信のモードをホームポジションとして設定する (FAXホームポジション)

[▼] または [▲] ボタンを押して「FAXホームポジション」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

4

項目を選んでください	01 発信元記録
	02 相手発信元記録: G4
	03 受信情報記録
□□□□	04 FAXホームポジション
装置設定	05 コピーホームポジション



項目を選んでください	01 送信画質
	02 読取濃度
	03 原稿の種類
□□□□	04 プック送信読取サイズ
FAXホームポジション	05 ダイレクト送信

5

[▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

各項目を設定します。

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

送信画質

[▼] または [▲] ボタンを押して、設定する送信画質を反転表示させます。

例：標準

項目を選んでください	01 しない
	02 標準
	03 ファイン
□□□□□	04 スーパーファイン
送信画質	05 超ファイン

読取濃度

[▼] または [▲] ボタンを押して、設定する読取濃度を反転表示させます。

例：ふつう

6

項目を選んでください	01 しない
	02 うすく
	03 ふつう
□□□□□	04 こく
読取濃度	

原稿の種類

[▼] または [▲] ボタンを押して、設定する原稿の種類を反転表示させます。

例：文字

項目を選んでください	01 しない
	02 文字
	03 文字/写真
□□□□□	04 写真
原稿の種類	

6

ブック送信読取サイズ

[▼] または [▲] ボタンを押して、原稿台ガラスから送信するときの原稿サイズを反転表示させます。

例：A4 ☐

項目を選んでください	01 ADF
	02 A3 ☐
	03 B4 ☐
☐	04 A4 ☒
ブック送信読取サイズ	05 B5 ☐

ダイレクト送信

[▼] または [▲] ボタンを押して、ダイレクト送信をするかどうかを反転表示させます。

例：しない

項目を選んでください	01 しない
	02 する
☐	
ダイレクト送信	

済スタンプ

[▼] または [▲] ボタンを押して、済スタンプを押すかどうかを反転表示させます。

例：押す

項目を選んでください	01 押さない
	02 押す
☐	
済スタンプ	

7

続けて他の項目を設定するときは、手順5～6を繰り返します。

8

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
	=	
標準	ふつう	文字
ADF		
送信画質	読取濃度	原稿の種類
ブック送信		



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

よく使うコピーのモードをホームポジションとして設定するには (コピーホームポジション)

コピーホームポジションとは

原稿をコピーするときによく使う機能をあらかじめコピーホームポジション（標準状態）として設定しておく、コピーのたびに設定する手間が省けます。また、コピーホームポジションに設定した内容は、コピーするときに一時的に変更することもできます。

コピーホームポジションの設定に自動的に戻るのは以下の場合です。

- **コピー** ボタンを押してコピーモードに切り替えたとき
- コピーモードで、[ストップ] ボタンまたは[リセット] ボタンを押したとき（ただし、コピー中は除く）
- コピーモードで、オートクリアタイム（●P81）が経過したとき
- 登録 / 設定の操作が終了したとき

コピーホームポジションに設定できる機能

コピーホームポジションに設定できる機能は以下のとおりです。

お買い求めのときは、 に設定されています。

設定できる機能	設定の種類	各機能の参照先
標準読取モード	文字 / 文字 / 写真 / 写真、読取濃度1～9段階(5)、自動	●P84、85
標準倍率	50～200% (100%)	●P90
標準部数	01～99枚 (01枚)	●P80
枠消し幅	01～20 mm (02 mm)	●P96
自動ソート	する / しない	●P80

コピーホームポジションを設定する

1

[ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2

[▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 レポート設定
	02 機能設定
	03 プリンタ設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	

3

[▼] または [▲] ボタンを押して「装置設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 レポート設定
	02 機能設定
	03 プリンタ設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	



項目を選んでください	01 発信元記録
	02 相手発信元記録: G4
	03 受信情報記録
	04 FAXホームポジション
	05 複写ホームポジション
装置設定	

次ページに続きます。

よく使うコピーのモードをホームポジションとして設定するには (コピーホームポジション)

4

[▼] または [▲] ボタンを押して「コピーホームポジション」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 発信元記録
	02 相手発信元記録: G4
	03 受信情報記録
□□□□	04 FAXホームポジション
装置設定	05 コピーホームポジション



項目を選んでください	01 標準読取モード
	02 標準倍率
	03 標準部数
□□□□	04 枠消し幅
コピーホームポジション	05 自動リート

5

[▼] または [▲] ボタンを押して設定項目を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

各項目を設定します。

各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押してください。

標準読取モード

・読取濃度

『うすく』または『こく』(画面選択ボタン)を押して、読取濃度を9段階で調整します。

標準読取モード			
◀ □□□□■□□□□▶ 文字			
うすく	自動	こく	原稿の種類

・原稿の種類

『原稿の種類』(画面選択ボタン)を繰り返し押して、設定する原稿の種類を表示させます。

標準読取モード			
◀ □□□□■□□□□▶ 文字/写真			
うすく	自動	こく	原稿の種類

・自動

『自動』(画面選択ボタン)を押すと、読取濃度が自動的に調節されます。原稿の種類は「文字」を選択します。

標準読取モード			
◀ □□□□□□□□▶ 自動 文字			
うすく	自動	こく	原稿の種類

6

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

標準倍率

標準倍率（50～200％）を入力します。

例：100％

『 - 』または『 + 』（画面選択ボタン）を押して標準倍率を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

標準部数

標準部数（01～99枚）を入力します。

例：「01」

『 - 』または『 + 』（画面選択ボタン）を押して標準部数を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

枠消し幅

枠消し幅（01～20 mm）を入力します。

例：2 mm

『 - 』または『 + 』（画面選択ボタン）を押して枠消し幅を指定することもできます。

間違えたときは、[クリア] ボタンを押して入力し直します。

自動ソート

[▼] または [▲] ボタンを押して、ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットしたときに自動ソートをONにするかどうかを反転表示させます。

7

続けて他の項目を設定するときは、手順5～6を繰り返します。

8

[ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。



ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。

面倒な設定を簡単にするには

(プログラムボタン登録)

機能ボタンの1つを[プログラム]ボタンに割り当て、ワンタッチパネルを開かなくても操作できるようにすることができます。

以下の14種類のうちいずれかの機能を、[プログラム]ボタンに割り当てることができます。

送信結果レポート予約 / レポート / 発信元名称 / Fコード / 受信モード / タイマ通信 /

ポーリング / 親展 / 中継指示 / 汎用ボックス / メモリ受信 / 転送ボックス / メモリ内容確認 / パスワード

お買い求めのときは、「送信結果レポート予約」が登録されており、ファクスを送信する前に[プログラム]ボタンを押すと、送信終了後、送信結果レポートを出力することができます。

プログラムボタンに機能を登録する

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード
登録/設定	



項目を選んでください	01 ポート設定
	02 機能設定
	03 プリンタ設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して「装置設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 ポート設定
	02 機能設定
	03 プリンタ設定
	04 装置設定
	05 システム設定
設定モード	



項目を選んでください	01 発信元記録
	02 相手発信元記録: G4
	03 受信情報記録
	04 FAXホールド機能
	05 転送ホールド機能
装置設定	



使用者を制限するには

（使用者制限）

ファクス送信やコピーの使用者を制限して、本装置の使用状況を管理することができます。

- 送信機能の使用者制限：
ファクスを送信するときの暗証番号（使用者暗証番号）を登録します。
部門コードを登録して、部門別に暗証番号を登録することもできます。（●P289）
- プリント機能の使用者制限：
コピーや、レポートをプリントするときの暗証番号（使用者暗証番号）を登録します。

送信機能の使用者を制限する

ファクスを送信するときの使用者暗証番号を登録します。この使用者暗証番号を登録すると、ファクスを送信するときに使用者暗証番号の入力が必要になります。

1 [ファンクション] ボタンを押します。

ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
□	03 設定モード
登録/設定	04 登録モード

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
□	03 設定モード
登録/設定	04 登録モード



項目を選んでください	01 レポート設定
	02 機能設定
□□	03 プリント設定
設定モード	04 装置設定
	05 システム設定

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

3 **[▼] または [▲] ボタンを押して「システム設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリント設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	



項目を選んでください	01 管理暗証番号 02 サブアドレス発信 03 発信開始ボタン 04 ダイヤル発呼タイムアウト 05 発信者番号通知
システム設定	

システム設定の管理暗証番号を登録しているとき（▶P293）は、4桁の管理暗証番号を入力し、[セット] ボタンを押してください（管理暗証番号は表示されません）。

4 **[▼] または [▲] ボタンを押して「使用者制限」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。**

項目を選んでください	04 ダイヤル発呼タイムアウト 05 発信者番号通知 06 使用者制限 07 MLI受信 08 ECM送信
システム設定	



項目を選んでください	01 送信機能設定 02 プリント設定
使用者制限	

5 **[セット] ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 しない 02 する
送信機能設定	

次ページに続きます。

使用者を制限するには

(使用者制限)

6 [▼] または [▲] ボタンを押して「する」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 しない 02 する
送信機能設定	

項目を選んでください	01 しない 02 する
部門別管理	

部門別管理をする場合は、「送信機能を部門別に管理する」(P289)を参照してください。

7 [セット] ボタンを押します。

使用者暗証番号の登録になります。

4桁の使用者暗証番号を入力してください(0000~9999)

8 送信機能の使用者暗証番号(0000~9999)を入力し、[セット] ボタンを押します。

例: 「1223」

4桁の使用者暗証番号を入力してください(0000~9999)

1223

入力を間違えたときは、『◀』または『▶』(画面選択ボタン)を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。[クリア] ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。

次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 送信機能設定 02 プリンタ設定
使用者制限	

9 [ストップ] ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

ワンポイント

- 操作を中止するには
[ストップ] ボタンを押します。
- 送信機能の使用者制限を解除するには
手順1~5の操作(P286)をする
[▼] または [▲] ボタンを押して「しない」を反転表示させ、[セット] ボタンを押す
[ストップ] ボタンを押す

お願い

- 使用者の制限や部門別の管理をする場合は、システム設定の管理暗証番号もあわせて登録されることをおすすめします。(P293)
管理暗証番号を登録すると、管理暗証番号を知らない人は使用者制限や部門別管理を含むシステム設定の項目を変更できなくなり、より確実に本装置の使用を管理できます。

送信機能を部門別に管理する

ファクスを送信するとき、送信状況を部門ごとに管理するため、部門コードを登録します。また、部門ごとの暗証番号を登録することができます。部門は、最大9部門まで設定することができます。

1

「送信機能の使用者を制限する」の手順1～6の操作（P286）をします。

部門別管理の設定画面となります。

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□□□	
部門別管理	

2

[▼] または [▲] ボタンを押して「する」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□□□	
部門別管理	



部門コードの登録番号（01～09）の選択になります。

部門番号を選択してください	01 02 03 04 05
□□□□□□	
部門コードセット	

[▼] または [▲] ボタンを押して、空いている部門コードを反転表示させてください。

3

[セット] ボタンを押します。

1つめの部門コードの登録になります。

4桁の部門コードを入力してください(0000～9999)	
□□□□	◀ ▶

登録済みの部門コードがある場合は、それが表示されます。
[クリア] ボタンを押して登録されている部門コードを削除することもできます。

次ページに続きます。

#

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

6

複数の部門を設定するときは、[セット]ボタンを押します。

2つめの部門コードの登録になります。

7

手順4～6を繰り返し、部門コードと暗証番号を登録します。

登録を終了するときは[ストップ]ボタンを押します。

プリント機能の使用者を制限する

コピーと、レポートをプリントするときの使用者暗証番号を登録します。この使用者暗証番号を登録すると、コピーやレポートをプリントするとき使用者暗証番号の入力が必要になります。

1

「送信機能の使用者を制限する」の手順1～4の操作(●P286)をします。

項目を選んでください	01 送信機能設定 02 プリント設定
□□□□ 使用者制限	

2

[▼]または[▲]ボタンを押して「プリンタ設定」を反転表示させ、[セット]ボタンを押します。

項目を選んでください	01 送信機能設定 02 プリント設定
□□□□ 使用者制限	



項目を選んでください	01 しない 02 する
□□□□ プリント設定	

次ページに続きます。

#

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

管理暗証番号を登録する

システム管理者のための管理暗証番号を登録します。この管理暗証番号を登録すると、システム設定メニューの各項目（使用者制限、メモリ受信など）を変更するときに管理暗証番号の入力が必要になります。

1

「送信機能の使用者を制限する」の手順1～3の操作（P286）をします。

項目を選んでください	01 管理暗証番号
	02 サブアドレス発信
	03 発信開始時刻
	04 ダイヤル発信呼び出し
	05 発信者番号通知

2

「セット」ボタンを押します。

暗証番号の登録になります。

4桁の暗証番号を入力してください(0000～9999)

3

管理暗証番号(0000～9999)を入力し、「セット」ボタンを押します。

例：「7777」

4桁の暗証番号を入力してください(0000～9999)

7

7

7

7

入力を間違えたときは、「←」または「→」（画面選択ボタン）を押してカーソルを間違えた文字まで移動し、入力し直します。「クリア」ボタンを押して最初から入力し直すこともできます。



次項目が反転表示されます。

項目を選んでください	01 管理暗証番号
	02 サブアドレス発信
	03 発信開始時刻
	04 ダイヤル発信呼び出し
	05 発信者番号通知

4

「ストップ」ボタンを押します。

待機画面に戻ります。

自動受信	送信できます	'98 04/24
		FRI 15:30
標準	ふつう	文字
送信画質	読取濃度	原稿の種類
		ADF
		ブック送信



ワンポイント.....

- 操作を中止するには
「ストップ」ボタンを押します。
- 登録した管理暗証番号を変更するには
手順1～2の操作をする
現在の管理暗証番号を入力する
「セット」ボタンを押す
新しい管理暗証番号を入力し、「セット」ボタンを押す
「ストップ」ボタンを押す
- 登録した管理暗証番号を削除するには
手順1～2の操作をする
現在の管理暗証番号を入力する
「セット」ボタンを2回押す
「ストップ」ボタンを押す



登録 / 設定の操作一覧

受信モード

1 [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 ダイヤル登録モード
	03 設定モード
	04 登録モード

登録/設定

2 [セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定
	03 ダイヤル
	04 サブアドレス着信

受信モード

3 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目 (01 ~ 04) を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例: ダイヤルイン

項目を選んでください	01 自動受信
	02 電話優先詳細設定
	03 ダイヤル
	04 サブアドレス着信

↓

項目を選んでください	01 使用する
	02 使用しない

ダイヤル

4 各項目を設定します。

5 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

右表を参照してください

01 自動受信	自動受信 (電話優先 / FAX専用) を選択します。(P65)
02 電話優先詳細設定	自動受信で「電話優先」を選択したときに、呼出開始時間や呼出時間などを設定できます。(P68)
03 ダイヤルイン	ダイヤルインに加入されたときにサービスを使用する / しない、を設定します。(P172)
04 サブアドレス着信	サブアドレス着信を使用する / しない、を設定します。(P178)

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

設定値
01 電話優先
02 FAX専用

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 呼出開始時間	本装置が自動応答してから外付け電話機を呼び出すまでの時間を設定できます。	00 ~ 30秒 (06秒)
02 呼出時間	呼出時間の長さを設定できます。	015 ~ 300秒 (015秒)
03 呼出後の動作	設定された時間呼び出しを行っても受話器が取られなかったときの動作を選択できます。	01 受信 02 終了
04 音声応答	音声で応答する / しない、を設定できます。	01 しない 02 する

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
ダイヤルイン	ダイヤルインに加入されたときにサービスを使用する / しない、を設定します。	01 使用する 02 使用しない
(グローバル着信)	ダイヤルイン「使用する」の場合のみ表示 グローバル着信をする / しない (●P173) を設定します。	01 する 02 しない
(着アドレスチェック)	ダイヤルイン「使用しない」の場合のみ表示 着アドレスチェックをする / しない (●P170) を設定します。	01 しない 02 する

設定値
01 使用する
02 使用しない

登録 / 設定の操作一覧

ダイヤル登録モード

- 1 [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。
- 2 [▼] または [▲] ボタンを押して「ダイヤル登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード ▼
登録/設定	03 設定モード 04 登録モード

↓

項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル ▼
ダイヤル登録モード	02 短縮ダイヤル 03 グループダイヤル
- 3 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目 (01 ~ 03) を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例: 短縮ダイヤル

項目を選んでください	01 ワンタッチダイヤル 02 短縮ダイヤル ▼
短縮ダイヤル登録モード	03 グループダイヤル

↓

登録する番号を選んでください	*000 未登録です ▼
No. [----]	*001 未登録です *002 未登録です *003 未登録です *004 未登録です
短縮ダイヤル	
- 4 登録するワンタッチボタンを押したあと、[セット] ボタンを押します。
または、[短縮] ボタンを押し、登録する短縮番号 (3桁の数字) を入力したあと、[セット] ボタンを押します。
- 5 各項目を設定します。
- 6 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

01 ワンタッチダイヤル

よくかける相手先 (最大 84 件) の電話番号や名称を登録します。
また、送信時刻や送信方法、通信モードなどを設定することもできます。
(●P124、262)

02 短縮ダイヤル

よくかける相手先 (最大 116 件) の電話番号や名称を登録します。
また、送信時刻や送信方法、通信モードなどを設定することもできます。
(●P128、262)

03 グループダイヤル

あらかじめワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録してあるいくつかの相手先 (最大 199 件) を 1 つにまとめて登録します。
また、送信時刻を設定することもできます。
(●P132)

右表を参照してください

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 電話番号入力	相手先の電話番号を登録します。	最大120桁 (数字、＊、 井 、『Fネット』(画面選択ボタン)(・) [PB] ボタン (T) 入力可)
(サブアドレス入力)	サブアドレス発信「使用する」(P312、313) の場合のみ表示 相手先のサブアドレスを登録します。	最大19桁 (数字、＊、 井 、スペース (1桁目以外) 入力可)
02 名称	相手先の名称を登録します。	最大全角8文字
03 詳細設定	詳細設定をする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(01 送信時刻設定)	詳細設定「する」の場合のみ表示 送信を開始する時刻を設定します。	24時間制 (4桁) (最大5時刻)
(02 送信詳細設定)	詳細設定「する」の場合のみ表示 送信方法を選択します。	01 通常送信 02 親展送信 03 中継指示 04 Fコード 05 ボーリング受信
(パスワードとFコード)	それぞれのパスワードとFコードを登録します。	最大20桁
(03 通信モード)	詳細設定「する」の場合のみ表示 G4 / G3の両方のモードで利用する、G3モードのみで利用する、を設定します。	01 G4 / G3 02 G3
(04 G3詳細設定)	詳細設定「する」の場合のみ表示 G3モードの詳細設定をします。	
(01 海外送信設定)	海外の通信相手を登録する場合の海外送信の種別を選択します。	01 国内送信 02 海外送信設定 (1) 03 海外送信設定 (2) 04 海外送信設定 (3)
(02 送信速度)	送信時の速度を選択します。	01 14 400 bit/s 02 9 600 bit/s 03 4 800 bit/s
(03 ECM通信)	ECM通信をする / しない、を設定します。	01 する 02 しない

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 電話番号入力	グループダイヤルとして登録する宛先 (ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル) を登録します。	ワンタッチダイヤル 登録済みのワンタッチボタンを指定 短縮ダイヤル [短縮] ボタンを押す → 登録済みの短縮番号 (3桁の数字) を指定
02 名称	グループダイヤルの名称を登録します。	最大全角8文字
03 送信時刻設定	送信を開始する時刻を設定します。	24時間制 (4桁) (最大5時刻)



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（レポート設定）

- 1** **【ファンクション】ボタンを押します。**
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** **【▼】または【▲】ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 受信モード 02 デバイス登録モード 03 設定モード (選択) 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 レポート設定 (選択) 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** **【セット】ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 送信結果レポート (選択) 02 受信結果レポート 03 通信管理レポート 04 親展受信レポート 05 汎用ボックスレポート
レポート設定	
- 4** **【▼】または【▲】ボタンを押して設定項目（01～05）を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。**
 例：受信結果レポート

項目を選んでください	01 送信結果レポート 02 受信結果レポート (選択) 03 通信管理レポート 04 親展受信レポート 05 汎用ボックスレポート
レポート設定	

↓

項目を選んでください	01 プリントしない (選択) 02 15-時のみプリント 03 プリントする
受信結果レポート	
- 5** **各項目を設定します。**
- 6** **各項目を設定したあと、【セット】ボタンを押します。**
 待機画面に戻るときは【ストップ】ボタンを押します。

送信や受信の結果を確認するための各種レポートに関するプリント方法を設定します。

右表を参照してください

01 レポート設定

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 送信結果レポート(●P242)	送信結果レポートをプリントしない / エラー時のみプリントする / 送信ごとにプリントする、を設定します。	01 プリントしない 02 エラー時のみプリント 03 プリントする
(送信画像)	送信結果レポート「エラー時のみプリント」 / 「プリントする」の場合のみ表示 レポートに送信原稿の画像の一部をプリントしてつける / つけない、を設定します。	01 つけない 02 つける
02 受信結果レポート(●P244)	受信結果レポートをプリントしない / エラー時のみプリントする / 受信が終了するごとにプリントする、を設定します。	01 プリントしない 02 エラー時のみプリント 03 プリントする
03 通信管理レポート(●P240)	通信管理レポートについて設定します。	
01 自動プリント	通信管理レポートを40通信ごとに自動的にプリントする / しない、を設定します。	01 する 02 しない
02 指定時刻プリント	通信管理レポートを指定した時刻にプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(プリント時刻)	指定時刻プリント「する」の場合のみ表示 通信管理レポートをプリントする時刻を登録します。	24時間制 (4桁)
03 送信 / 受信分離	通信管理レポートを送信と受信に分けてプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
04 親展受信レポート	親展で受信したことを知らせるレポートをプリントする / しない、を設定します。	01 プリントしない 02 プリントする
05 汎用ボックスレポート	汎用ボックスに原稿を受信したことを知らせるレポートをプリントする / しない、を設定します。	01 プリントしない 02 プリントする



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（機能設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 設定モード 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「機能設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 設定モード 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 通信モード 02 一括送信 03 1-原稿クリア 04 ダイヤルタイムアウト 05 読取済スキャン
機能設定	
- 4** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～09）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例：一括送信

項目を選んでください	01 通信モード 02 一括送信 03 1-原稿クリア 04 ダイヤルタイムアウト 05 読取済スキャン
機能設定	

↓

項目を選んでください	01 する 02 しない
一括送信	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは[ストップ] ボタンを押します。

使用する通信モードやダイヤルタイムアウトなど、さまざまな機能を設定します。

右表を参照してください

02 機能設定

1
使う
送信の便利な機能を

2
使う
受信の便利な機能を

3
使う
その他の便利な機能を

4
を
各種レポート/リスト
をプリントする

5
登録 / 設定する
いろいろな機能を

6
ご参考
に

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 通信モード	G4 / G3の両方のモードで利用する、G3モードのみで利用する、を設定します。	01 G4 / G3 02 G3
02 一括送信	メモリ内の同じ宛先の原稿をまとめて送信する / しない、を設定します。 ただし、順次同報送信した原稿は、一括送信されません。	01 する 02 しない
03 エラー原稿クリア	送信エラーになった原稿を自動的にメモリから消去する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
04 ダイヤルタイムアウト	ワンタッチボタン / 短縮ボタンを押したあと、または電話番号をダイヤルして [セット] ボタンを押したあと一定の時間 (5秒以上) が経過すると自動的に送信を開始する / しない、を設定します。	01 する 02 しない
05 読取済スタンプ	ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットした場合、ダイレクト送信 / メモリ送信終了時に済スタンプをつける、ダイレクト送信終了時にのみつける、を設定します。	01 ダイレクト / メモリ送信 02 ダイレクト送信のみ
06 リモート受信	外付け電話機からの操作でファクスを受信する / しない、を設定します。	01 する 02 しない
(リモート番号)	リモート受信「する」の場合のみ表示 リモート番号を設定します。	2桁 (数字、*、# 入力可) (5*)
07 オンフック受信	外付け電話機の手話器を置くだけでファクスの受信を開始する / しない、を設定します。	01 する 02 しない
08 セレクト受信	ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに登録した相手先からのファクスだけを受信するようにする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
09 代行受信	メモリ代行受信をする / しない、を設定します。	01 する 02 しない
(代行受信アラーム)	代行受信「する」の場合のみ表示 メモリ代行受信をしたときにアラーム音で通知する / しない、を設定します。	01 しない 02 する



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（プリンタ設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 デバイス登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 ポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「プリンタ設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 ポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 受信プリント部数 02 施錠選択 03 自動縮小 04 受信ポートプリント 05 印字継続
プリンタ設定	
- 4** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～10）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
 例：カセット選択

項目を選んでください	01 受信プリント部数 02 施錠選択 03 自動縮小 04 受信ポートプリント 05 印字継続
プリンタ設定	

↓

項目を選んでください	01 スイッチA 02 スイッチB 03 スイッチC 04 スイッチD
カセット選択	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは[ストップ] ボタンを押します。

受信プリント部数など、
プリントに関するさまざま
な機能を設定します。

03
プリンタ設定

右表を参照してください

1
使う
送信の便利な機能を

2
使う
受信の便利な機能を

3
使う
その他の便利な機能を

4
をプリントする
各種レポート/リスト

5
登録 / 設定する
いろいろな機能を

6
ご参考に

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 受信プリント部数	受信した原稿を記録紙にプリントするときの部数を設定します。	01 ~ 99 枚 (01 枚)
02 カセット選択	受信した原稿をプリントするときの記録紙選択を設定します。	
01 スイッチA	A3 ☐ ・ A4 ☐ カセット設置時: A3 ☐ の原稿をA4 ☐ に、分割してプリントすることを許可するかどうかを選択します。 B4 ☐ ・ B5 ☐ カセット設置時: B4 ☐ の原稿をB5 ☐ に分割してプリントすることを許可するかどうかを選択します。 A4 ☐ ・ A5 ☐ カセット設置時: A4 ☐ の原稿をA5 ☐ に分割してプリントすることを許可するかどうかを選択します。	01 ON 02 OFF
02 スイッチB	A3 ☐ ・ A4 ☐ カセット設置時: A4 ☐ の原稿をA3 ☐ に余白つきでプリントすることを許可するかどうかを選択します。 B4 ☐ ・ B5 ☐ カセット設置時: B5 ☐ の原稿をB4 ☐ に余白つきでプリントすることを許可するかどうかを選択します。 A4 ☐ ・ A5 ☐ カセット設置時: A5 ☐ の原稿をA4 ☐ に余白つきでプリントすることを許可するかどうかを選択します。	01 ON 02 OFF
03 スイッチC	B4 ☐ 、B5 ☐ の原稿受信時: B判記録紙がない場合、A4 ☐ 、A5 ☐ に縮小してプリントすることを許可するかどうかを選択します。	01 ON 02 OFF
04 スイッチD	B4 ☐ 、B5 ☐ の原稿受信時: B判記録紙がない場合、A3 ☐ 、A4 ☐ に余白つきでプリントすることを許可するかどうかを選択します。 A4 ☐ 、A5 ☐ の原稿受信時: A判記録紙がない場合、B4 ☐ 、B5 ☐ に余白つきでプリントすることを許可するかどうかを選択します。	01 ON 02 OFF
03 自動縮小	受信した原稿を縮小してプリントする / しない、を設定します。	01 する 02 しない
(01 縮小モード選択)	自動縮小「する」の場合のみ表示 画像の縮小モードを固定モード / 自動モードのどちらかに設定できます。	01 自動 02 固定
(縮小率)	縮小モード選択「固定」の場合のみ表示 画像の縮小率を選択します。	01 97% 02 95% 03 90% 04 75%
(02 縮小方向選択)	自動縮小「する」の場合のみ表示 画像の縮小方向を設定します。	01 縦のみ 02 縦横
04 受信ソートプリント	受信した原稿をページ順にそろえてからプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
05 印字継続	トナーカートリッジが空になってもプリントを継続する / しない、を設定します。「する」に設定すると、トナーがなくなってもメモリ代行受信 (● P67) をしなくなります。新しいトナーカートリッジが手元にないときなどには便利ですが、トナーカートリッジを交換したら、印字継続を「しない」に設定してください。	01 しない 02 する

(つづく)



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（プリンタ設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 タイム登録モード 03 設定モード (選択) 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 レポート設定 (選択) 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「プリンタ設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 (選択) 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 受信プリント部数 (選択) 02 施錠選択 03 自動縮小 04 受信ポートプリント 05 印字継続
プリンタ設定	
- 4** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～10）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
 例：オートカセット選択

項目を選んでください	04 受信ポートプリント 05 印字継続 06 オート施錠選択 (選択) 07 レポート施錠指定 08 手差しサイズ指定
プリンタ設定	

↓

項目を選んでください	01 ファクス受信 (選択) 02 北 -
オートカセット選択	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

オートカセット選択など、
プリントに関するさまざま
な機能を設定します。

03
プリンタ設定

右表を参照してください

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

(つづき)

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
06 オートカセット選択	受信またはコピーした原稿をプリントするときに、使用するカセットを制限することができます。	
01 ファクス受信	受信した原稿をプリントするときに、使用するカセットを制限することができます。(注1)	
01 手差しトレイ (注2)	受信した原稿をプリントするときに、手差しトレイを使用する / しないを設定します。	01 しない 02 する
(手差しトレイ サイズ指定) (注3)	手差しトレイ「する」の場合のみ表示 手差しトレイにセットする記録紙のサイズを選択します。	01 A3 ☐ 02 A4 ☐ 03 B4 ☐ 04 B5 ☐ 05 A4 ☐ 06 A5 ☐ 07 B5 ☐ 08 A5 ☐ 09 11×17 ☐ 10 LTR (レターサイズ) ☐ 11 LTR (レターサイズ) ☐ 12 LGL (リーガルサイズ) ☐
02 カセット1	受信した原稿をプリントするときに、カセット1を使用する / しないを設定します。	01 しない 02 する
03 カセット2	受信した原稿をプリントするときに、カセット2を使用する / しないを設定します。	01 しない 02 する
02 コピー	コピーした原稿をプリントするときに、使用するカセットを制限することができます。(注1)	
01 手差しトレイ (注2)	コピーした原稿をプリントするときに、手差しトレイを使用する / しないを設定します。	01 しない 02 する
(手差しトレイ サイズ指定) (注3)	手差しトレイ「する」の場合のみ表示 手差しトレイにセットする記録紙のサイズを選択します。	01 A3 ☐ 02 A4 ☐ 03 B4 ☐ 04 B5 ☐ 05 A4 ☐ 06 A5 ☐ 07 B5 ☐ 08 A5 ☐ 09 11×17 ☐ 10 LTR (レターサイズ) ☐ 11 LTR (レターサイズ) ☐ 12 LGL (リーガルサイズ) ☐
02 カセット1	コピーした原稿をプリントするときに、カセット1を使用する / しないを設定します。	01 しない 02 する
03 カセット2	コピーした原稿をプリントするときに、カセット2を使用する / しないを設定します。	01 しない 02 する
07 レポートカセット指定	レポートをどのカセットの記録紙にプリントするかを指定する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(カセット指定)	レポートカセット指定「する」の場合のみ表示 プリントするカセットを選択します。(注1)	01 カセット1 02 カセット2 03 手差しトレイ (注1)
(手差しトレイサイズ指定) (注3)	カセット指定「手差しトレイ」の場合のみ表示 手差しトレイにセットする記録紙のサイズを選択します。	01 A3 ☐ 02 A4 ☐ 03 B4 ☐ 04 B5 ☐ 05 A4 ☐ 06 A5 ☐ 07 B5 ☐ 08 A5 ☐ 09 11×17 ☐ 10 LTR (レターサイズ) ☐ 11 LTR (レターサイズ) ☐ 12 LGL (リーガルサイズ) ☐

(つづく)

(注1) 4段カセットタイプの場合は、「手差しトレイ」、「カセット1」、「カセット2」のほかに、「カセット3」、「カセット4」を選択することもできます。



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（プリンタ設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 タイム登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「プリンタ設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 受信プリント部数 02 施付選択 03 自動縮小 04 受信ポートプリント 05 印字継続
プリンタ設定	

↓

項目を選んでください	07 レポート施付指定 08 手差しサイズ指定 09 回転記録 10 N in 1 記録
プリンタ設定	

↓

項目を選んでください	01 しない 02 する
回転記録	
- 4** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～10）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例：回転記録

項目を選んでください	07 レポート施付指定 08 手差しサイズ指定 09 回転記録 10 N in 1 記録
プリンタ設定	

↓

項目を選んでください	01 しない 02 する
回転記録	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

回転記録など、プリントに関するさまざまな機能を設定します。

右表を参照してください

03 プリンタ設定

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

(つづき)

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
08 手差しサイズ指定 (注2)	手差しトレイの記録紙サイズを指定する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(手差しトレイサイズ指定) (注3)	手差しサイズ指定「する」の場合のみ表示 手差しトレイにセットする記録紙のサイズを選択します。	01 A3 ☐ 02 A4 ☐ 03 B4 ☐ 04 B5 ☐ 05 A4 ☐ 06 A5 ☐ 07 B5 ☐ 08 A5 ☐ 09 11×17 ☐ 10 LTR (レターサイズ) ☐ 11 LTR (レターサイズ) ☐ 12 LGL (リーガルサイズ) ☐
09 回転記録	受信した原稿を、セットしている記録紙の向きに合わせて回転させてプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
10 N in 1 記録 (●P145)	1枚の記録紙に、2～5ページ分の原稿をまとめてプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する

- (注2) • 「08 手差しサイズ指定」を「しない」に設定していても、「06 オートカセット選択」で「01 手差しトレイ」を「する」に設定した場合、または「07 レポートカセット指定」で手差しトレイを選択した場合は、「08 手差しサイズ指定」は自動的に「する」に設定されます。
- 「08 手差しサイズ指定」を「しない」に変更した場合は、「06 オートカセット選択」の「01 手差しトレイ」と「07 レポートカセット指定」は、自動的に「しない」に設定されます。
- 「06 オートカセット選択」の「01 手差しトレイ」を「しない」に変更した場合、または「07 レポートカセット指定」で手差しトレイを選択しないように変更した場合でも、「08 手差しサイズ指定」の設定内容は変わりません。
- (注3) 手差しトレイサイズは、「06 オートカセット選択」 / 「07 レポートカセット指定」 / 「08 手差しサイズ指定」のうちで最後に設定したサイズになります。



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（装置設定）

- 1 **【ファンクション】ボタンを押します。**
ファンクションランプが点滅します。
- 2 **【▼】または【▲】ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 受信モード 02 タイム登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 ポート設定 02 機能設定 03 プリント設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3 **【▼】または【▲】ボタンを押して「装置設定」を反転表示させ、【セット】ボタンを押します。**

項目を選んでください	01 ポート設定 02 機能設定 03 プリント設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 発信元記録 02 相手発信元記録: G4 03 受信情報記録 04 FAXホームポジション 05 北ホームポジション
装置設定	

↓

項目を選んでください	01 発信元記録 02 相手発信元記録: G4 03 受信情報記録 04 FAXホームポジション 05 北ホームポジション
装置設定	

↓

項目を選んでください	01 送信画質 02 読取濃度 03 原稿の種類 04 プック送信読取サイズ 05 ダイレクト送信
FAXホームポジション	
- 5 **各項目を設定します。**
- 6 **各項目を設定したあと、【セット】ボタンを押します。**
待機画面に戻るときは【ストップ】ボタンを押します。

発信元記録など、装置に関するさまざまな機能を設定します。

04 装置設定

右表を参照してください

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録 / 設定する

6 ご参考に

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 発信元記録	送信先の記録紙にこちらの名称や送信時刻など (発信元記録) をつける / つけない、を設定します。	01 つける 02 つけない
(01 発信元記録位置)	発信元記録「つける」の場合のみ表示 発信元記録を画像の外につける / 画像の中 (内側) につける、を設定します。	01 画像の外につける 02 画像の中につける
(02 電話番号マーク)	発信元記録「つける」の場合のみ表示 発信元記録の電話番号の前につけるマーク (FAX / TEL) を選択します。	01 FAX 02 TEL
(03 通信モード)	発信元記録「つける」の場合のみ表示 発信元記録をG3モードで送信しているときのみにつける、G3 / G4のどちらのモードで送信しているときもつける、を設定します。	01 G3送信 02 G4 / G3送信
02 相手発信元記録 : G4	G4モードで利用しているときに、受信した記録紙に相手先の発信元端末IDなど (相手発信元記録) をつけない / 画像の中につける / 画像の外につける、を設定します。	01 つけない 02 画像の中につける 03 画像の外につける
03 受信情報記録	原稿の受信時刻、受付番号、ページ番号などを、プリントするときにつける / つけない、を設定します。	01 つけない 02 つける
04 FAXホームポジション (P277)	ファクス送信時の送信画質や読取濃度、原稿の種類などを標準状態 (ホームポジション) として設定します。	
01 送信画質	送信画質のホームポジションを設定します。	01 しない 02 標準 03 ファイン 04 スーパーファイン 05 ウルトラファイン
02 読取濃度	読取濃度のホームポジションを設定します。	01 しない 02 うすく 03 ふつう 04 こく
03 原稿の種類	原稿の種類のホームポジションを設定します。	01 しない 02 文字 03 文字 / 写真 04 写真
04 ブック送信読取サイズ	ブック送信読取サイズのホームポジションを設定します。	01 ADF (自動原稿送り装置) 02 A3 ☐ 03 B4 ☐ 04 A4 ☐ 05 B5 ☐ 06 A5 ☐
05 ダイレクト送信	ダイレクト送信をしない / する、を設定します。	01 しない 02 する
06 済スタンプ	済スタンプを押さない / 押す、を設定します。	01 押さない 02 押す
05 コピーホームポジション (P281)	コピー時の原稿の種類や読取濃度、倍率などを標準状態 (ホームポジション) として設定します。	
01 標準読取モード	原稿の種類 / 読取濃度のホームポジションを設定します。	原稿の種類 文字 / 文字/写真 / 写真 読取濃度 1 ~ 9段階 (5) 自動 読取濃度を自動的に調整
02 標準倍率	倍率のホームポジションを設定します。	50 ~ 200% (100%)
03 標準部数	部数のホームポジションを設定します。	01 ~ 99枚 (01枚)
04 枠消し幅	枠消し幅のホームポジションを設定します。	01 ~ 20 mm (02 mm)
05 自動ソート	ADF (自動原稿送り装置) に原稿をセットしたときに、ソート機能をONにする / しない、を設定します。	01 する 02 しない

(つづく)



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（装置設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 デバイス登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 設定モード 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「装置設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 設定モード 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 発信元記録 02 相手発信元記録: G4 03 受信情報記録 04 FAXホームポジション 05 北半球ホームポジション
装置設定	
- 4** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～11）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例：プログラムボタン登録

項目を選んでください	07 オートダイヤル 08 読取濃度 09 プログラムボタン登録 10 拡張プログラム 11 音量
装置設定	

↓

項目を選んでください	01 送信結果レポート予約 02 レポート 03 発信元名称 04 フォント 05 受信モード
プログラムボタン登録	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは[ストップ] ボタンを押します。

読取濃度など、装置に関するさまざまな機能を設定します。

04 装置設定

右表を参照してください

1
使う
送信の便利な機能を

2
使う
受信の便利な機能を

3
使う
その他の便利な機能を

4
各種レポート／リストをプリントする

5
登録／設定する
いろいろな機能を

6
ご参考に

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

(つづき)

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
06 初期モード設定	電源を入れたときに、ファクスモードになる、コピーモードになる、を設定します。	01 ファクス 02 コピー
07 オートクリアタイム	何も操作せずにいたときに、FAXホームポジションまたはコピーホームポジションに切り替わるまでの時間を設定します。	1 ~ 9分 (2分)
オートクリア後のモード切替	オートクリア後に初期モードに戻す / 戻さない、を設定します。	01 初期モードに戻さない 02 初期モードに戻す
08 読取濃度	送信時の読取濃度を、「うすく」「ふつう」「こく」のそれぞれについて設定します。	(「うすく」「ふつう」「こく」全体で9段階に設定可能)
01 うすく	送信時に「うすく」を選択したときの読取濃度を設定します。	
02 ふつう	送信時に「ふつう」を選択したときの読取濃度を設定します。	
03 こく	送信時に「こく」を選択したときの読取濃度を設定します。	
09 プログラムボタン登録 (●P284)	[プログラム] ボタンに割り当てる機能を設定します。	01 送信結果レポート予約 02 レポート 03 発信元名称 04 Fコード 05 受信モード 06 タイマ通信 07 ボーリング 08 親展 09 中継指示 10 汎用ボックス 11 メモリ受信 12 転送ボックス 13 メモリ内容確認 14 パスワード
10 オフフックアラーム	原稿の送受信後に、外付け電話機の受話器がきちんと置かれていないときにアラーム音で通知する / しない、を設定します。	01 する 02 しない
11 音量	それぞれの音量を4段階で調整します。	(0 : 無音 3 : 最大)
01 ボタン操作音量	ボタンを押したときに鳴るボタン操作音の音量を調整します。	0、1、2、3
02 アラーム音量	アラーム音の音量を調整します。	0、1、2、3
03 送信終了音量	送信が終了したときに鳴る音の音量を調整します。	0、1、2、3
04 受信終了音量	受信が終了したときに鳴る音の音量を調整します。	0、1、2、3
05 プリント終了音量	プリントが終了したときに鳴る音の音量を調整します。	0、1、2、3
06 読取終了音量	原稿の読み込みが終了したときに鳴る音の音量を調整します。	0、1、2、3
07 コピー終了音量	コピーが終了したときに鳴る音の音量を調整します。	0、1、2、3
08 着信呼出音量	着信したときの呼出音の音量を調整します。	0、1、2、3



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（システム設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 基本設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「システム設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 基本設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 管理暗証番号 02 サブアドレス発信 03 発信開始時刻 04 ダイヤル発呼タイムアウト 05 発信者番号通知
システム設定	

↓

項目を選んでください	01 管理暗証番号 02 サブアドレス発信 03 発信開始時刻 04 ダイヤル発呼タイムアウト 05 発信者番号通知
システム設定	

↓

項目を選んでください	01 使用する 02 使用しない
サブアドレス発信	
- 4** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～14）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
 例：サブアドレス発信

項目を選んでください	01 管理暗証番号 02 サブアドレス発信 03 発信開始時刻 04 ダイヤル発呼タイムアウト 05 発信者番号通知
システム設定	

↓

項目を選んでください	01 使用する 02 使用しない
サブアドレス発信	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは[ストップ] ボタンを押します。

管理暗証番号など、システムに関するさまざまな機能を設定します。

05 システム設定

右表を参照してください

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 管理暗証番号 (●P293)	システム管理者のための暗証番号を登録します。管理暗証番号を登録しておく、使用者制限やメモリ受信などの設定内容を保護することができます。	0000 ~ 9999
02 サブアドレス発信	サブアドレス発信を使用する / しない、を設定します。	01 使用する 02 使用しない
(サブアドレス指定ボタン)	サブアドレス発信「使用する」の場合のみ表示 サブアドレス指定ボタンを使用しない / (※) ボタンを使用する、を設定します。	01 使用しない 02 * ボタンを使用
03 発信開始ボタン	本装置の [オンフック] ボタンを押してダイヤル入力、または外付け電話機でダイヤル入力して発信を開始するときに、(※) ボタンを使用する / しない、を設定します。	01 # ボタンを使用する 02 # ボタンを使用しない
04 ダイヤル発呼タイムアウト	外付け電話機によるオンフックダイヤル時に、相手先の電話番号をダイヤルしたあと数秒経過すると自動的に発信する / しない、を設定します。	01 する 02 しない
(ダイヤルタイムアウト時間)	ダイヤル発呼タイムアウト「する」の場合のみ表示 相手先の電話番号をダイヤルしてから発信が開始されるまでの時間を設定します。	03 ~ 50 秒 (05 秒)

(つづく)



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（システム設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 ポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「システム設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 ポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください	01 管理暗証番号 02 サブアドレス発信 03 発信開始ボタン 04 ダイヤル発呼外呼 05 発信者番号通知
システム設定	

↓

項目を選んでください	01 管理暗証番号 02 サブアドレス発信 03 発信開始ボタン 04 ダイヤル発呼外呼 05 発信者番号通知
システム設定	

↓

項目を選んでください	01 する 02 しない 03 網契約による
発信者番号通知	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

発信者番号通知など、システムに関するさまざまな機能を設定します。

05 システム設定

右表を参照してください

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

(つづき)

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
05 発信者番号通知	こちらの電話番号を相手先に通知する (ディスプレイに表示させる) / しない、を設定します。(注1)	01 する 02 しない 03 網契約による。
(01 FAX発信者番号)	発信者番号通知「する」 / ダイヤルインまたはサブアドレス着信「使用する」 (●P294、295) の場合のみ表示 本装置の電話番号を通知します。	
(ユーザTEL番号選択)	ダイヤルインまたはサブアドレス着信のどちらか一方のみ「使用する」の場合 本装置の発信元番号を登録している番号 (01~03) (●P318、319) を選択します。 ダイヤルインとサブアドレス着信の両方「使用する」の場合 本装置の発信元番号を登録している番号 (01~09) (●P318、319) を選択します。	01~09 (01)
(02 アナログポート発信番号)	発信者番号通知「する」 / ダイヤルインまたはサブアドレス着信「使用する」 (●P294、295) の場合のみ表示 接続した外付け電話機の電話番号を通知します。	
(ユーザTEL番号選択)	ダイヤルインまたはサブアドレス着信のどちらか一方のみ「使用する」の場合 接続した外付け電話機の発信元番号を登録している番号 (01~03) (●P318、319) を選択します。 ダイヤルインとサブアドレス着信の両方「使用する」の場合 接続した外付け電話機の発信元番号を登録している番号 (01~09) (●P318、319) を選択します。	01~09 (01)

(つづく)

(注1) こちらの電話番号を相手先に通知する (ディスプレイに表示させる) / 通知しないは、「INSネット契約」、「本装置の設定」、「184 (通知しない) 186 (通知する)」の組合せによって決定されます。

電話番号の通知のされ方:

- 「184」を相手の電話番号の前につけてダイヤルすると、「INSネット契約」や「本装置の設定」にかかわらず、電話番号を相手の方に通知しません。
- 「186」を相手の電話番号の前につけてダイヤルすると、「INSネット契約」や「本装置の設定」にかかわらず、電話番号を相手の方に通知します。
- 相手の電話番号だけをダイヤルすると、以下のとおり、「INSネット契約」と「本装置の設定」の組合せによって電話番号を通知する / 通知しないが決まります。

「INSネット契約」、「本装置の設定」の組合せによる通知する / 通知しない

INSネット契約 \ 本装置の設定	する	しない	網契約による (INSネット契約による)
通常通知 (通話ごと非通知)	通知します	通知しません	通知します
通常非通知 (回線ごと非通知)	通知します	通知しません	通知しません

「常時通知拒否」をご契約の場合は、設定内容にかかわらず通知しません (「184」「186」は利用できません)。

相手先のディスプレイに表示されるのは契約者回線番号です。本装置で発信元番号 (●P28) として登録したファクス番号ではありませんので、ご注意ください。なお、相手先のレポートにプリントされるのは、本装置で登録した発信元番号です。



登録 / 設定の操作一覧

設定モード（システム設定）

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「設定モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください □	01 受信モード 02 デバイス登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください □□	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して「システム設定」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください □□□	01 レポート設定 02 機能設定 03 プリンタ設定 04 装置設定 05 システム設定
設定モード	

↓

項目を選んでください □□□□	01 管理暗証番号 02 サブアドレス発信 03 発信開始ボタンの 04 デバイス呼び出しボタンの 05 発信者番号通知
システム設定	
- 4** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～14）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例：日付 / 時刻タイプ

項目を選んでください □□□□	10 送信開始速度 11 受信開始速度 12 受信バースト 13 日付 / 時刻タイプ 14 相手先確認
システム設定	

↓

項目を選んでください □□□□□	01 'YY MM/DD 02 MM/DD/YY 03 DD/MM'YY
日付 / 時刻タイプ	
- 5** 各項目を設定します。
- 6** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

使用者制限など、システムに関するさまざまな機能を設定します。

05 システム設定

右表を参照してください

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、
『-』 / 『+』 (画面選択ボタン) を押す

- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

(つづき)

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
06 使用者制限 (●P286)	送信や、コピー / レポートのプリント操作をする人を制限します。	
01 送信機能設定 (●P286)	送信の操作をする人を制限する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(部門別管理)	送信機能設定「する」の場合のみ表示 部門別に管理する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(使用者暗証番号入力)	使用者暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
(部門コードセット)	部門コード (最大9部門) を登録します。	0000 ~ 9999
(部門暗証番号入力)	部門ごとの暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
02 プリント設定 (●P291)	コピーやレポートのプリント操作をする人を制限する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(使用者暗証番号入力)	プリント設定「する」の場合のみ表示 使用者暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
07 メモリ受信 (●P148)	メモリ受信をする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(01 プリント暗証番号)	メモリ受信「する」の場合のみ表示 メモリ受信原稿をプリントするときの暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
(02 レポート)	メモリ受信「する」の場合のみ表示 受信結果レポートをプリントする / しない、を設定します。	01 プリントする 02 プリントしない
(03 時間指定)	メモリ受信「する」の場合のみ表示 メモリ受信をする時間帯を指定する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(01 ON時刻)	時間指定「する」の場合のみ表示 メモリ受信を開始する時刻を設定します。	01 毎日 02 曜日指定
(時刻)	「毎日」を選んだ場合は、5時刻まで設定できます。 「曜日指定」を選んだ場合は、「01 SUN」 ~ 「07 SAT」まで、曜日ごとに5時刻まで設定できます。	「...」の表示のあと [セット] ボタンを押して、 24時間制 (4桁) で設定
(02 OFF時刻)	時間指定「する」の場合のみ表示 メモリ受信を終了する時刻を設定します。	01 毎日 02 曜日指定
(時刻)	「毎日」を選んだ場合は、5時刻まで設定できます。 「曜日指定」を選んだ場合は、「01 SUN」 ~ 「07 SAT」まで、曜日ごとに5時刻まで設定できます。	「...」の表示のあと [セット] ボタンを押して、 24時間制 (4桁) で設定
08 ECM送信	ECM送信をする / しない、を設定します。	01 する 02 しない
09 ECM受信	ECM受信をする / しない、を設定します。	01 する 02 しない
10 送信開始速度	G3モードで原稿を送信するときの、本装置の最高速度を設定します。	01 14 400 bit/s 02 9 600 bit/s 03 7 200 bit/s 04 4 800 bit/s 05 2 400 bit/s
11 受信開始速度	G3モードで原稿を受信するときの、本装置の最高速度を設定します。ポーリング送信時は、ここで設定した通信速度になります。	01 14 400 bit/s 02 9 600 bit/s 03 7 200 bit/s 04 4 800 bit/s 05 2 400 bit/s
12 受信パスワード	受信した原稿に付加されているパスワードと照合するためのパスワード (ITU-T規格) を設定します。	最大20桁 (数字、*、 #、スペース (1桁目 以外) 入力可)
13 日付 / 時刻タイプ	ディスプレイやレポートに表示される日付のタイプを設定します。	01 YY/MM/DD 02 MM/DD/YY 03 DD/MM/YY (YY:年, MM:月, DD:日)
14 相手先確認	送信時にダイヤルした番号の下6桁と、登録されている相手の電話番号の下6桁を照合し、不一致の場合には送信を中止する / しない、を設定します。	01 しない 02 する

1 送
信
の
便
利
な
機
能
を
使
う2 受
信
の
便
利
な
機
能
を
使
う3 そ
の
他
の
便
利
な
機
能
を
使
う4 各
種
レ
ポ
ー
ト
ノ
リ
ス
ト
を
プ
リ
ン
ト
す
る5 い
ろ
い
ろ
な
機
能
を
登
録
ノ
設
定
す
る6 ご
参
考
に



登録 / 設定の操作一覧

登録モード

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目 (01 ~ 12) を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
 例：発信元番号

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

↓

発信元番号 削除	
---	--
- 4** 各項目を設定します。
- 5** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

右表を参照してください

01 時計セット	現在の日付と時刻を登録します。(●P26)
02 発信元番号	本装置の電話番号(ファクス番号)を登録します。また、ダイヤルインまたはサブアドレス着信を「使用する」に設定している場合は、それぞれの電話番号ごとに受信モードを設定することができます。(●P28、174、180)
03 発信元略称	会社名や部署名を登録します。(●P30)
04 発信元名称登録	発信元略称とは別の名称を登録することができます。発信元名称を登録しておくと、送信ごとに名称を使い分けることができます。(●P32)
05 親展ボックス	親展ボックスを設定し、親展ボックスNo.とボックス名称、Fコード/受信パスワード(ITU-T規格)などを登録します。(●P206)

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『-』 / 『+』 (画面選択ボタン) を押す

- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

設定値
日付 年号：西暦下2桁 月：2桁 日：2桁 時刻 24時間制 (4桁)

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
(電話番号選択)	ダイヤルイン「使用する」の場合のみ表示番号を選択します。	01 ~ 03
発信元番号	ファクス番号を入力します。	最大20桁 (数字、スペース (1桁目以外) 入力可)
(サブアドレス選択)	サブアドレス着信「使用する」の場合のみ表示番号を選択します。	01 ~ 03
(サブアドレス入力)	サブアドレスを入力します。	最大19桁 (数字、*、#、スペース (1桁目以外) 入力可)
(受信モード)	ダイヤルインまたはサブアドレス着信「使用する」の場合のみ表示 ダイヤルイン番号またはサブアドレスごとに、受信モードを設定します。	01 FAX専用 02 電話優先 03 TEL専用

設定値
最大全角12文字

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
発信元名称登録	発信元名称は9件まで登録できます。番号を選択します。	01 ~ 09
名称入力	発信元名称を登録します。	最大全角12文字

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 作成	親展ボックスを設定します。	
ボックスNo.セット	設定したい親展ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
01 ボックス名称	親展ボックスの名称を登録します。	最大全角12文字
02 暗証番号	管理用の暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
03 Fコード	Fコードを登録します。	最大20桁 (数字、*、#、スペース (1桁目以外) 入力可)
04 受信パスワード	受信パスワードを登録します。	
05 受信プリント部数	受信した原稿のプリント部数を設定します。	01 ~ 99枚 (01枚)
02 変更	親展ボックスの設定内容を変更します。	
ボックスNo.セット	変更したい親展ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999
01 ~ 05	上記「01 作成」と同様の設定項目の変更ができます。	
03 取消	親展ボックスを削除します。	
ボックスNo.セット	削除したい親展ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999



登録 / 設定の操作一覧

登録モード

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 動作登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目 (01 ~ 12) を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
 例: 中継ボックス

項目を選んでください	04 発信元名称登録 05 親展ボックス 06 中継ボックス 07 汎用ボックス 08 定時着信設定
登録モード	

↓

項目を選んでください	01 作成 02 変更 03 取消
中継ボックス	
- 4** 各項目を設定します。
- 5** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

中継ボックスを設定し、中継ボックスNo.とボックス名称、Fコード / 受信パスワード (ITU-T規格) などを登録します。(▶P219)

右表を参照してください

06 中継ボックス

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録 / 設定する

6 ご参考に

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 作成	中継ボックスを設定します。	
ボックスNo.セット	設定したい中継ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
01 ボックス名称	中継ボックスの名称を登録します。	最大全角12文字
02 暗証番号	管理用の暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
03 Fコード	Fコードを登録します。	最大20桁(数字、*、#、スペース(1桁目以外)入力可)
04 受信パスワード	受信パスワードを登録します。	
05 指示元制限	特定の相手先から中継指示送信された原稿だけを中継同報送信する / 制限しない、を設定します。	01 する 02 しない
(相手先指定)	指示元制限「する」の場合のみ表示 特定の相手先 (最大200件) を登録します。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで指定 (ダイヤル入力は指定不可)
06 受信原稿プリント	受信した中継指示原稿をプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(受信プリント部数)	受信原稿プリント「する」の場合のみ表示 受信した原稿のプリント部数を設定します。	01 ~ 99枚 (01枚)
07 宛先	中継同報送信をする相手先 (最大200件) を登録します。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで指定 (ダイヤル入力は指定不可)
08 送信結果レポート	中継指示送信してきた相手先に、中継同報送信の送信結果レポートを送信する / しない、を設定します。	01 送信しない 02 送信する
09 送信開始時刻	中継同報送信の開始時刻 (最大5時刻) を設定します。	「...」の表示のあと [セット] ボタンを押して、24時間制 (4桁) で設定
10 中継同報	中継同報送信を許可する / しない、を設定します。	01 する 02 しない
02 変更	中継ボックスの設定内容を変更します。	
ボックスNo.セット	変更したい中継ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999
01 ~ 10	上記「01 作成」と同様の設定項目の変更ができます。	
03 取消	中継ボックスを削除します。	
ボックスNo.セット	削除したい中継ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999



登録 / 設定の操作一覧

登録モード

- 1 [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。
- 2 [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード
	02 デバイス登録モード
	03 設定モード
登録/設定	04 登録モード

↓

項目を選んでください	01 時計セット
	02 発信元番号
	03 発信元略称
登録モード	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
- 3 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～12）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例：汎用ボックス

項目を選んでください	04 発信元名称登録
	05 親展ボックス
	06 中継ボックス
登録モード	07 汎用ボックス
	08 定時ホールド設定

↓

項目を選んでください	01 作成
	02 変更
汎用ボックス	03 取消
- 4 各項目を設定します。
- 5 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは[ストップ] ボタンを押します。

汎用ボックスを設定し、汎用ボックスNo.とボックス名称、Fコード/送信パスワード/受信パスワード（ITU-T規格）などを登録します。（P226）

07 汎用ボックス

右表を参照してください

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 作成	汎用ボックスを設定します。	
ボックスNo.セット	設定したい汎用ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
01 ボックス名称	汎用ボックスの名称を登録します。	最大全角12文字
02 暗証番号	管理用の暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
03 Fコード	Fコードを登録します。	最大20桁 (数字、*、#、スペース(1桁目以外)入力可)
04 送信パスワード	送信パスワードを登録します。	
05 受信パスワード	受信パスワードを登録します。	
06 受信	汎用ボックスでの受信を許可する / しない、を設定します。	01 許可する 02 許可しない
(01 指示元制限)	受信「許可する」の場合のみ表示 特定の相手先からの原稿だけを受信する / 制限しない、を設定します。	01 しない 02 する
(相手先設定)	指示元制限「する」の場合のみ表示 特定の相手先 (最大200件) を登録します。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで指定 (ダイヤル入力は指定不可)
(02 受信原稿プリント)	受信「許可する」の場合のみ表示 受信した原稿をプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(01 原稿プリント方法)	受信原稿プリント「する」の場合のみ表示 自動的にプリントする / 手動でプリントする、を設定します。	01 自動 02 手動
(02 受信プリント部数)	受信原稿プリント「する」の場合のみ表示 受信した原稿のプリント部数を設定します。	01 ~ 99枚 (01枚)
07 送信	汎用ボックスでの送信を許可する / しない、を設定します。	01 許可する 02 許可しない
(01 宛先)	送信「許可する」の場合のみ表示 送信する相手先 (最大200件) を登録します。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで指定 (ダイヤル入力は指定不可)
(02 送信原稿)	送信「許可する」の場合のみ表示 送信原稿について設定します。	
(01 受信原稿)	汎用ボックスで受信した原稿を送信する / しない、を設定します。	01 送信しない 02 送信する
(02 読込原稿送信)	汎用ボックスに読み込んだ原稿を送信する / しない、を設定します。	01 送信しない 02 送信する
(03 送信開始時刻)	送信「許可する」の場合のみ表示 原稿の送信開始時刻を設定します。	01 毎日 02 曜日指定
(時刻設定)	「毎日」を選んだ場合は、5時刻まで設定できます。 「曜日指定」を選んだ場合は、「01 SUN」 ~ 「07 SAT」まで、曜日ごとに5時刻まで設定できます。	「...」の表示のあと [セット] ボタンを押して、24時間制 (4桁) で設定

(つづく)



登録 / 設定の操作一覧

登録モード

1 [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～12）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例：定時ポーリング設定

項目を選んでください	04 発信元名称登録 05 親展ボックス 06 中継ボックス 07 汎用ボックス 08 定時ポーリング設定
登録モード	

↓

項目を選んでください	01 作成 02 変更 03 取消
定時ポーリング設定	

4 各項目を設定します。

5 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは[ストップ] ボタンを押します。

汎用ボックスを設定し、汎用ボックスNo.とボックス名称、Fコード/送信パスワード/受信パスワード（ITU-T規格）などを登録します。（●P226）

07 汎用ボックス

右表を参照してください

定時ポーリングボックスを設定し、定時ポーリングボックスNo.とボックス名称、宛先、開始時刻などを登録します。（●P201）

08 定時ポーリング設定

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

(つづき)

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
08 ポーリング送信	汎用ボックスからのポーリング送信を許可する / しない、を設定します。	01 許可する 02 許可しない
(01 送信後の原稿クリア)	ポーリング送信「許可する」の場合のみ表示 ポーリング送信後、汎用ボックスに記憶されていた原稿を消去する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(02 送信原稿)	ポーリング送信「許可する」の場合のみ表示 送信原稿について設定します。	
(01 受信原稿)	汎用ボックスで受信した原稿をポーリング送信する / しない、を設定します。	01 送信しない 02 送信する
(02 読込原稿送信)	汎用ボックスに読み込んだ原稿をポーリング送信する / しない、を設定します。	01 送信しない 02 送信する
02 変更	汎用ボックスの設定内容を変更します。	
ボックスNo.セット	変更したい汎用ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999
01 ~ 08	P323の「01 作成」と同様の設定項目の変更ができます。	
03 取消	汎用ボックスを削除します。	
ボックスNo.セット	削除したい汎用ボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 作成	定時ポーリングボックスを設定します。	
ボックスNo.セット	設定したい定時ポーリングボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
01 ボックス名称	定時ポーリングボックスの名称を登録します。	最大全角12文字
02 暗証番号	管理用の暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
03 宛先	定時ポーリング受信をする相手先 (最大200件) を登録します。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで指定 (ダイヤル入力は指定不可)
04 開始時刻	ポーリング受信の開始時刻を設定します。	01 毎日 02 曜日指定
時刻	「毎日」を選んだ場合は、5時刻まで設定できます。 「曜日指定」を選んだ場合は、「01 SUN」 ~ 「07 SAT」まで、曜日ごとに5時刻まで設定できます。	「...」の表示のあと [セット] ボタンを押して、24時間制 (4桁) で設定
02 変更	定時ポーリングボックスの設定内容を変更します。	
ボックスNo.セット	変更したい定時ポーリングボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999
01 ~ 04	上記「01 作成」と同様の設定項目の変更ができます。	
03 取消	定時ポーリングボックスを削除します。	
ボックスNo.セット	削除したい定時ポーリングボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999



登録 / 設定の操作一覧

登録モード

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 デバイス登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～12）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
 例：ポーリングボックス

項目を選んでください	07 汎用ボックス 08 定時ポーリング設定 09 ポーリングボックス 10 転送ボックス 11 ヘルプ回数設定
登録モード	

↓

項目を選んでください	01 作成 02 変更 03 取消
ポーリングボックス	
- 4** 各項目を設定します。
- 5** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

右表を参照してください

09 ポーリングボックス

ポーリングボックスを設定し、ポーリングボックス No.とボックス名称、Fコード / 送信パスワード（ITU-T規格）などを登録します。（▶P190）

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 作成	ポーリングボックスを設定します。	
ボックスNo.セット	設定したいポーリングボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
01 ボックス名称	ポーリングボックスの名称を登録します。	最大全角12文字
02 暗証番号	管理用の暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
03 Fコード	Fコードを登録します。	最大20桁(数字、*、#、スペース(1桁目以外)入力可)
04 送信パスワード	送信パスワードを登録します。	
05 送信後の原稿クリア	ポーリング送信後、ポーリングボックスに記憶されていた原稿を消去する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
02 変更	ポーリングボックスの設定内容を変更します。	
ボックスNo.セット	変更したいポーリングボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999
01 ~ 05	上記「01 作成」と同様の設定項目の変更ができます。	
03 取消	ポーリングボックスを削除します。	
ボックスNo.セット	削除したいポーリングボックスのNo.を入力します。	00 ~ 99
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999



登録 / 設定の操作一覧

登録モード

- 1** [ファンクション] ボタンを押します。
 ファンクションランプが点滅します。
- 2** [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 動作登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	
- 3** [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目 (01 ~ 12) を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
 例：転送ボックス

項目を選んでください	07 汎用ボックス 08 定時ボートリング設定 09 ボートリングボックス 10 転送ボックス 11 ベル回数設定
登録モード	

↓

項目を選んでください	01 作成 02 変更 03 取消
転送ボックス	
- 4** 各項目を設定します。
- 5** 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
 待機画面に戻るときは [ストップ] ボタンを押します。

転送ボックスを設定し、ボックス名称、宛先などを登録します。(P163)

右表を参照してください

10 転送ボックス

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録 / 設定する

6 ご参考に

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
01 作成	転送ボックスを設定します。	
01 ボックス名称	転送ボックスの名称を登録します。	最大全角12文字
02 宛先	受信原稿の転送先 (最大200件) を登録します。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで指定 (ダイヤル入力は指定不可)
03 暗証番号	管理用の暗証番号を登録します。	0000 ~ 9999
04 指示元制限	特定の相手先からの受信原稿だけを転送する / 制限しない、を設定します。	01 しない 02 する
(相手先指定)	指示元制限「する」の場合のみ表示 特定の相手先 (最大200件) を登録します。	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルで指定 (ダイヤル入力は指定不可)
05 時間指定	転送機能の開始時刻と終了時刻を設定します。	
01 ON時刻	転送機能を開始する時刻を設定します。	01 毎日 02 曜日指定
時刻	「毎日」を選んだ場合は、5時刻まで設定できます。 「曜日指定」を選んだ場合は、「01 SUN」 ~ 「07 SAT」まで、曜日ごとに5時刻まで設定できます。	「...」の表示のあと [セット] ボタンを押して、24時間制 (4桁) で設定
02 OFF時刻	転送機能を終了する時刻を設定します。	01 毎日 02 曜日指定
時刻	「毎日」を選んだ場合は、5時刻まで設定できます。 「曜日指定」を選んだ場合は、「01 SUN」 ~ 「07 SAT」まで、曜日ごとに5時刻まで設定できます。	「...」の表示のあと [セット] ボタンを押して、24時間制 (4桁) で設定
06 受信原稿プリント	受信した原稿を転送するだけでなく、本装置でもプリントする / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(受信プリント部数)	受信原稿プリント「する」の場合のみ表示 受信した原稿のプリント部数を設定します。	01 ~ 99枚 (01枚)
02 変更	転送ボックスの設定内容を変更します。	
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999
01 ~ 06	上記「01 作成」と同様の設定項目の変更ができます。	
03 取消	転送ボックスを削除します。	
(暗証番号入力)	暗証番号を登録している場合のみ入力します。	0000 ~ 9999



登録 / 設定の操作一覧

登録モード

1 [ファンクション] ボタンを押します。
ファンクションランプが点滅します。

2 [▼] または [▲] ボタンを押して「登録モード」を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。

項目を選んでください	01 受信モード 02 ダイヤル登録モード 03 設定モード 04 登録モード
登録/設定	

↓

項目を選んでください	01 時計セット 02 発信元番号 03 発信元略称 04 発信元名称登録 05 親展ボックス
登録モード	

3 [▼] または [▲] ボタンを押して設定項目（01～12）を反転表示させ、[セット] ボタンを押します。
例：ベル回数設定

項目を選んでください	07 汎用ボックス 08 定時ホーリング設定 09 ホーリングボックス 10 転送ボックス 11 ベル回数設定
登録モード	

↓

項目を選んでください	01 しない 02 する
ベル回数設定	

4 各項目を設定します。

5 各項目を設定したあと、[セット] ボタンを押します。
待機画面に戻るときは[ストップ] ボタンを押します。

11 ベル回数設定

自動受信時のベル回数を設定します。

12 自動再ダイヤル

自動再ダイヤルを設定します。

右表を参照してください

登録 / 設定の基本操作

- 各項目を選択するとき... [▼] または [▲] ボタンを押す
- 数値 (番号) を入力するとき... ダイヤルボタンを押す、『 - 』 / 『 + 』 (画面選択ボタン) を押す
- 各項目の登録 / 設定内容を確定させるとき... [セット] ボタンを押す
- 操作を中止するとき... [ストップ] ボタンを押す
- お買い求めのときは、 に設定されています。

項 目	登録 / 設定の内容	設定値
ベル回数設定	自動受信のときも呼出音で通知する / しない、を設定します。	01 しない 02 する
(呼出回数)	ベル回数設定「する」の場合のみ表示 呼出回数を設定します。	01 ~ 99回 (02回)

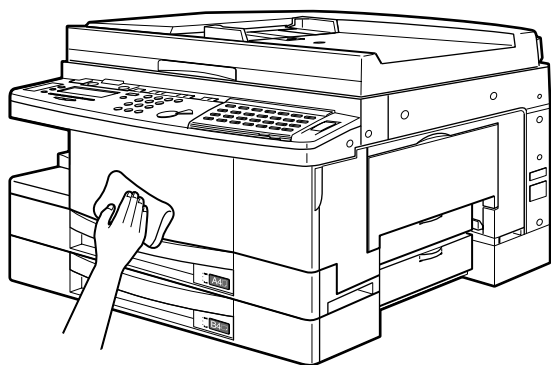
項 目	登録 / 設定の内容	設定値
自動再ダイヤル	相手先が応答しないときに、自動再ダイヤルをする / しない、を設定します。	01 する 02 しない
(01 再ダイヤル回数)	自動再ダイヤル「する」の場合のみ表示 自動再ダイヤルの回数を設定します。	01 ~ 15回 (02回)
(02 再ダイヤル間隔)	自動再ダイヤル「する」の場合のみ表示 自動再ダイヤルの間隔を設定します。	02 ~ 99分 (03分)
(03 送信エラー時再ダイヤル)	自動再ダイヤル「する」の場合のみ表示 送信エラーが発生したときに自動再ダイヤルをする / しない、を設定します。	01 する 02 しない
(再ダイヤル送信ページ)	送信エラー時再ダイヤル「する」の場合のみ表示 再送信するページを選択します。	01 全ページ 02 1ページとエラーページ 03 エラーページ



お手入れするには

■ 本体の清掃をする

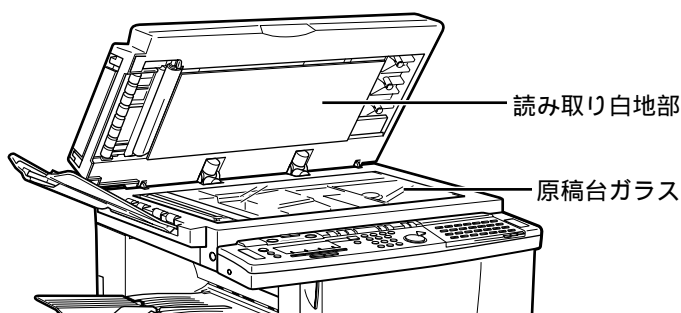
やわらかい布でからぶきしてください。



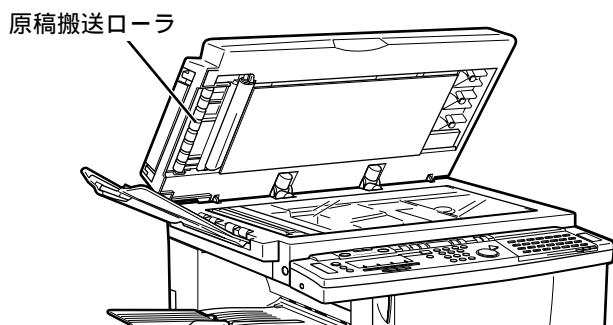
■ 原稿読み取り部と搬送部を清掃する

原稿台ガラスや読み取り白地部、原稿を搬送するローラなどに汚れが付着すると、送信原稿の画像やコピーに汚れがプリントされます。ときどき清掃してください。

- 1 原稿台ガラス、読み取り白地部を、乾いたやわらかい布でからぶきします。



- 2 原稿搬送ローラを、乾いたやわらかい布でからぶきします。



STOP お願い

- 濡れた布でふかないでください。
- 清掃には、ティッシュペーパーを使用しないでください。チリが付着したり、静電気が発生します。
- 電源を切ると、約3時間でメモリ内の原稿が消去されます。清掃が終了したら、電源を入れてください。

⚠ 注意

- 原稿読み取り部を清掃するときは、電源を切ってください。電源を切らずに清掃すると、火災や感電の原因となることがあります（なお、電源を切る前には、必ずメモリの内容をプリントしてください）。

⚠ 警告

- アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が本体内部の電気製品に接触したり、揮発性ガスが本装置内に充満すると、火災や感電の原因となることがあります。

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 参考

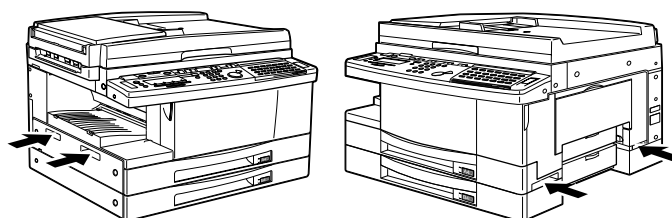
■ 原稿サイズ検知センサ部を清掃する

ADF（自動原稿送り装置）の原稿サイズ検知センサ部は、通常は清掃する必要はありません。極端にほこりがたまったり汚れた場合のみ、エアブローややわらかい布でレンズに傷をつけないようにふきとってください。



■ 本装置を移動する

- ① まず電源コードのプラグを電源コンセントから抜きます。
- ② ISDN電話機コードをISDN用モジュラジャックから抜きます。
- ③ 記録紙トレイ、原稿トレイを取り外します。
- ④ 図で示した部分をしっかりと持ち、運びます。
必ず2人以上で運んでください。



⚠ 注意

- 本装置を移動するときは、まず電源コードやISDN電話機コードなどを外したことを確認してから行ってください。電源コードが電源コンセントに差し込まれたまま移動すると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- 本装置を持ち運ぶときは、指定された場所を持ってください。他の場所を持つと、思わぬけがの原因となることがあります。
- 本装置を持ち運ぶときは、プリントドアの下部などは持たないでください。破損の原因となることがあります。



お知らせ

- 原稿サイズ検知センサ部にほこりや汚れがたまると、ADF（自動原稿送り装置）にセットした原稿のサイズが正しく検出されなくなり、ADF（自動原稿送り装置）からコピーする場合の自動用紙選択機能および自動変倍機能が正常にはたらかなくなります。（P80、94）

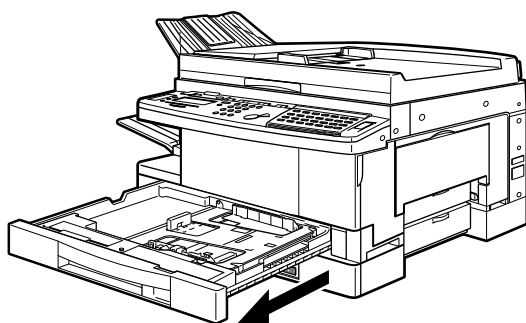
本装置には4段カセットタイプもありますが、本書では2段カセットタイプで説明しています。

- 記録紙やトナーカートリッジは、火気のあるところに保管しないでください。記録紙やトナーカートリッジに引火して、火災ややけどの原因となることがあります。

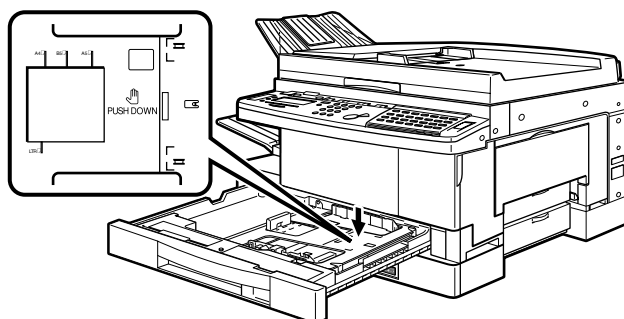
■ 記録紙カセットにセットする

1つの記録紙カセットには、約250枚（秤量64 g/m²）までの記録紙をセットすることができます。レポートのプリント用の記録紙カセットとして指定することもできます。（●P304、305）

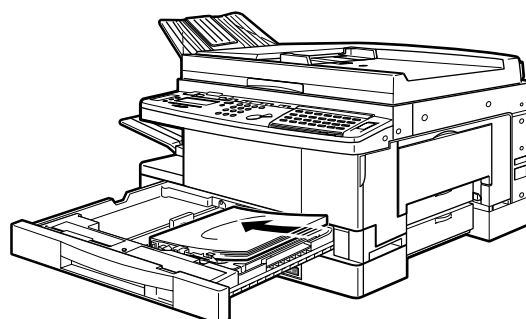
- ① 記録紙カセットを引き出します。カセットが止まるまで引き出してください。



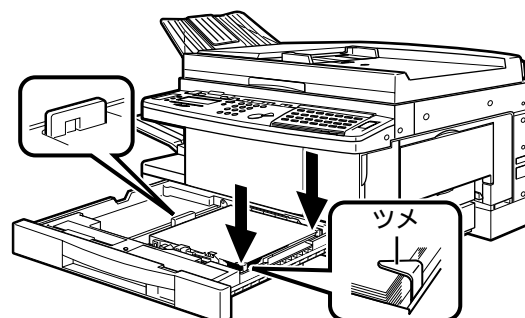
- ② 「PUSH DOWN」と表示されている金属板をしっかりと押さえます。



- ③ 記録紙の端をきちんとそろえて、記録紙カセットにセットします。新しい記録紙をセットするときは、開封した面を下向きにして用紙をセットします。



- ④ セットした記録紙の先端を上から押さえます。記録紙の先端が両方のツメから外れないようにします。



記録紙の量は、目盛りの線を越えないようにセットしてください。

- ⑤ 記録紙カセットを戻します。カセットの中央に手をそえ、カセットが突き当たるところまで静かに押し込んでください。カセットの片端だけを持って押さないようにしてください。記録紙を補給すると、アラームランプとディスプレイに表示されたエラーメッセージが自動的に消えます。



お知らせ

- 記録紙残量表示は目安としてお使いください。目盛りが「EMPTY」になっていても、「記録紙を補給してください」と表示されないときは、記録紙が残っています。
- 記録紙が極端にカールする場合は、記録紙の表裏の面を逆にセットしてみてください。

STOP お願い

- 記録紙カセットに記録紙をセットするときは、電源を入れた状態で行ってください。電源を切った状態で記録紙カセットを押し込むと、記録紙カセットが正しくセットできず故障の原因となることがあります。
- セットする記録紙の量は、目盛りの線を越えないようにしてください。目盛りの線を越えてセットすると、紙づまりの原因となることがあります。
- 記録紙カセットを戻すときは、ゆっくりと確実に最後まで戻してください。記録紙カセットが正しくセットされていないと、紙づまりの原因となることがあります。
- プリント中には、記録紙カセットを引き出さないでください。紙づまりの原因となることがあります。



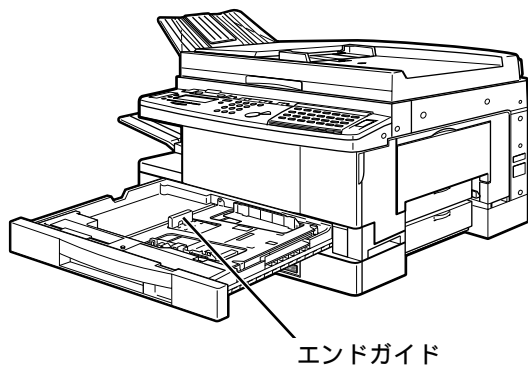
注意

- 記録紙をセットするときは、記録紙の端で手を切ったりしないように注意してください。

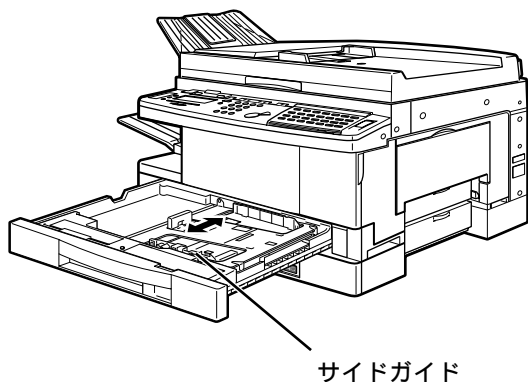
記録紙を補給するには

■ 記録紙カセットの記録紙サイズを変更するとき

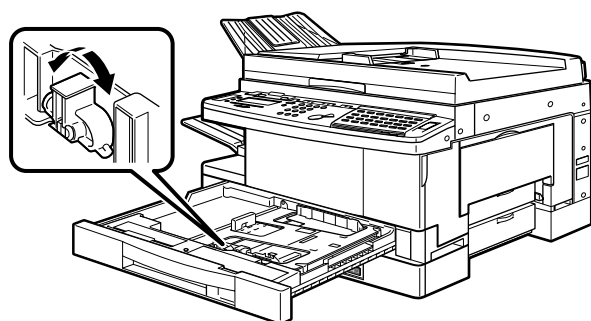
- ① エンドガイドをセットする記録紙サイズの長さに合わせます。
エンドガイドは、倒すようにして外してください。



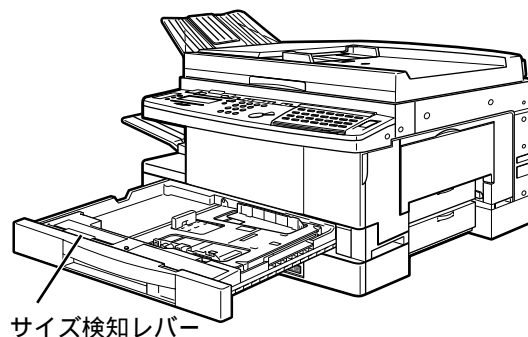
- ② サイドガイドをスライドさせ、セットする記録紙サイズの幅に合わせます。



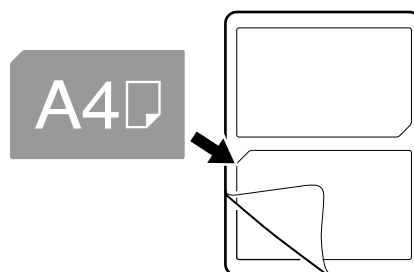
- ③ サイドガイド固定レバーを右または左のどちらかに倒し、サイドガイドが動かないようにします。
A3、B4、A4、B5、A5の場合は左へ倒します。



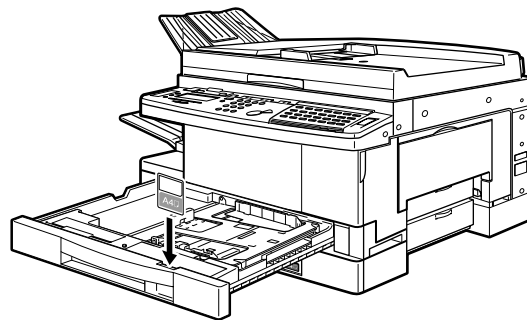
- ④ サイズ検知レバーをスライドさせ、セットする記録紙サイズに合わせます。



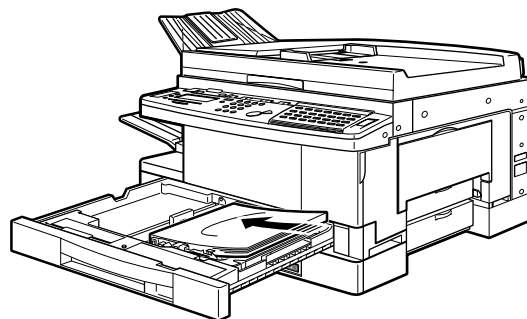
- ⑤ 記録紙サイズ表示プレートのビニールの保護シートをはがし、セットする記録紙サイズのラベルを貼ります。



- ⑥ セットする記録紙サイズに合わせて、記録紙サイズラベルを交換します。



- ⑦ 記録紙をセットします。(●P335)



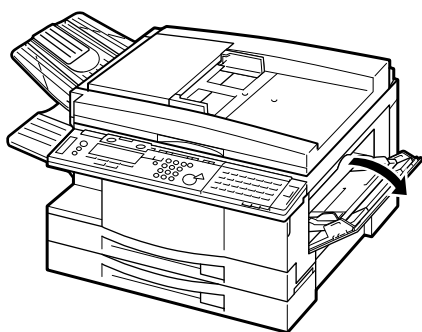
STOP お願い

- サイズ検知レバーは、セットした記録紙のサイズと一致するように、正しくセットしてください。正しくセットされていないと、ファクス受信やコピーのときに、画像が欠けることがあります。

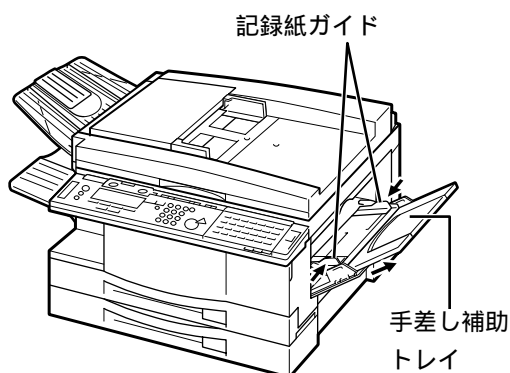
■ 手差しトレイにセットする

手差しトレイには、約100枚（秤量64 g/m²）までの記録紙をセットすることができます。はがきやラベル用紙などは手差しトレイにセットしてください。

① 手差しトレイを開けます。

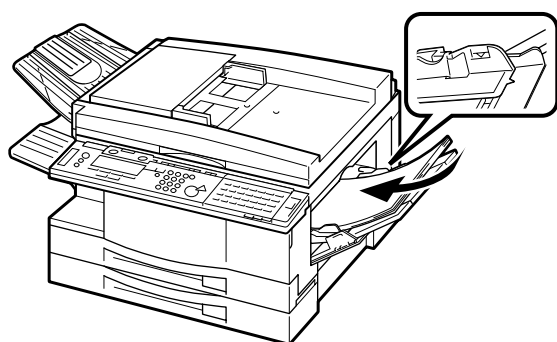


② セットする記録紙の幅に合わせ、記録紙ガイドを調整します。



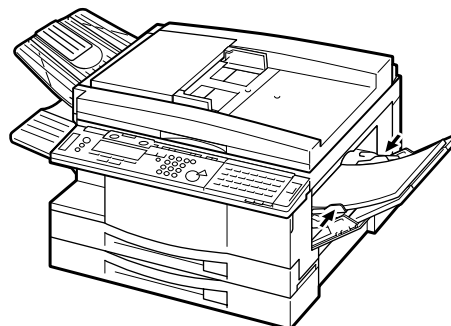
A3、B4、A4  の記録紙をセットするときは、手差し補助トレイを引き出してください。

③ 記録紙の端をきちんと揃えて、記録面が上になるように手差しトレイにセットします。一度にセットできる枚数は、ラベル用紙は1枚ずつ、はがきは30枚までです。

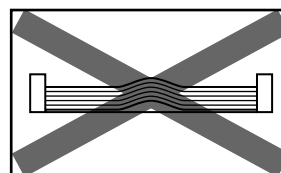


記録紙の量は、目盛りの線を越えないようにセットしてください。

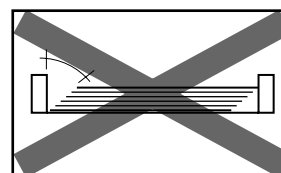
④ 記録紙ガイドを記録紙の幅にきちんと合わせます。



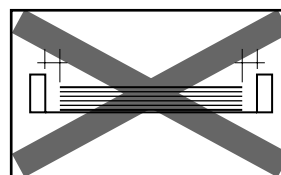
- 記録紙ガイドのツメが記録紙を押しつけないようにしてください。
- 記録紙が曲がるまで記録紙ガイドを強く押しつけないでください。



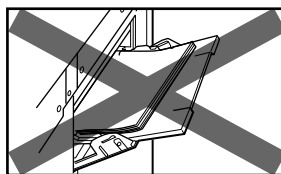
- 記録紙の束が不揃いな状態で記録紙ガイドをセットしないでください。



- 記録紙と記録紙ガイドの間に隙間がないようにセットしてください。



- 記録紙を斜めにセットしないでください。



STOP お願い

- はがきやラベル用紙などは、記録面が上になるようにセットしてください。
- 手差しトレイの上には、記録紙以外のものを置かないでください。また、上から押したり無理な力を加えないでください。破損することがあります。

⚠ 注意

- 記録紙をセットするときは、記録紙の端で手を切ったりしないように注意してください。



トナーカートリッジを交換するには

トナーがなくなると、ディスプレイに「トナーカートリッジが空になりました」と表示され、アラームランプが点滅します。以下の手順でトナーカートリッジを交換してください。

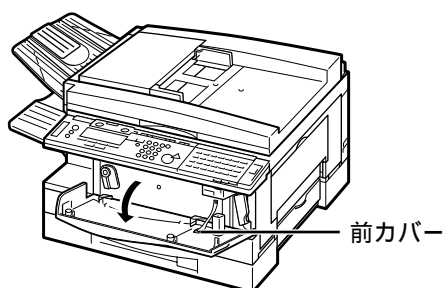
また、トナーカートリッジを交換するときは、同時に定着器ローラのクリーニング（●P341）\ 除電針のクリーニング（●P342）も行うようにしてください。

■ トナーカートリッジを交換する

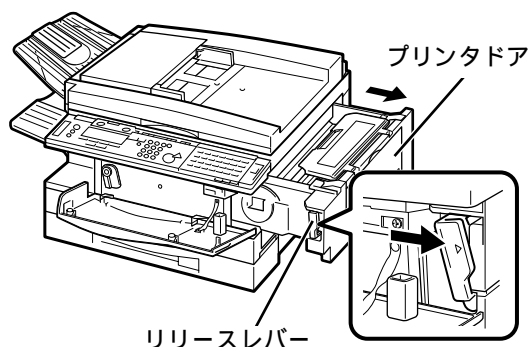
- 1** 手差しトレイに記録紙がセットされているときは取り除きます。

手差しトレイに記録紙をセットしたまま次の手順に進まないでください。手差しトレイが破損するおそれがあります。

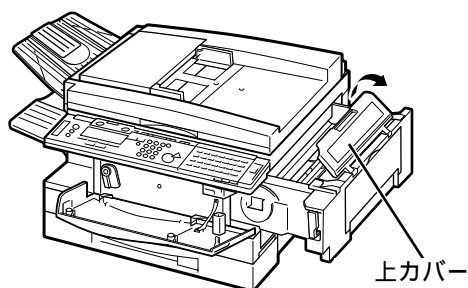
- 2** 前カバーを開けます。



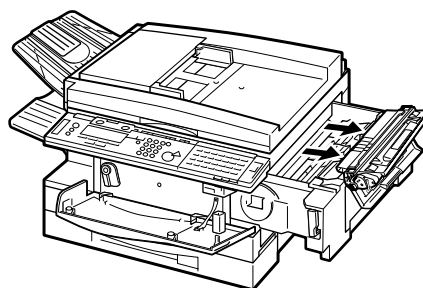
- 3** リリースレバーを右に倒し、プリンタドアを開けます。



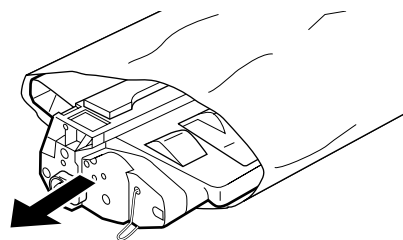
- 4** 上カバーを開けます。



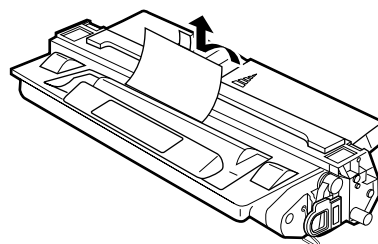
- 5** トナーカートリッジを両手で持ち、取り出します。



- 6** 新しいトナーカートリッジを包装から取り出します。



- 7** トナーカートリッジの乾燥剤、黒い保護シート、保護部品をはがします。



1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

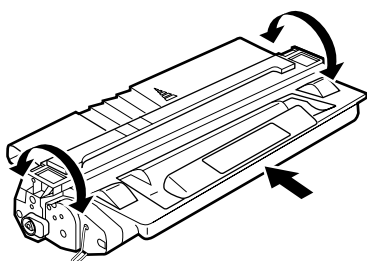
3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

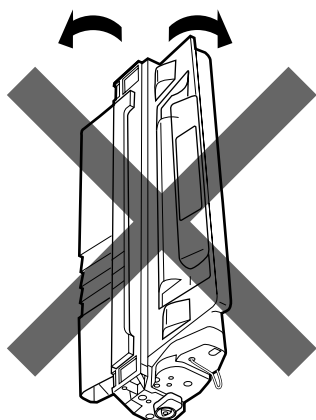
5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 参考

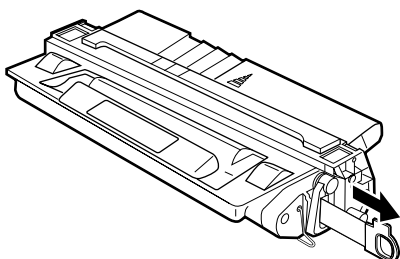
- 8 トナーカートリッジの図の位置を持ち、中央部を軸に両方向へゆっくりと7～8回、回転させるように振ります。



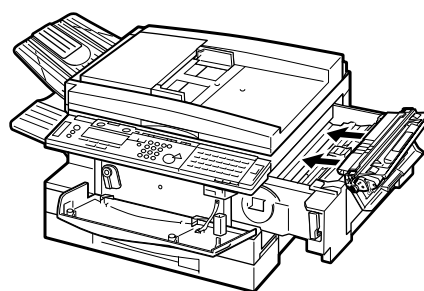
トナーカートリッジは静かに振ってください。また、縦方向には振らないでください。



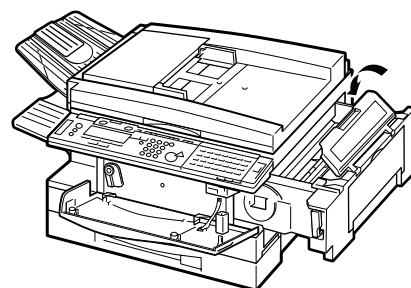
- 9 トナーカートリッジを水平な場所に置き、オレンジ色のツマミを左右に何度か曲げてから折り、ゆっくりと引き抜きます。トナーカートリッジをしっかりと押さえながら引き抜いてください。



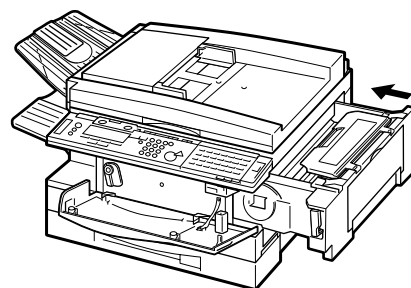
- 10 トナーカートリッジを両手で持ち、両側の溝に合わせて奥に突き当たるまで矢印の方向にゆっくりと押し込みます。



- 11 上カバーを閉めます。



- 12 プリントドアを閉めます。



次ページに続きます。

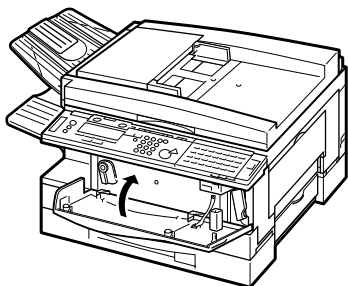
ワンポイント

- 新しいトナーカートリッジが手元にないときはトナーカートリッジを取り出し、ゆっくり5～6回左右に傾けてからセットし直してみてください。それでも「トナーカートリッジが空になりました」というメッセージが消えないときは、印字継続を「する」に設定すると、少しの間だけプリントを続けることができます。(P302、303)



トナーカートリッジを交換するには

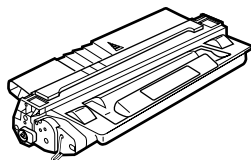
13 前カバーを開めます。



トナーカートリッジを交換すると、アラームランプとディスプレイに表示されたエラーメッセージが自動的に消えます。

STOP お願い

- 本装置専用のトナーカートリッジ以外は、絶対に使用しないでください。
- トナーカートリッジには、過度な衝撃を与えないでください。
- トナーカートリッジは、本装置にセットする直前まで、黒いビニールパックの包装から取り出さないでください。
- トナーカートリッジは、直射日光に当てないように保管してください。また、通常の室内の明かり（1000ルクス程度）のもとで、5分以上放置しないでください。
- トナーカートリッジの遮光シャッターに触れたり、遮光シャッターを開けたりしないでください。
- トナーカートリッジの近くにフロッピーディスクや磁気カードなどの磁気製品を置かないでください。
- トナーカートリッジは、図のように矢印のある面を上にし、水平な場所に置いてください。



- トナーカートリッジは、0 ~ 35 °C の環境で保管してください。温度や湿度が激しく変化する場所に保管しないでください。
- 交換用に購入したトナーカートリッジは、パッケージに記載された期間内に使用してください。
- 本装置を離れたところに陸送したり空輸するときは、必ずトナーカートリッジを取り外してください。トナーカートリッジに強い光が当たらないように保護袋に入れるか厚い布で包んでください。

⚠ 注意

- 新しいトナーカートリッジを振るときは、静かに振ってください。激しく振るとトナーが飛び散ることがあります。
- 熱定着器とその周辺は高温になっていますので、手を触れないようにご注意ください。やけどをする場合があります。
- 「高温注意」と表示がある部分とローラ部は高温になっていますので触れないでください。やけどの原因となることがあります。

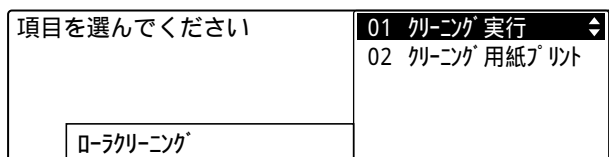
⚠ 警告

- 使用後のトナーカートリッジを本装置から取り出すときは、トナーが飛び散って目や口などに入らないように丁寧に取り出してください。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水などで洗い流し、医師と相談してください。
- トナーカートリッジは火の中に絶対に投じないでください。破裂したり、激しく燃えて、火災ややけどの原因となることがあります。使用後のトナーカートリッジは、ビニール袋などに入れて燃えないゴミとして処理してください。
- 記録紙やトナーカートリッジは、火気のあるところに保管しないでください。記録紙やトナーカートリッジに引火して、火災ややけどの原因となることがあります。

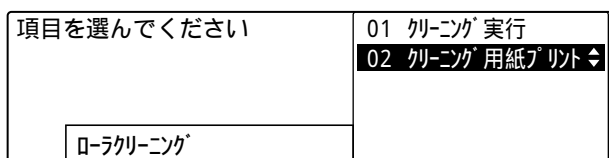
■ 定着器ローラのクリーニングをする

トナーカートリッジを交換したときは、必ず定着器ローラのクリーニングを行ってください。定着器ローラのクリーニングは、まず本装置でクリーニング用紙をプリントし、その用紙を使って行います。クリーニング用紙はA4の記録紙にしかプリントされません。カセットにA4の記録紙をセットしてから清掃を行ってください。

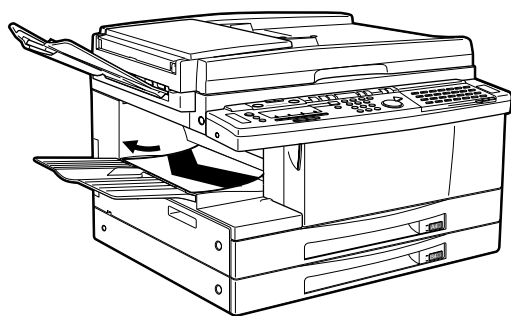
- ① ワンタッチパネルを3枚開いて、[クリーニング] ボタンを押します。



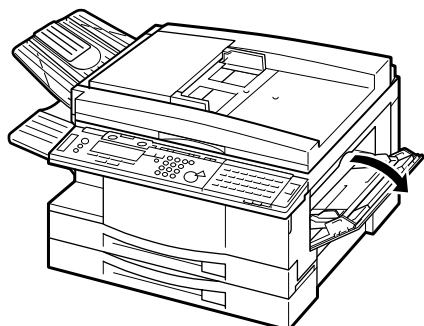
- ② [▼] または [▲] ボタンを押して、「クリーニング用紙プリント」を反転表示させます。



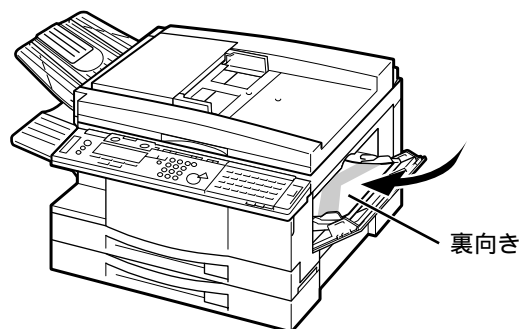
- ③ [セット] ボタンを押します。クリーニング用紙がプリントされます。



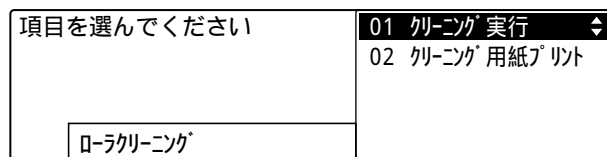
- ④ 手差しトレイを開けます。



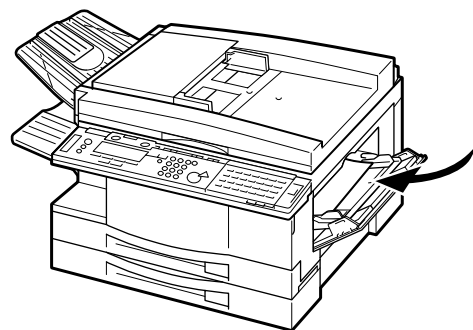
- ⑤ クリーニング用紙をセットします。クリーニング用紙の「V」字がプリントされている面を下向きにして、矢印の方向にセットします。



- ⑥ 「クリーニング実行」が反転表示されているのを確認します。



- ⑦ [セット] ボタンを押します。クリーニング用紙がゆっくりと送られ、クリーニング操作が開始されます。



お知らせ

- 手順7でクリーニング用紙は非常にゆっくりと送られ、クリーニング操作が完了するまでに約2分半かかります。
- クリーニング用紙のプリント中、またはクリーニング操作の途中で紙づまりが発生したときは、アラームランプが点滅します。[ストップ] ボタンを押してから、つまった記録紙を取り除いてください。(P362)

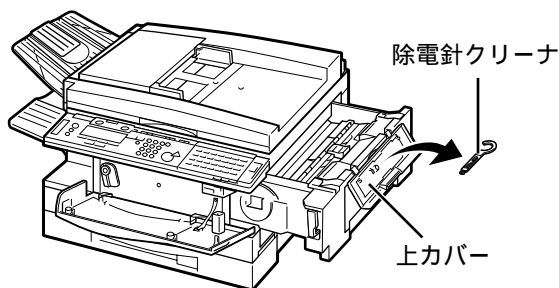
トナーカートリッジを交換するには

■ 除電針のクリーニングをする

トナーカートリッジを交換したときは、必ず除電針のクリーニングを行ってください。除電針をクリーニングすることで、画像不良の発生を防止します。

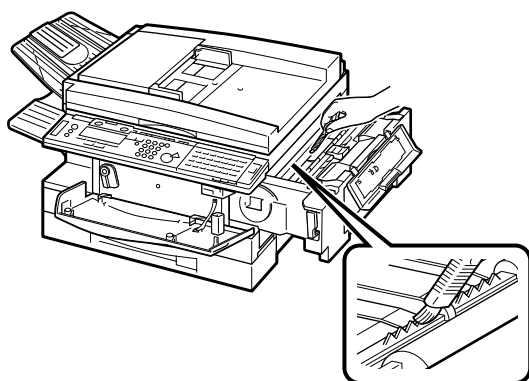
① 「トナーカートリッジを交換する」の手順1～5の操作（●P338）をします。

② 上カバー内部の除電針クリーナを取り外します。



③ 除電針クリーナで、除電針をクリーニングします。

除電針クリーナを図のように持ち、ブラシの毛先を除電針に軽く当て、ゆっくりと除電針の範囲を往復させてクリーニングします。



④ クリーニングが終わったら、除電針クリーナをもとの位置に戻します。

⑤ 「トナーカートリッジを交換する」の手順11～13の操作（●P339）をします。

 警告

- 使用後のトナーカートリッジを本装置から取り出すときは、トナーが飛び散って目や口などに入らないように丁寧に取り出してください。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水などで洗い流し、医師と相談してください。
- トナーカートリッジは火の中に絶対に投じないでください。破裂したり、激しく燃えて、火災ややけどの原因となることがあります。
使用後のトナーカートリッジは、ビニール袋などに入れて燃えないゴミとして処理してください。
- 記録紙やトナーカートリッジは、火気のあるところに保管しないでください。記録紙やトナーカートリッジに引火して、火災ややけどの原因となることがあります。

 注意

- 転写ローラの左側にあるギアなど、除電針以外の部品に触れないようにクリーニングしてください。
- 除電針のクリーニングは、必ず付属の除電針クリーナで行ってください。付属の除電針クリーナ以外のものは絶対に使用しないでください。除電針を破損することがあります。
- 転写ローラに触れないように注意してクリーニングを行ってください。転写ローラに触れると、印字品質低下の原因となることがあります。
- 新しいトナーカートリッジを振るときは、静かに振ってください。激しく振るとトナーが飛び散ることがあります。
- 熱定着器とその周辺は高温になっていますので、手触れないようにご注意ください。やけどをする場合があります。
- 「高温注意」と表示がある部分とローラ部は高温になっていますので触れないでください。やけどの原因となることがあります。

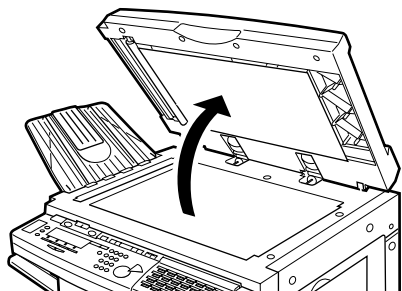


済スタンプインクを補充するには

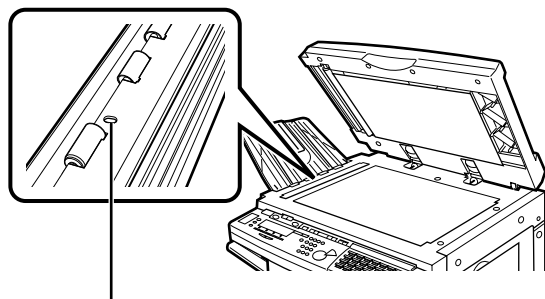
送信済みまたは読み込み済みの原稿に押される済スタンプが薄くなってきたら、済スタンプインクを補充してください。

インクは、「シャチハタXスタンパー補充インキY-30（イエロー）」と指定して、お近くの文具店でお買い求めください。

- 1** 電源を切り、原稿台カバーを開けます。



- 2** 図の位置に上から済スタンプインクを1滴たらしめます。



ここに済スタンプインクを補充します。

STOP お願い

- 補充した済スタンプインクがしみこむまで多少時間がかかります。補充後、1時間程度経過してからご使用ください。
- 済スタンプインクの補充が終了したら、電源を入れてください。電源を切ったままにしておくと、約3時間でメモリ内の原稿が消去されてしまいます。

⚠ 注意

- 済スタンプインクを補充するときは、電源を切ってください。電源を切らないと、感電の原因となることがあります（なお、電源を切る前には、必ずメモリの内容をプリントしてください）。
- 図に示した場所以外に済スタンプインクをたらさないように注意してください。発煙の原因となることがあります。



消耗品 / 各種オプションについて

本装置の消耗品には、以下のものがあります。指定以外の消耗品は使用しないでください。

消耗品について

- 記録紙
- トナーカートリッジ
- 済スタンプインク（市販品）

各種オプションについて

本装置のオプションには以下のものがあります。

オプション	ご利用の目安		
増設メモリ（8 MB）	メモリを増やしたいとき		
	増設メモリの種類	メモリ容量	メモリに記憶できる枚数
	なし（お買い求めのとき）	2 MB	128枚
	8 MB	10 MB	640枚
専用置台	本装置を操作しやすい高さに置きたいとき 2段カセットタイプ用と4段カセットタイプ用があります		

A4判700字程度原稿を標準的な画質（200 dpi×100 dpi）で読み取ったときの枚数です。原稿によって枚数は異なります。

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 ご参考に



保守サービスのご案内

●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

NTTでは、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしております。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	● 毎月決められた料金をお支払いいただくことで、定期点検、故障時の修理、定期交換部品の交換 など、性能維持に必要な保守サービスを行いますので、本装置を安心してご利用いただけます。 ● 定額保守サービスには、サービス内容により以下のような種別があります。 ● Aコース：毎月の定額料金のみで、定期点検を含む保守サービスを提供いたします。 ● Cコース：定期点検を除く保守サービスを提供いたします。
実費保守サービス	● 定期交換部品の交換、故障時の修理等に要した費用をそのつどいただきます。 ● お客様宅へお伺いするための費用および修理に要する技術費用・部品代をいただきます。 ● 故障内容によっては、高額になる場合もありますのでご承知願います。 ● 当社のサービス取扱所まで商品をお持ちの場合は、お客様宅へお伺いするための費用が不要になります。

本装置には、定着器等の定期的に交換を必要とする部品（定期交換部品）があります。

定額保守Aコースをご契約いただければ、当社が責任をもって定められた交換時期に必要な部品の交換を行います。

本装置を安心してお使いいただくために、是非とも定額保守Aコースのご契約を結ばれるようお願いいたします。

●故障した場合のお問い合わせは

局番なしの113番へご連絡ください。

●お話し中調べ

局番なしの114番へご連絡ください。

●その他

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：  0120-109217 トークニーナ

●補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

● リモートメンテナンスについて

本装置は、故障の場合などお客様の機器を保守する際に、登録内容や通信状況を確認したり、登録内容を変更したりするために、当社のサービス取扱所からの遠隔操作で、ダイヤルデータやその他のユーザデータの登録/設定内容を確認/変更したり、通信管理レポートにより通信状況を確認したりするリモートメンテナンスに対応しています。

メンテナンスの種類は

ダイヤルデータ登録	● ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤルの登録内容を確認/変更します。
ユーザデータ登録	● いろいろな機能の登録/設定内容を確認/変更します。
通信管理レポートの収集	● 通信管理レポートにより通信状況を確認します。

一部の地域においては、リモートメンテナンスを実施していない場合があります。

リモートメンテナンスを設定する

お買い求めのときは、リモートメンテナンスを受けないように設定されています。リモートメンテナンスを受ける場合は、RMSW（リモートメンテナンススイッチ）をONにしてください。（☛P24）



リモートメンテナンスを受け終わったら、RMSW（リモートメンテナンススイッチ）をOFFにしてください。
RMSW（リモートメンテナンススイッチ）をONにしていると、ディスプレイに「RMSWがONです」と表示されます。

STOP お願い

- ECM送信、ECM受信を「しない」に設定する（☛P316、317）と、リモートメンテナンスを利用することができませんのでご注意ください。

区点コード表

■ JIS第1水準漢字コード表

- 漢字コードは左列の番号と上横列の番号を組み合わせた4桁の番号です。

(例) 亜 漢字コード1601

- 下記の漢字コード表はJIS区点コード(第一水準漢字)に準じています(一部記号を除く)。

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
記号	010			、	。	、	・	:	;	?	
	011	!	°	°	、	、	..	^	-	_	、
	012	ベ	△	△	〃	全	々	×	○	—	—
	013	-	/	\	~			...		'	'
	014	“	”	(	)	[	]	[	]	{	}
	015			《	》	「	」	『	』	【	】
	016	+	-	±	×	÷	=	≠	<	>	
	017		∞		♂	♀	°	'	”		¥
	018	\$	¢	£	%	#	&	*	@	§	
	019	○	●								
	020			□	■		▲		▼		〒
	021	→	←	↑	↓	=					
	022										
	023				∩						
	024					∟					
	026				∂		≡				√
	027				∫						
	028				‰			♪	†	‡	¶
	029										
数字	031							0	1	2	3
	032	4	5	6	7	8	9				
アルファベット	033				A	B	C	D	E	F	G
	034	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
	035	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	
	036						a	b	c	d	e
	037	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	038	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
	039	z									
ひらがな	040		あ	あ	い	い	う	う	え	え	お
	041	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ
	042	こ	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ
	043	そ	た	だ	ち	ぢ	っ	っ	づ	て	で
	044	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ぱ
	045	ひ	び	び	ふ	ぶ	ぶ	へ	べ	べ	ほ
	046	ぼ	ぼ	ま	み	む	め	も	や	や	ゆ
	047	ゆ	よ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	わ
	048	ゐ	ゑ	を	ん						

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
カタカナ	050		ア	ア	イ	イ	ウ	ウ	エ	エ	オ
	051	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ
	052	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ
	053	ゾ	タ	ダ	チ	ヂ	ッ	ツ	ヅ	テ	デ
	054	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ
	055	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ
	056	ボ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
	057	ユ	ョ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヰ
	058	ヱ	ヲ	ヲ	ン	ヴ	カ	ケ			
	059										
特殊記号	060		A	B	Γ	Δ	E	Z	H	Θ	I
	061	K	Λ	M	N	Ξ	O	Π	P	Σ	T
	062	Υ	Φ	X	Ψ	Ω					
	063				α	β	γ	δ	ε	ζ	η
	064	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π	ρ
	065	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω			
	070		A	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З
	071	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С
	072	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы
	073	Ь	Э	Ю	Я						
	074										a
	075	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й
	076	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у
	077	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э
	078	ю	я								
	079										
	080		—		Г	Г	Г	Г	Г	Г	Г
	081	⊥	+								
	082										
	083										
あ	160		亜	啞	娃	阿	哀	愛	挨	始	逢
	161	葵	茜	穉	惡	握	渥	旭	葦	芦	鯨
	162	梓	庄	幹	扱	宛	姐	虹	飴	綯	綾
	163	鮎	或	栗	裕	安	庵	按	暗	案	闇
	164	鞍	杏								

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 参考に

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
い	164			以	伊	位	依	偉	困	夷	委
	165	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異
	166	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医
	167	井	亥	域	育	郁	磯	一	忝	溢	逸
	168	稻	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻
	169	引	飲	淫	胤	蔭					
	170		院	陰	隱	韻	吋				
う	170							右	宇	烏	羽
	171	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	白	渦	嘘
	172	唄	鬱	蔚	鰻	姥	厖	浦	瓜	閨	噂
	173	云	運	雲							
え	173				荏	餌	叡	嘗	嬰	影	映
	174	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	穎	英
	175	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越
	176	閱	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨
	177	掩	援	沿	演	炎	焰	煙	燕	猿	縁
	178	艶	苑	園	遠	鉛	鴛	塩			
お	178								於	汚	甥
	179	凹	央	奥	往	応					
	180		押	旺	横	欧	毆	王	翁	襖	薦
	181	鷗	黄	岡	冲	荻	億	屋	憶	臆	桶
	182	牡	乙	俺	卸	恩	温	穩	音		
か	182									下	化
	183	仮	何	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁
	184	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂
	185	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓
	186	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨
	187	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
	188	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔
	189	恢	懷	戒	拐	改					
	190		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥
	191	蟹	開	階	貝	凱	効	外	咳	害	崖
	192	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	淫
	193	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓
	194	拡	攪	格	核	殻	獲	確	穫	覺	角
	195	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	樂	額
	196	顎	掛	笠	檜	櫃	梶	鯢	渦	割	喝
	197	恰	括	活	渴	滑	葛	褐	轄	且	鯉
	198	叶	栳	樺	株	兜				釜	鎌
	199	啖	鴨	栢	茅	萱					

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
か	200		粥	刈	苜	瓦	乾	侃	冠	寒	刊
	201	勸	勸	卷	喚	堪	姦	完	官	寬	干
	202	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺
	203	款	歡	汗	漢	澗	灌	環	甘	監	看
	204	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	觀
	205	諫	貫	還	鑑	間	閑	閑	陷	韓	館
	206	館	丸	含	岸		玩	癌	眼	岩	翫
	207	贖	雁	頑	顏	願					
き	207						企	伎	危	喜	器
	208	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机
	209	旗	既	期	棋	棄					
	210		機	帰	毅	氣	汽	畿	祈	季	稀
	211	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
	212	鬼	龜	偽	儀	妓	宜	戲	技	擬	欺
	213	犧	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	鞠	却
	214	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍	吸
	215	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	球
	216	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	居
	217	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	鋸
	218	巨	拒	拋	拳	渠	虛	許	距		漁
	219	禦	魚	亨	享	京					
	220		供	俠	僑	兇	競	共	凶	協	匡
	221	卿	叫	喬	境	峽	強	彊	怯	恐	恭
<	222	挾	教	橋	況	狂	狹	矯	胸	脅	興
	223	蕎	郷	鏡	響	饗	驚	仰	凝	堯	曉
	224	業	局	曲	極	玉	桐	秆	僅	勤	均
	225	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊
	226	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	
	226										九
	227	俱	句	区	狗	玖	矩	苦	軀	驅	駟
け	228	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅
	229	串	櫛	釧	屑	屈					
	230		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	条
	231	栗	繰	桑	鋤	黝	君	薰	訓	群	軍
	232										
	232		卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭
	233	珪	型	契	形	徑	恵	慶	慧	憩	掲
け	234	携	敬	景	桂	溪	畦	稽	系	經	繼
	235	繫	郢	莖	荊	蚩	計	詣	警	輕	頸
	236	鷄	芸	迎	鯨	劇	戟	擊	激	隙	桁

区点コード表

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
け	237	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
	238	俟	倦	健	兼	券	剣	喧	圈	堅	嫌
	239	建	憲	懸	拳	捲					
	240		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県
	241	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	頭	験
	242	鯨	元	原	嚴	幻	弦	減	源	玄	現
	243	絃	絃	言	諺	限					
こ	243						乎	個	古	呼	固
	244	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐
	245	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鉅	雇
	246	顧	鼓	五	互	伍	午	吳	吾	娛	後
	247	御	悟	梧	檣	瑚	暮	語	誤	護	酬
	248	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功
	249	効	勾	厚	口	向					
	250		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工
	251	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗
	252	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構
	253	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠
	254	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏
	255	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉅
	256	砧	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫
	257	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
	258	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甌
	259	忽	惚	骨	狛	込					
	260		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇
	261	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	艮	魂	
さ	261										些
	262	佐	叉	唆	嵯	左	差	查	沙	磋	砂
	263	詐	鎖	娑	坐	座	挫	債	催	再	最
	264	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	裁	歲	濟
	265	災	采	犀	碎	砦	祭	齋	菜	裁	
	266	載	際	劑	在	材	罪	財	冴	坂	阪
	267	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	作	削	削
	268	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜
	269	鮭	笹	匙	冊	刷					
	270		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雜	阜
	271	鯖	捌	鎗	鮫	皿	晒	三	傘	參	山
	272	慘	撒	散	棧	燦	珊	産	纂	纂	蚕
	273	讚	贊	酸	餐	斬	暫	残			
し	273								仕	仔	伺

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
し	274	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿
	275	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯
	276	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	系
	277	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
	278	諮	資	賜	雌	飼	齒	事	似	侍	児
	279	字	寺	慈	持	時					
	280		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而
	281	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鳴	竺
	282	軸	穴	雫	叱	執	失	篠	嫉	室	悉
	283	湿	漆	疾	質	蔀	捨	叡	柴	芝	
	284	屢	蕊	編	舍	写	射	邪	斜	煮	
	285	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	借	勺	
	286	尺	杓	灼	爵	酌	錫	若	寂	弱	
	287	惹	主	取	守	手	殊	狩	珠	種	
	288	腫	趣	酒	首	儒	呪	寿	授	樹	
	289	綬	需	囚	収	周					
	290		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋
	291	終	繡	習	臭	舟	蒐	衆	襲	讐	蹴
	292	輯	週	茜	酬	集	醜	什	住	充	十
	293	從	戎	柔	汁	洪	獸	縱	重	銃	叔
	294	夙	宿	淑	祝	縮	肅	塾	熟	出	術
	295	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循
	296	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵
	297	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	緒	
	298	署	書	薯	諸	諸	助	叙	女	序	徐
	299	恕	鋤	除	傷	償					
	300		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	獎
	301	妾	娼	宵	將	小	少	尚	庄	床	廠
	302	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶
	303	松	梢	樟	樵	沼	消	涉	湘	燒	焦
	304	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧
	305	紹	肖	莖	蒋	蕉	衝	裳	訟	証	詔
	306	詳	象	賞	醬	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上
	307	丈	丞	乘	冗	剩	城	場	壤	嬢	常
	308	情	擾	条	杖	淨	狀	量	穰	蒸	讓
	309	釀	錠	嘱	埴	飾	燭	織	職	色	食
	310		拭	植	殖	燭	信	侵	唇	觸	審
	311	蝕	辱	尻	伸	晉	森	榛	娠	寢	申
	312	心	慎	振	新	紳			浸	深	親
	313	疹	真	神	秦				薪	親	診

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 参考に

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
し	314	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬
	315	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	勒		
す	315									筍	諏
	316	須	酢	図	厨	逗	吹	垂	帥	推	水
	317	炊	睡	粹	翠	衰	遂	醉	錐	錘	随
	318	瑞	髓	崇	嵩	数	枢	趨	難	据	杉
	319	相	菅	頗	雀	裾					
	320		澄	摺	寸						
せ	320					世	瀬	畝	是	凄	制
	321	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲
	322	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製
	323	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税
	324	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積
	325	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙
	326	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌
	327	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
	328	扇	撰	栓	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎
	329	煽	旋	穿	箭	線					
	330		織	羨	腺	舛	船	薦	詮	賤	踐
	331	選	遷	錢	銑	閃	鮮	前	善	漸	然
	332	全	禪	繕	膳						
そ	332					糲	噌	塑	岨	措	曾
	333	曾	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素
	334	組	蘇	訴	阻	遯	鼠	僧	創	双	叢
	335	倉	喪	壯	奏	爽	宋	層	匠	忽	想
	336	搜	掃	挿	搔	操	早	曹	巢	槍	槽
	337	漕	燥	争	瘦	相	窓	糟	總	綜	聰
	338	草	莊	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗
	339	霜	騷	像	增	憎					
	340		臧	蔵	贈	造	促	側	則	即	息
	341	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	続
	342	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜
	342										
た	343	他	多	太	汰	訖	唾	墮	妥	惰	打
	344	柁	舵	梶	陀	駄	驛	体	堆	対	耐
	345	岱	帶	待	怠	態	戴	替	泰	滯	胎
	346	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代
	347	台	大	第	醍	題	鷹	淹	瀧	卓	啄
	348	宅	托	扨	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁
	349	諾	茸	夙	蛸	只	奪	脱	巽	豎	迥
	350		叩	但	達	辰					

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
た	351	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	単	嘆	坦
	352	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	筆
	353	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	彈	断
	354	暖	檀	段	男	談					
ち	354					値	知	地	弛	恥	
	355	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遲	馳	築
	356	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着
	357	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
	358	註	耐	鏑	駐	櫓	渚	猪	芋	著	貯
	359	丁	兆	凋	喋	寵	張	彫	徵	懲	挑
	360		帖	帳	庁	弔	眺	聴	脹	腸	蝶
	361	暢	朝	潮	牒	町	眺	頂	鳥	勅	抄
	362	調	謀	超	跳	銚	長	陳			
	363	直	朕	沈	珍	賃					
つ	363								津	墜	椎
	364	槌	追	鎚	痛	通	塚	姆	掴	槻	佃
	365	漬	柘	辻	薦	綴	鰐	椿	潰	坪	壺
	366	嬢	紬	爪	吊	釣	鶴				
て	366							亭	低	停	偵
	367	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
	368	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締
	369	艇	訂	諦	蹄	通	鼎	泥	擢	敵	滴
	370		邸	鄭	釘	溺	哲	徹	撤	轍	迭
	371	的	笛	適	鐃	展	店	添	纏	甜	貼
	372	鉄	典	填	天	展	澱				
	373	転	顛	点	伝						
と	373									兎	吐
	374	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	兔
	375	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴
	376	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套
	377	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	拷	棟
	378	盜	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	拷	等
	379	答	筒	糖	統	到					
	380		董	蕩	藤	討	騰	動	踏	逃	透
	381	鐙	陶	頭	瞳	闘	働	動	同	堂	導
	382	懂	撞	洞	德	童	胷	荀	道	銅	峠
	383	鴛	匿	得	橡	流	特	督	禿	篤	毒
	384	独	読	析	瀬	凸	突	楸	屈	篤	苦
	385	寅	西	滌	噸	屯	惇				
	386	頓	吞	曇	鈍						

区点コード表

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
な	386					奈	那	内	乍	凧	薙
	387	謎	灘	捺	鍋	檣	馴	縄	嚼	南	楠
	388	軟	難	汝							
に	388				二	尼	弑	迓	勾	脈	肉
	389	虹	廿	日	乳	入					
	390		如	尿	菲	任	妊	忍	認		
ぬ	390									濡	
ね	390										襦
	391	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	撚	燃
	392	粘									
の	392		乃	迺	之	埜	囊	惱	濃	納	能
	393	腦	膿	農	覗	蚤					
は	393					巴	把	播	霸	杷	
	394	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	庠
	395	拜	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配
	396	倍	培	媒	梅	煤	猥	買	賣	賠	
	397	陪	這	蠅	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
	398	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠
	399	爆	縛	莫	駁	麥					
	400		函	箱	碯	簪	簪	櫛	幡	肌	
	401	畑	畠	八	鉢	滌	癸	髡	髮	伐	罰
	402	拔	筏	閥	鳩	嘶	塙	蛤	隼	伴	判
	403	半	反	叛	帆	搬	斑	板	汜	汎	版
	404	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	采	煩
ひ	405	頒	飯	挽	晚	番	盤	磐	蕃	蜚	
	405										匪
	406	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐
	407	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
	408	誹	費	避	非	飛	樋	篋	備	尾	微
	409	枇	毘	琵琶	眉	美					
	410		鼻	柎	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱
	411	肘	弼	必	畢	筆	逼	桧	姫	媛	紐
	412	百	謬	佞	彪	標	氷	漂	瓢	票	表
	413	評	豹	廟	描	病	秒	苗	錨	鉞	蒜
	414	蛭	鱒	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻
	415	敏	瓶								
ふ	415			不	付	埠	夫	婦	富	富	布
	416	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐
	417	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
	418	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	落

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ふ	419	伏	副	復	幅	服					
	420		福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏
	421	物	鮪	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮
	422	粉	糞	紛	雰	文	聞				
へ	422							丙	併	兵	塀
	423	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁
	424	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	篋	偏	变
	425	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	婉	弁
	426	鞭									
ほ	426		保	舗	舗	圃	捕	歩	甫	補	輔
	427	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
	428	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖
	429	抱	捧	放	方	朋					
	430		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬
	431	蜂	褒	訪	豊	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏
	432	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴
	433	望	某	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿
	434	銓	防	吠	類	北	僕	卜	墨	撲	朴
	435	牧	睦	穆	鉤	勃	没	殆	堀	幌	奔
	436	本	翻	凡	盆						
ま	436					摩	磨	魔	麻	埋	妹
	437	昧	枚	每	哩	模	幕	膜	枕	鮪	枉
	438	鱒	桝	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	低
	439	繭	磨	万	慢	満					
	440		漫	蔓							
み	440				味	未	魅	巳	箕	岬	密
	441	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	耗	民	眠	
む	441										務
	442	夢	無	牟	矛	霧	鵠	棕	婿	娘	
め	442										冥
	443	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅
	444	免	棉	綿	緬	面	麵				
	444							摸	模	茂	妄
も	445	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	默
	446	目	杳	勿	餅	尤	戾	糲	賁	問	悶
	447	紋	門								
	447			勿	也	冶	夜	爺	耶	野	弥
や	448	矢	厄	役	約	薬	訖	躍	靖	柳	薺
	449	鏝									
	449										
ゆ	449		愉	愈	油	癒					

1
使う
送信の便利な機能を

2
使う
受信の便利な機能を

3
使う
その他の便利な機能を

4
をプリントする
各種レポート/リスト

5
登録/設定する
いろいろな機能を

6
「」参考に

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ゆ	450		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽
	451	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷	由
	452	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	
よ	452										予
	453	余	与	譽	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
	454	揚	搖	擁	曜	楊	樣	洋	溶	熔	用
	455	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謠	踊	遙	陽
	456	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	
ら	456										羅
	457	螺	裸	来	萊	賴	雷	洛	絡	落	酪
	458	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覽		
り	458									利	吏
	459	履	李	梨	理	璃					
	460		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立
	461	律	掠	略	劉	流	溜	琉	留	硫	粒
	462	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚
	463	両	凌	寮	料	梁	涼	獵	療	瞭	稜
	464	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力	緑	倫
	465	厘	林	淋	淋	琳	臨	輪	隣	鱗	麟
る	466	瑠	壘	涙	累	類					
れ	466						令	伶	例	冷	励
	467	嶺	伶	玲	礼	苓	鈴	隸	零	靈	麗
	468	齡	曆	歴	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐
	469	漣	煉	簾	練	聯					
	470		蓮	連	鍊						
ろ	470					呂	魯	櫓	炉	賂	路
	471	露	勞	婁	廊	弄	朗	樓	榔	浪	漏
	472	牢	狼	籠	老	蠶	郎	六	麓	祿	
	473	肋	録	論							
わ	473				倭	和	話	歪	賄	脇	惑
	474	杵	鷺	互	亘	鰐	詫	藁	蕨	腕	湾
	475	碗	腕								
	475					(株〇代〇呼)					
	478	(有〇協)									

区点コード表

■ JIS第2水準漢字コード表

● 下記の漢字コード表はJIS区点コード（第二水準漢字）に準じています。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
480	弋	𠂔	丕	个	𠂔	、	井	ノ	乂	
481	乖	乘	亂	丿	豫	事	舒	式	于	亞
482	亟	亅	亢	京	毫	亶	从	仍	仄	仆
483	仂	仗	仞	仍	仟	价	伉	佚	估	佛
484	佝	佗	佇	佖	侈	侏	佗	佻	佩	佰
485	侑	佯	來	侖	儘	倪	俟	俎	俘	俛
486	俑	俚	俐	倂	倂	倚	倨	偃	倪	控
487	倅	倅	倝	倡	倩	倬	俾	俯	們	倆
488	偃	假	會	偕	修	偈	倅	倅	倅	倅
489	傀	倅	倅	倅	倅	倅	倅	倅	倅	倅
490	僉	僉	僉	僉	僉	僉	僉	僉	僉	僉
491	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮
492	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮	僮
493	兢	競	兩	兪	兮	冀	冂	冂	冊	冉
494	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂
495	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂	冂
496	几	處	夙	凭	鳳	凵	凵	凵	凵	凵
497	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎
498	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎	刎
499	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒
500	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒	劒
501	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸
502	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄
503	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄	匄
504	厄	厄	厄	厄	厄	厄	厄	厄	厄	厄
505	廠	厶	參	纂	雙	叟	曼	變	叮	叨
506	叭	叭	吁	吡	呀	听	吭	吼	吮	呐
507	吩	吝	呖	咏	呵	咎	咎	呱	呬	咎
508	咒	呻	咀	呶	咄	咐	咆	哇	骂	咸
509	啞	咬	哄	哈	咨					
510	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
511	唔	哽	哮	哭	哺	哂	啞	哇	啞	啞
512	售	啜	啜	啜	啜	啜	啜	啜	啜	啜
513	咯	喊	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞
514	喻	喇	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤
515	嘔	噉	噉	噉	噉	噉	噉	噉	噉	噉

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
516	嘴	嘶	嘲	嘸	噫	噤	嘯	噬	噪	噤
517	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤
518	嚼	嚼	嚼	嚼	嚼	嚼	嚼	嚼	嚼	嚼
519	囫	囫	囫	囫	囫					
520		圈	國	圍	圓	團	圖	晉	圓	圪
521	坏	址	坎	圪	址	坏	坩	垂	坩	坡
522	坩	坩	坩	坩	坩	坩	坩	坩	坩	坩
523	埔	埕	埕	埕	埕	埕	埕	埕	埕	埕
524	堡	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢
525	墟	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢
526	墟	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢	塢
527	壻	壻	壻	壻	壻	壻	壻	壻	壻	壻
528	夭	卒	夸	夾	奇	奕	奂	奎	奚	奘
529	奢	莫	奧	獎	奘					
530		奸	妁	妝	佞	佞	妁	妁	姆	姨
531	姜	妍	姪	姚	娥	娟	娑	娜	娉	娉
532	姪	姪	姪	姪	姪	姪	姪	姪	姪	姪
533	嬌	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵
534	嬌	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵	嫵
535	嬌	子	孕	孚	孛	孩	孩	孩	孩	孩
536	學	孝	孺	宀	它	宦	宸	寃	寇	崔
537	寃	寐	寢	實	寢	寢	寢	寢	寢	寢
538	寢	尅	將	專	對	尅	尅	尅	尅	尅
539	尹	屁	屈	屎	屙					
540		屙	屙	屙	屙	屙	屙	屙	屙	屙
541	岑	岔	岙	岙	岙	岙	岙	岙	岙	岙
542	峇	峙	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇
543	崗	寄	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇	峇
544	嵌	岳	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠
545	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠	嶠
546	巔	巔	巔	巔	巔	巔	巔	巔	巔	巔
547	帑	帑	帶	帷	幄	幃	幃	幃	幃	幃
548	幃	幃	幃	幃	幃	幃	幃	幃	幃	幃
549	廁	廂	廂	廂	廂					
550		廖	廣	廂	廂	廂	廂	廂	廂	廂
551	廂	廂	廂	廂	廂	廂	廂	廂	廂	廂

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 参考に

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
552	彘	弋	弑	彘	弩	弭	弭	弭	彈	彌
553	彎	彎	亅	彘	彘	彘	彘	彘	彘	彘
554	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
555	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
556	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
557	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
558	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
559	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
560	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
561	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
562	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
563	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
564	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
565	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
566	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
567	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
568	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
569	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
570	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
571	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
572	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
573	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
574	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
575	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
576	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
577	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
578	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
579	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
580	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
581	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
582	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
583	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
584	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
585	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
586	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
587	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
588	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
589	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
590	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠
591	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠	徠

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
592	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
593	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
594	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
595	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
596	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
597	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
598	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
599	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
600	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
601	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
602	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
603	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
604	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
605	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
606	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
607	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
608	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
609	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
610	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
611	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
612	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
613	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
614	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
615	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
616	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
617	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
618	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
619	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
620	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
621	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
622	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
623	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
624	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
625	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
626	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
627	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
628	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
629	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
630	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶
631	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶	朶

区点コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
632	澳	潞	澡	澤	澹	漬	漚	濟	濕	濬
633	瀾	潯	濱	濮	濛	瀉	濬	濺	瀑	養
634	瀏	濾	瀛	瀚	渚	瀝	瀟	瀾	瀾	
635	激	灑	灣	炙	炒	炯	炯	炬	炸	炳
636	炮	烟	杰	蒸	烙	焉	烽	焜	焙	煥
637	熙	熙	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燠	熄
638	煩	熨	熬	燭	熏	熾	燒	燉	燔	燎
639	燠	燬	燧	燧	燼					
640		燹	燿	爍	爐	爍	爍	爭	爬	爰
641	爲	爻	俎	爿	牀	牀	牀	牀	牀	牀
642	犁	犁	犇	犇	犇	犇	犇	犇	犇	犇
643	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎
644	猗	猗	猜	猜	猜	猜	猜	猜	猜	猜
645	獎	獾	默	獾	獾	獾	獾	獾	獾	獾
646	獺	珈	玳	玳	玳	玳	玳	玳	玳	玳
647	琅	瑯	琥	琥	琥	琥	琥	琥	琥	琥
648	瑁	瑜	瑩	瑩	瑩	瑩	瑩	瑩	瑩	瑩
649	璧	瓊	瓊	瓊	瓊	瓊	瓊	瓊	瓊	瓊
650		瓠	瓣	卮	卮	瓮	甌	甌	甌	甌
651	瓷	甄	甃	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
652	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
653	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
654	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
655	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
656	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
657	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
658	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
659	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
660	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
661	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
662	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
663	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
664	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
665	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
666	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
667	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
668	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
669	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
670	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
671	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
672	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
673	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
674	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
675	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
676	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
677	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
678	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
679	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
680	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
681	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
682	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
683	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
684	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
685	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
686	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
687	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
688	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
689	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
690	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
691	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
692	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
693	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
694	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
695	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
696	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
697	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
698	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
699	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
700	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
701	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
702	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
703	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
704	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
705	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
706	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
707	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
708	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
709	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
710	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖
711	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖	襖

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
752	覺	覽	覲	觀	觚	觜	舐	解	觴	觸
753	卦	訖	訐	訏	訛	訝	訥	訶	詁	詛
754	詒	詆	詈	詠	詭	詬	詢	誅	詵	誅
755	誨	誠	誑	誥	誦	誚	誣	諄	諍	諂
756	諛	諫	諳	諧	諤	諱	謔	誼	譚	諷
757	論	訣	詞	謳	謚	諡	謾	謚	謗	謠
758	謳	鞠	警	謫	謾	謨	譁	譌	譏	譎
759	證	譖	諸	譚	譴					
760		譟	譬	譯	譴	譽	讀	讎	讎	讒
761	讓	識	謹	讚	𪔐	豁	谿	豈	琬	豎
762	豐	豕	豢	豬	豸	豺	貂	貉	貅	貊
763	狸	貌	貔	狝	獮	賤	賁	貪	貽	貲
764	貳	貳	貶	賈	賁	賤	賣	賈	賈	賺
765	賻	贄	贄	贊	贄	贏	膽	瞋	齋	賊
766	賸	臯	贖	赧	赭	乏	赳	赳	趙	跂
767	趾	趺	跰	跚	跖	跌	跛	跋	跪	跹
768	跟	跳	踟	踈	踉	跬			踐	踞
769	蹂	踵	踰	踴	蹊					
770		蹇	蹉	蹌	蹓	蹈	蹙	蹤	蹠	踪
771	蹣	蹕	蹙	蹲	蹕	躁	蹕	躅	躅	躋
772	躊	躋	躋	躋	躋	躋	躋	躬	軀	體
773	躲	躡	躡	躡	軋	輒	輒	軋	軋	軋
774	軋	輕	輅	輅	輒	輒	輓	輜	輟	輞
775	輞	輦	輦	輦	輶	輶	輶	輶	輶	轉
776	輶	輶	輶	輶	輶	輶	輶	輶	辟	辣
777	辭	辯	仁	迕	迴	迕	迪	邈	邈	迴
778	逅	迹	迕	速	逕	逕	逍	逞	逖	逖
779	途	透	達	達	進					
780		遏	遐	遑	道	迺	遠	逾	邁	邁
781	遞	遨	遡	遑	隨	遲	邈	遽	邁	邀
782	邊	邇	邇	邇	邇	邇	邵	郢	郤	扈
783	郭	鄂	鄒	鄙	郢	鄰	酃	酃	醅	酣
784	酥	酪	醕	醒	醋	醉	醢	醢	醫	醢
785	醪	醪	醪	醪	釀	釀	釉	釋	釐	釐
786	釐	釜	鈎	鈎	釵	鉈	鈎	鉈	鈔	鈔
787	鈕	鈎	鉈	鉈	鉈	鉈	鉈	鉈	銑	銑
788	鉈	鉈	銑	銑	銑	銑	銑	銑	銑	銑
789	鉈	銑	銑	銑	銑					
790		鎢	錢	錚	鍛	鎢	鉍	鉍	鍛	鎢
791	鍬	鍬	鍬	鎢	鎢	鎢	鎢	鎢	鎢	鎢



区点コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
792	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
793	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
794	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
795	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
796	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
797	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
798	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
799	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
800	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
801	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
802	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
803	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
804	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
805	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
806	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
807	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
808	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
809	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
810	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
811	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
812	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
813	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
814	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
815	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
816	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
817	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
818	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
819	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
820	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
821	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
822	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
823	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
824	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
825	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
826	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
827	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
828	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
829	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
830	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳
831	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳	鋳

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
832	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
833	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
834	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
835	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
836	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
837	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
838	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
839	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠
840	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠	鵠

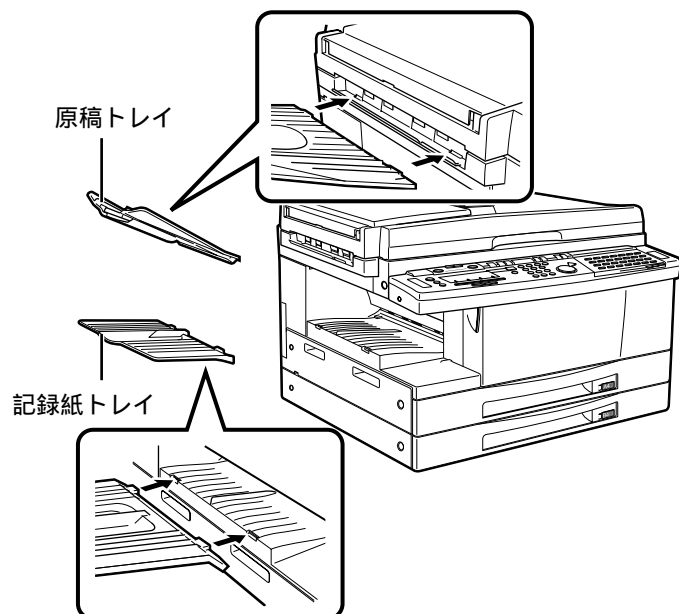


機器を設置、接続するには

設置工事は担当者（工事担任者資格を有する者）におまかせください。

■ 付属品を取り付ける

- 1 記録紙トレイと原稿トレイを少し斜めに差し込みます。



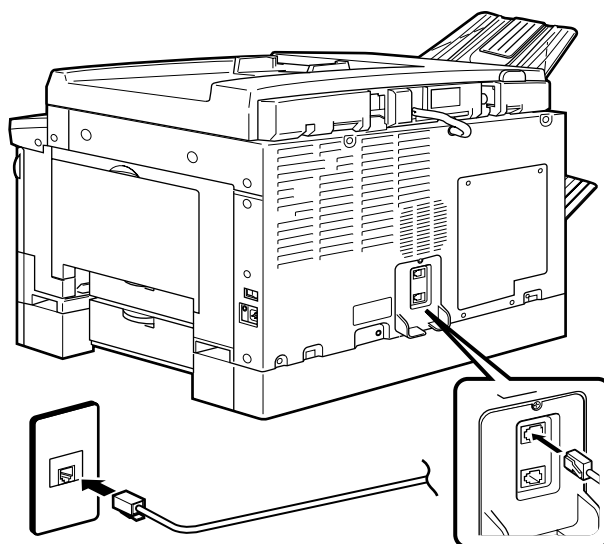
原稿トレイは、必ず図のところに差し込んでください。

⚠ 警告

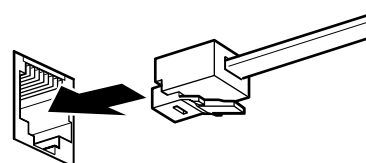
- 万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。アース線が取り付けられるところは以下の部分です。
 - 電源コンセントのアース端子
 - 銅片などを65 cm以上、地中に埋めたもの
 - 接地工事（第3種）が行われている接地端子
- 以下のようなところには、絶対にアース線を取り付けしないでください。
 - ガス管
 - 電話専用アース線
 - 避雷針
 - 水道管や蛇口

■ ISDN回線を接続する

- 1 ISDN電話機コードを本装置のISDN回線接続用差込口（ISDN）に差し込みます。
- 2 ISDN電話機コードをISDN回線用モジュラージャックに差し込みます。

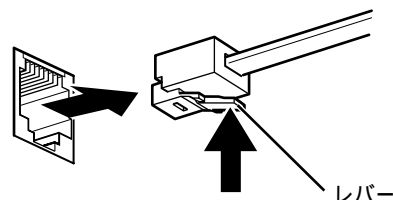


● ISDN電話機コードを差し込むとき



「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

● ISDN電話機コードを引き抜くとき



レバーを押さえながら引き抜いてください。

STOP お願い

- デジタル電話機等と同じ回線に接続する場合には、本装置あるいは外付け電話機をご使用になれないことがあります。

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

■ 外付け電話機を接続する

-



- 外付け電話機用差込口には、一般電話回線で利用する電話機を1台のみ接続することができます。それ以外の通信機器を接続しても、接続した通信機器が正常に動作しませんのでご注意ください。
- 接続する電話機の種類によっては、正常に動作しないことがありますのでご注意ください。
- ビジネスホンやホームテレホンなど特殊なPBX（構内交換機）に接続されていた電話機は接続しても使用できません。また、電話機の種類によっては呼出音が鳴らないこともありますのでご注意ください。
- 接続する外付け電話機の電話回線種別を必ず「プッシュ回線（PB）」に設定してご利用ください。
- 外付け電話機用差込口は、ナンバー・ディスプレイには対応していません。ナンバー・ディスプレイ対応の電話機を接続する場合は、電話機のナンバー・ディスプレイ機能を利用しないように設定してください。

- 3** 電源スイッチを「|」（ON）にします。
使用できる状態になるまで、ディスプレイに次のように表示されます。

使用できる状態になると、次のように表示されます。

自動受信 送信できます 98 04/24
FRI 15:30

標準 ふつう 文字 ADF

送信画質 読取濃度 原稿の種類 プリント送信



- 電源コードは、必ず付属のものをお使いになり、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。

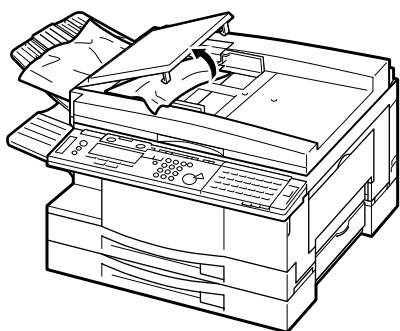


原稿がつまったら

原稿がつまると、ディスプレイに「原稿を確認してください」と表示され、アラームランプが点滅します。電源を入れた状態のまま、以下の手順に従って原稿を取り除いてください。

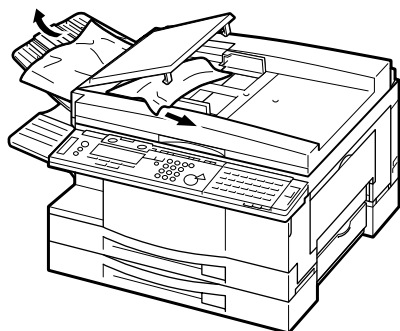
- ① [ストップ] ボタンを押します。
原稿の読み込みの途中で[ストップ]ボタンを押すと、それまでメモリに蓄積していた原稿も消去されます。つまった原稿を取り出したあと、最初からやり直してください。

- ② フィーダカバーを持って、フィーダカバーを上を開けます。

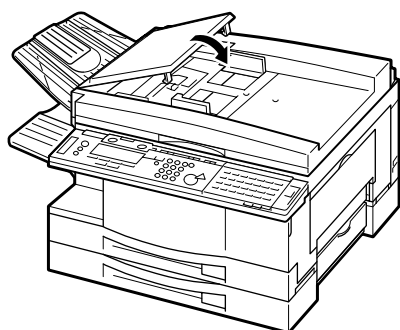


フィーダカバーはゆっくり開けてください。

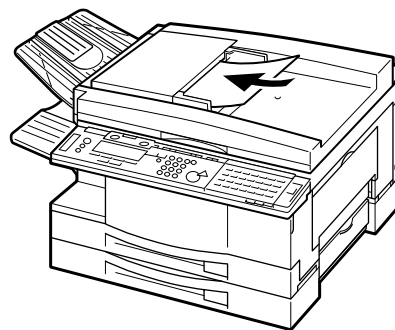
- ③ 原稿を取り出します。
右側または左側から引き出してください（取り出しやすい方から引き出してください）。



- ④ フィーダカバーを閉めます。
「カシャッ」という音がするのを確認してください。



- ⑤ 原稿をセットし直します。



STOP お願い

- フィーダカバーを開けるときは、ゆっくり開けてください。フィーダカバーの開き角度は約25度です。強く開けたり、無理に大きく開けると破損の原因となることがあります。
- フィーダカバーを閉じたままに原稿を無理に引き抜かないでください。無理に引き抜こうとすると、原稿が破れることがあります。

⚠ 注意

- つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意してください。

1 送信の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

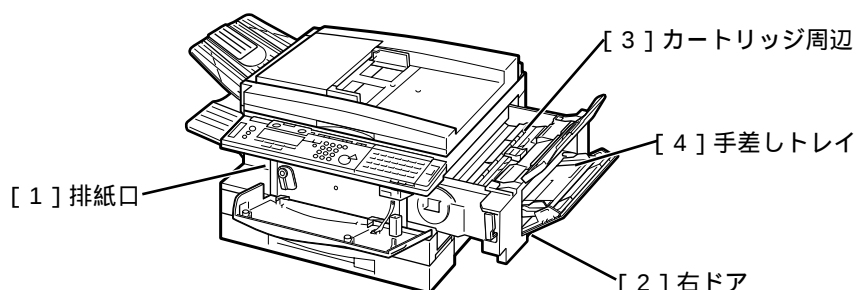
4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

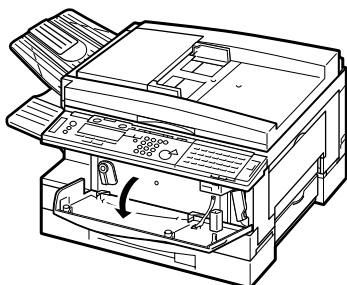
記録紙がつまったら

記録紙がつまると、アラームランプが点滅し、「記録紙が詰まりました」というメッセージとエラー番号 [1] ~ [4] が表示されます。電源を入れた状態のまま、以下の手順に従って記録紙を取り除いてください。手差しトレイに記録紙がセットされているときは、取り除いてから操作してください（本体内に引き込まれた状態の記録紙が見えているときは、無理に引き抜かないでください）。

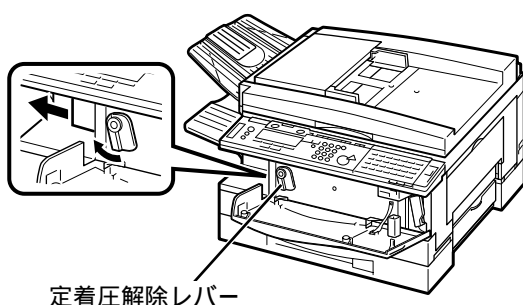


■エラー番号 [1] が表示されたとき

- 1 前カバーを開けます。

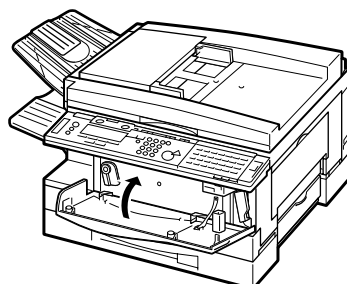


- 2 定着圧解除レバーを矢印の方向に押して、排紙口に見えるつまっている記録紙を引き抜きます。



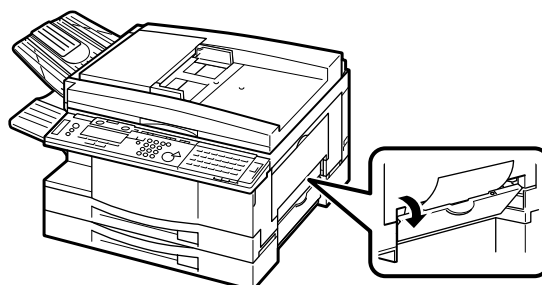
記録紙がないときは、「エラー番号 [2] が表示されたとき」の手順に従ってください。

- 3 前カバーを閉めます。



■エラー番号 [2] が表示されたとき

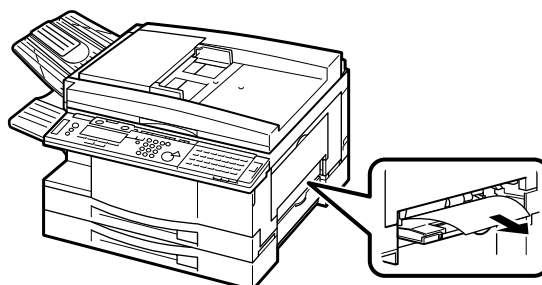
- 1 右ドアを開けます。
右ドアの中央部分に指をかけて開きます。



上段の右ドアを開けて記録紙がないときは、下段の右ドアを開けます。

4段カセットタイプの場合は、3段目、4段目のカセットも同様に開けて、つまっている記録紙がないかどうか確認します。

- 2 つまっている記録紙を、矢印の方向に引き抜きます。



記録紙がないときは、「エラー番号 [3] が表示されたとき」の手順に従ってください。

1 送
信
の
便
利
な
機
能
を
使
う

2 受
信
の
便
利
な
機
能
を
使
う

3 そ
の
他
の
便
利
な
機
能
を
使
う

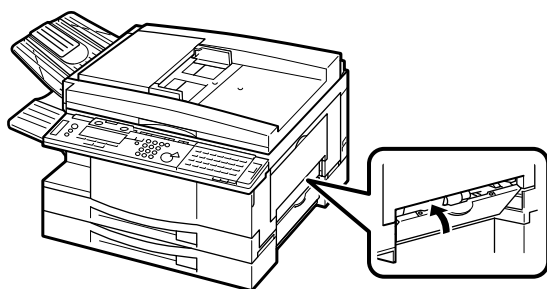
4 各
種
レ
ポ
ー
ト
ノ
リ
ス
ト
を
プ
リ
ン
ト
す
る

5 い
ろ
い
ろ
な
機
能
を
登
録
ノ
設
定
す
る

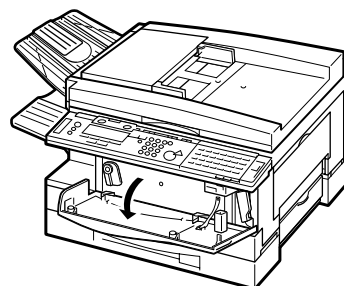
6 参
考
に

■エラー番号[3]が表示されたとき

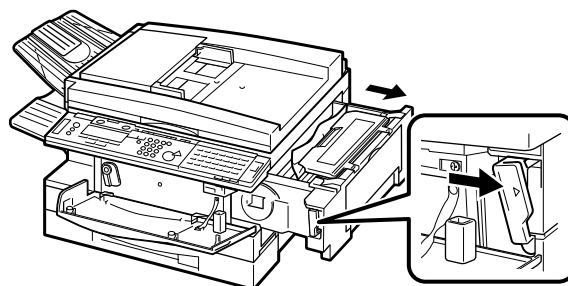
3 右ドアを閉めます。



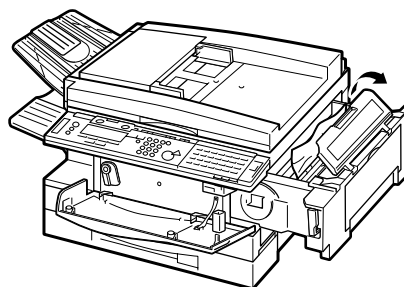
1 前カバーを開けます。



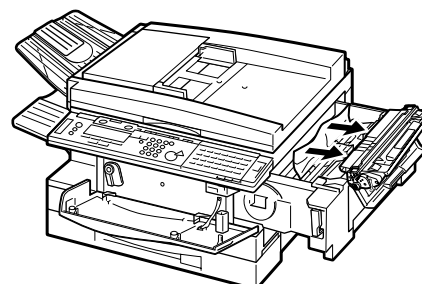
2 リリースレバーを右に倒し、プリンタドアを開けます。



3 上カバーを開けます。



4 トナーカートリッジを両手で持ち、取り出します。

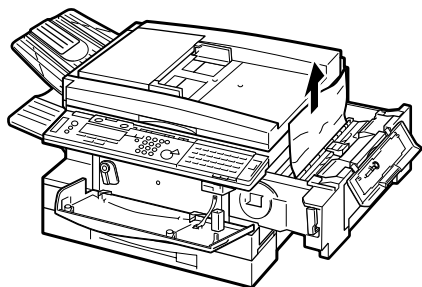


次ページに続きます。

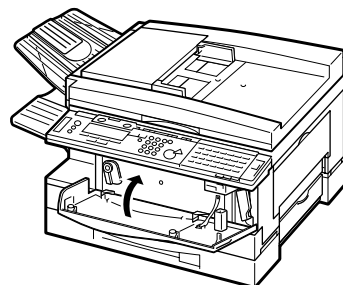


記録紙がつまったら

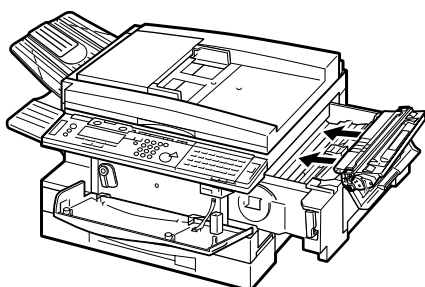
- 5 つまっている記録紙を、矢印の方向に引き抜きます。



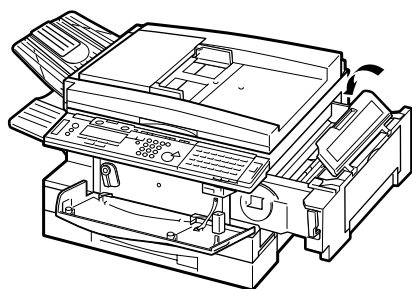
- 9 前カバーを閉めます。



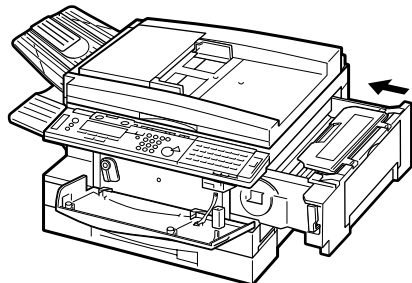
- 6 記録紙がないことを確認したあと、トナーカートリッジをもとに戻します。



- 7 上カバーを閉めます。

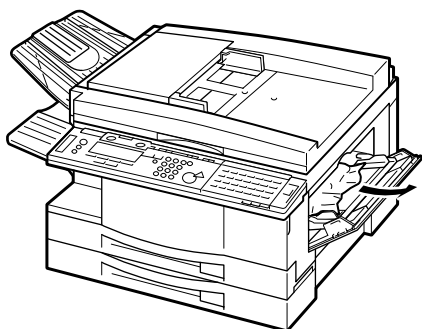


- 8 プリンタドアを閉めます。



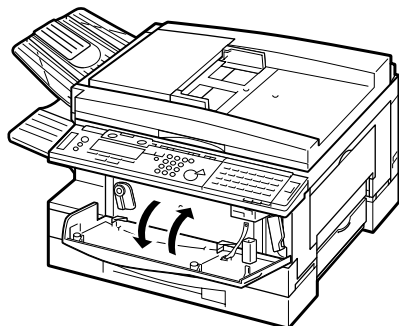
■エラー番号 [4] が表示されたとき

- ① つまっている記録紙を矢印の方向に引き抜きます。
同時に、手差しトレイにセットしてある記録紙もすべて取り除きます。

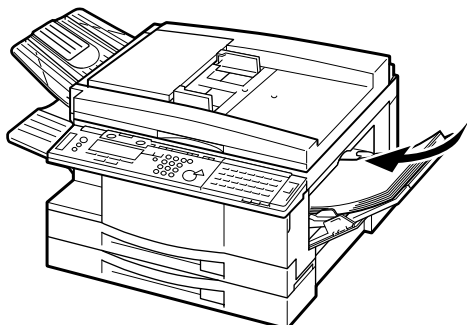


つまっている記録紙が取り除けないときは、「エラー番号 [3] が表示されたとき」(P363)の手順に従ってください。

- ② 前カバーを開閉します。



- ③ 記録紙をセットし直します。
記録紙の枚数は少なめにしてください。



STOP お願い

- プリントドア、記録紙カセットの右ドアは必ずもとに戻してください。開けたままで操作しないでください。故障の原因となることがあります。
- 記録紙は破れないように静かに取り除いてください。取り除く途中で記録紙が破れたときは、紙片を本装置の中に残さずにすべて取り除いてください。

⚠ 注意

- 熱定着器とその周辺は高温になっていますので、手を触れないようにご注意ください。やけどをする場合があります。
- 「高温注意」と表示がある部分とローラ部は高温になっています。やけどの原因となることがありますので、記録紙以外には触れないでください。
- 記録紙についているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れた場合は、すぐに水で洗い流してください。温水で洗うと、トナーが付着し、汚れがとれなくなるので注意してください。
- つまった原稿や記録紙を取り除くときは、原稿や記録紙の端で手を切ったりしないように注意してください。
- 紙づまりの処理などで内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が本装置内部に触れないようにしてください。やけどや感電の原因となることがあります。



停電になったときは

停電になったときや電源を切ったときは、ファクスの機能 / 動作が停止します。

停電中は

- 原稿を送信 / 受信することはできません。
- コピーをとることはできません。
- 電話（外付け電話機）をかけたたり、受けたりすることはできません。

データの保存について

- 各機能の登録 / 設定した内容、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容は保持されています。
- メモリに蓄積された送受信画像は、約3時間は保持されます。



ワンポイント.....

- メモリに記憶されている原稿の量が多いときは
停電復旧後に電源を入れてから、本装置が作動するまでに時間がかかることがあります（5分程度）。
- 停電が3時間以上続いたときは
メモリ内の画像データが消去されてしまう場合があります。その場合は、停電復旧後に電源が入ってからメモリクリアリストがプリントされ、消去された画像データの情報をお知らせします。ただし、記録紙がないときは、メモリクリアリストはプリントされません。

STOP お問い合わせ

- メモリに蓄積された画像データは、本装置に内蔵されたバックアップ電池（パナジウムリチウム2次電池）によって約3時間保持されます。電源が切れる前に、常温常湿の環境で最低でも24時間連続で本装置の電源を入れたままの状態にし、完全に充電しておくようにしてください。
バックアップ電池の充電について以下の点にご注意ください。
- パナジウムリチウム2次電池は、100%充放電（電源を切った状態で24時間以上放置したあとに放電）を40回繰り返すと寿命です（25 時）。
- 夜間や休日など、頻繁に電源を入れたり切ったりすると十分に充電されないだけでなく、バックアップ電池の寿命も短くなってしまいますのでご注意ください。
- 24時間以上連続で電源を入れたままの状態にしているにもかかわらず、データの保持時間が半分にも満たないときは、バックアップ電池の寿命か、使用環境に問題がある場合があります。NTT窓口等へお問い合わせください。



故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらときは、修理をご依頼になる前に次の点をご確認ください。

	こんなときは	原因	確認してください	参照ページ
送信のとき	送信できない	コピーモードになっている	 ボタンを押してください	☛ P 45、47、56
		相手先の電話番号が間違っている	相手先の電話番号をディスプレイで確認してください	☛ P 45、47、56
	メモリがすぐにいっぱいになる	送信画質や原稿の種類の設定が「スーパーファイン」/「ウルトラファイン」や「写真」になっている	送信画質を「標準」に、原稿の種類を「文字」に設定してください	☛ P 42、43
		すでに他の原稿がメモリに蓄積されている	メモリ代行受信などでメモリに蓄積されている原稿をプリントしてください	☛ P 156
	相手先の受信原稿に縦線が出る	原稿台ガラスが汚れている	原稿台ガラスを清掃してください	☛ P 332
	相手先の受信原稿の画像が欠けている	原稿ガイドや原稿セットの方向が合っていない	原稿ガイドを原稿の幅に合わせてください	☛ P 40
			原稿を正しい方向にセットしてください	☛ P 41
	相手先が受信した原稿が薄い	原稿台ガラスが汚れている	原稿台ガラスを清掃してください	☛ P 332
		読取濃度が「うすく」に設定されている	読取濃度を「ふつう」または「こく」に設定してください	☛ P 43
	ポーリング送信ができない	ポーリングボックスが設定されていない	ポーリング送信をするためには、あらかじめポーリングボックスの設定が必要です ポーリングボックスを設定してください	☛ P 190
	親展送信ができない	相手機に親展ボックスが設定されていない	相手先に親展ボックスを設定してもらってください	—
		ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しているFコードやパスワードが正しく登録されていない	ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容を確認してください	☛ P 256、259
		相手機のメモリがいっぱいになっている	相手先に確認してください	—
	中継指示送信ができない	相手機に中継ボックスが設定されていない	相手機に中継ボックスを設定してもらってください	—
		相手機のFコードやパスワードを正しく指定していない	相手先に確認してください	—
		ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しているFコードやパスワードが正しく登録されていない	ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容を確認してください	☛ P 256、259
	Fコード送信ができない	相手機のFコードやパスワードを正しく指定していない	相手先に確認してください	—
		ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しているFコードやパスワードが正しく登録されていない	ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの登録内容を確認してください	☛ P 256、259

1 送信的の便利な機能を
使う

2 受信の便利な機能を
使う

3 その他の便利な機能を
使う

4 各種レポート/リスト
をプリントする

5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

故障かな？と思ったら

	こんなときは	原因	確認してください	参照ページ
受信のとき	自動受信ができない	「手動受信」になっている	受信モードを「自動受信」に設定してください	●P62
	受信した画像が鮮明でない	トナーがない	トナーカートリッジを交換してください	●P338
		トナーカートリッジが正しくセットされていない	トナーカートリッジを正しくセットしてください	●P338
		指定の記録紙を使用していない	指定の記録紙を使用してください	●P334
	リモート受信ができない	「留守」になっている	留守受信モードを解除してください	●P62
		こちらから電話をかけた	こちらから電話をかけた場合は、リモート受信できません	—
		リモート受信が設定されていない	リモート受信を「する」に設定してください	●P300、301
	電話優先ができない	「留守」になっている	受信モードを「自動受信」に設定してください	●P62
		電話優先詳細設定が正しく登録されていない	電話優先詳細設定の登録／設定内容を確認してください	●P258、261
コピーのとき	親展受信ができない	親展ボックスが設定されていない	親展ボックスを設定してください	●P206
	ポーリング受信ができない	相手のFコードやパスワードを正しく指定していない	相手先に確認してください	—
	コピーができない	ファクスモードになっている	 ボタンを押してください	●P80、82
		トナーがない	トナーカートリッジを交換してください	●P338
	コピーが部分的に写らない	記録紙が湿気を含んでいる	記録紙を取り替えてください	●P335、337
		折り目やしわになった記録紙が入っている	不良記録紙を取り除くか、新しい記録紙と入れ替えてください	●P335、337
	コピーが曲がって写る	原稿が正しくセットされていない	原稿を正しくセットしてください	●P40、41
	記録紙がたびたびつまる	記録紙が正しくセットされていない	記録紙を正しくセットしてください	●P335、337
		折り目やしわになった記録紙が入っている	不良記録紙を取り除くか、新しい記録紙と入れ替えてください	●P335、337
	原稿がたびたびつまる	原稿ガイドの位置がずれている	原稿ガイドを正しくセットしてください	●P40
		ADF（自動原稿送り装置）に原稿の一部が残っている	フィーダカバーを開けて確認してください	●P361
待機中のとき	ディスプレイに何も表示されない	電源プラグがコンセントから抜けている	電源プラグを正しく差し込んでください	●P360
		電源スイッチが「○」（OFF）になっている	電源スイッチを「 」（ON）にしてください	●P360

ファクスの受信および電話の着信ができないとき：

電話優先モード、留守受信モードに設定している場合、前カバー／プリンタドア／記録紙カセットの右ドアが開いている、メモリがいっぱいになっている、本装置のプリンタに故障が発生しているなどのときは、ファクスの受信や電話の着信ができなくなります。手動受信モード（●P62）に設定すると、電話の着信を受けることができます。



エラー番号 / メッセージ一覧

1 送信の便利な機能を使う

2 受信の便利な機能を使う

3 その他の便利な機能を使う

4 各種レポート/リストをプリントする

5 いろいろな機能に登録/設定する

6 参考に

■ 主なエラー番号

本装置をご使用中に、ディスプレイや通信管理レポートなどにエラー番号が表示されたときは内容を確認し、的確に対処してください。

下記以外のエラー番号が表示またはプリントされたときは、当社のサービス取扱所へお問い合わせください。

エラー番号	原因	対処方法	参照ページ
#0001	原稿がつまっている	つまっている原稿を取り除いてください	☛P361
#0003	長さが1 m以上の原稿をADF（自動原稿送り装置）から送ろうとした	原稿台ガラスから分割して送信し直してください	☛P47
	データ量が大きすぎるため、1枚の原稿を送信するのに時間がかかってしまう	読み取り時の送信画質を下げて送信してください	☛P42
	1枚の原稿を受信するのに時間がかかってしまう	相手先に読み取り時の送信画質を下げるか、原稿を分けて送信するよう連絡してください	—
#0005	相手機が応答しない	もう一度はじめからやり直してください	—
	相手機がG3、G4以外の機種のある可能性がある	相手先に確認してください	—
#0008	ポーリング送信時に送信パスワードが一致しない	相手先にパスワードを確認してください	☛P193
#0009	記録紙がないか、記録紙が正しくセットされていない	記録紙を正しくセットし直すか、記録紙を補給してください	☛P335、337
#0011	送信原稿が正しくセットされていない	もう一度はじめからやり直してください	—
	相手機に原稿が蓄積、もしくはセットされていないためポーリング受信ができない	相手先に確認してください	—
#0012	相手機の記録紙がなかったため送信できない	相手先に確認してください	—
#0018	相手機から応答がない。相手先が通話中などでファクス信号が返ってこなかったため送信できない。また、相手機との設定不一致のために送信できない	相手先に確認してください	—
#0021	相手機が拒否したためポーリング受信ができない	相手先に確認してください	—
#0022	複数の相手先を指定して（グループダイヤルを含む）送信またはポーリング受信するように設定されていたが、相手先を指定するときに使用したワンタッチダイヤル、または短縮ダイヤルの登録内容が削除されていた	送信またはポーリング受信ができなかった相手先を確認し、ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを登録してください	☛P124、128
#0025	Fコードの登録に必要な送信方法がワンタッチダイヤル、または短縮ダイヤルに設定されているが、Fコードが登録されていない	Fコードを登録してください	☛P264
#0033	相手機にFコードが設定されていないため親展送信ができない	相手先に確認してください	—
#0034	相手機が拒否したため親展送信ができない	相手先に確認してください	—
#0035	相手機にFコードが設定されていないため中継指示送信ができない	相手先に確認してください	—



エラー番号 / メッセージ一覧

エラー番号	原因	対処方法	参照ページ
#0036	相手機が拒否したため中継指示送信ができない	相手先に確認してください	—
#0037	メモリがいっぱいになっている	メモリ代行受信などでメモリに蓄積された原稿をプリントしてください	☛P156
#0059	電話（ファクス）番号と相手機に登録してある番号が一致しないため送信を中止した	相手先に確認してください。もしくは、システム設定の相手先確認を「しない」に設定してください	☛P316、317
#0080	相手機にFコードが設定されていない	相手先に確認してください	—
#0081	相手機にパスワードが設定されていない	相手先に確認してください	—
#0082	相手機にFコードが設定されていないためポーリング受信ができない	相手先に確認してください	—
#0083	ポーリング受信時にFコードやパスワードが一致しない	相手先に確認してください	—
#0084	相手機にパスワードが設定されていないためポーリング受信ができない	相手先に確認してください	—
#0102	Fコードやパスワードが一致しない	相手先に確認してください	—
#0200	Fネットに接続できない	Fネットの番号や指定サービスを確認してください	—
#0995	通信予約のクリア操作が行われた	通信予約をやり直してください	☛P140、194

■ システムエラー番号

数字の前に“#”が2つ付いているエラー番号（##0322～##0330）は、システムエラーです。局番なしの113番にご連絡ください。



お知らせ

- 上記の対処をしてもエラーが解除されないときは、当社のサービス取扱所へお問い合わせください。

■ 主なエラーメッセージ

本装置をご使用中に、ディスプレイや通信管理レポートなどにエラーメッセージが表示されたときは、次のように対処してください。

下記以外のエラーメッセージが表示またはプリントされたときは、当社のサービス取扱所へお問い合わせください。

エラーメッセージ	対 処 方 法	参照ページ
RMSWがONです	リモートメンテナンスをご利用にならないときは、RMSW（リモートメンテナンススイッチ）をOFFにしてください。	➡P347
相手が応答しませんでした	相手機がG3、G4以外の機種可能性があります。相手機の通信モードを確認してください。	—
カバーを閉めてください	プリンタドアが開いています。プリンタドアをきちんと閉めてください。	➡P22
記録紙を補給してください	記録紙カセットを正しくセットし直すか、記録紙を補給してください。	➡P335、337
記録紙がつまりました [1] / [2] / [3] / [4]	[1] ~ [4] の表示に従って、つまった記録紙を取り除いてください。 [1] 排紙口 [2] 右ドア [3] カートリッジ周辺 [4] 手差しトレイ プリント中に右ドアを開けるとこのメッセージが表示されることもあります。このような場合は、前カバーを一度開けてから閉めると、メッセージが消えます。	➡P362
記録紙サイズの設定が違います	記録紙カセットのサイズ検知レバーで設定したサイズと、実際にセットされている記録紙のサイズが一致していません。 または、手差しトレイサイズ指定で設定した記録紙サイズと、実際に手差しトレイにセットされている記録紙のサイズが一致していません。 どちらの場合も、設定されているサイズと実際にセットされている記録紙のサイズが一致しているかどうか確認してください。一致していない場合は、サイズを正しく設定し直して、前カバーを一度開けてから閉めます。	➡P306、307、336
原稿を確認してください	原稿がつまっている可能性があります。つまっている原稿を取り除いてください。	➡P361
原稿が長すぎます	長さが1 m以上の原稿はADF（自動原稿送り装置）から送信またはコピーできません。原稿台ガラスから分割して送信またはコピーし直してください。	➡P47、82
原稿台に用紙があります	送信、またはコピーの済んだ原稿が原稿台ガラスの上に残っています。古い原稿を取り除いてください。	—
この短縮ダイヤルは使えません	Fコード送信で別のFコードが登録されている短縮ダイヤルを指定しました。短縮ダイヤルの登録内容を確認してください。	➡P256、259
このワンタッチボタンは使えません	Fコード送信で別のFコードが登録されているワンタッチダイヤルを指定しました。ワンタッチダイヤルの登録内容を確認してください。	➡P256、259
作成されていません	設定変更または取り消しをしようとした転送ボックス / ポーリングボックス / 定時ポーリングボックス / 親展ボックス / 中継ボックス / 汎用ボックスが設定されていません。設定内容を確認してください。	➡P258、261



エラー番号 / メッセージ一覧

エラーメッセージ	対処方法	参照ページ
自動再ダイヤル	ダイレクト送信時、ダイヤルした相手がお話し中のため再ダイヤル待機しています。メモリ送信時は自動再ダイヤルの表示は特にありません。再ダイヤルの必要がないときは、ダイレクト送信時には[ストップ]ボタンを、メモリ送信時は[通信状況 / 確認]ボタンを押して送信予約を取り消してください。	☛P58、59
しばらくお待ち下さい	電源を入れたときや、メモリで送受信しているときにダイレクト送信をしようすると表示します。メッセージが消えるまでお待ちください。	—
受話器を戻してください	外付け電話機を接続してお使いのときに、受話器が外れたままになっています。受話器をもとに戻してください。	—
使用者制限されています	送信やコピー、レポート / リストのプリントができないように設定されています。 使用者制限の送信機能設定またはプリンタ設定を「しない」に設定して、使用者制限を解除してください。	☛P288、292
親展受信しました	原稿を受信した親展ボックスのFコード、暗証番号を入力し、メモリに記憶されている原稿をプリントしてください。	☛P210
親展送信できません	相手先に確認して、もう一度送信し直してください。	—
すでに作成されています	指定された転送ボックス / ポーリングボックス / 定時ポーリングボックス / 親展ボックス / 中継ボックス / 汎用ボックスがすでに作成されています。設定を変更するか他のボックスを選択してください。	☛P167、192、204、208、222、227
接続できませんでした	オンフックダイヤル時、ダイヤルした相手がお話し中か、相手先の電話番号を間違えてダイヤルした可能性があります。電話番号を確認したうえで、しばらく待ってからかけ直してください。	—
代行受信しました	トナーまたは記録紙が切れたためにメモリ代行受信しました。トナーカートリッジを交換するか記録紙を補給してから、メモリに記憶されている原稿をプリントしてください。	☛P156、335、337、338
他のサイズの記録紙にプリント？	セットされている記録紙は、メモリに記憶されている原稿とはサイズが違います。原稿と違うサイズにプリントしてよければ『はい』（画面選択ボタン）を押してください。プリントしない場合は『いいえ』（画面選択ボタン）を押すか、[ストップ]ボタンを押してから同じサイズの記録紙を補給し、[スタート]ボタンを押してください。	☛P335、337
中継指示できません	相手先に確認して、もう一度送信し直してください。	—
通信中です	[メモリ内容確認]ボタンを押して送信しようとした原稿が、現在送信中です。送信が終了してから送信し直してください。	☛P158
データがこわれました	当社のサービス取扱所にお問い合わせください。	—
適正サイズ用の紙がありません： (A4 )	コピー時に「自動用紙」が指定されましたが、原稿に見合うサイズの記録紙がありません。表示されている適正サイズの記録紙をセットする、記録紙を選択し直す、またはコピーの倍率を指定し直してください。 そのまま[スタート]ボタンを押すと、余白または画像の欠けが最も少ない記録紙が自動選択され、プリントします。	☛P90、92、94、335、337
トナーカートリッジをセットしてください	トナーカートリッジを確認してください。	☛P338

373

- エラーメッセージを解除するには
- エラーメッセージの原因を取り除けば、エラーメッセージは消えます。
- 通信エラー、相手無応答、相手使用中、発呼不備のときは、約3秒経過するとエラーメッセージは消えます。



- 上記の対処をしてもエラーが解除されないときは、当社のサービス取扱所へお問い合わせください。



記入カード

このページは、コピーして管理者の覚え書きとしてお使いください。なお暗証番号はその性格上、他の方の目に触れないようご注意ください。

■ 暗証番号

種 類	制限できる項目	暗証番号（4桁）
管理暗証番号	システム管理情報の変更	
送信機能設定.....使用者暗証番号	ファクス送信	
プリンタ設定.....使用者暗証番号	コピー、レポート／リストのプリント	
メモリ受信.....プリント暗証番号	メモリ受信した原稿のプリント [メモリ受信] ボタンでの設定／解除	
転送.....暗証番号	転送ボックスの変更／削除 [転送] ボタンでの設定／解除	

■ 部門別管理

部門コード（4桁）	暗証番号（4桁）	部門コード（4桁）	暗証番号（4桁）

■ 親展ボックス

ボックスNo. （2桁）	ボックス名称	暗証番号 （4桁）	Fコード （20桁以内）	受信パスワード （20桁以内）

1
使う
送信の便利な機能を

2
使う
受信の便利な機能を

3
使う
その他の便利な機能を

4
を
各種レポート/リスト
をプリントする

5
登録/設定する
いろいろな機能を

6
「」
参考に

■ 中継ボックス

ボックスNo. (2桁)	ボックス名称	暗証番号 (4桁)	Fコード (20桁以内)	受信パスワード (20桁以内)

■ ポーリングボックス

ボックスNo. (2桁)	ボックス名称	暗証番号 (4桁)	Fコード (20桁以内)	送信パスワード (20桁以内)

■ 定時ポーリングボックス

ボックスNo. (2桁)	ボックス名称	暗証番号 (4桁)

記入件数が足りないときは、複数枚コピーしてください。

主な仕様

外観・仕様などは改良のため予告なしに変更することがあります。

原稿サイズ	ADF (自動原稿送り装置) 最大: A3 (297 mm×420 mm) 送信時 (297 mm×1 000 mm) 最小: A5 (148 mm×210 mm) 原稿台ガラス 最大: A3 (297 mm×420 mm)
記録紙サイズ	A3 (297 mm×420 mm) B4 (257 mm×364 mm) A4 (210 mm×297 mm) B5 (182 mm×257 mm) A5 (148 mm×210 mm) はがき、往復はがき
有効読取幅	A3: 293 mm、B4: 254 mm、A4: 208 mm
有効記録幅	A3: 289 mm、B4: 249 mm、A4: 202 mm
走査方法	CCDイメージセンサによる平面走査
走査線密度	ファクス(G3): 標準モード (主) 8画素/mm × (副) 3.85本/mm ファインモード (主) 8画素/mm × (副) 7.7本/mm スーパーファインモード (主) 8画素/mm × (副) 15.4本/mm ウルトラファインモード (主) 16画素/mm × (副) 15.4本/mm ファクス(G4): 標準モード (主) 200 dpi × (副) 100 dpi ファインモード (主) 200 dpi × (副) 200 dpi スーパーファインモード (主) 400 dpi × (副) 400 dpi ウルトラファインモード (主) 400 dpi × (副) 400 dpi コピー : ダイレクトコピー 読取 400×600 dpi 書込 1 200 dpi相当×600 dpi メモリコピー 読取 300×600 dpi 書込 600×600 dpi
通信モード	G4 / G3、G3、G3-ECM
通信速度	G3: 14 400 ~ 2 400 bit/s G4: 64 000 bit/s
記録方式	電子写真記録方式
適用回線	ファクシミリ通信網、INSネット
自動受信	有
電源	AC100±10 V 50 / 60 Hz
消費電力	待機時: 約25 W 送信時: 約27 W、受信時: 約240 W コピー時: 約500 W、消費電力: 650 W以下
外形寸法	2段カセットタイプ: 約616 mm (横幅) × 約640 mm (奥行き) × 約505 mm (高さ) (突起部を除く) 4段カセットタイプ: 約616 mm (横幅) × 約640 mm (奥行き) × 約661 mm (高さ) (突起部を除く)
重量	2段カセットタイプ: 約58.7 kg (記録紙を除く) 4段カセットタイプ: 約78.5 kg (記録紙を除く)
使用環境	温度: 5 ~ 35、湿度: 10 ~ 90%RH

手差しトレイにセットしてください。

本装置のG4通信モードは、56 000 bit/sに対応していません。

(注) NTTの支店・営業所から遠距離の場合には、お使いになれないことがありますので当社のサービス取扱所へご相談ください。

索引

数字 / アルファベット

2 in 1	113
ADF (自動原稿送り装置)	21
原稿をセットする	40
ECM通信	46
FAX専用	62, 63, 65
FAXホームポジション	276
FAXホームポジションを設定する	277
Fコード	185
Fコード送信をする	186
Fコードボタン	24
Fネットアクセス	234
Fネットを利用して送信する	236
ISDN回線	
ISDN回線を接続する	359
ISDN回線接続用差込口	22
N in 1記録	144
PBボタン	23
RMSW	24

五十音

【ア行】

アース端子	22
相手発信元記録: G4	29
アラームランプ	25
一括送信	51, 53, 55
移動する	
本装置を移動する	333
エラー送信レポート	250
エラー番号	369
エラーメッセージ	371
オートクリアタイム	45, 81
オプション	345
オフフックアラーム	74
オンフック受信	78
オンフックボタン	23

【カ行】

海外送信	142
拡大 / 縮小	
自動変倍を設定する	94
ズームを設定する	92
定型変倍を設定する	90
画面コントラストボタン	23
画面選択ボタン	23
画面選択ボタンについて	27
記入カード	374
機能ボタン	24

記録紙

記録紙カセットにセットする	335
記録紙カセットの記録紙サイズを変更する	336
記録紙がつまったとき	362
セットできる記録紙	334
手差しトレイにセットする	337
記録紙ガイド	22
記録紙カセット	21
記録紙サイズ	
記録紙サイズの優先順位	63
記録紙サイズラベル	21
記録紙残量表示	21
記録紙トレイ	21
区点コード表	348
クリアボタン	23, 24
クリーニングをする	
除電針のクリーニングをする	342
定着器ローラのクリーニングをする	341
クリーニングボタン	24
グループダイヤル	
ADF (自動原稿送り装置) から送信する	54
グループダイヤルを登録する	132
原稿台ガラスから送信する	55

原稿

原稿をセットする	40, 41
原稿をセットする方向	41
原稿を追加する	40
原稿がつまったとき	361
原稿に合わせて原稿の種類を選ぶ	43, 85
原稿に合わせて送信画質を選ぶ	42
原稿に合わせて読取濃度を選ぶ	43, 84
原稿の標準読取範囲	39
セットできる原稿	39
原稿ガイド	21
原稿台カバー	21
原稿台ガラス	21
原稿をセットする	41
原稿トレイ	21
原稿の種類	
原稿の種類を選ぶ (コピー)	85
原稿の種類を選ぶ (送信)	43
原稿リスト	
原稿リストをプリントする	154
原稿リストのプリント例	154
故障かな? と思ったとき	
コピーのとき	368
受信のとき	368
送信のとき	367
待機中のとき	368
コピー応用ボタン	23
コピーする	
2 in 1	113
ADF (自動原稿送り装置) からコピーする	80

1 送信の便利な機能を
使う2 受信の便利な機能を
使う3 その他の便利な機能を
使う4 各種レポート/リスト
をプリントする5 いろいろな機能を
登録/設定する

6 ご参考に

索引

拡大 / 縮小	90	留守受信	62, 79
原稿台ガラスからコピーする	82	受信ソートプリント	67
原稿の種類を選ぶ	85	受信モード	
原稿枠消し	98	FAX専用	62, 63, 65
シート枠消し	100	自動受信	62, 65
自動変倍	94	受信モードの切り替え	62
ズーム	92	受信モードの種類	62
定型変倍	90	手動受信	62
とじ代	106	電話優先	62, 64, 65, 68
はがき、ラベル用紙などにコピーする	86	リモート受信	77
パンチ穴消し	104	留守受信	62, 79
ブック枠消し	102	受信モードボタン	24
ページ連写	110	手動受信	62
読取濃度を選ぶ	84	順次同報送信	
読取モードを自動的に調整する	85	順次同報送信をする	137
枠消し	96	複数の相手先を指定する	139
コピーホームポジション	280	仕様	376
コピーホームポジションを設定する	281	使用者制限	
コピーボタン	23	管理暗証番号を登録する	293
コピーランプ	25	送信機能を部門別に管理する	289
		送信機能の使用者を制限する	286
		プリント機能の使用者を制限する	291
		消耗品	345
		親展受信レポート	
		親展受信レポートのプリント例	253
		親展通信	205
		親展で受信した原稿をプリントする	210
		親展で送信する	212
		親展ボックスを削除する	209
		親展ボックスを設定する	206
		親展ボックスの設定内容を変更する	208
		親展通信ボタン	24
		親展文書リスト	
		親展文書リストをプリントする	246
		親展文書リストのプリント例	254
		ズーム	92
		スタートボタン	23
		スタートランプ	25
		ストップボタン	23
		スピーカ音量スイッチ	24
		スペースボタン	24
		済スタンプ	40
		済スタンプインク	
		済スタンプインクを補充する	344
		済スタンプボタン	23
		済スタンプランプ	25
		清掃をする	
		原稿サイズ検知センサ部を清掃する	333
		原稿読み取り部と搬送部を清掃する	332
		除電針のクリーニングをする	342
		定着器ローラのクリーニングをする	341
		本体の清掃をする	332
		接続する	
		ISDN回線を接続する	359
再ダイヤル送信	57		
再ダイヤルボタン	23		
削除ボタン	24		
サブアドレス			
サブアドレスを指定して送信する	184		
サブアドレスを指定して電話をかける	74		
サブアドレス着信を設定する	178		
発信元番号にサブアドレスを登録する	180		
システムエラー番号	370		
自動原稿送り装置	21		
自動再ダイヤル	46, 56		
自動受信	62, 65		
自動変倍	94		
受信結果レポート			
受信結果レポートの設定をする	244		
受信結果レポートのプリント例	252		
受信する			
N in 1記録	144		
自動受信	62, 65		
受信を中止する	70		
受信結果を確認する	72		
受信状況を確認する	71		
手動受信	62		
親展受信	205, 210		
定時ポーリング受信	189		
転送	162		
電話優先	62, 64, 65, 68		
ファクス情報サービス	143		
ポーリング受信	189, 198		
メモリ受信	147		
リモート受信	77		

外付け電話機を接続する	360
電源を入れる	360
付属品を取り付ける	359
セットボタン	23, 24
操作パネル	21, 23
送信画質	42
送信結果レポート	
送信結果レポートの設定をする	242
送信結果レポートのプリント例	250
送信する	
ADF (自動原稿送り装置) から グループダイヤルで送信する	54
ADF (自動原稿送り装置) から ダイヤル入力で送信する	45
ADF (自動原稿送り装置) から 短縮ダイヤルで送信する	52
ADF (自動原稿送り装置) から ワンタッチダイヤルで送信する	50
Fコード送信	186
Fネット	236
一括送信	51, 53, 55
エラー原稿を再送信する	155
海外送信	142
原稿台ガラスから グループダイヤルで送信する	55
原稿台ガラスから ダイヤル入力で送信する	47
原稿台ガラスから 短縮ダイヤルで送信する	53
原稿台ガラスから ワンタッチダイヤルで送信する	51
再ダイヤル送信	57
サブアドレスを指定して送信する	184
自動再ダイヤル	46, 56
順次同報送信	137
親展送信	212
送信を中止する	58
送信結果を確認する	61
送信状況を確認する	60
送信の種類	44
送信予約を解除する	59
タイマ通信	140
ダイレクト送信	44, 56
中継指示送信	216
中継同報送信	215
転送	162
発信元名称を使って送信する	33
ボーリング送信	194
メモリ送信	44, 45
メモリ内の原稿を送信する	158
ソートコピーボタン	23
ソートコピーランプ	25
外付け電話機	
外付け電話機を接続する	360

外付け電話機を使う	74
外付け電話機用差込口	22

【タ行】

タイマ通信	
タイマ通信を解除する	140
タイマ通信をする	140
タイマ通信ボタン	24
ダイヤルイン	170
ダイヤルインを設定する	172
発信元番号にダイヤルイン番号を登録する	174
ダイヤル登録	
ECM通信	274
Fコードとパスワード	264
海外送信	270
送信時刻	262
送信速度	272
通信モード	268
ダイヤルボタン	23
ダイヤルリスト	
ダイヤルリストをプリントする	256
ダイヤルリストのプリント例	259
ダイレクト送信	44, 56
ダイレクト送信ボタン	23
ダイレクト送信ランプ	25
短縮ダイヤル	
ADF (自動原稿送り装置) から送信する	52
原稿台ガラスから送信する	53
短縮ダイヤルを登録する	128
短縮ダイヤルに いろいろな通信機能を設定する	262
短縮ボタン	23
中継指示ボタン	24
中継同報結果レポート	251
中継同報送信	215
中継指示送信をする	216
中継ボックスを削除する	223
中継ボックスを設定する	219
中継ボックスの設定内容を変更する	222
中止する	
受信を中止する	70
送信を中止する	58
送信予約を解除する	59
通信管理レポート	
通信管理レポートを手動でプリントする	239
通信管理レポートの設定をする	240
通信管理レポートのプリント例	248
通信状況/確認ボタン	23
通信/メモリランプ	25
定型変倍	90
定時ボーリング受信	189
定時ボーリングボックスを削除する	204
定時ボーリングボックスを設定する	201

索引

- 定時ポーリングボックスの
 設定内容を変更する 203
 ディスプレイ 23
 定着圧解除レバー 21
 停電になったとき 366
 手差しトレイ 22
 手差しトレイにセットする 337
 はがき、ラベル用紙などに
 コピーする 86
 手差し補助トレイ 22
 デュアル動作 38
 電源を入れる 360
 電源コード差込口 22
 電源スイッチ 22
 転送 162
 指定時間外に転送をON / OFFする 169
 転送ボックスを削除する 168
 転送ボックスを設定する 163
 転送ボックスの設定内容を変更する 167
 転送ボタン 24
 電話を受ける 75
 電話をかける 74
 サブアドレスを指定してかける 74
 プッシュホンサービスを利用する 76
 電話優先 62, 64, 65, 68
 登録 / 設定
 2 in 1 114
 ECM受信 317
 ECM送信 317
 FAXホームポジション 277, 309
 N in 1記録 145, 307
 相手先確認 317
 相手発信元記録 : G4 309
 一括送信 301
 印字継続 303
 エラー原稿クリア 301
 オートカセット選択 305
 オートクリアタイム 311
 オフフックアラーム 311
 オンフック受信 301
 音量 311
 回転記録 307
 カセット選択 303
 管理暗証番号 293, 313
 グループダイヤル 132, 296
 原稿の種類 (コピー) 85
 原稿の種類 (送信) 43
 原稿枠消し 98
 コピーホームポジション 281, 309
 サブアドレス着信 178, 294
 サブアドレス発信 313
 シート枠消し 100
 自動 85
 自動再ダイヤル 330
 自動縮小 303
 自動受信 65, 294
 自動変倍 94
 受信開始速度 317
 受信結果レポート 244, 299
 受信情報記録 309
 受信ソートプリント 303
 受信パスワード 317
 受信プリント部数 303
 使用者制限 286, 291, 317
 初期モード設定 311
 親展受信レポート 299
 親展ボックス 206, 318
 ズーム 92
 セレクト受信 301
 送信開始速度 317
 送信画質 42
 送信結果レポート 242, 299
 代行受信 301
 ダイヤルイン 172, 294
 ダイヤルタイムアウト 301
 ダイヤル発呼タイムアウト 313
 短縮ダイヤル 128, 296
 中継ボックス 219, 320
 通信管理レポート 240, 299
 通信モード 301
 定型変倍 90
 定時ポーリング設定 201, 324
 手差しサイズ指定 307
 転送ボックス 163, 328
 電話優先詳細設定 68, 294
 時計セット 26, 318
 とじ代 108
 発信開始ボタン 313
 発信者番号通知 315
 発信元記録 309
 発信元番号 28, 318
 発信元名称登録 32, 318
 発信元略称 30, 318
 パンチ穴消し 104
 汎用ボックス 226, 322, 324
 汎用ボックスレポート 299
 日付 / 時刻タイプ 317
 ブック枠消し 102
 プログラムボタン登録 284, 311
 ページ連写 111
 ベル回数設定 330
 ポーリングボックス 190, 326
 メモリ受信 148, 317
 読取済スタンプ 301
 読取濃度 43, 84, 311
 リモート受信 301
 レポートカセット指定 305
 ワンタッチダイヤル 124, 296

時計セット	26
とじ代	106
とじ代を設定する	108
とじ代の種類	106
トナーカートリッジ	
トナーカートリッジを交換する	338

【八行】

パスワード	185
パスワードボタン	24
発信元切替ボタン	24
発信元記録	
プリントされる位置	29
発信元番号	28
発信元名称	
発信元名称を使って送信する	33
発信元名称を登録する	32
発信元略称	30
パラメータリスト	
パラメータリストをプリントする	258
パラメータリストのプリント例	261
汎用ボックス	224
掲示板機能	225, 229
汎用ボックスを削除する	228
汎用ボックスを設定する	226
汎用ボックスから送信する	230
汎用ボックスで受信した 原稿をプリントする	232
汎用ボックスの設定内容を変更する	227
汎用ボックス管理リスト	
汎用ボックス管理リストを プリントする	247
汎用ボックス管理リストのプリント例	255
汎用ボックスボタン	24
汎用ボックスレポート	
汎用ボックスレポートのプリント例	254
ファクシミリ通信網	234
ファクス情報サービス	143
ファクスボタン	23
ファクスランプ	25
ファンクションボタン	23
ファンクションランプ	25
フィーダカバー	21
付属品を取り付ける	359
プッシュホンサービス	76
部門コード	289
プリンタドア	22
プリンタリスタートボタン	24
プログラムボタン	23
プログラムボタンに機能を登録する	284
ページ連写	110
ページ連写を設定する	111
ページ連写の種類	110

ホームポジション

FAXホームポジション	276
コピーホームポジション	280
ポーリング通信	189
定時ポーリングボックスを削除する	204
定時ポーリングボックスを設定する	201
定時ポーリングボックスの 設定内容を変更する	204
ポーリング受信をする	198
ポーリング送信をセットする	194
ポーリング送信のセットを解除する	196
ポーリングボックスを削除する	193
ポーリングボックスを設定する	190
ポーリングボックスの設定内容を変更する	192
ポーリング通信ボタン	24
保守サービス	346
リモートメンテナンス	347

【マ行】

前カバー	21
マルチ通信結果レポート	251
右ドア	22
メモリクリアリスト	
メモリクリアリストのプリント例	255
メモリ受信	147
指定時間外にメモリ受信をON / OFFする	152
メモリ受信を設定する	148
メモリ受信した原稿をプリントする	153
メモリ受信ボタン	24
メモリ送信	44, 45
ADF (自動原稿送り装置) から グループダイヤルで送信する	54
ADF (自動原稿送り装置) から ダイヤル入力で送信する	45
ADF (自動原稿送り装置) から 短縮ダイヤルで送信する	52
ADF (自動原稿送り装置) から ワンタッチダイヤルで送信する	50
原稿台ガラスから グループダイヤルで送信する	55
原稿台ガラスからダイヤル入力で送信する	47
原稿台ガラスから短縮ダイヤルで送信する	53
原稿台ガラスから ワンタッチダイヤルで送信する	51
メモリ代行受信	67
メモリ内容確認	
メモリ内のエラー原稿を再送信する	155
メモリ内の原稿を消去する	160
メモリ内の原稿を送信する	158
メモリ内の原稿をプリントする	156
メモリ内の原稿リストをプリントする	154
メモリ内容確認ボタン	24



索引

文字を入力する	
英大文字 / 英小文字	37
カタカナ	36
漢字の読みがわからないとき	35
漢字やひらがな	34
記号	35
スペース (空白)	34, 36
入力を間違えたとき	34, 36
ワンタッチボタンと入力文字の対応表	35
戻るボタン	23

【ヤ行】

読取濃度	
読取濃度を選ぶ (コピー)	84
読取濃度を選ぶ (送信)	43
読取モード	
読取モードを自動的に調整する	85

【ラ行】

リセットボタン	23
リモート受信	77
リモートメンテナンス	347
リリースレバー	21
留守受信	62, 79
レポート出力ボタン	24
レポート / リスト	238, 256
各種レポート / リストのプリント例 ...	248, 259
受信結果レポートの設定をする	244
親展文書リストをプリントする	246
送信結果レポートの設定をする	242
ダイヤルリストをプリントする	256
通信管理レポートを手動でプリントする	239
通信管理レポートの設定をする	240
パラメータリストをプリントする	258
汎用ボックス管理リストをプリントする	247
レポート / リストの種類	238, 256

【ワ行】

枠消し	96
原稿枠消しを設定する	98
シート枠消しを設定する	100
パンチ穴消しを設定する	104
ブック枠消しを設定する	102
枠消しの種類	96
ワンタッチダイヤル	
ADF (自動原稿送り装置) から送信する	50
原稿台ガラスから送信する	51
ワンタッチダイヤルを登録する	124
ワンタッチダイヤルに	
いろいろな通信機能を設定する	262
ワンタッチパネル	23
ワンタッチボタン	23

注 意

本製品は、外国為替および外国貿易管理法が定める規制貨物に該当いたします。
本製品は、国内でのご利用を前提としたものでありますので、日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく輸出許可等必要な手続きをお取りください。

NOTICE

This product, which is intended for use in Japan, is a controlled product regulated under the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Control Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission, as required by the Law and related regulations, from the Japanese Government.



この取扱説明書は、
エコマーク認定の
再生紙を使用して
います。

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：  0120 - 109217



日本電信電話株式会社
〒163-8019 東京都新宿区西新宿3-19-2

本1972-2(99.1)